

平成十八年三月
津山郷土博物館紀要第二十号

津山松平藩町奉行日記 十四

寛政七年（一七九五）
寛政八年（一七九六）

津山郷土博物館

津山松平藩町奉行日記 十四

目次

町奉行御用日記

寛政七年

増見右門

同 八年

増見右門

.....

91
§
227

.....

1
§
90

凡例

一、本書には、津山郷土博物館に所蔵する愛山文庫から、「町奉行日記」寛政七年七月〜十二月および同八年正月〜十二月を収録した。

一、本文の表現は、つとめて原文の形にしようにしたが、読解の便宜を図って、つぎの点に留意した。

1 平出・欠字は、省略した。

2 漢字は、原則として常用漢字（人名用漢字を含む）に改めたが、他は正字体とした。

3 誤字・脱字と思われる場合は、右傍らに（ママ）と注記した。

4 近世期一般に慣用されていた左記のような文字・用語等は、そのまま記載した。

体てい 扣ひかえ 噉あつかう 歎か 喧嘩けんか 音物いんぶつ 稠敷きしく 又候またぞろ 与よと 風かぜ 風かぜ 舩せがれ 鹿か 持かせく 桃とうじ 綺いろう

5 変体がないは、原則としてひらがなに改めたが、助詞等に用いられている、而（て）、江（え）、者（は）、茂（も）、与（と）

及び片仮名のニ、并は、小活字で示した。

ろ（より）、ゞ（して）、ㄩ（とも）は、例外として残した。

6 訂正・削除がある場合、消された文字の左側に見消記号（々）を付し、右側に訂正の文字を記した。

また、消された文字が不明の場合はその文字を■で示した。

7 虫損・破損などで解読できない文字は、字数を推定して「」で括り虫損・破損によらない場合は、右傍らに（不詳）と注記した。

8 日記の表紙・奥書等は、その部分を□で囲み、（表紙）のように注記した。

9 日記の天の小口には小見出しの付箋が貼られており、はがれて各丁の綴じ目に挟んであるものも多いが、元の場所に残っていて文字を記してあるものは、その箇所を○として示した。

10 記載を配慮すべき地名・固有名詞は□□のようにした。

一、本資料中に、封建的身分差別を表現する名辞・賤称が認められるが、事実に基づく科学的な歴史研究を進める立場から、これらをそのまま揚げた。もとより我々は、この不当な差別を容認するものではなく、科学的な歴史認識を通じて差別と差別意識の根絶にいたることを望んでいる。読者においても、この立場を理解し、この資料を正しく利用されることを期待する。

一、本書の翻刻・編集は乾康二が担当した。

七月小

月番

御家老 永見造酒助殿

御年寄 山田主膳殿

大目附 小須賀貢

大年寄 玉置源五兵衛

七月朔 庚戌日 雨

一 宗旨奉行村山平学一場茂右衛門赤見類助方例歳之通宗旨証文差出候様廻状到来

一 夜五半時比京町山崎屋善六方ニ手あやまり有之候処隣家打寄早速もみ消候由大年寄方届出候

七月二日 雨

一 夜前京町山崎屋善六方手あやまり雪隠へ灯明燃候処燃上り候早速近隣打寄もみ消候由届書差出候得共隣町打寄候程之義ニ而も無之届書ニも不及程之義ニ付寛政四^五年九月四日西今町直屋一郎左衛門借屋住安田屋清助例を以承り置候

一 小性町鳥屋与市所持之家屋敷表口四間半裏行式拾間三尺五寸但式歩五厘役也右家屋敷去寅十一月堺町水田屋佐助へ代銀四百匁ニ売渡度願届置候処右家屋敷之替ニ水田屋佐助借屋を鳥屋与市方へ買取候内約ニ而売渡候処組合故障出来兼約束之通調不申外明地相談いたし懸候処是以邪魔出来調談不仕依之去十二月右家屋敷売

払候願下ケ願書差出候得共彼は意味合も有之候由且ハ右等之願下ケ先例無之由ニ付大年寄場合ニ而是迄取扱候得共筋立兼候由ニ而去十二月差出候願書大年寄方差出候ニ付承り届右式拾歩一銀札式拾匁差戻候尤右不恙之願書卒尔ニ差出候段大年場合ニ而急度叱申付候様ニ申渡又且又鳥屋与市調懸候小性町明地組合之者故障申候ニ付右明地急ニ組合之者買取鳥屋与市家作可致存寄之通ニ普請致候様日切致申付候様大年寄へ申渡候

七月三日 快晴

一 御用日ニ付登城

〔上〕紺屋町灰屋与右衛門家守作人彦兵衛借家住人孫兵衛義当三月出奔届出百日尋申付置候処行衛不相知最早百日余ニ相成候ニ付除帳願差出御用番御聞濟ニ付右願書大目附へ差出置御聞届申達候
六月改入

一 雲州御城下松江末次魚町沖屋忠左衛門弟栄藏義林田町中村屋平兵衛養子ニ仕度人別人願右同断取計濟候同九日住宅証文差出六月改入

一 早川八郎左衛門殿支配所大庭郡久世村原方新兵衛悖武助義西今町直屋久米之助家守福美屋善兵衛役介ニ引受度人別人願右同断取計濟六月改入七月廿六日本証文差出

一 斎藤孫右衛門義先月播州細月へ罷越候処未用事不相濟候ニ付今日計逗留日延追願藏合孫左衛門方差出右願書御用所江持参口達ニ而申上伺濟ニ付大目附へ相濟置御聞届申達候

一 本源寺長屋住人乙吉夫婦娘右家内三人二階町藤野屋多吉家守作人市右衛門引受度人別人願差出寺社取次後藤郷助へ引合之上聞届

申達候 六月改入

一 今日於別席伊達与兵衛殿へ博奕筋之義委細ニ申上以来者 先役守助取計之通ニ可致哉矢張是迄私取^計○来之通ニ可致哉兼而御内意伺置取計可申旨逐一申上候処御即答ニ先矢張是迄私取計来之趣ニ郡代所申合嚴敷取計候様ニ御差図御座候

一 西新町北側ニ岸田屋伊三郎家屋敷表口式間半裏行拾七間但大溝切御役者半役也西隣者玉置栄藏東隣者丸屋吉兵衛也右家屋敷此度町内玉屋栄藏取次ニ代銀三百匁ニ質入ニ仕当卯七月方来辰六月切式割之利足ニ借受度願書差出承り届ル^{同廿六日本本文差出}

一 吹屋町南側西角ニ備前屋源左衛門所持之家屋敷表口拾間裏行拾七間五尺但七步役也東隣者山城屋善左衛門西隣者桶屋町通筋ニ候右家屋敷之内東之方ニ表口五間裏行拾七間五尺御役三步五厘相添此度代銀四百五拾匁ニ相極町内木屋宇三郎へ壳渡度願書差出承り届^{八月七日宛券状出}

一 孤独扶持受取間違不足之訳先月晦日ニ記置候通勘定奉行近藤伊左衛門へ申達済

一 牢舎人新吉療治ニ廻リ相濟替リ医相願^并弥市病氣申出候ニ付例之通相札申聞候様大年寄へ昨日申付置候所北山修濟へ申付候得^者新吉義ハ先休業ニ而も可然弥市義ハ可業事と申出候由大年寄申出候付新吉義ハ休業可申付弥市義ハ療治申付候様ニ申達ス

七月四日 快晴

一 西新町三角屋茂十郎へ仙石越前守殿領分勝南郡百々村化藏寺^(マツ)方盜賊懸合之義町役人迄申来茂十郎義相札候得共心覚無之旨ニ而相分

り兼候ニ付右懸り合盜賊被差越候ハ、引合せ相札可申旨申遣候由向方且中兩人召連右盜賊一昨晚来候旨申出候付内々之乍義小頭出番可差出旨申達置昨三日五半時方又六嘉七文藏差出候処向方方差添来候もの兩人立会町年寄於宅遂吟味候処盜賊栄助申口ニ於向方絶々被責候故無抛茂十郎と一所ニ化藏寺へ這入盜取右仏具者茂十郎質ニ置分け取ニ致候旨申候得共化藏寺へ這入盜取候義無之元方茂十郎^江者無失申懸候ニ相違無之旨及白状右口書爪印取向方方差添来候兩人も連印右口書又六方差出尤右一埒今晚七半時相添候由ニ今朝差出依之大年寄藏合孫左衛門先月方懸合之義ニ付呼出右之始末ニ候得者此上茂十郎へ懸合無之候旨召連来候且中之もの歟又ハ化藏寺方右之旨町役^江申越候歟右兩様之内向方望次第ニ筋立差返し候様取計可申旨申渡又右口書相渡候尤向方方差添来候兩人至^而六ヶ敷ものニ^而右詮義ニ立会候^而口書與印不致至^而六ヶ敷申成し印形致兼候得共漸々為致印形候旨又六方申聞候

一 安岡町鍛冶文右衛門同長兵衛兩人ニ十五日ツ、日雇ニ致約束先月廿日方文右衛門方ニ当時相雇居候鍛冶手間友八と申もの昨三日^屋休之砌筋違橋下ニ^而水あひ致溺死右死骸御領分金谷之築ニ流懸り右友八ニ相違無之右友八義^者出生備後国東城惣八と申もの、甥ニ候間夜前其旨備後国へ申遣親類之もの呼ニ遣候段届出尤郡代所方も通用有之依之郡代所立会之見分三船新治差出置御用番主膳殿御宅へ罷越右之段相届右日雇之もの、義受人も無之素方人別離不離之所も不相分何分下方ニ^而夜前差遣候飛脚之者罷帰候ハ、委細相分り可申候間其節御届可申上夫迄ハ死骸番人付置候段申達尤

及暮候間不相伺見分差出置候段も申述候事右序ニ付大目附小須賀
貢^江も罷越右之段相届置候右友八義在所支配所^并爰元へ来候年月
訳ヶ合等迄委細遂吟味申出候様ニ大年寄へ申達置候

〔二〕下紺屋町ニ而今夕百万遍致修行候旨大年寄届出夜廻り組者申達置
候

一 永見殿盜賊召捕ニ先月廿六日差出候目明孫兵衛方召連參候要助と
申もの差返し又六方迄書状差越右伝内妻備前家中ニ居候処致穿鑿
候相聞主人方暇差出右女住所相分り不申^并金子払底ニ相成候間拜
借仕度旨申越候段又六方申出造酒助殿^江遂御内談候上右女可召捕
筋^ニも無之右女さへ未相知位之義空成義^ニも候ハ、罷帰リ相伺
受御差図又々罷出可然旨又六方及返書要助差帰し候様申付ル

七月五日 曇 雨

一流死人友八死骸見分今曉罷帰候段三船新届出無別条一札差出御
用番へ差出大目附^江も相届ル

一 町方入用八朔割帳大年寄差出及一見候惣高三貫五百七拾五匁差分
六厘

一人馬問屋入用小手形帳差出惣入用去十二月朔日方当卯六月晦日迄
式貫八拾式匁式分六厘

一流死人備後国友八出所為相糺候処備後東城と申所ハ安芸之家老領
地とやも承り及候得共駈と致候義不相知^并日雇之義受人も無之以
前方折々来是迄ハ林田辺鍛冶杯^ニ居候哉^ニも候得共一向不相分勿
論如何様之訳^ニもいつ比来候もの哉一向相知不申候由先月廿日方
鍛冶文右衛門長兵衛方^ニ詰^而日雇之約束致候由右両人口書取大年

寄差出候

七月六日 曇 雨

一 例年之通盆中町触差出

一 市郷寺院宗判取名面書大年寄差出ス来ル八日寺社取次へ可懸合候
一 遊行来着調帳面大目附不審有之答書いたし大年寄差出候

一 西新町三角屋茂十郎へ百々村化藏寺盜賊懸合一件以後懸合無之一
札取差帰候様取計可申段申達置候処一札ハ得不致旨申候付化藏寺
へ其旨申遣候処何分御返し可被下罷帰候上且中相談之上一埒可及
返書旨申来如何之もの^ニも有之候得共口書印形取置候事^ニ候得
者返し可申哉と大年寄伺出候ニ付如何様とも宜取計候様申達候処
又々後刻申出候^者向方方盜賊召連来候者計留置後ニ来候兩人差帰
し其上之返答^ニ而盜賊共ニ差戻可申段懸合置候旨申出候

七月七日 雨

一 七夕ニ付組中罷出及対面例之通神酒差出之

一 目明孫兵衛備前方罷帰リ内田伝内義不相知手懸リ無之伝内義ハ大
坂本町^ニ居候哉之沙駄^(マツ)ニ候由申出候此段造酒助殿へ申遣候

七日八日 曇 少雨雷

一 御用日ニ付登城

一 盆中十三日十四日十五日三夜例歳之通惣町関貫九時迄開立番付置
候段御用番^江相届大目附^江も相届候

一 来ル十四日町方為知致廻町候段御用番^江申相届大目附^江右ニ付御
貸人馬被仰付被下候様相達勘者^江も申談置候

一 安岡町又「」兵衛雇人友八溺死届書^并見分一札御用番中御戻

被成直ニ大目附へ差出

一遊行来着取調帳御不審之趣大年寄致付紙差出候ニ付伊達頼母江差出且又町人役付之もの早々不被仰付候而諸事取調出来兼候段大年寄申出候ニ付其旨頼母江申達置候

一宗判取町分寺院来ル十八日方十九日迄在中寺院廿一日方廿三日迄致印形候様寺院名面書大年寄差出寺社取次後藤郷助江相渡候

一御代官通行之節同心組先弘ニ声を懸候哉之旨伊達頼母方御尋ニ付組中相札候処五七間之間立居候もの有之候得者下ニ居候様ニ声を懸候段申達候

一盆中之御触書例歳之通大目附方来り組中牢屋三軒屋へ達候様小頭江差出

一孤独扶持受取不足先月晦日申達置候通銀札拾七匁四分加藤広治持参受取大年寄へ相渡候

一孤独扶持受取過算(ツ)様余り拾匁七分四厘有之候由右算(ツ)差引メ拾匁七分四厘返納受取候証文銀札場奉行方相廻候

一安岡町鍛冶文右衛門同長兵衛兩人ニ而先月廿日方日雇手間ニ召仕候備後国東城新町百々屋平三悴友八義去ル三日筋違橋下ニ而水あび致溺死金屋之築ニ流懸り候ニ付其趣備後国親類方へ文右衛門方申遣親類来候様申遣候所右流死人友八弟備後国東城新町百々屋才吉右同所友八叔母聲百々屋小八今日罷越右且那寺送り手形并諸親類共方も申分無之候間乍御世話相葬遺髪等相廻し呉候様頼之書面右兩人致持参候旨申出候ニ付年寄組合立会右親類共江死骸為相改其上ニ而猶又申分無之葬具候様頼之一札取差出候様申付候処右親

類共一札并文右衛門長兵衛より右之通申分無之上者取置仕度尤向方且那寺方爰元成覚寺宛ニ送り寺手形等も差越并流死人之義故川上へ引上候事ハ不為仕候間取置御許容之上ハ成覚寺相頼金屋村之内ニ葬度之旨願書差出候ニ付右願書ハ受取置右之訳手紙ニ相認御用番中へ相伺候処存慮之通宜取計候様被仰出候ニ付右伺済之趣大目附へ相届并郡代寺社取次江も及通用置御間済ニ候間勝手次第取計候様大年寄へ申達候備後東城・芸州家老浅野豊前知行所之由

類共一札并文右衛門長兵衛より右之通申分無之上者取置仕度尤向

方且那寺方爰元成覚寺宛ニ送り寺手形等も差越并流死人之義故川上へ引上候事ハ不為仕候間取置御許容之上ハ成覚寺相頼金屋村之内ニ葬度之旨願書差出候ニ付右願書ハ受取置右之訳手紙ニ相認御用番中へ相伺候処存慮之通宜取計候様被仰出候ニ付右伺済之趣大目附へ相届并郡代寺社取次江も及通用置御間済ニ候間勝手次第取計候様大年寄へ申達候備後東城・芸州家老浅野豊前知行所之由

七月九日 晴 曇小雨

一安岡町鍛冶文右衛門同長兵衛備後国友八召仕同様相雇来候ニ付爰

元江来候義并口入請人等之義相札候処一向出所并口入受人等も無之風来もの召仕候趣口書取大年寄差出候付先格相調候処急度叱置候例ニ付左之通可申付旨文右衛門長兵衛口書差添御用番中へ以手紙相伺候処何之通宜取計候様被仰出候ニ付其旨取計候様大年寄へ申付候

安岡町鍛冶

其方共方ニ雇置候

友八去ル三日致溺死然ル所同人義

生国承候而已ニ而睨々出所も不相糺

風来同然之もの去歳以来数日相雇不束之事ニ候

乍然右友八親類共罷越無申分死骸引取候ニ付

以用捨急度叱申付候以来可入念候

右伺済ニ付申達候旨大目附へ相届候尤右口書并伺書共ニ差出候且又友八親類申分無之一札御用番中被差戻候付大目附へ差出候一流死人備後友八取置相済候段亥ノ刻前大年寄届出候

七月十日 晴 白雨

一橋本町蓬萊屋佐市妻当五月妊娠届有之候処当月二日出産小児之様
子^ニ而^者月取間違有之候届書差出例之通叱取計候様ニ申達ス

一東新町北側^ニ而^者播磨屋惣十郎家屋敷表口四間裏行拾七間但五步役

東隣ハ鍛冶屋与三兵衛西隣ハ鍛冶屋治兵衛右家屋敷十一年以前已

四月細工町大工善兵衛へ尅貫三百匁之質物^ニ入置候処此度元利致

返濟候届書差出承り届^{同十九日証文}
差出

一右家屋敷今般直^ニ町内橋本屋茂右衛門取次^ニ而^者来辰ノ十一月切^ニ

式貫匁之質物^ニ入候段東新町播磨屋惣十郎願書差出承り届

一中之町北側^ニ而^者表口式間半裏行拾七間之福茂屋磯吉所持之家屋敷

御役ハ三步尅厘東隣ハ大笹屋惣十郎西隣ハ久屋又兵衛也右家屋敷

今度同町大笹屋新兵衛取次^ニ而^者当卯七月方来ル巳ノ十一月切^ニ質

物^ニ入候由願書差出承り届ル但式百五拾匁借用^{同十二日質入証文差出}

一安岡町大坂屋喜与八義古川村助右衛門理右衛門岩平右三人^ニ去ル

申歳田地致質入銀札五百匁貸候処不埒^ニ付致年賦候処右年賦致不

埒候^ニ付当正月奉歎候処未何之沙駄^(ツマ)も無之^ニ付追訴願書差出郡代

所^江相廻し候処翌辰四月十七日濟

一吹屋町松屋為八義和州大峰へ參詣廿日計逗留^ニ而^者十五日出立大年

寄聞届之願所差出^{八朔 福ル}

一坪井町北側^ニ而^者長門屋宗兵衛家屋敷表口四間裏行十七間但尅軒役

也東隣ハ中津屋惣十郎西隣ハ小倉屋喜助右家敷代銀札尅貫目^ニ相

極同町山際屋平六^江壳渡度願書大年寄差出承り届候旨申達候^{同十一日質券状出ス}

一高石垣関貫番質銀十四匁五分大年寄方差出

一盆中三夜惣町関貫例年之通九時迄開置立番付候段大年寄届出候

一一目孫兵衛義先日備前表へ差遣候節不埒之入用等書出し候^ニ付小

頭場合^ニ而^者遂吟味不用之入用之分程ハ上納為致候様^ニ小頭^江申付

ル

七月十一日 白雨

七月十二日 快晴

一仙石越前守殿領分百々村化藏寺^(ツマ)方西新町三角屋茂十郎へ懸合之義

今以筋立不申候^ニ付大年寄方向方大庄屋へ可申遣旨伺出承り置

一今明日小頭出役出仕日之処休息申付候

七月十三日 雨

一御用日之処盆中^ニ付仕無之

一小頭^并書役出仕日之処休息申付ル

一牢屋弘三拾尅匁三分八厘広島屋小手形之通昨十二日小頭又六へ相

渡

一二階町堺屋伊右衛門悴与三左衛門義大峰へ參詣廿日計之逗留^ニ而^者

十五日出立之願書大年寄差出承り届ル但一ト通り^ニ而^者大年寄共

聞置候処父伊右衛門方相願候故大年寄伺出候由

一材木町長崎屋代助義先年塚原辺^ニ蠟木植居候由右蠟木「」不生

立趣^ニ相見へ候^ニ付最早打捨候存寄^ニも候ハ、右地面「」為植

度旨^ニ付内々相尋呉候様勘定奉行上原彦藏方被申聞候^ニ付大年寄

へ申達候処代助申候^者蠟木ハ荒地計^ニ而^者不生立趣^ニ付追々開発

仕度所存^ニ而^者罷在候旨申出候^ニ付左候ハ、少も不苦候間随分差合

之通無怠慢出精候様^ニ申達右之趣上原彦藏へ及返答候

一 小性町南側^ニ 而 竹屋喜助所持之屋敷地表口式間裏行拾間三尺但御役考分式厘五毛也東隣ハ肥地屋繁蔵西隣ハ作屋つね也右屋敷地代銀拾匁^ニ 相極町内瓜生原屋惣兵衛へ売渡願書差出承り届ル但右屋敷地ハ鳥屋与市売論之地^ニ 付日切を^メ 普請出来候様^ニ 可申付旨大年寄へ申渡^{同十八日宛} 券状出

七月十四日 早朝雨 快雨

一 仙石越前守殿領分百々村化藏寺^ハ 西新町三角屋茂十郎へ懸合一件之義向方大庄屋方大年寄共へ返書来百々村役共向方へ差出候并書写差添来右盜賊申口双方マチ^ノ 付何分得と相糺候^ニ 否之返答可仕候間右盜賊^并 差添人先差返し被呉^ニ 頼来候趣申出^ニ 付左候ハ、任其意差戻早々否之返答^ニ 様可申付旨大年寄へ申達候

一 新魚町姫路屋惠三郎義大峰參詣十五日逗留^ニ 而 来ル十五日出立之願書大年寄差出承り届^{八月三日届}

一 西今町玉屋吉右衛門義和州大峰參詣廿日計逗留^ニ 而 明十五日出立之願書大年寄聞届差出^{八月二日届}

一 元魚町菊屋孫三郎義右同断願書出^{八月格り届}

一 元魚町紙屋太兵衛倅太吉義右同断願書出右同断

一 先例之通町廻り七半時出宅例之通相濟御用番へ相届大目附へ使口上^ニ 而 相届候供之組孫八百蔵也

七月十五日 快晴

七月十六日 雨

七月十七日 雨

一 牢舍人弥市療治今日^ニ 而 二廻り相濟替之医牢番願出^{容子快方} 付休葉被仰付可然旨北山修齊申出候段大年寄申出候^ニ 付休葉申付ル

七月十八日 晴

一 御用日登城申上候御用向無之

一 去ル朔日夕京町山崎屋善六方手あやまり有之候義大目附小須賀貢^ハ 如何^メ 不相届候哉と不審有之候^ニ 付先格手あやまり近隣打寄捨消候程之義ハ承り置不相届隣町打寄候程之義^ニ 候得^者 相届候先格^ニ 付不相届候旨申達候^ハ 先格と有之候得^者 御差図ハ不申候得共御家中^ニ 而 少之義^ニ 而 差扣相伺既^ニ 上総殿^ニ 而 先年手あやまり有之格別煙立候程^ニ 而 無之隣家も不參候程之義^ニ 而 有之候得共差扣^被 相伺^ニ 差別も可有之義と被申聞候付場所遠近之差別之義^ニ 御座候哉と相尋候^ハ 火之大小之差別之口ふり^ニ 而 此間之京町手あやまりは内山下^ニ 而 騷候趣是程之義^ニ 届無之如何と被思候様子^ニ 付先格^ニ 而 右之通取計来候得共格別之意味有之義^ニ 而 有之間敷調^ニ 而 不及御役筋^ニ 而 右之御存寄^ニ 候ハ、以来ハ都^ニ 而 相届候様可仕旨及返答^ニ 御用所^ハ 御沙駄^有 之候義^ニ 而 無之殊^ニ 御先格之義^ニ 而 御指図^者 不申候得共御考も可有之義^ニ 且又御届^ニ 候得^者 其俣^ニ 而 相濟間敷御答メも入可申と被申聞候付其段ハ其節^ニ 至り得と相調候得共先ハ出火火元^ニ 而 追込^ニ 而 相濟候例^ニ 候得^者 御叱位^ニ 而 相当可仕左候得^者 是^ニ 筋聞置^ニ 而 以来入念候様^ニ 大年寄場合^ニ 而 申付候得^者 右取計を内分^ニ 而 取計候と表立^而 申渡と之違^ニ 相成候旨申達退座

一 清水中納言様去ル八日御逝去被成候ニ付十七日方廿三日迄鳴物高

声御停止尤武芸并普請作事ハ十九日迄相慎廿日方御免之急廻状夜

前子ノ刻前来町方并組中牟屋三軒屋高石垣番へ相触候様ニ申付候

一 昨十六日夕二階町藤野屋多吉借屋住独身長八宅置立懸ケ有之候

処長八留主^(ツ)ニ右畳と壁と之間ニ綿ニ火を付外方差込候躰ニ而之

隣家方早速臈付罷越揉消候旨今日大年寄申出此砌別而入念心付候

様ニ可申渡旨申達置右之趣御用番并大目附へ手紙ニ而相届候

一 遊行上人出立并波渡場書付大目附中考書此趣ニ而故障無之哉而役

申談被申聞候様三浦十郎左衛門へ被相渡候旨十郎左衛門方相廻リ

大年寄へ考申付候

一 五月十八日松岡治部助へ懸合置候出羽守様御通行之砌入用多之義

今日松岡方返答有之愚意同様ニ難申遣ものニ付申立候而も此節之

義ニ候得者御手当被下候様ニも相成間敷出羽守様役人と懸合候様

ニ被仰出候而者甚如何成ものニ付未及御沙^(マ)候得者「助郷等之

取計ハ有之間敷哉姫路明石岡山等聞合可然旨松岡治部助被申聞大

年寄へ申渡候

一 組中牟屋三軒屋寺証文小頭方差出書行へ相渡置

一 目明孫兵衛へ造酒助殿方盜賊尋為挨拶銀壹匁被下候旨小頭又六方

へ家從正藏方差越候由又六申出孫兵衛へ相渡孫兵衛「礼ニ参

り役所へも罷出候

七月十九日 雨

一 西今町中野屋太郎兵衛義撰州大坂梶木町松屋平兵衛方へ廿日計之

逗留ニ而明廿日出立願大年寄聞届差出^{八朔場ル}

七月廿日 雨

一 林田上之町平四郎借家住すま并同人悴源之助同弟重吉右家内三人

橋本町佐賀屋勘右衛門引受度人別入願大庄屋引合相済候由大年寄

差出承り届

一 上紺屋町年寄角屋八右衛門撰州能勢妙見^江三十日計之逗留ニ而参

詣来ル廿二日出立之願書大年寄差出承り届

七月廿一日 快晴 暮方方雨

一 元魚町靴屋伊助大坂会所町玉子屋九郎兵衛方へ四十日計之逗留ニ

而廿三日出立之願書大年寄聞届差出^{八月晦日掃ル}

七月廿二日 大雨

一 造酒助殿方へ入込候盜賊吟味近国へ目明非人差向候入用三百拾錢

渡之外ニ臨時入用八拾九匁五分六厘有之証文致奥書右臨時入用之

義追而勘定奉行へ可申達事

一 鍛冶町鍛冶庄右衛門悴忠五郎并妻娘右家内三人此度御領分東北条

郡林田村伊兵衛方へ引越度人別離之願書大庄屋引合相済候由大年

寄差出承り届

一 三町目北側ニ而浜野屋源五郎所持之家屋敷表口五間半裏行拾四間

但七歩五厘役西隣ハ浜野屋重郎兵衛持家東隣ハ三丁目横丁也右家

屋敷代銀札式貫五百匁ニ相極町内小田原屋幸助へ売渡度旨願書差

出承り届ル^{同廿五日宛券状出ス}

一 船頭町今津屋前之関貫破損有之旨廻り之組申出候ニ付大年寄へ申

達候処此節ニ新ニ拵懸け居候旨申候

一 兼田川大雨ニ付渡船止候段申刻郡代所方申来大年寄へ申達候

一西今町福本屋伊之助借家住小椋屋庄助家内去ル九日罷出不罷帰依之受人立合相改候処出奔之躰ニ相見ヘ残置候雜道具類五拾七品有之方々相尋候得共相知不申旨残道具品書差添届「」差出例之通百日尋申付候追而離帳之節可及御沙駄候

七月廿三日 晴

一御用日ニ付登城

一兼田川渡船相始候段巳ノ刻郡代所方申来大年寄ヘ申達ス

一古道具屋共近年不レリ之趣ニ付既ニ一昨年以來之松尾屋源之丞江株讓等之纏れも出来候ニ付当三月廿四日太力屋久治ヘ古道具屋頭

申付候節以來古格相糺諸事古法之通ニ相改役義相勤候様申渡置候処同人方申出候者以前高角屋千吉相勤候迄八年々掟書読渡印形取置并脚場帳面等も度々ニ頭方ヘ取置候事ニ候処灰屋喜平次江跡役被仰付候後ハ右等之義も相止當時ニ而者右掟書之趣も不存ものも

有之候様ニ相成候ニ付右掟書吟味仕候得共致紛失候哉相見ヘ不申其外受状等も印無之甚夕乱雜ニ相成居候間右掟書御渡被下候様申出尤以前之掟書之趣久治暗記之趣認出候ニ付役所遂吟味候得共右掟書之扣も不相見依之以前方之御触書并申渡等之書類書拔致添削

并久治方差出候暗記之ケ条も少々書加ヘ取綴并船株同様ニ右株之印ニ木札相渡置度并右之通今般古道具屋共ヘ申渡置候段惣町ヘ之触書も相認御用番中ヘ差出伺置候右掟書并触書扣有之ニ付爰ニ略ス

一遊行上人来着之節役懸町人共之内寺詰之もの計伺之通先ツ可申付尤安藤対馬守殿方御渡之御書付相渡置右御書付之趣を以相勤候様

可申付且本坊泰安寺下宿坊成道寺溪花院栄嚴寺ニ被仰付候由且又賄も着出立之砌ハ違候事「」得共常ハ下之分一汁一菜之御賄上方被下候ニ相極候旨伊達頼母方被申渡依之安藤対馬守殿御渡之公儀御触書御返翰認右寺詰之人々申付書付相渡候様ニ大年寄ヘ申付候

一 小勤者三浦伴左衛門方遊行賄平田屋幸助伊勢屋伊太夫花屋忠八江申付候由案内有之

一 遊行寺詰町人申付候旨名面相認小勤者三浦伴左衛門ヘ相渡候

一 右遊行上人来着ニ付町人共申付候者伺之上可申付先格ニ而者無之先格之通取調候様御達有之候得者大年寄場合ニ而申付奉行聞置ニ而相済来候先格之処今年者遊行御取扱御新法被相定候ニ付役付町人申付候義見合置候様伊達頼母方被申聞候付相待居候事也以後之格ニ而致間敷以後者矢張先格之通可取計事

七月廿四日 快晴

一 西今町白銀屋嘉左衛門妻出産妊娠届月取間違之届書差出先格之通叱取計候様大年寄ヘ申渡

一 中之町紺屋助右衛門借家住高田屋源次并妻悻半治右家内三人東南条郡林田村伊兵衛引請ニ付同村佐右衛門借屋ヘ引越度人別離願差出下方引合相濟候由ニ付承り届ル

一 西今町坪屋乙四郎所持之他国請酒株寛政五年七月方坪井町勝尾屋茂七借受商売仕候処限月来候ニ付尚又当卯ノ七月方巳ノ年六月迄借受商売仕度追願差出承り届ル

一 安岡町表屋長兵衛取持之自国受酒株寛政二戊八月より西今町米屋

利助借受商売仕候処限月来候ニ付尚又当卯ノ七月方来ル未ノ六月迄借受商売仕度追願差出承リ届ル

一来ル廿六日方於町会所前訓講尺相始候段大年寄届「」

一今夕安岡町二階町百万遍興行仕明廿五日夕林田町右同断執行仕候段大年寄申出廻リ之者へ申達候

一遊行上人逗留中接待所被相止候様昨日頼母方被申聞其旨大年寄へ申渡候

一今夕中之町百万遍致候段届出廻候組之者へ申達候

七月廿五日 晴

一仙石越前守殿領分当国勝南郡百々村化藏寺仏具被盜取候右盜賊中間当町西新町三角屋茂十郎之由盜賊致白状候由先月廿六日申来其

以来下方ニ而再応懸合候処不筋立候ニ付去ル十二日十四日大年寄方方向大庄屋明見古田次郎兵衛へ懸合之上右盜賊差戻候処向方ニ

而又々盜賊栄助再致吟味候得津山ニ而致白状候者偽ニ而弥三角屋茂十郎と一所ニ盜取候ニ相違無之処津山ニ而者目明岩藏申含ニ

付右之通申候由盜賊栄助口書写并差添来候上間村和吉百々村磯八爰元ニ而吟味之始末大庄屋へ届候写并化藏寺方届書写右三通大庄

屋古田次郎兵衛方大年寄共へ差越候ニ付三角屋茂十郎并目明岩藏へ右口書相渡返答書為仕差遣可申旨大年寄伺出最早大年寄懸合ニ

「」此分ニ而者筋立申間○始終立会吟味も可相成義ニ付一卜通り右之趣与兵衛殿於御宅主膳殿江相伺置候処後刻手紙ニ而伺之通

宜取計候様申来依之大年寄へ伺之通兩人ニ返答○為仕可申并茂十郎家内之者も存居候由栄助口書ニ有之候得者家族共も呼出して遂

吟味并向方ニ而爰元吟味之節岩藏申含致候哉之趣其場詰合候もの共繩取迄一々相札并化藏寺仏具紛失之後当町ニ而古仏具相調候も

の有之哉惣町へ相触遂吟味候様申渡候尤向方方之飛脚之者ハ從是可及返答旨申達差戻申候右伺濟之大意大目附江も手紙ニ而相届候

七月廿六日 曇

一川端田藏不快ニ付引込候段部屋目附新治方届出候

一小頭川端又六義も不快断同人方相届候

一牢舍人新吉弥市病氣昨日牢番共方願出医師ニ為相札候様ニ大年寄へ申付置候所北山修伯診察服薬被仰付候様申出候由大年寄方届出

候ニ付療治申付候様申達候
一元魚町ニ而今夕百万遍執行大年寄届出夜廻りへ申達候

七月廿七日 白雨

一美濃職人町今夕百万遍執行大年寄届出夜廻へ申達ス

一大脇新左衛門不快ニ付今日日出仕断

七月廿八日 晴

一御用日登城申上候御用向無之

一御用番中へ先日伺置候古道具屋定書之内其年計之分弁銀と申義今一応相考差出候様主膳殿被申聞御下ヶ被成候依之大年寄共へ考申付候

一大目附小須賀貢方一ノ宮下社家堀田助太夫寺社取次後藤郷助宅江呼出候間同心組兩人郷助江貸渡申候様手紙ニ而申来尚又郷助方も

右之段申来并堀田助太夫義揚屋申付候間其手配申付候様頼来出番嘉七百藏兩人差遣并一ノ宮迄差向候由合羽持「」尋来一ノ宮迄

被差向候ハ、合羽持入申候最早夜ニ入候程難計候間焼灯持も入可
申旨何れ忝人ニ而宜候旨申遣候

一安岡町大坂屋喜与八義古川村助右衛門岩平へ借金出入之義郡代所
へ懸合置候処筋立相濟候由郡代所願書被差戻候

一造酒助殿盜賊穿鑿入用当春之分九拾六匁式分七厘拙者與印証文差
出小頭受取差出内六拾匁ハ齋藤孫右衛門取替ニ付差戻候様ニ又六
へ申付相渡残り忝匁ハ目明岩藏へ差戻殘三拾五匁式分七厘ハ自分
取替ニ付引取候

一勝間田町鞍屋善吉家屋敷南側ニ而表口巷間半裏行七間御役三步也

東隣ハ米屋新四郎西隣ハ林田町常盤屋丈右衛門也右家屋敷質物ニ
書入延屋重四郎方銀札百三拾匁来ル十一月切ニ借用願書差出承り

届ル 同廿九日証文差出戊四月廿六日受返シ済

一戸川町御幸屋平八持来候古道具取売株元魚町玉嶋屋善助讓受商売
仕度受人新魚町山手屋治兵衛ニて候旨願書大年寄差出承り届ル

一一ノ宮乙松牢番預ケ申付候由郡代所申来夜廻り佐十郎為治へ出
役申付

一寺社取次後藤郷助へ出番兩人貸渡候処一ノ宮江迎ニ差遣後藤宅ニ
おゐて揚屋申渡夫方前付ニバ揚屋へ召連參候由尤郷助方揚屋へ差
遣候手形相廻り此方之手形ニ認かへ差遣候但宿賄也

七月廿九日 快晴

一揚屋人出来候得者中間取扱ニ付下番中間不足候間先格之通加人中
間一人牢番利兵衛方申立候ニ付大目附小須賀貢江手紙ニ而申達候
尤揚屋人有之候節者揚屋前ニ中間番所拵昼夜相詰食餌等之世話一

切中間致候事也但下番穢多も有之候事

一石名佐十郎妻出產女子出生仕依之佐十郎義血忌引込小頭より届出
候

一円藏佐十郎兩人引込ニ付加人忝人小頭方申立候ニ付今日より相渡
候様ニ大目附へ手紙ニ而申達候

一鍛冶町鍛冶七三郎被盜切手此筋切ニも相成候ニ付何卒御渡被下置
候様ニ者相成間敷哉歎書差出候旨大年寄内意申出候ニ付被盜候も
の上方被下候様ニ者不相成筋と及差図併為念近藤伊左衛門へ相尋
候処決ニ不相成筋申聞候

一牢屋下番中間揚屋賄改不致旨申候由ニ付心得違之旨小頭宅ニおゐ
て呵申渡候

一御使組加人磨木团右衛門来昼番方相動ル

一右門義御用之義有之候間明朔日五半時登城候様山田主膳殿方「」
名之御奉書到来

八月大

月番

御家老 永見造酒助殿

御年寄 伊達与兵衛殿

大目附 伊達頼母

大年寄 齋藤孫右衛門

八月朔^{己卯}旦 快晴

一八朔ニ付御徒格以上麻上下着用惣登城ニ付五時登城仕昨日御奉書到来ニ付罷出候段大目附^江相届役所ニ扣居ル尤勘定奉行近藤伊左衛門上原彦藏も同様御奉書到来候

△被仰渡御座候ニ付宇治橋之間へ相廻リ候様御用所坊主申来罷出候処於焚火之間悴其衛義槍釵出精之趣達御聴御喜色思召候旨御賞有之伊左衛門彦藏も同様之義也

△於七間廊下例之通御小性頭代謁有之御奏者番方三奉行迄一同罷出上席御奏者番方当日御祝義申上候旨申上之末席より引取^早

△例之通三奉行役順ニ御用所^江罷出上席当役方当日御祝儀申上候段申述之末席方引取引懸ケニ大目附^江当日自分挨拶申述之^早

△又御用所^江席順ニ伊左衛門右門彦藏三人罷出上席伊左衛門方何れも悴蒙御意難有仕合奉存候旨御礼申上之末席方引取引懸ケニ大目附へ悴共蒙御意候御礼申述之

△大目附伊達頼母方造酒助殿来正月与兵衛殿来三月出府被仰付候旨為知有之依之又役順ニ御用所へ罷出上席当役方御兩人様御出府被為蒙仰重疊目出度奉存候旨挨拶申述之末席方引取

△大目附伊達頼母方檜之間衆^江是迄当日之挨拶無之処以来ハ御用所同様ニ御奏者番方三奉行迄一同檜之間^江罷越当日挨拶申述候様ニ

今日被仰出候後刻罷出候節通用可被致旨上原彦藏へ演説有之後刻為知^ニ寄^ニ三奉行一所^ニ檜之間敷居^ニ上席伊左衛門方当日御祝義申上候段述之引取御用所御退出之上下城

△右之通故三奉行ハ都^而不及廻勤候事也併御懇意の方へ自分勤罷越

候事ハ勝手次第之事^并悴共御賞之御礼ニも不及廻勤悴計御役懸リ為致廻勤候事

△近年五節句登城相初リ御儉約被仰出大目附も若堂不被連候様ニ相成候^而方ハ後藤守助も五節句八朔若堂不召連候由拙者義も年始計若堂召連五節句八朔ハ不召連候所当年方ハ五節句登城相止隆照院

様御代之通年始八朔登城ニ被仰出候ニ付今日ハ若堂召連候尤御用所之外麻上下着用之若堂年始之外召連候義不相成候由之処町奉行ハ先前方年始ハ勿論八朔^ニ御用所並ニ麻上下着用之若堂召連来

候先格^ニ太田定右衛門以来右之通之致来川端又六も睨と見覚罷在井上弥三兵衛大沢三平杯八朔之供麻上下^ニ相勤候由三船孫八^{（此七株也）}杯も既ニ度々相勤候由依之麻上下着用為仕召連候此外^ニも当役ハ

对之姚灯御座之間御礼若堂手傘等之致来之先格ニ候△先格之通出仕前組中麻上下^ニ罷出候ニ付仕懸ケ何れも呼出し於居間当日挨拶申達之神酒差出候事

△先格之通昼廻リ不差出夜廻リハ平日之通差出候事△屋敷番終日麻上下宿方袴計之事
八月二日 晴

一 小性町年寄屋根屋喜助義当五月廿二日死去仕候ニ付右跡役倅源治^江申付度旨申出其通承リ届候

一 今日惣町宗旨証文差出来候所戸川町打穴屋長七家守大黒屋忠助宗判問違之義有之候ニ付遅延候段大年寄申出其宗旨奉行亦見類助へ及噂置候

一 西今町公文屋清左衛門大坂玉子屋九郎兵衛方へ三十日計之逗留ニ

而明三日出立之願書大年寄承り届差出候

一京町原田屋伊兵衛義播州明石橋屋町いさご屋伊右衛門方へ三十五日計之逗留^ニ而明三日出立之願書右同断差出^{九月三日場ル}

一尾州和田郡嶋崎之内寺見村高橋伊豆上下式人例歳之通旦那廻り^ニ

昨日来候段元魚町笹屋友治宿切手差出

八月三日 快晴

一御用日登城申上候御用向無之

一伊達頼母方御巡見使^江当役方之挨拶振認差出候様被申聞左之通認差出候

弥御安察被成御止宿珍重奉存候

一自分義八朔^ニ麻上下着若堂召連候義大目附伊達頼母方三浦十郎左衛門へ内々不審被申聞候由三浦方沙駄^(マ)有之依之先前役方召連来候段三浦^江及返答候

一一ノ宮乙松義去ル廿八日郡代所方牢番預ケ相成候所今日入牢手形相廻り認替牢番共へ差遣候

一海老原極人殿長屋住喜代助^并妻娘右家内三人下紺屋町出口屋佐助役介^ニ引受度人別人願差出承り届ル

一前訓講尺^(マ)今日迄^ニ而相濟候由豊屋喜左衛門出席帳致持参及一読差戻候

八月四日 快晴

一惣町宗旨改帳去ル二日可差出処戸川町大黒屋忠助義^ニ付延引候段亦見類助へ懸合候処改濟候程差出候様同人被申開依之戸川町大黒屋忠助有之候真言宗之帳面^并壹本証文残置例歳之通奥書致印形改

所へ差出候但

一天台宗 千九拾九人 一真言宗 貳千七百七拾七人

一禪宗 四百五人 一浄土宗 六百九拾二人

一浄土真宗 四百七拾二人 一日蓮宗 貳千貳百五拾八人

惣人数合 七千三百三人^{但昨寅年方拾六人増}

内男子 三千七百四拾三人 女子 三千三百六拾人

一 元魚町笹屋友治悴茂吉義病氣療治^ニ付播州加古郡高畑村外科大西権兵衛方へ三日計之逗留^ニ而明五日召連罷越度願書大年寄聞届差出候^{同十三日友治罷越度義来月初旬迄差置候様届出候}

八月五日 快晴

一 仙石越前守殿領分百々村化^(マ)藏寺盜賊懸合向方方盜賊栄助口書差越候趣を以懸り合之もの共不殘大年寄宅^ニおゐて相札口書取極候得

共盜賊懸り合ハ無之^ニ付右口書写不殘向方^江差遣此趣^ニ而者片吟味^ニ而者^ニ逆も相分り申間敷候間向方大庄屋古田次郎兵衛召連来候

ハ、立合可遂吟味歟又ハ申立双方御役人立合吟味^ニ相願候共向方存寄次第^ニ可致之旨大年寄方可申遣旨返書下案^(麻)差添右口書写

向方へ可指遣候旨大年寄伺出右書類不殘御用番中へ致持参読候^而申上候処伺之通宜取計候様御差図^ニ付其旨大年寄へ申達候

一 稲荷山草苺今日方始候段三軒屋藤助届出候

一 玉置源五兵衛義勝山縁者方へ四五日之逗留^ニ而罷越度旨届出承り届置候

届置候

一 遊行上人逗留中髮結^并導引在宿申付候^ニ付被下物之義伊達頼母方被相尋大年寄へ申達候処何方方も被下無之旨書付差出し伊達頼母へ差出候

一遊行出立之砌仮小屋相止候ニ付山城屋木小屋御借り被成候て追而
御酒代被下可然と此間申候処書付差出候様被申聞今日差出候所此
節不及差出追而可及差因被申聞被差戻候

一勝間田町栄屋新四郎方へ下横野村利右衛門伴藤左衛門と申もの沼
村新蔵悴林蔵と申もの同道ニ而来り及狼藉候旨九ツ時比大年寄届
出番新治為治差向候所無別義罷帰候段明六ツ前届出候

八月六日 曇

一三丁目沢田屋与三右衛門大坂玉子屋九郎兵衛方へ三十日計之逗留
ニ而明七日出立之願書大年寄聞届差出し九月四日帰ル

一小性町瓜生原屋惣兵衛相調候町内喜平次屋敷地鳥屋与市と買論有
之候ニ付当月中ニ普請致候様大年寄方申付候処当月中ニ出来候様
ニ可仕旨一札差出候

一小性町下横丁西角ニ而米屋菊家屋敷表口六間三尺裏行六間三尺但
半役也西隣ハ今津屋平蔵南隣ハ網干屋佐七右家屋敷代銀札三百匁
ニ相極船頭町広嶋屋清七へ売渡度願書大年寄より差出し承り届ル
同七日売券状差出

八月七日 雨

一惣町宗旨帳面戸川町大黒屋忠助宗判之義ニ付真言宗帳面并一本証
文残置候処昨年之通弘法寺致印形差出候ニ付致奥書印宗旨奉行へ
当番指添為持遣候

一石名佐十郎血忌昨日切ニ付今日方致出勤候ニ付御使組加人磨木田
右衛門今日方差戻其段大目附中へ手紙ニ而相届候

八月八日 晴

一御用日登城

一綿買問屋是迄伏見町能勢屋源助老人之処老人ニ而者差支多有之候
ニ付左之面々へ申付度旨大年寄申出候ニ付御用番中へ相伺候候伺
濟ニ付其段大目附江も申達置申付候様大年寄へ申達ス

綿買問屋

申付候

元魚町豊屋喜兵衛
安岡町大坂屋喜与八
船頭町高瀬屋勘右衛門
同町 和泉屋清助

一拙者義八朔ニ麻上下着用之若堂召連候ニ付去ル三日大目附月番伊

達頼母方郡代三浦十郎左衛門へ相尋候様御不審有之候旨十郎左衛
門方申聞候付当役筋ハ先前方仕来申伝ニ而年久敷相勤候もの共聡
と相覚居之義ニ而召連候事ニ而御座候旨口上ニ而及答候処尚又去

ル四日伊達頼母方明和元甲年八月廿八日被仰出之芥子之間以下
之面々ハ年始大札之外ハ平日麻上下着召連候義不相成と申御触書
写三浦へ被相渡此趣之義ニ而候得者聡と致候記録ニ而も有之義哉

組鉢之輕もの、申伝へ而已ニ而申立ニ者不相成義何れニも来ル八
日迄ニ返答有之候様三浦へ被申聞候由三浦土方演説有之右ニ付明
和元年之日記并御触扣等致吟味候得共右御触一向不相見何分私不

調法ニ致し差扣等伺可然哉之様成口振ニ相聞候得共元来心得違ニ
而召連候義ニ而も無之記録申ニ者無之共小頭川端又六部屋目附三

船孫八等慥ニ相覚居候事ニ而是而已ニ不限其外ニも对之姚灯若堂
手傘等之義も今以致来居候事ニ而一ト通り存寄不申達候而者後役
江も不相濟義ニ付押而左之通弁書相認三浦へ手紙添差遣別ニ委敷
難被仰取義も候ハ、貴様江之手紙共ニ被差出被下候様ニ三浦十郎

左衛門へ頼遣

一当役申伝ニ御座間御目見対之焼灯八朔上下着召連并平日たり共
 若堂手傘相用候義役伝之旨年久敷相勤候者供方申伝へ当役被
 仰付儀ニ対之焼灯等も申付既ニ昨年出羽守様御通行之砌ニも相
 用申候八朔ニ上下着召連候義も井上弥三兵衛大沢三平杯時分現
 ニ度々供仕申候もの共も耽と相覚罷在尤後藏守助義者当役被仰
 付大目附中並之振合之由其節大目附中五節句若堂御連不被成候
 由ニ右同様ニ致候と申事ニ不召連候由昨年迄者五節句登城ニ
 付私義者_者是迄年始之外召連不申候得共当年_者隆照院様御代之通
 両度之登城ニ相成候故古格之通仕候方可然哉諸士之分年始并大
 礼之外ハ上下着召連候義不相成と申義も先年迄ハ不奉存既ニ上
 巳ニ召連右之段承り恐入差扣奉伺候其後御触扣等_成調見申候得
 共見当り不申御家風之義ニ御座候哉当役も御家風之事ニ
 右之通之致来哉と奉存今般私方先格相崩候も如何とも奉存古之
 格之通仕候義ニ御座候右申上候若堂手傘対之焼灯等之義も奉伺
 度其外ニも御家門様方御通行之砌御用所御出役被成候節_者遠見
 御註進使番として若堂四人召連申候是等も過分之義ニも御座候
 得_者別ニ差遣置候義ニも可有御座哉右之外ニも当役_江類役ニ
 無御座老人_江書役老_人御渡被下候事も当役ハ先前方外ニ無御座
 御形ニ格別之御取扱之事と年久敷相勤居申候ものハ承り伝へ
 罷在候事ニ御座候由申聞候右等之義兼_而奉伺置可申義ニ御座候
 処都_而先格取計方支配之者共方承り候義も数多御座候ニ付任其
 意置不奉伺候段ハ甚以恐入奉存候得共右之訳合ニ先格と奉存
 八朔ニ上下着若堂召連申候義ニ御座候此段申上候以上

八月八日 増見右門

一以手紙得貴意弥御安康被成御勤仕珍重奉賀候誠此間ハ御出被下
 忝奉存候然_者其節為御見被成候御触之趣御説之通日記ニも不相
 見尚又御触扣吟味仕候処一向相見へ不申候何れニも蒙御察度候

上ニ非を飾り彼是申上候も尚更「」入候義_者奉存候得共一ト
 通り訳合不申上候_者後役_江も申訳無之様ニも奉存候間別紙之
 通御差出被成可被下候尤蒙御察度候上ハ差扣可奉伺筋ニも可
 有御座候得共今般之義ハ別紙之通旨美ニも無御座候_者差扣相伺候迄も
 御座候得_者申さバ惡事同様之義ニも御座候得_者差扣相伺候迄も
 無御座重き御咎も可被仰付御筋合と恐入奉存候間今日之出仕も
 差扣相慎御差図を相待罷在候間右之段宜被役取御申上被成可被
 下候此段御頼申度如此御座候以上

八月八日 増見右門
三浦十郎左衛門様

右之通三浦士へ頼遣候処今早朝三浦士伊達頼母宅へ被參右手紙共
 ニ被差出候処受取置委細之義ハ後刻出仕之上可及返答候得共右門
 義今日日出仕差扣候筋ニ_而無之候間何分出仕被致候様ニ可被申通
 旨挨拶之旨三浦被申聞依之例之通登城仕候御用所御下り後「」達
 頼母より三浦へ右弁書_并手紙等も被差戻今般之義ハ余之ケ条相尋
 候義ニ_而無之余之ケ条伺度義ニ候ハ、別ニ可被差出今般之義不
 調法ならで差扣伺候共御差図ハ不申候得共如何様共御存寄次第之
 事ニ候得共相尋候義ハ八朔上下着計之義ニ候間此義計相認被差出
 候様ニ演達候様被申聞候由三浦方通用有之候ニ付仰迄も無之此度
 外之ケ条伺候ニ_而無御座「」朔若堂之義ニ付右之訳合為申述余之
 ケ条も相認候事ニ_而右ハ文面ニ_而も相分候義尚又差扣伺之義可然
 様之御口振り度々有之候得共元方不調法とハ不存差扣伺之心底ハ
 毛頭無之候得共右之段初ニ申上候節組鉢之輕もの、申候義ハ証拠
 不相成と耽と被申聞候故其段兼_而不伺置乍存御法破りニ相成候段
 ハ重き義ニ付差扣ハ不相「」相慎罷在御差図を相待候と申存寄ニ

而今般之義不調法と存差扣相伺候程之義ニも存候得者初方不仕候事ニ御座候右之趣ニ而者初メ口上ニ而御答申候通之今般之一事計先格ニ而仕候と申義計相認差出候事哉と三浦へ相尋候処尚又頼母へ聞合之上先其通ニ而宜と申事之由挨拶ニ付左之通相認三浦士江差出被下候様頼遣

一私義八朔ニ麻上下着用之若堂召連候義ハ先前方之仕来り申伝ニ而現ニ井上弥三兵衛大沢三平杯供度々仕候ものも聡と相覚罷在先格仕来之義ニ付召連候義ニ御座候其外ニも当役ニ者類役ニ無御座格外之仕来之事も御座候間今以先格之通仕来候義ニ御座候此段御尋ニ付申上候已上

八月八日 増兎右門

一御蔵切手納不初内ニ為替米取候事停止之例歳之通之書付大目中被相渡町方へ触達取計候尤例歳右御触御家中へ一統出候節組中へ者相触候事ニ而先今日ハ先格町計へ相触候事

一玉置源五兵衛高田行此間不罷越昨日罷越候段昨日相届之

一一ノ宮牛馬寄ニ付例歳之通町触差出候

一宗旨奉行赤見類助方町方宗判帳致付紙被相戻候ニ付大年寄へ相渡認直候様ニ申達候

一人馬問屋漸々ニ入用増候様ニ相見へ候ニ付メリ方付候様ニ大年寄へ申渡し

一小性町下横丁西側ニ而網干屋佐七家屋敷表口巷間五尺裏行四間但式歩八厘役南隣ハ今津屋平蔵北隣ハ米屋いく右家屋敷今津屋平蔵取次ニ而質入ニ書入百八拾匁当八月方来十一月迄一ヶ月巷歩半之利足ニ而借用仕度願書差出承り届同十七日証文出ル

一拙者義八朔上下着召連候義右之通認差出候処尚又伊達頼母方大沢

三平次ニ後藤守助節之義相認出候様ニ申来候旨右書付被差戻尚又左之通認かへ翌九日三浦へ差遣候

一私義八朔ニ麻上下着用之若堂召連候義者先前方之仕来り申伝ニ而現ニ井上弥三兵衛大沢三平杯供度々仕候もの共〇聡と相覚罷在先格仕来之義ニ付召連申候尤後藤守助義者当役被仰付大目附中並之振合之由其節大目附中不被召連候由ニ而右同様ニ致候と申事ニ而不召連候由及承申候右之外ニも当役者類役ニ無御座格外之仕来之事共御座候間今以先格之通仕来候義ニ御座候此段御尋ニ付申上候以上

八月九日 増兎右門

八月九日

一稻荷山下草苅仕廻候段三軒屋番中尾藤助相届承り置

一橋本町長崎屋代助義阿州佐古町四丁目若井屋宗助方へ四十八日計之逗留ニ而明日日出立之願書大年寄承り届差出候十二月四日届届

一昨日相認今朝差出候八朔上下着召連候書付守助在役中大目附中者被召連候処守助義不召連候訊相認かへ差出候様申来左之通認替差

出候

一私義八朔ニ麻上下着用之若堂召連候義者先前方之仕来り申伝ニ而現ニ井上弥三兵衛大沢三平杯供度々仕候者共も聡と相覚罷在先格仕来之義ニ付召連申候尤後藤守助義ハ当役被仰付大目附中並之振合之由其節大目附中若堂不被召連候由ニ而右同様ニ致候と申事ニ而若堂不召連候由同人御役初申候を組之者共承り覚居「一」ニ而其後役中不召連趣意ハ存不申右之外ニも当役ハ類役ニ無御座格外之仕来之事共も御座候而今以先格之通仕来り候義ニ御座候此段御尋ニ付申上候以上

八月九日 増兎右門

一郡代所^方盗人善藏吟味ニ付出牢申来出番百藏差向郡代所^江相渡晚方入牢申来出番新治差向入牢取計

一郡代所^方□□村穢多久藏先達^而円宗寺村利八土藏へ忍入候盗人善藏懸合ニ付入牢申付候由切手相廻り此方切手ニ認替出番新治ニ為持差出入牢取計

八月十日 快晴

一牢舎人新吉弥市療治二廻り相濟最早休葉候^而も可然旨北山修伯申出候由大年寄申出牢番^方八代之医師願出候得共右之通故休葉申付候

八月十一日 雨

一拙者八朔上下着召連候弁書差出候所又々御触之趣記録ニ無之詔^并右御触書出候節ハ誰相勤候哉弥三兵衛三平供致候者当時相勤候名面何年番代等之事^并御触出候ニ付伺等ハ無之哉之有無書かへ差出候様ニと之義^ニ而^{又々}被差戻左之通相認三浦十郎左衛門を以差出候

一私義八朔ニ麻上下着用之若堂召連候義^者先前^方之仕来り申伝^ニ而^年久敷相勤候川端又六と申もの寛延二巳ノ年太田定右衛門時分之義^方見聞仕相覚罷在候義^ニ御座候

但右川端又六と申ものハ元文五申年^方当役江口勘太夫^江出仕候得共其節之義ハ幼少^ニ而^相覚不申候由

一寛延二巳年^方当役太田定右衛門^江出入奉公仕其節^方之義見聞仕相覚罷在候

一宝曆元未年鈴木喜右衛門在役中書役ニ罷出引続井上弥三兵衛在役中宝曆九卯年迄都合九ヶ年相勤新法ニ付書役相止ミ外^江相勤申候

一明和四亥年井上弥三兵衛再役被仰付其節又々書役ニ罷出引続永井甚太夫大沢三平在役中明和七寅年迄四ヶ年之間書役相勤御儉約ニ付書役相止ミ外^江相勤申候

一安永五申年大沢三平在役中同心組ニ罷出後藤守助役中ニ又々書役相勤候義も有之候得共引続不絶今以当役所相勤當時小頭役相勤罷在候

右之通川端又六義当役所出入度々相勤八朔ニ麻上下着用之若堂召連候義^聡と見聞仕覚罷在申候義^ニ御座候

井上弥三兵衛大沢三平杯八朔之供麻上下^ニ而^三船孫八と申もの相勤聡と相覚罷在申候

但右三船孫八と申ものハ明和四亥年井上弥三兵衛在役中^方同心組ニ罷出引続永井甚太夫大沢三平後藤守助在役中^{天明}

六午年迄廿ヶ年相勤病氣ニ付番代仕此間三ヶ年相休又々寛政二戌年後藤守助在役中ニ再勤仕今以相勤罷在申候

一右之通弥三兵衛三平兩人之供ハ孫八仕相覚罷在甚太夫供も右同様^ニ而^仲ヶ間之者相勤候を孫八聡と見覚罷在候由申候

後藤守助義^者当役被仰付大目附中並之振合之由右差合^ニ而^哉当役初^而之年始川端又六供仕登城仕候処其節大目附中若堂不被召連候ニ付大目附中右之通ニ付若堂召連間鋪旨則又六へ申聞昼後

方ハ若堂相止メ支配方大年寄へ年頭罷越之節計召連其外ハ五節句八朔たり共役中若堂不召連候由右之通若堂相止候守助趣意ハ

承り候もの無御座候故相知不申候然ル所昨年迄ハ五節句登城ニ付私義ハ是迄年頭之外若堂召連不申候得とも当年^者隆生院様御

代之通兩度之登城ニ相成候故右古格之通仕候方可然哉と奉存尤諸士之分年頭^并大札之外ハ麻上下着用召連候義不相成と申義も先

年迄ハ不奉存既^ニ上巳^ニ麻上下着用召連右之段登城之上承り恐入差扣奉伺候義^ニ御座候其後当役被仰付御触扣等調見申候得共見

当り不申左候ハ、御家風之義^ニ而^も御座^候事哉と奉存当役申

伝も右之通八朔麻上下着召連候義ハ古来方仕来之義と申伝へ其外ニも当役ニ類役ニ無御座格外之仕来之事共も御座候間今先格之通仕来候義ニ御座候得者是以御家風之事哉と奉存今般私方先格相崩候も如何とも奉存右之通八朔ニ上下着召連申候義ニ御座候然ル所諸士之分年始并大札之外ハ上下着召連候義不相成と申御触明和元年八月被仰出候旨御触写為御見被成其節ハ大沢三平在役ニ御座候其砌之日記并御触扣等猶又今般相改見申候得共致如何候哉一向相見江不申勿論右御触ニ付何等之義ハ尚更相見へ不申候右申上候川端又六義ハ其節当役所ニ居合不申事故一向存不申候三船孫八義者右御触之後ニ罷出候者ニ御座候此段御尋ニ付申上候以上

八月十一日 増尻右門

八月十二日 晴

一 中山万藏妻出産女子出生ニ付血忌引込候段又六届出候

一新職人町塗師孫三郎借屋住村上玄宅義四国遍路六十日計之逗留ニ

而明十三日出立仕度願書大年寄差出承り届

一 種油当五月方四匁売候処三匁八分売ニ可仕届書差出承り置

一 川端円藏義致怪我引込候段届出依之加人老早朝方御渡候様ニ

大目附へ手紙ニ而申達候

八月十三日 曇

一 御用日登城

一 古道具屋定書相認先月廿三日相伺候処思召被仰出依之又々認替御

用番中へ差出伺置候

一 コロリ油一件ニ付以前湯閑屋御答有之候其砌之書類不残差出候様

伊達頼母被申依之右取計日記覚書ニ有之分并申渡相写右吟味口書

并下る差出候仕切書共ニ式拾通伊達頼母へ相渡置

一同心組加人夜前申立置候処今朝方御使組河野儀兵衛来ル

一 中山百藏妻昨日出産之小児致病死候ニ付部屋目附三船孫八遂見分

候処全株虚弱病死相違無之旨又六孫八届出候依之以来病中相届

候様ニ申達置

一 林田上之町権治江去ル九日昼盜賊入込五品被盜取候由尤右品之内

風呂敷一ツ東新町高松屋平左衛門方ニ三宝屋内善吉と申者質ニ置

有之右善吉致吟味候得共高松屋方ニ無之由右之触流取計候様大

目附中被相渡町触取計并高松屋方遂吟味候様ニ大年寄へ申付本書

ハ大目附中へ差戻し

一 撰州大坂嶋之内大宝町万屋善治郎と申もの一人例年之通革足袋す

いのふ金とうし売ニ来候段勝間田町山形屋喜兵衛宿切手差出

一 播州網干新在家村加賀屋善七手代善兵衛一人例年之通小間物売ニ

来候段宿右同人切手差出

一 橋本町南側ニ而黒茶屋伊之助家屋敷表口壺間七歩五厘裏行拾七間

御役三歩七厘五毛東隣ハ大工与十郎西隣ハ徳嶋屋長十郎家也右家

屋敷此度同人借屋ニ居候粉屋弥吉へ質物ニ書入来四月切銀札百匁

借用仕度願書差出承り届

同廿四日本証文出

一 自分義八朔ニ上下着召連訳之弁書三浦十郎左衛門を以去ル十一日

伊達頼母へ差出置候処今日頼母方十郎左衛門へ左之通口達有之候

ニ付内々ニ而書面借り写

一 増尻右門義八朔ニ麻上下着用之若堂召連候之趣明和元年被

仰出有之候得共町奉行ニ而者上下着若堂召連候由乍然後藤

守助役中^者中絶も致候義故右門役初^ニ取調も有之候処御触
も書留無之由左候ハ、大目附迄も伺出可申之処無其義御家
中一統^江之御触之趣^ヲ不相守組之者之衆覺之義を取用先格
之旨申立候段甚^ニ心得違之事^ニ候

右之通之御達^ニ而^ニ文面拙者主意不通様之処も有之様^ニ被存再応三
浦迄存寄申述三浦^ニも又々被相伺候得共存ル通^ニ通兼三浦士^ニも
迷惑之趣^ニも被察候^ニ付何れ右之通心得違と出候上ハ是非差扣不
相伺候^而^者不相濟趣^ニ付直^ニ三浦士を以差扣相伺候候後刻差扣不
及其義候段手紙^ニ而^ニ三浦士へ申来候其余之ヶ条共ハ得度相調追^而
可伺置事

一 為替米御停止之御触去ル八日^ニ出候同文言之御触書大目附中^方到
来候^ニ付写取組中牢屋三軒屋番高石垣迄相触候様小頭^江申付ル但
例歳右之通兩度^ニ出候事也

八月十四日 曇

一 中之町平岡忠右衛門義撰州大坂梶木町玉子屋九兵衛方へ売用^ニ付
四十日計之逗留^ニ而^ニ明十五日出立之願書大年寄聞届差出^{九月廿日届ル}

八月十五日 雨

一 馬場半助長屋^ニ居候和右衛門夫婦二人下紺屋町藤原屋多助引受度
人別人願大年寄差出承り届

一 中之町高尾屋勤七所持之旅人宿屋株町内津田屋伝助へ相讓度願書
大年寄差出承り届ル

一 林田上之町権治方へ這入候盜賊盜物触流し一昨日取計^并高松屋平
左衛門^并三宝屋をも相糺候様申付置候処三宝屋方^ニ而^ニ善吉と申下
人弥無之と申一札差出高松屋方ハ人相書差出候^ニ付遂吟味召捕置

届出候様大年寄へ申違候所^江右盜賊召捕候旨目明孫兵衛申出候^ニ
付郡代所^江引渡可申候間目明孫兵衛方迄人差出され候様申遣尤右
盜人ハ元西川者^ニ而^ニ爰元惣社村^ニ伯父も御座候^而六七年以來居候
様^ニ而^者申候得共実ハ七月^ニ爰元へ来り三宝屋杯^ニ日雇等も致居候
処近来ハ不召仕候由目明孫兵衛方申出候尤盜ものハ武田屋^ニ質^ニ
有之由^ニ候

八月十六日 雨

一 玉置源五兵衛義一昨夕高田方罷帰不快^ニ付昨朝同役方届出候
一 廿六日顕徳院様御一周忌^ニ付拜礼仕度旨大年寄共口達^ニ願出候尤
札元拜礼ハ先例無之由昨年初^而札元御拜被仰付候由

一 川口藤左衛門妻出産男子致出生候由大年寄方届出承り置尤血忌引
込候段相届候近例承置^ニ付不相届候事

一 村田上之町権治被盜もの宮脇町武田屋里と方^ニ拾沓ツ蚊帳二ツ質
^ニ取居候由届書差出候

一 播州加古川方ねちわく細工手伝^ニ九郎兵衛長次と申もの式人例年
之通呼寄申候^而昨日来候付当十二月末迄差置申度願書大年寄方差
出承り届ル^{十二月十六日届ル}

八月十七日 雨

一 林田上之町権治方へ這入候盜賊一昨日召捕候旨目明孫兵衛申出町
方^ニ而^ニ悪事無之もの^ニ付郡代所へ可相渡旨一昨日申遣置候処無宿
もの当役方受取候義無之由^ニ而^ニ郡代所入用之もの^ニ而^者候得共受取
候筋^ニ而^者無之候間宜敷取計候様^ニと申来種々事を分ケ申遣候得
共承引無之四五遍及文通候得共訳立兼候^ニ付昨朝罷越及面談当役

筋ハ諸方之吟味もの可引受ハ勿論之義殊ニ無宿なら者尚更之義ニ候処今般之盗人ハ町方ニ懸リ合無之候得者遂吟味候得者御裁許迄当役方相同候間近例御役筋之盗賊御裁許相同候例駢と不相覚候間万一右之段伺候節御不審等有之候而如何ニも在候間右之段相届置取計候存寄ニ有之候旨及挨拶候処相届候義ニも候ハ、今暫相待呉候様ニ十郎左衛門被申聞依之其俟捨候処今昼前時夜前松岡治部助へも及相談候処弥郡代所江可受取筋ニ而者無之候間相同候様ニ可致旨申来依之御用番与兵衛殿御宅へ罷越右盗賊召捕候段相届役筋ニ而者何方之詮義ものニも可引受筋市郷之無差別御一躰之事とハ奉存罷存既ニ今般之盗も在方計之悪事ニ候得共召捕候義ニ御座候然ル所近例無宿ニ而も在方之盗賊遂吟味御裁許相同候例も見当り不申駢々例も相覚不申候得共今般遂吟味候得者御裁許迄も私方相伺可申候間其節御不審も有之候而如何ニも奉存候間此段御届申上置候旨申上候処御承知ニ而何様近例右之趣ニ拙者も覚居候左様ニまちくニ相成候而者不宜候間何分明日出仕候上可申達候間先夫迄相待罷在候様ニ被申聞候

一大坂南本町三丁目紙屋藤兵衛手代新兵衛一人例歳之通葉種卸売来候段二階町堺屋伊右衛門宿切手差出翌年正月十六日届

八月十八日 曇

一御用日登城

一松平伊織殿領分播州佐用郡佐用町村姫路屋惣右衛門妹弁義西新町伊崎屋弥市妻ニ引受度人別人願御用番御聞濟ニ付右願書大目附江

差出置御聞届申達候九月十六日住宅証文差出年五月廿八日離縁

一松平上総助殿領分備中浅口郡西阿知村代五郎兄伝十郎夫婦娘右家内三人堺町西川屋善助引受度人別人願右同断取計濟同晦日住宅証文出

一三浦備後守殿領分真嶋郡惣村又八妹義二階町茂渡庄右衛門家守若木屋伊助借屋住佐久屋藤助妻ニ引受度人別人願差出右同断取計濟九月十日住宅証文差出

一与兵衛殿方於御用所昨日被申聞候今般召捕候盗賊郡代所江引渡「」候併当役所ハ惣用之所故諸方懸合之節者当役所江引付可遂吟味義当役所方他之支配懸合等ニ付支配之者他役所江先ツハ不差出候様之趣ニ相覚候由随分左様も可有之義郡代所ハ一手切之事ニ候得者他之支配之者不受取候而者難遂吟味筋ニも相成候節者伺之上可取計義と申達置候其趣是迄之通相心得可申尤右之旨追而認差出候様被申聞候

一右盗賊今日郡代所江可相渡筈之処尚又以後之形認差出候様ニ候得者一向右等之義認出候上ニ而相渡候方も可然哉万一如何様之先例等も可出程も難計且又右之通以後之形認出候趣ニ付候而者思召可有之程も難計ニ付右引渡兩三日見合候上ニ而相渡可申旨申上候処御承知ニ而如何様とも可然取計候様被仰出候依之右盗賊今日牢番預ケニ申付置候尤当番文蔵差出候

一院庄清晴寺被盜もの衣類十九品銀札合四百七拾四匁程并御宝上人勤修寺上人令旨ニ通箱入右触流取計候様大目附被申聞例之通取計本書ハ大目附へ差戻し

一三浦十郎左衛門方綿実油絞之諸帳面被差戻受取書役江相渡置候但松岡時分差出遣置候義也

一先達而郡代所江相廻置候在分水車之義ニ付久米屋友七願書右水車願ハ不被聞届候付被差戻受取大年寄へ相渡候

一來ル廿六日顯徳様御一周忌ニ被為當候ニ付一夜別事被仰付候段為御知廻状大目附方到來写取町触廿五日方廿六日迄諸事相慎自身番致候様触書出組中牢屋三軒屋へも相触候様申付ル

一川端円藏義今日方致出勤候付加人磯兵衛明朝返候段可相届事

八月十九日 晴

一同心加人御使組今朝方差戻申候段大目附へ手紙ニ申達候

一中山百藏血忌昨日切ニ今朝方出勤届出尤明朝方相勤候事

八月廿日 曇

一御用番与兵衛殿方去ル十八日当役郡代所而役盜賊等引合之義「

之心得先格認差出候様被仰出罷帰遂吟味候処近例ニ山北村善心一

件ニ付京町菓子屋磯八江杯郡代所江引渡吟味も有之且又無宿者申渡

ハ是非当役江被仰出候急度先格ニ候処昨年御赦之節申渡ニ無宿盜

賊伝藏吉五郎甚藏弥助〇杯郡代所ニ取計有之左候得者耽と致候記録等見当

リ不申候而認出かたき義ニ中々急ニ取調出来候事ニ無之并郡

代所盜賊此方ニ取計候先例猶又旧例取調候処安永三年十二月

十三日大沢三平在役中盜賊与三郎と申もの之取計「様之事ニ

も候得共下方吟味計ニ役所呼出候義も無之盜もの等引渡之義も

不相見諸事下方計之取計之趣ニ相見へ是以の當之例ニも難致依之

右之段与兵衛殿御宅へ罷越申上候処此間被申聞候趣ニ大躰相分

リ候義ニ候間此間申達候通盜賊可被引渡候様御差凶有之右先例調

は無急ニ出来申間敷最早不出候共相分居候事ニ候得者急ニ被差

出候ニ不及義ニ候得共夫とも出来候ハ、追々差出候様被仰出依之右旧例不取調候而何れ共難申上義ニ候得共今般之様成義譬先例

ニ引渡候義ニも先ハ引渡間敷可申本意ニ候得共當時之趣ニ而者勿論先例も無之可引渡義ニも可有御座哉と差当り候所ニ而者愚

意ニ左之趣ニ奉存候間此段認差上候何れとも御差凶奉伺候と申差出置候

一町奉行所郡代所而役盜賊等引合取計方先例相認差出候様被仰

出奉畏候処元方耽と仕候記録等未見当り不申近例ニも山北村善

心一件ニ付京町菓子屋磯八と申者郡代所江引渡吟味有之候事ニ

候得者而役引合もの者不残当役所ニ引受候先例共難申大意本主

と成り重き方へ枝葉と成り候方方引渡五歩ノ位之義ニも御座

候得者当役所へ引受候様之義ニも可有御座哉ニも奉存候得共是

以耽与仕候記録等も未見当り不申候得者何れ共難申上迎も旧記

等得与不相調候而相分り申間敷中々急ニ取調出来兼申候間

追々取調出来次第可申上候

右申上候通之義ニ御座候得共差当り當時之趣ニ而相考候得者旧

記者兎も角も当役而在方之盗人者貪着不仕候と申義者毛頭無

御座御領分中者何方も同様之義と相弁罷在候得共當時之姿ニ而

見候得者而役所引分り右等之義別々ニ取計候義ニ而在分盜賊有

之候共通用等も無之譬通用有之候共當時之人数ニ而中々行届候

義ニ而者決而無御座盜もの触流ニ而承知仕候義ニ而分而目明共

へ申付候義も無御座候然ル所在分分之盗人当役所ニ召捕候節郡

代所江引渡候事ハ不相成当役所ニ而非相札御裁許可取計御形

と相成候ハ、盜賊召捕候節者目明共始終打懸り甚障を費し渡世

之妨ニ相成候事ニ御座候得者兼々如何程敷敷申付候とも其日過

之輕き目明共之義ニ御座候得者上ハ向ハ奉畏居候而も元方可引

受構之ものニ無之絶而何方方可被叱筋も無之候得者後々ハ他領

盜賊同様之振合ニ内心ハ成リ行き不入骨折をいたし却而身詰リ
ニ相成難義仕候と存候ハ、自然と見通聞通候様ニ万々一相成候
而却而不メリニ可相成哉ニも奉存候当役所之義者諸方引受可
取計役筋之義ニ御座候得者召捕候もの他之手江可相渡杯とハ決
而中間敷他之手へ相渡候者役筋ニ而者恥辱之義と奉存候得共當
時之振合ニ而者中々其通ニ者決而相成申間敷却而御不為之筋ニも
可相成哉ニも奉存候間今般郡代所方申立之通無宿盜賊在分ニ
召捕候得者郡代所ニ而始終致取計譬在分計之盜賊ニ而も當役所
ニ召捕候得者郡代所ニ而者不差構と申差別方ハ兩役之内何れニ
召捕候而も其罪之重き方へ引渡候ハ、下役迄も銘々之受前之
義ニ候得者是非共出精仕自然と御ペリも付可申哉ニも乍恐愚意
ニ奉考候ニ付此段申上候義ニ御座候以上

八月廿日 増兒右門

右ニ付盜賊可引渡旨三浦十郎左衛門へ申遣候所明廿一日五半時比
受取可申旨申來候

一 小性町紅屋幸吉商売用ニ付大庭郡久世町鍛冶屋好吉方へ四十七八
日之逗留而明廿一日出立之願書大年寄承り届差出十月十三日癸九

八月廿一日 曇

一 林田上之町權治方へ這入候旦度村盜賊幸吉義此間牢番預ケ申付置
候間出番文藏差向呼出し於白洲一ト通り承り糺候処目明下吟味之
通無相違候ニ付郡代所江引渡候段幸吉へ申渡右幸吉所持之品問屋
之人ニ申付孫兵衛方へ取ニ差遣相改右目錄為相認其外質屋共方差
出候届書目明下吟味口書（圖にて辨也）等取集手紙差添郡代所江差遣受取
候段返書來候尤牢屋方ハ穢多懸之繩ニ而役所迄來り門内ニ而目明
繩懸ケ直し白洲江差出其俣門外方ハ穢多繩取ニ而三浦門外迄參り
夫方目明受取繩を解郡代所目明へ相渡候由但立合小頭部屋目附ハ

出番新治兼勤ル右相渡候段御用番江手紙ニ相届候

一 仙石越前守殿領分百々村化藏寺被盜もの一件三門屋茂十郎義懸合
之義向方大庄屋方召連罷越打合吟味御頼可申処不快ニ付庄屋檀中
差添可遣旨大年寄方へ申來候ニ付庄屋ニ而者又々懸合ニ成り急ニ
筋立申間敷候間此方ハ差急候義無之候間大庄屋ニ病氣快氣次第召
連被參候様及返書置候旨去ル十八日大年寄申出其旨昨廿日与兵衛
殿へ及御噂置候

一 郡代所方無宿盜賊幸吉入牢手形相廻り自分手形ニ認かへ當番定治
差向入牢取計候

八月廿二日 晴

一 御領分西々条郡二ノ宮村百性伊兵衛悻勤助夫婦娘家内三人茅町玉
屋長右衛門引受度人別入願下方引合相濟候旨右願書大年寄差出承
り届

一 戸川町竹本屋みよ借屋住作人善六妻当三月方妊娠届候処六ヶ月ニ
而今昼出産母子共ニ丈夫ニ有之月取間違之断書差出例之通七夜過
叱取計候様大年寄へ申達候

八月廿三日 雨

一 御用日付例刻登城

一 久世御代官早川八郎左衛門殿支配所当国大庭郡古見村原方百性三
平夫婦娘家内三人二階町量屋佐吉引受度人別入願御用番中御間
濟ニ付右願書大目附中へ差出置御間届申達候様大年寄へ申達ス九
月十日住宅証文差出

一 桶屋町備中屋庄兵衛悻幾之丞義九年已前十月福渡町住居之節出奔

仕其後除帳相願候処此節大坂ニ罷在先非を悔相歎候ニ付掃住宅歎書差出候御用番中御聞濟ニ付右同断取計大年寄へ申達候

一 備中後月郡西江原村文兵衛倅太三郎義去ル子十一月三町目草津屋鹿五郎祖母役介ニ引受置候処此度文兵衛方へ差戻度人別除願右同断取計濟

一 二町目福永屋藤助封印付酒樽之内細高桶五本安岡町坪屋与八郎へ売渡度願書^并安岡町坪屋与八郎方も是迄用候細高桶五本損候ニ付御封印を受ケ置福永屋藤助桶相調度願書双方方差指御用所へ持出口達^而申上候所御聞濟ニ付右願書大目附へ差出置御聞届大年寄へ申達小頭又六^江も例之通封印取計候様申付候

一 去寅二月三日新魚町鳥屋与惣次門前^ニ堺町团屋太郎兵衛下人鼻紙袋一ツ拾ヒ其節相伺張紙致置候取^ニ来候もの無之ニ付最早拾ヒ候ものへ可差遣之旨大年寄伺出依之御用番^江申上伺濟候ニ付大目附^江も及樽置伺之通拾候ものへ差遣候様ニ大年寄へ申達候

一 去寅十二月廿七日河原町作人市兵衛居宅前^ニ脇差有之触流取計候処申出候もの無之ニ付右同断申出右同断伺濟候ニ付右同断申付ル一頭徳院様御法事之砌大年寄共先格之通拜礼仕度願出其旨口達^ニ御用番中へ申上候所其旨可申付被仰出候ニ付願之通自拜罷出候様大年寄へ申渡候

一 右同断ニ付札元共昨年大年寄同様ニ御香奠初^而献備仕候ニ付今年も拜礼仕度旨奉願候段大年寄方申出右ハ札元元義ハ隆照院様之節ハ御三十五日御法事之砌御拜計被仰付其後御年回之砌ハ御代々様共ニ拜^ニ罷出候義無之大年寄ハ御代々様御法事^ニ者自拜^ニ罷出来

候処昨年頭徳院様御三十五日御初御法事之砌札元已前とハ違御擬作^并御目見迄當時^ニ而^者大年寄同様ニ相成居候間大年寄同様ニ御香奠献備仕度願出其節松岡取計^ニ而^者伺濟候ニ付今年も大年寄同様

ニ拜礼願出然ル所大庄屋共も御代々様御年回之節^者惣代として忝人拜礼ニ罷出候事ニ候得^者札元共ハ罷出方^ニ而^も可有之当年御免被成候得^者以後御年回毎度ニ大年寄同様ニ可罷出ものニ可相成如何^ニも候得共何分御用番中へ可相伺と奉存申上候処昨年御免被成候事ニ候得^者願之通可申付左候ハ、以後共ニ大年寄罷出候節^者同様ニ相願可然と与兵衛殿被仰出候ニ付其旨大年寄へ申渡候様ニ申達候

一 他領方造酒株讓受度旨粗相聞候付公儀御触調見候処双方役人引合之上^ニ而^承届候^而可然哉之様^ニも相見へ候得共駭決定難仕趣^ニ相見へ候ニ付江戸表御留主居^江拙者方問合申遣へく哉之旨与兵衛殿へ相伺候処其旨及差図候様申達候旨江戸表^江申遣候様被仰出依之右之旨今夕之御使^ニ田中仲へ及文通候

一 頭徳院様御法事ニ付配當場御布施頂戴大年寄方願出御用番御聞濟ニ付大目附勘定奉行へ申達置御聞届大年寄へ申達候

一 遊行来着之砌組屋忠三郎寺詰申付有之候処綿実油絞方被仰付有之其節御間も可合兼哉ニ付断申出候旨大年寄申出其段伊達頼母へ申達候所如何様共勝手次第^ニ可申付都^而役付町人不及何如何様とも勝手次第^ニ取計置追^而来着前役付名面書出候様^ニ被申聞候ニ付伺之通佐和屋孫四郎へ申付候様大年寄へ申達候

一 播州加藤郡三木町徳屋平兵衛一人例年之通紺屋形売^ニ来候段勝間

田町山形屋喜兵衛宿切手差出

一京町高道濟父栄仲義去ル二月百五十日計之願ニ而江戸御屋敷佐野宗三郎方へ罷越候所未用事不相濟候ニ付九月中逗留日延願差出承り届

八月廿四日 雨

一昨日願御許容ニ付二町目福永屋藤助江小頭又六部屋目附新治差向酒榎封印解渡し取出し相渡候上又々封印可申付事

一組中渡合羽損候由ニ而小頭代新治御城江持出引替候尤小頭方書付出候迄ニ而何方へも不及届候

一遊行上人弓削江継送り入用積書玉置源五兵衛差出

一郡代所方院庄村清眼寺へ這入候盜賊宜祥但無宿吟味中入牢申付候旨入牢切手相廻り拙者手形ニ認かへ出番為治ニ為持差出入牢申付ル

一御法事刻限寺社取次江承合候処明廿五日八時方相始候段申来依之警衛大番所橋詰出番兩人九時方罷出候様申付ル尤明後朝者六時方出役候様申付ル

八月廿五日 雨

一伏見町南側ニ而能勢屋勇治家屋敷表口式間裏行式拾壹間半大溝石垣切但半役也東隣ハ飾磨屋新七西隣ハ能勢屋勇治持家也右家屋敷代銀札式百匁ニ相極町内飾磨屋新七江壳渡度願承り届ル十月十三日壳券状差出

一福渡町浜屋龜借屋家守豊屋勘治借屋住永本屋松之助并同人母右家内二人徳守宮裏門東徳守宮人別地子居屋敷へ引越度人別除願差出寺社取次引合之上承り届ル但徳守宮裏門東西両角式軒門番地子居

ニ而徳守人別ニ候然ル所右東角當時ハ二軒ニ仕切有之右之二軒目へ引越候事也

一院庄村清眼寺被盜もの触流取計候処安岡町岡崎屋伊兵衛方ニ右被盜もの之品ニ類シたる表御納戸茶裏もへき小袖袴ツ院庄村清八置と有之然ル所清眼寺盜賊ハ八月十三日之昼之事右質物置候ハ七月廿六日之義ニ而右盜賊前之質物ニ候得共右盜賊一件ニ付清八義致出奔候由及承左候ハ、前方盜候を一所ニ書出候事ニ而者無之哉と岡崎屋伊兵衛方届書大年寄差出其段郡代所へ申遣候尤其外者盜もの無之旨申出候

一藏合孫左衛門玉置卯左衛門当病ニ付明日御拜不參之段大年寄届出承り置

一御法事ニ付大番所橋詰辻固佐十郎百藏立付自分羽織ニ而差「」暮方御法事相濟御役人不残引取無別条引取候段届出候尤御在国年ハ御先私兼罷出候ニ付大之字羽織袴ニ而罷出候処御留主年者立付自分羽織ニ而罷出候先格也

八月廿六日

一御法事ニ付辻固同心組孫八文藏明六前時罷出無滞相濟九ツ過時無別条引取候段届出候

一大年寄札元御拜左之通相濟何茂御札罷出候尤左之通相認大目附中江差出候尤先格之通我等義ハ召連不出候事但大庄屋ハ一人罷出郡代召連出候由

大年寄 斎藤孫右衛門 玉置源五兵衛

札元 茂渡庄右衛門 川口藤左衛門 山本三右衛門

山本三郎右衛門 妹尾平兵衛 三船八郎右衛門

大年寄当病 蔵合孫左衛門

札元銀札場当番 武田七郎兵衛 同一ノ宮出役 茂渡藤右衛門

同 当病 玉置卯左衛門

一出羽守様御舍弟三助様来ル九月二日御国御出立御帰府被成候由ニ

而 向方様御役人方七里飛脚へ来候書状七里飛脚方差出候旨問屋方差出左之通

以廻状致絡達候今度三助様御帰府ニ付来ル九月二日御国御発駕被遊候此度ハ天明八申二月廿五日御帰府御発駕之御供立よりも

弥御手輕ニして御道中被遊候誠ニ御忍ひ同然之御道中ニ付所々御泊も御本陣被相止メ旅籠屋ニ御止宿被遊御休ハ御立場ニ而御

仕廻被遊候思召ニ在之候右ニ付先年所々方御馳走之出役御代官手代杯被差出候段甚御用捨被思召候間別紙之通取々々各々方

内々問屋共へ御懸合出役御先私等之人不被出様御取扱有之度候此段可申談旨被仰渡候ニ付致廻達候尤船渡之場所者往船ニ而

御仕廻被成候思召ニ候川越人足「」場所者銘々共方罷越可及手配候且右之趣ニ付問屋杯ニ而万一人馬手配等不手合之義も無

之様御懸合置被成度候船川場等尚々出役無之様御懸合可被成候恐惶「」

八月 三木村右衛門 天野伊太夫

右写御用番 差出大目附中 申達候

一 信州善光寺先触左之通到来

上包ニ 信州善光寺

先触

別当大勸進 役人 塗箱ニ入

信州善光寺為塔建立日本巡行結縁開帳御免ニ付本尊御印文等供奉別当大勸進清浄林院八月中旬広島御城下発足吉田通り備後国

三次庄原東城吹屋ニ掛り備中国松山御城下美作国高田通津山御

城下ニ巡行向寄次第被致開帳夫方播磨国但馬之方ニ被罷越候日

限人馬之義者追而先触指出可申候得共先為案内如此候尤先達而

我等罷越候之間宿寺等之儀御掛合御座候様致度存候以上

信州善光寺

別当大勸進役人

卯八月十二日 久保田内記 印

芸州吉田より備後国三次町

庄原 東城 吹屋村 成羽村

備中国高田通り津山御城下迄

美作国高田通り津山御城下迄

宿々 検断中

村々 肝煎中

川々

追而此先触津山町ニ御留置被成我等罷越候節御渡可「」候尤東城

方吹屋迄道筋難所多有之候由ニ付何分「」指支無之様御世話

頼入存候御輿之高尅丈余も有之候間右之趣御承知宜御肝煎被下

度存候已上

東城町 福代村 大竹村 畑木村 八鳥村

大野部村 西山村 油野村 蚊家村 坂本村

吹屋村 右村々庄屋衆中

上包ニ 別絡

追而為御心得ニ御意候宝永年中之巡国者本堂焼失ニ付為建立被

致巡国候故建立第一質素ニ人数も少「」ニ而相廻り候此度巡

行開帳者先格之通ニ候得共別「」之志願者第一為国家安全并遠

国之極老女人等信州迄參詣難相成者江為結縁被致巡行開帳候其

上若多少之散物寄進等も有之候得者年来焼失之五重之塔再建立

之志願ニ候間随分寺格も軽く同勢も劣略致候得共先年方人数も少々相増候依之一宿并逗留開帳有之候御寺院小寺ニ候ハ、先例ニ無之候とも相応ニ間取等有之候御寺院江御相談有之候様致度存候夫も無之場所等者本尊「」御寺別当者俗家ニ而も宜敷猶又御寺院無之村方「」本尊御宿も俗家ニ而宜候且又道法之義者諸人信信心ニ而拜礼之小使多途中ニ而御輿手間取候故一日に五六里之外者通行難被致候間其御積り候間休泊御世話頼入候此外巨細之義者貴面之上可得御意候以上

大勸進役人 久保田内記無印

一 塗箱ニ人上包ニ

信州善光寺

別当大勸進役人

久保田内記

先触

覚

一人足

四人

駕籠耆挺

三人 雨掛耆荷 耆人

一馬 耆疋

右者今般信州善光寺如来日本巡行ニ付為先用明廿五日松山御城下出立我等罷越候間書面之人馬滞無之様宜敷肝煎頼入存候如来御通行人馬休泊等宿々御掛合可申候尤御定之賃錢相払通申候以上

信州善光寺

別当大勸進役人

卯八月廿四日

久保田内記 印

松山御城下より 塩壺 中津井 宮地 月田 勝山

久世 壺井 津山御城下迄

宿々

村々

検断中

川々

肝煎中

右之通先触三通二箱其俣差出先着之役人一「」着ニ付忒町

日尾高屋万吉へ宿申付置候段大年寄申出其俣御用番中へ差出大目

附江も其趣申達尤御所共手紙ニ而申達候

一 配当場兩人御布施頂戴之御礼昨日罷出候

八月廿七日 雨

一 小頭川端又六義老年之処近年別而老衰殊ニ病身ニ相成り御奉公難

相勤役免相願番代仕度内意部屋目附新治孫八を以申出候ニ付左之

通申渡候様新治孫八江申付并我等義も直ニも申達候

川端又六義老年之処近年別而病身ニ相成り御奉公難相勤役免

番代等之内意申出無余義事ニ者候得共当時古老之者も無之候

得者乍太儀致保養押而相勤候様ニ頼存候依之役所詰差免候間

御用之節計可罷出候

一 鍛冶町伊賀屋和兵衛持来之古道具取売株上紺屋町瀧屋多吉讓受度

願書差出承り届

一 美濃職人町打輪屋金七持来候古道具取売株ニ階町中野屋左助讓受

度願書差出承り届ル

一 西今町中横丁岩井屋清右衛門所持之家屋敷表口二間半裏行九間但

式歩三厘役南隣者本屋左吉北隣ハ永田屋喜七借屋也右之家屋敷八

ヶ年已前申十二月質物ニ書入町内菱屋藤助取次ニ而銀札百弍拾匁

借用之処此度元利返済「」返し候段届書差出承り置

一 目明岩藏義密々申度義有之由ニ付直ニ逢候処元造酒助殿家来内田

伝内高倉辺ニ居候由及承候段申出候付直ニ非人兩人計召連罷越召

捕候様申付銀札拾匁貸渡候右者去ル廿四日申出候所御法事ニ付差

延置今夕呼ニ遣申渡候

一兼田川洪水ニ付渡船止候段郡代所方亥ノ刻申来大年寄へ申達候

八月廿八日 雨

一御用日例刻登城

一三助様御通行取計天明八申年二月廿八日之先例之趣相認御用所^江

相伺候処右書面不及披見先例之通宜取計候様被仰聞右書付其仰御

差戻被成候ニ付先年ハ同心組四人町廻リニ差出二人ツ、引分り東

西町端ニ扣居候処当年^者同心組式人差出安岡町ニ扣居御通行前杵

町計も御先相廻リ御目通へ不出様ニ東新町^ニ而町家へ這入落候様

ニ申付可然と相伺候処其趣ニ宜取計可申旨御用番御差戻ニ付其趣

左之通夫々^江申付候尤大目附中^江も右之通申達置候且又御用番中

方先年^者郡代方御使者被仰付候様ニ候得共地方ニ付候様^ニ而不宜

候間御使者院庄御茶屋^ニ而相勤候様可被仰付夫切^ニ而其外

ハさつはりと表向ハ御貪着無之姿^ニ候由被仰聞候且又先年^者豊屋

喜左衛門麻上下^ニ而駄場へ出披露被下物も有之候駈と伺之上差出

候事之様^ニも不相見候ニ付松岡治部助へ及内談候処被下物有之義

御日記^ニも有之候由被申聞候間左候ハ、先例之通差出可申候旨申

候処其通^ニ而可然旨挨拶ニ付其趣申付候右取計左之通

置候

一同心組不及御先^(貼紙訂正)日之通二人町廻リニ差出し安岡町ニ扣居

御目通^江不出様ニ御通行杵町計御先へ相廻リ東新町^ニ而町家

へ這入落可申候

但天明八申年二月廿八日御通行之砌ハ同心組四人町廻

御通行之間扣居候事尤其節林田出火有之東新町ニ扣居
候同心組方御先^ニ相勤鳥目式百文ツ、被下候為考合記
置候

一町々保頭不及御先^ニ御通行前町内相廻リ御通行之砌ハ引込御
目通^江者出問敷候

一駄場^江例之通同心組式人差出御通行之砌^者引込御目通^江者出
問敷候

一問屋目附豊屋喜左衛門麻上下^ニ而問屋場^江差出先規之通御目
通可仕事

但先規^者御駕籠脇方御名様人馬御役人と披露有之銀壺而被
下之候

一在宿醫師本道針医兩人可申付候
右之通夫々^江申付置候

一院庄川満水ニ付橋落渡船相留候段巳之刻郡代所方申来大年寄へ申
達候

一善光寺先触与兵衛御返し被成候処伊達頼母方今日小須賀貢後藤郷
助へ善光寺来着取調被仰付候間右一件ハ同人^江申達候様被申聞候

ニ付右先触貢^江差出候処無程被差戻大年寄へ差返候

一三助様御通行演說書面与兵衛殿方被差戻候付大目附へ差出置候
一大目附伊達頼母方左之通被申聞候

一遊行上人来着之節町奉行下役近藤政助へ被仰付候
遊行上人出立之砌陸地被相送候ニ御評決ニ候間弓削^并木知ヶ原^江

人馬^ニ而継送り調致置可申^并其時^ニ取船^ニ可相成義も難計候間是
又賃錢等之義も相糺置候^而も可然何れ三ヶ所之内何方^江成共継送
り候様^ニ兼^而取計置候様伊達頼母方被申聞候

一 備前和氣郡下原村難波秋覚悻宝菴と云醫師伏見町竹本屋嘉右衛門養子ニ引受医業為仕度人別人願御用番御聞濟ニ付大目附江右願書差出置御聞届申達候十月十三日住宅証文差出

一 土岐老之助殿領分当国英田郡福本町和平次孫源吾義七ヶ年已前酉ノ二月下紺屋町龜屋勘右衛門養子ニ引受候処此度離縁仕度人別除願右同断取計濟

一 御代官早川八郎左衛門殿支配所当国大庭郡湯本村良藏弟伊三郎義東新町長谷屋九兵衛養子ニ引受度人別人願右同断取計濟九月四日住宅証文差出候

一 脇坂淡路守殿御預り所当国久米南条郡福渡村松之助悻伊兵衛義桶屋町嵯峨屋宇之助借屋住作人平藏役介ニ引受度人別人願右同断取計濟九月十九日住宅証文差出

一 顯徳院様御法事御布施五百匁配當場頂戴之御請書差出御用所江持參仕口達ニ而申上大目附江相渡置候

一 一ひ、の油去寅正月廿一日齋藤孫右衛門方ニ而試ニ被仰付絞立松岡治部助兼帯之節差出置候処此節迄其俣打捨有之右代物払も無之候由之処右書付致紛失候由ニ付尚又認差出候様松岡治部助并三浦十郎左衛門方申聞候付孫右衛門へ申付左之通書付三浦十郎左衛門へ相渡候

一 一ひ、の実三斗四升三合有之右絞油六升三合有之但壹升ニ付壹合八勺三才余之出油也
一 右人用壹匁八分 日雇代壹匁五分 諸道具損料式匁桶代
右合々五匁三分也

一 宗旨奉行一場茂右衛門村山平学亦見類助方廻状到来御扶持方被下候もの役介ニ引受居候ハ、右宗旨も相改候段自分証文ニ書加指出

候様申来拙者義役介無之旨廻状名面之下ニ相認遣

一 古道具屋定書七月廿三日并去ル十三日御用所江差出置候処思召無之其通宜取計候様被仰出候ニ付其段大目附江も及噂候処取計濟候上ニ而差出候様被申聞候

一 播州網干天満屋義兵衛一人例年之通反物卸売来候段中之町小山屋与三右衛門宿切手差出

一 大坂立売堀二丁目播磨屋惣吉一人例年之通小間物卸売ニ来候段中之町小山屋与三右衛門宿切手差出十一月十日播磨

八月廿九日 雨

一 鍛冶場橋洪水ニ付往来留候段卯上刻今津屋方届出御用番并大目附江手紙ニ而相届候

一 船頭町川筋洪水之旨卯之上刻大年寄方注進申出候ニ付御用番并大目附江右ニ付役仕候段手紙ニ而相届且又大目附江者端書ニ差懸り候義ニ付御貸人馬之義自是も可申遣候得共尚又被仰付被下候様申遣シ即刻御既割場江急ニ御貸人馬差越候様ニ当番之組差遣并同心組江も相触猶又小勘者三浦伴左衛門江も御貸人馬之義申遣候右之通ニ触出置組中出懸り次第為支度追々船頭町へ差向置元魚町筋を川土手へ逸散ニ致出馬及見候処夥敷洪水ニ而川土手横町へ雁木之処方水切込候ニ付急ニ土俵ニ而防候様ニ申付夫方筑出之方迄見廻り候処不残雁木之処方切込候ニ付夫々手当申付同心組も致手配所々ニ付置扱右之趣ニ付大目附へ御出馬及御見被成可然旨組使口上ニ而申達夫方土手通并町分壹町へ見廻り相改候処最早材木町伏見町迄余程水入牢屋辺別而大水往来難成候得共牢屋者地面余

程高ク候ニ付牢内^江者水不入趣ニ相見ヘ候夫方東大番所前^江出候

所監物殿下屋敷高水長屋もの助呉候様叫候所最早船ならてハ通路

難成ニ付船相廻候様船頭町ヘ申遣置夫方林田^江参候所別^而水施横

町^レ及見手当申付中之町迄罷越候所最早水深町分通行難成ニ付

土手ヘ出土手端を西新町迄罷越候処夫方下^者不残土手^江水を打上

ケ土手切居^レ候程も一向難計趣ニ付船申付定治文蔵を乗セ七間敷之

肩方東新町^江為乗込老人小児病人等助退ケ候様申付夫方引返し初

之通所々遂見分及差図大番所迄引返候処漸船壹艘追廻し之方^者

り廻来大熊殿下屋敷之者を窓方引出し乗セ大番所^江上ケ置右船を

大番所前方材木町伏見町京町御門橋詰^并吉田屋喜八郎前迄引上ケ

老人小児病等^人助ケ退ケ候然ル所船頭町錢龜屋裏土手切れ少々崩込

水俄^ニ入込船頭町河原町辺甚危ク助ケ船申出船入候様ニ申付候得

共町幅狭く所々差支有之船入不申依之玉置源五兵衛方半切差出三

ツ四ツ程ツ、結括り船之如ク^ニバ為乗込船頭町辺河原町辺為相助

候然ル所川水勢少々引口^ニも可相成趣ニ付下部迄為支度使者屋敷

^江立寄宿方握飯^并酒取寄セ下部迄支度為致候

一 鍛冶場橋辰之刻過^ニも可有之哉致流失候右橋有之内ハ船頭町ヘ水

湛施候処右橋落候得ハ水之湛軽々相成候趣^ニ候右橋落候義ハ引取

候節御用番^并大目附ヘ相届候

一 牢屋無覺束^ニ付嘉七為治^江得^与申含裸^ニ而牢屋ヘ差遣候処石垣迄

水付居候得共何之別条無之依之此上水増候ハ、船可相廻候間夫迄

ハ屋根ヘ上ケ相待居候様^ニ可取計旨申談置罷帰ル牢番下番之居所

者床之上四五尺も水付何^茂牢屋詮義場之辺^江退居候由右牢屋ヘ行

候道筋之水為治口丈ケ水有之候

一 樫原前大坂屋車場之者退道無之御藪之内ならてハ逃道無之旨申出

候ニ付勝手次第御藪之内逃通り候様及差図右之段引取候節御用番

者大目附ヘ相届追^而御作事奉行ヘも及噂候

一 郡代三浦十郎左衛門使者屋敷^江被參玉琳辺危ク助船願出候間相廻

し呉候様被申聞船壹艘申付則大年寄齋藤孫右衛門郡代足輕木村金

治乗セ大川筋を玉琳^江相廻候

一 大目附月番出役伊達頼母今朝方東西水辺被見廻京町御門ニ被扣居

候^而逢申度段申来京町御門迄罷越致対面今朝方之趣互^ニ馬上^ニ而

申達水勢衰候様^ニも相見ヘ候得共未引水共難申今暫間も可有之候

間玉置源五兵衛方^ニ被致立宿候様ニ申達源五兵衛^江其旨申付被立

寄暫休息有^而又々東西水辺被見廻昼過比被引取候由

一 下部迄支度相濟又々立出筑出方土手通り^并町筋ツ、遂見分候処水

勢余程衰候趣夫方段々東之方ヘ相廻り牢屋^江も立寄可申存候所牢

屋門前未水深ク鏡不残水^ニ入通行難成夫方伏見町材木町方林田ヘ

罷越候処林田町方ハ馬^ニ而通行難成土手ヘ出百間藪之肩方罷越候

処同所土手少々切込町内ヘ殊之外水入候趣折節三浦十郎左衛門も

廻り合彼是及相談郷中引受之場所^ニ者候得共人足急^ニ間^ニ合不申

候ニ付町人足出呉候様被申聞源五兵衛ヘ人足手配申付差残置何分

町分之程無心元^ニ付船申付自分義^者組中^并槍計^ニ而供廻りハ土手

ニ残置船^ニ乗百間藪之肩之切口方東新町ヘ乗込玉琳松原之取付迄

罷越候処川崎村庄屋瀬助^ニ行逢百間藪肩切口^ニ郡代中も被居候間

人足召連參候様申付怪我人等ハ無之哉之旨相尋候処船御廻し被下

候故不殘立退怪我人ハ老人も無之旨申聞ル夫より段々船を引上ケ
 怪我人等ハ無之哉之趣町々相改中之町大曲之辺船ニ而遂見分夫方
 馬ニ而遂見分林田町山本屋与三七方へ立寄組中衣類濡着用難成ニ
 付着替取寄セ其内ニ酒相調下部之者迄為給居候処大年寄兩人并郡
 代三浦士も被參百間敷之方切口急ニ難防趣ニ付大鉢ニ致置被引取
 候由町分人足等も近辺ニ而出来兼二町目三町目へ申付置候得共
 三浦士より右之趣御断ニ付差留遣候段大年寄共申出候夫方三浦士
 同道致し大年寄共召連水入之場所及見分本之通筑出之方迄遂見分
 候処最早水六尺計も引落候趣夫方切通江可出と存候処中々往来成
 リ候事ニ而無之御敷之内馬場通を天神之前大番所前方蘭田町鉄
 炮町土手角方土手通り安岡町筋違橋まで遂見分候処町分ニ而怪
 我人老人も無之夫方引返し三浦士同道ニ而御用番与兵衛殿御宅へ
 罷越今朝方之趣委細ニ御届仕早ニ乍序大目附伊達頼母ニも逢右之
 段相届暮前時帰宅仕候

一 大年寄斎藤孫右衛門玉置源五兵衛兩人今朝未明方川端へ罷出相働
 我等出馬後者兩人共付添差図を請取計筋違橋まで付添来最早用向
 無之ニ付勝手次第引取候様ニ申達候藏合孫左衛門義者先達而己来
 脚氣之趣ニ而引込罷在不能出候

一 同心組川端円藏詰切番申付其外ハ不殘召連候小頭川端又六義者不
 快ニ付断申出候

一 自分義出馬供廻り左之通但四ツ半比迄ハ大雨ニ付合羽腰蓑陣笠馬
 乗袴着用

口之者馬 同心組四人 草履取手人

槍 割馬場中間 合羽籠 割場中間
 挟箱 割場中間

右今般之洪水ハ大鉢安岡町裏西角之石垣壹尺計も出居候船頭町辺
 而土手之石垣高キ所者四五寸ひくき所者壹尺計も打趣候様之
 所も有之大鉢土手之上脛水と申位ニ有之天明七未年八月洪水方余
 程相増森家丑年洪水以来之大水と申事ニ而森家丑年洪水之節者元
 魚町迄船入候由申伝へ并林田豊野屋万助裏之土蔵石垣ハ右丑年洪
 水之節之水計り其節之水方五寸高く拵候哉之申伝も有之由右石
 垣今般ハ壹尺五寸出候由左候得者先家丑年大洪水者今般之洪水方
 壹尺増候事と相見へ候由申ものも有之候不慥之乍義後年之考之為
 記置候

八月晦日 晴

一 関貫番質銀三ヶ所共例月之通相渡し

一 組中昨日出精之趣小頭迄賞詞申達候

一 昨日見聞所町家之者別而出精家財捨置人を助ケ候者共も有之候様
 二 相見へ候故格別出精志宜もの共遂吟味書出候様大年寄へ申達候

一 稲垣前関貫秋元前番所此間之大雨ニ而損候旨大年寄申出候ニ付急
 二 繕申付候様ニ申達ス

一 目明岩藏義去ル廿七日内田伝内召捕ニ高倉江差遣候所不居合候ニ
 付廿八日晚方罷帰候

一 前出相認候丑年洪水と申者森家黒沢水之事と相心得居候処其後承
 リ丑年水と申者御拝領後享保六辛丑年之義ニ而御届等も御座候由
 聡と御日記ニも有之候由左候へ者黒沢水と丑之年水とハ別々之事
 二 候為以後記置候

九月大

月番

御家老 永見造酒助殿

御年寄 山田主膳殿

大目附 松岡治部助

大年寄 藏合孫左衛門

九月朔_{丁酉}旦 晴

一 郡代三浦十郎左衛門方未川向渡船無之処川向へ急御用有之候ニ付御藏元江渡船申付候旨案内有之

一 東新町藁屋与七下人太助昨晦日西新町土手ニ而金之龍裏舎之小物拾候旨届書差出先例之通張紙取計可申御用番中へ手紙ニ而相伺候処宜取計候様返書来其旨大目附江も手紙ニ而申達置大年寄へ張紙取計候様手紙ニ而申達候

一 稻荷山紫竹五本御用ニ付御作事方切取候段三軒屋番届出候

一 橋本町浅本屋後家借屋住孤独太郎兵衛病氣差重り候段大年寄より届出部屋目附三船孫八見分差出候所受人等も兩人致看病手当行届候趣右容鉢書并見分一札差出候死去届之上可及御沙駄事

一 三助様御先触左之通致到来候旨大年寄方写差出

以廻状致絡達候三助様江戸表江被罷帰候ニ付来月二日国許被致發駕候依之繼人足三拾人繼馬五疋入用候間駅々無相違御手合頼入存候

下ケ札ニ

人足附方手配書付之通仕来を以人馬相究如此先触仕出候処人足附方相増候訳も有之候ハ、其増人足丈ケ増入用ニ相成候間其御心得を以集置無滞御手合頼存候

尤人馬望之人別板札ニ相記銘々相渡置候間持参之上別紙書付引合可申相渡候且西宮方牧方迄者通し人馬を以被致通行候忝杖つ、御留置御順達可被遣候 恐惶謹言

八月廿四日

雲州人馬方

平井幸三郎 判

道中元方

三木村右衛門 判

天野伊太夫 判

伯州清口駅方東海道通り武州品川駅迄

宿々問屋中

追絡右之外至時人馬共少々余分之義も可有之候間其節望之人別方相對ニ御頼可申候間御手合頼入存候以上

右御先触早々可差出候処今夕及深更候ニ付明朝可差出事并繼人馬印鑑人足手配書老通差出候得共入用ニ無之事故略之

九月二日 晴

一 三助様御先触御用番中へ手紙ニ而差出大目付江も其段手紙ニ而申達郡代所江も及通用候

一 橋本町浅本屋後家借屋住孤独太郎兵衛今朝死去致候段大年寄方届出候ニ付勝手次第葬取計候様ニ申付置右之段御用番中へ手紙ニ而相届一札容鉢書も差出候尤先格医師容鉢書致印形差出来候処此度者原亭へ治療相頼候処山田主膳殿家来ニ付容鉢書差出候義ハ不相成旨申断候由無扱組合方致印形差出候ニ付右之旨も御用番中江相届以後者可成丈ハ不相頼候様ニも可申付候得共最早事過候義致方

も無之義故此度ハ其俣ニ致置候段手紙ニ而申遣候右太郎兵衛死去

之段大目附江も手紙ニ而相届勘定奉行江も及通用候

一兼田川渡船初り候段郡代所方申来大年寄江申達候

一院庄川渡船初候段未刻過郡代所方申来大年寄へ申達候

九月三日 晴

一御用日ニ付例刻登城

一信州善光寺先触左之通之通来

一上包信州善光寺

先触 别当大勸進役人 中沢録之助
西條主税

覚

一人足 百拾人

一馬 貳拾壹疋

右者 此度信州善光寺日本回国結縁開帳御免ニ付本尊御印文等供奉别当大勸進清浄林院九月三日松山御城下出立美作国津山御城下江向巡行向寄次第被致開帳夫方播摩但馬之方へ被罷越候依之書面之人馬并通行之道筋船渡橋々等指支無之様致度存候尤人馬之義者 先年巡行之通宜肝煎頼入候休泊之義者 先用役人久保田内記罷越万端可及御懸合候已上

信州善光寺

别当大勸進役人

中沢録之助 印
西條 主税 印

卯九月朔日

備中国松山御城下方

勝山御城下 久世 壺井

美作国津山御城下迄

宿々 検断中
村々 肝煎中

川々

追而此先触早々御順達尤人馬繼立之場所村名等不案内ニ候而書落等も有之候ハ、其所前宿方宜御懸合可被下候猶亦此先触津山御城下ニ御留置被成我等罷越候節御渡可給候猶右先触之内駄荷七駄明二日差送り候間是又指支無之様宜頼入存候已上

一上包ニ 人馬割

覚

一幟 壹人

一雙盤 二人

一賽銭箱ニ 四人

一常燈常香 貳人

一釈尊 八人

一御印文 八人

一本尊 八人

一戸帳箱 貳人

一長持 拾三棹

一駕籠式扱 六人

一西掛六荷 六人

一乗掛 拾三駄

一駄荷 拾駄

一合羽籠式荷 貳人

一竹馬式荷 貳人

一高張棹 壹人

一駕籠式挺 六人

右之通ニ御座候已上

信州善光寺

别当大勸進役人

中沢録之助 印
西條主税 印

一上包ニ

先触

信州善光寺别当 大勸進役人久保田内記

覚

一人足 四人 但駕籠壹挺三人 兩掛壹荷壹人

一馬 壹疋

右者 先達而先触差出候得共此間雨天ニ而川々指支候ニ付勝山表ニ致逗留三日出立ニ而津山表江罷越候書面之人馬指支無之様宜肝煎頼入存候尤御定之賃銭相払罷通申候已上

信州善光寺

大勸進役人

久保田内記 印

勝山町方 久世町 壺井村 津山 御城下迄

宿々 村々 川々 検断中 肝煎中

右先触申之刻大年寄方差出御用番中へ手紙^ニ 差出候処後刻被差

戻候^ニ 付大目附善光寺懸り小須賀貢^江 差出候尤右先触着早々手紙

^ニ 貢^江 為知置寺社取次後藤郷助^江 及通用置候

一御代官早川八郎左衛門殿支配所当国大庭郡余野下村百性兵治郎倅

源治夫婦吹屋町吹屋与十郎引受度人別人願御用番御聞濟^ニ 付大目

附中へ差出置御許容申達候^{九月十六日住宅証文差出九月改^入}

一鍛冶場橋落候^ニ 付今朝方渡船相始候段今津屋平藏方届出御用番^并

大目附へ出仕之上相届候

一牢屋破損書付揚屋壁^并 塀笠等所々損^并 矢切等も損有之^并 今般之洪

水^ニ 付牢屋裏鍛冶場土手之門倒れ^并 牢番兩人居宅壁損之届書牢番

方差出大目附中へ差出候

一遊行上人来着役懸之町人共最早間も無之故申付度旨伊達頼母^江 申

達候処上人之道案内^者 被相止候御含^ニ 付右案内之者程残置其余^者

不殘伺之通申付候様頼母被申聞候付其旨申渡候様玉置源五兵衛へ

申渡又委細別帳有之^ニ 付略之

一信州善光寺明四日勝山着^ニ 而三日開帳有之爰元へ被来候由風聞申

出候^ニ 付其旨小須賀貢後藤郷助へ為相知之

一三助様近日御通行之処往来道損馬之往来難致趣^ニ 而他駅方も馬荷

を人足^ニ 而繼送り候間無覺束人馬問屋を今日勝間田迄差遣往還遂

吟味候上^ニ 而勝間田^ニ 而雲州七里飛脚^ニ 懸合置候様^ニ 申付遣候処

新田川場悪敷^并 勝間田入口之川場難馬越趣^ニ 付其旨七里飛脚へ懸

合候処入御念候義新田川^江 も此方方人足差出可申^并 勝間田入口之

宮之有之所迄送り候て此方方人足差出荷物受取可申候間夫迄送

り来候様七里飛脚申聞其外ハ可也往来相成候旨問屋申出候段大年

寄申出^并 兼田川波渡場甚不宜此度御船も相廻り候義^ニ 御座候得^者

定^而 波戸場^江 出来可申是迄御通行^ニ 波渡場出来候^而 も一日切之様^ニ

相見候間何卒今般^者 後々往来之為^ニ も相成候様^ニ 被仰付被下様^ニ

^者 相成間敷哉と問屋共願出候^而 大年寄申聞其旨相談旁郡代所^江 手

紙^ニ 申遣置候^而

一洪水^ニ 付町方扶持米払底甚差支候趣^ニ 付致融通候様^ニ 廻文^ニ 而も

大年寄場合切^ニ 差出度旨申出然ル所中買共切手^并 売致^并 正米等積

置候^而 も預り物杯と申売不申旨風聞等も有之趣^ニ 付中買共ハケ様

之節可相働受前之もの^ニ 候得^者 左様之義候^而 甚不相濟義^ニ 候間

惣町^江 も伺之通致融通候様^ニ 相触中買共も呼出急度申付不及凶事

様^ニ 急^ニ 取計候様^ニ 大年寄へ申渡申達候所御承知之旨返答申来候

一洪水之節御貸人中間二人夜分ハ高張持二人相渡来候事^ニ 而昼分挟

箱為持候得^者 三人入候処右之通小勤者^ニ 而者^者 相心得居候間挟箱持

入候ハ、其「」目附へ相断候様^ニ 小勤者三浦伴左衛門申聞候^ニ

付三浦〇と一所^ニ 大目附へ申達候所如何様挟箱無之候^而 者^者 相濟申

間敷候間今一人之増人申渡昼分ハ槍持挟箱合羽籠三人夜分ハ其上

^ニ 揚炓灯持式人都合五人相渡候様^ニ 申達可置旨月番松岡治部助被

申聞候^并 出火之節挟箱ハ如何と被相尋候^ニ 付以前方不持来旨申候

所出火之節も右同様之事^ニ 候得^者 為持候様^ニ 被申聞候^ニ 付出火之

節八町人足^ニ而罷出来候間中間御貸被下候^ニ者不及候得共ハツピ陣笠致不足候間今老ッ御渡被下候様申達候所是又可申付旨松岡治部助被申聞候^ニ付其旨小勘者三浦伴左衛門^江も懸合置候

一伊達頼母義今日与吉郎と改号被致候旨案内有之悦挨拶仕其旨大年寄^江も及囀置候

一橋本町孤独太郎兵衛容躰書原亭不差出候^ニ付其旨相達置候処主膳殿方被申付候哉今日原亭容躰書致印形差出候^ニ付御用番主膳殿へ差出候所即刻被差戻候^ニ付大目附へ差出候

一三助様御先触^并橋本町孤独太郎兵衛病氣見届一札^并西新町土手^ニ而小物拾候届書右三通御用番中御戻被成大目附へ差出候所拾もの届書^并三助様御先触被差返候^ニ付大年寄へ差戻候

一信州善光寺先着役人久保田内記旅宿名面小須賀貢方尋来二丁目尾高屋万吉へ申付置候段手紙^ニ而申達候且又右久保田内記義着致候段亥ノ刻届出及深更候故明日夫々^江可相届候

一三助様御通行^ニ付東西^江御船被差出候間下夕裁許人式人つ、罷出候様^ニ申付候様^ニ御船奉行一場茂右衛門方被申聞其段大年寄へ申付候尤毎もハ御蔵元御船年寄出候事^ニ候得共此度ハ御断^ニ付如何^ニ候

九月四日 晴

一信州善光寺先着役人久保田内記夜前着致候段御用番^并小須賀貢^江相届後藤郷助へも及通用候

一遊行上人廻国及修行来月上旬泰安寺へ到来^ニ付逗留中御仏詣被致間敷旨被仰出候旨大目附廻状到来^ニ付扣置候

一御領内鉄炮^砲細^細わなはこ^細狐之義御停止被仰出候別紛敷者見当り候ハ、召捕申出候様夫々^江申付置候間此旨可被相心得候之旨大目附廻状到来惣町^并組中牢屋三軒屋高石垣番^江も相触候

一今般之洪水^ニ付水入町々^并損場所大年寄共遂一見届出候書附左之^通

今般洪水^ニ付水入之町々覚

一東新町床上 三尺 但地子居家床上五尺

一西新町床上 三尺

一中之町床上 壹尺

一勝間町床上 壹尺五寸

一林田町床上 九寸

一橋本町東之方^ニ而床下五六寸

一材木町床上 壹尺五寸

一伏見町横町床上三尺同町通り筋床上壹尺三四寸

一京町下横丁床上式尺七八寸同町通筋床上七八寸

一堺町床上 壹尺四寸

一小性町床上 式尺式寸

一河原町床上 三尺

一船頭町床上 三尺壹寸

一吹屋町床上 九寸

一新魚町床上 壹尺四寸

一桶屋町床切 壹尺式寸

一新職人町床上 壹尺式寸

一元魚町下^ニ而床下八寸余

一西今町下横丁^而田町之床^上 八寸

一茅町床上 八寸

一安岡町床上 六寸

右之通相改書付仕差上申候以上

卯九月二日 藏合孫左衛門

右書付^者 昨三日大目附伊達与吉郎へ差出候

今般洪水ニ付破損家書上覺

一 東新町地子居長右衛門居宅流失仕候

一 同所紺屋長治納屋一軒崩候^而 半分計流失仕候

一 西新町玉木屋伝吉裏土藏東南之角土台下巷間つ、高サ間半分

石垣崩流申候

一 河原町友屋治助居宅崩懸り候^而 当分住居相成不申候

一 同町田中屋喜七居宅右友屋治助同様^ニ 御座候

一 船頭町錢龜屋兵吉裏土手石砂流込裏門屏^并 雪隠二ヶ所押崩居

宅へ流懸り及大破申候

一 右同人西隣元屋市右衛門土藏石垣間半分相損申候

一 吹屋町鍋屋吉左衛門裏川土手石垣方水吹出し職場土台下東西

巷間余下へ四尺計石垣同人裏へ流出申候

一 同町瓜生原屋七郎左衛門裏職場土台下石垣四五間計職場へ流

込申候

一 船頭町元屋市右衛門居宅宇津野屋与吉林田屋武助何れ^茂 裏表

共壁押流申候

右之外水入之町之往来至^而 往来至^而 相損申候

卯九月二日 藏合孫左衛門

別紙之通

一 潰家 二軒 一半潰家 三軒 一大損 六軒

今般之洪水ニ付町分損右之通ニ御座候以上

九月四日 増見右門

今般之洪水御届も可有之哉之御含ニ付右之通相認大目附月番松岡へ差出候尤右水入書付^并 破損書付も今日一所ニ致し御用番中^江も差出候

一 三町目浜野屋重郎兵衛悴音四郎義去寅十一月大坂江戸掘三丁目尾張屋源八方へ奉公ニ差遣置候処去月廿九日病死仕候ニ付向方^而 取置仕度願書差出承り届ル

一 御領分東南条郡大田村源助後家さち^并 孫庄吉^并 娘もと右家内三人西今町永野屋安兵衛役介ニ引受度人別人願下方^而 大庄屋引合相濟候段申出承り届ル

九月五日 晴

一 三助様当月二日御国許御出立^者 御延引被成候様ニ相見へ候旨久世七里飛脚方問屋廻状差越候旨右写今晝差出御用番^并 大目附へ相届郡代所^江も及通用組中^江も申達候但飛脚之者風聞ニて新城ニ七里飛脚頭罷在彼方方作州筋川々洪水^而 御旅行難被成旨申上候故御延引ニ相成候事哉と申聞候由大年寄相咄候

一 西新町三角屋茂十郎^江化藏寺盜賊懸合之一件妙見大庄屋より大年寄へ盜賊申口も定かならず今般之水難ニ付化藏寺^并 檀中方以後茂十郎へ懸り合ハ申間數旨申出候間相止可申大庄屋義も檀中他之支配入組候事故以後^者 懸合致間數旨申越甚以不詰之義ニ付夫^而 者不筋立^并 大庄屋致懸合今更及貪着間數杯とハ不詰之義之段相答之及返書可申旨大年寄伺出其旨宜取計候様ニ及差図候但昨日伺出候一善光寺先着役人久保田内記二町目尾高屋万吉方^江 致着候処諸事御取扱龐末成ル義と甚以不足申候趣大年寄共方内々申聞心得^而 可

相成義と存小須賀貢^江其趣内々手紙^ニ而申遣置候

一 信州善光寺先着役人久保田内記出立罷帰候段届出候^ニ付手紙^ニ而御用番^并小須賀貢^江相届後藤郷助^江も及通用

一人馬問屋方申出候^者雲州先月廿八日出立之先触も有之候処未罷通リ不申然ル所朔日出立之銀荷罷越雲州も大洪水^ニ而往来等も無之漸間道を通り来候由三助様も大躰御出立ハ被成間敷存候得共向方様之義ハ難計併警御出立被成候^而も四五日之内^ニ者爰元へ御出被成候義ハ得被成間敷旨相咄候段申出此段御用番^并大目附へ手紙^ニ而相届候

一 京都烏丸通六角下ル町二文字屋九兵衛手代清四郎一人例年之通呉服物壳^ニ来候段京町海老屋長右衛門宿切手差出^{翌々己三月廿八日始ル}

一二階町并筒屋弥三郎所持之他国請酒株去寅八月方坪井町万屋佐助借受商壳仕候処限月来候^ニ付猶又来ル已ノ八月迄借受ケ商壳仕度願書差出承り置

一 善光寺如来来仏御用懸り大目附小須賀貢方致対談度義有之候間後刻迄^ニ罷越候様申来罷越候所善光寺来仏^ニ付左之ケ条之通取計候様^ニ可申付旨被仰渡候

一来ル七日善光寺如来来着^ニ候

一 道筋不及掃除不見苦程^ニ可申付置事

一来着之砌町分保頭先払町年寄老人先立可致事但羽織袴着用尤出立之節も右同断

一 逗留中同心組町廻り平日方壹度増朝夕夜相廻り宿坊大円寺^江も入込見廻り警固可致事但警固ハ別^ニ被差出候由

一 逗留中非人加廻り別^ニ一組申付町分計相廻り其余之所ハ見合^ニ可致事尤先^夜分計^{但昼夜老度ツ、也}

一 出火之節別々不及手当平日之通

一同勢不残宿寺^ニ被差置候様手配出来候処多人数^ニ而下部之者左之通式拾四人寺内^ニ居余り候^ニ付西今町^ニ為致下宿^候様^ニ大円寺へ被仰付候間大円寺方頼次第下宿受合候様^ニ兼^而可申付置尤旅籠代ハ相對を以相応^ニ取可申事

下宿 宰領老人 輿方拾人
同 押 老人 宰領 老人 陸尺 六人

挟箱持 五人
廿四人

一 出立之節人馬差支無之様^ニ御定之賃錢取可差出候

右之通申付候様大年寄^并小頭^江申渡候

九月六日 曇 夜雨

一 三門屋茂十郎一件之義妙見大庄屋方返書来候得共又々不筋之趣^ニ付又々可申遣旨玉置源五兵衛申聞候

一 古道具屋掟書先月廿八日伺濟候通古道具屋定書老通伸ケ間請状案紙老通^并古道具屋株無之古道具商壳先規之通停止^ニ付可成丈古道具屋株讓受古手商壳も可致と申町触老通^并古道具取壳株札六拾六枚御作事へ申達出来相廻り役所焼印押之何れも出来^ニ付蔵合孫左衛門方へ為持遣古道具屋共呼出申渡夫々^ニ株札相渡候様^ニ申付ル右定書扣^者触書留^ニ有之故略之追^而右草案大目附へ可差出事

一 信州善光寺追触来候^ニ付大年寄方左之通差出

信州善光寺別当大勧進役人

上包

追触

中沢録之助
西條主祝

追触

一人足 百拾人 一馬 式拾壹疋

右者先達而先触指出候通善光寺如来日本巡行ニ付供奉別当大勤進清浄林院明後八日勝山御城下出立津山御城下江向被罷越候間書面之人馬遲滞無之様宜敷肝煎可然候以上

信州善光寺

別当大勤進役人

卯九月六日

中沢録之助
西條主祝
印

勝山御城下方 津山御城下迄

宿々 川々 村々 検断中 肝煎中

追而此先触早々御順達猶津山町ニ御留置被成罷越候節御渡可然候已上

一上包 信州善光寺別当大勤進役

西條主祝

先触

覚

一人足 四人

右者今般信州善光寺如来日本巡行ニ付為先用明七日役僧宝輪院津山御城下迄被罷越候間書面之人足差支無之様宜敷肝煎可然候尤御定之賃錢相払罷通可申候已上

信州善光寺別当大勤進役人

西條主祝
印

卯九月六日

勝山御城下方 津山御城下迄

宿々 村々 川々 検断中 肝煎中

追而此先触早々御順達猶又津山町ニ御留置被成罷越候節御渡可然候已上

右先触而通差出候ニ付御用番へ差出小須賀貢へ其段申達且又明日

役僧着ニ而も此度八定而大円寺へ落着可申間旅宿用意ニ者及間敷候間問屋方大円寺へ懸合置候様ニ大年寄へ申達又

九月七日 曇

一 信州善光寺追触夜前主膳殿方差出候処因州御縁女不幸ニ付与兵衛殿御頼候由与兵衛殿御披見被差戻候ニ付小須賀貢江差出候処是又披見相濟被差戻候ニ付大年寄へ差返候

一 御藏米六拾四匁町米六拾匁

一 三軒屋番中尾藤助妻妊娠之旨小頭方届出候

九月八日 曇

一 御用日ニ付例刻登城申上候御用向無之

一 遊行御用懸大目附伊達与吉郎方左之通口達ニ而被申渡候

増児右門

遊行上人来月上旬来着ニ付先規之通出役被仰付候尤物頭村上清太夫出役被仰付候得共出役筋ニ而御役順之通町奉行可致上席候

右早而演説ニ出迎見送り初而对面等之節八町奉行可致上席事或八私ニ罷越宝物見物或酒等ニ扣居候様之節勝手次第席順ニ致着座候而も可然事

遊行上人逗留中郡代火事場出役無之節郡代兼可致差凶事但右者御馬御差支ニ因而之事之由相聞候

右役順之義村上清太夫江申談候処清太夫覚居候者町奉行八御槍奉行之次席ニ候得者不心得と申事ニ而直ニ伊達与吉郎へ被相伺候処当時町奉行八物頭之上席と被申聞相濟候

一 遊行上人来着一件何帳面当役并大年寄方差出候ニ帳共致下札伊達

与吉郎方被差戻附紙之通可取計尚又不審之義も候ハ、申聞候様被
申聞候右帳面役付之内針医兩人有之候処一人ニ被仰付候旨ニ付海
内察州差免候様大年寄へ申渡候

一京町山崎屋善六裏御掘石垣五尺計此間之洪水ニ而損候旨届書差出
大目附へ差出候

一二階町畑勘平并河本屋清助裏御掘石垣此間之洪水ニ而損并屏覆御
掘江倒候ニ付引上ケ度足代下候願書大目附へ差出

一顯徳院様御逝去後殺生之義者御一周忌迄と御家中江有之候処市
郷江追而御差図可有之旨被仰出候ニ付是迄殺生御免之御触無之
右之訳ハ去寅十月十四日同十五日間十一月八日之処ニ委敷記有之
右之訳合ニ而詰候事併今更御免之触流し差出候も異成ものニ付
左之通口達ニ而大年寄場合方為致演達候而も可然哉と大目附月番
松岡治部助へ申達候処同意ニ而其趣ニ取計可申郡代中江も自拙者
及演達同様ニ取計候様被申聞其旨郡代中江も申達置大年寄へ左之
通寄々演達候様ニ申達候

顯徳院様趣一周忌も被為過候事故最早慰殺生いたし而も不苦
候

一二階町山本屋周右衛門所持之自国受酒株当卯九月方同十二月迄元
魚町福沢屋三吉借受商売仕度願書差出承り届ル

一元魚町油屋与三兵衛役介高島道友義先達而出奔仕百日尋被仰付其
後日延願仕置候処居所も少し手懸り出来候ニ付来辰二月迄日延願
差出承り届ル尤右等之義ハ承り置候而相濟候先格ニ者候得共道友
義ハ御用所御沙駄ニ寄而日延申付候ものニ付追而可及御沙駄候事

一出火之節我等出役出人之義大年寄へ相尋候処左之通之旨書付差出

二階町元階町下紺屋町上紺屋町細工町
右五町方老人つ、都合五人差出候事

一遊行逗留中寺詰式步中買名面付大年寄差出別帳ニ記置

一大隅宮宵祭ニ付林田六町例歳之通揚焼灯差出候段大年寄申出承り
置

一明九日大隅宮祭礼并善光寺逗留ニ付組致不足候ニ付加人三人明日
一日御渡被下候様ニ大目附江申達候御使組下田吉右衛門野尻和
助可児政助来候

九月九日 雨

一重陽ニ付組中不殘麻上下ニ而罷出仕前当日及挨拶例之通神酒差
出

一善光寺如来昨八日晚方大円寺へ来着今日方開帳有之候右ニ付同心
組朝昼夜三度つ、町廻り差出夜非人加廻り一組差出

一大隅宮祭礼ニ付例歳之通警固四人三船孫八荻野嘉七御使組加入下
田吉右衛門野尻和助四時過方差出夜五ツ時前無別条引取候段届出
承り置

但祭礼御幸上之町方大橋詰へ出夫方町分同心組警固帰候節又東
新町方受取箕作横町迄警固ス尤例歳同心組立宿橋本町林田町勝
間田町三町之内ニ而賄いたし候由勿論「」度差出候由

九月十日 晴

一三助様昨九日雲州御発駕被成明十一日久世御泊ニ而十二日御通行
被成候旨久世御本陣方院庄御茶屋守江申来候由郡代所方通用有之
大年寄へ申達候

一 大年寄齋藤孫右衛門申出候者 信州善光寺御会釈振之問合及井野

申来候得共町方^ニ而^者不相知義^ニ付内々大円寺^江問合可然旨及挨

搦候処幸直屋市郎左衛門大円寺へ相詰居候由^ニ而^者彼^江相頼候処内

内^者寺社取次後藤郷助も及差図候様^ニも相聞へ爰元御取扱之趣大

円寺^方書付来持帰^リ候間内々申聞候由^ニ而^者申聞承^リ置

一 三助様御義昨九日雲州御発駕明十一日久世御宿之処差支^ニ而^者勝山

土居と御宿^ニ相成明後十二日当所御通行被成候御宿割和田伊三治

と申もの来候旨問屋^方申出候段大年寄^方届出此間申達置候通取計

候様申達置御用番^并大目附へ手紙^ニ而^者申達^リ」^并小頭^江も其段申
渡候

一 信州善光寺如来来ル十六日出立之先触昨日差出候段問屋^方申出候

趣大年寄申出其段御用番^并小須賀貢^江相達候

一 信州善光寺人足先触輿八人懸^リ候処拾八人も懸^リ不申候^而者^者参^リ

不申其外長持も四人懸^リ候得共八人六人も不懸候^而者^者参^不申旨

及聞此間来仏之節問屋人足召連^ニノ宮原^江出人足^ニ為持見申候処

実^ニ人数増不申候^而者^者参^不申坪井宿聞合候処坪井^ニ而^者も弘立人足

ハ受取候得共増人足程^者寄進^ニいたし候由如何可仕哉と伺出候旨

大年寄申出先触之外之荷物之義^ニ候得^者別^ニ賃錢可受取義^ニ候得

共先触之荷物定之人足^ニ而^者難^参無^擧増人足出候義^者武家之荷物^ニ

而^者も人足^ニ成候事^ニ候得^者右人足廿四人之増^者問屋^方致寄進可然
旨及差図候

一 古道具屋定書去ル六日相渡置候処今日申渡^ニ而^者道具屋頭^并組頭礼

^ニ罷出候

九月十一日 快晴

一 御用番主膳殿方面談致度義有之候^ニ付罷越候様手紙来^リ罷越候処

明日三助様御通行之処万端手配先日申達候通之義^ニ候得共此節信

州善光寺開帳^ニ而^者可致群集趣^ニ付御先払程ハ差出可然向方^方尋も

有之候ハ、御断^ニ付御先払等^等も不被差出候筈之処此節信州善光

寺開帳有之致群集候^ニ付万^一御差支等^も有之候^而者^者如何^ニ付俄^ニ

御先払被仰付罷出候段可及返答候旨被仰出其趣小頭^江申付^并大年

寄^江も右^ニ付保頭御先払申付候様^ニ申達又尤大年寄申聞候も先例

横丁^ノ不目立様^ニ人留取計候事故此度も其趣ハ兼^而申付置候旨
申開候此段郡代所^江も及通用候

一 元造酒助殿家来内田伝内義先日高倉^江来候趣^ニ付目明非人召捕^ニ

差遣候旨右序^ニ付主膳殿^江及御噂置候

一 万人講被仰付被下候様講元共願書差出度内意大年寄共^方申聞下^方

可願筋^ニ而^者も有之間敷候得共此節之義故乍序主膳殿^江御内々及御

噂候処追^而御差図可有之旨被仰聞候

右二ヶ条後日於御別席可相伺存罷在候所折節御宅^江参候事故及御

噂候

一 種油壹升^ニ付三匁八分売^ニ当八月相願候処此節実種高直^ニ相成候

間四匁売^ニ仕度届書差出承^リ届但割合書左之返

当八月実種壹石^ニ付代八拾匁位^ニ付油壹升代三匁八分売
此節実種壹石^ニ付代八拾六七匁位^ニ付油壹升代四匁売

九月十二日 快晴

一 坪井役人庄田伊三郎^方致交代跡役草野六左衛門罷越候旨案内書状

到来及相答

一三助様御通行ニ付同心組致不足候間今日一日加人老人御渡被下候様昨日大目附^江手紙^ニ而申達置候処日下勇助来昼廻り申付ル

一三助様御先払神田定治江原文藏差出候所町分無御滞御通行相濟候段八ツ前時分届出其段御用番^并大目附へ手紙^ニ而相届候且又馬駅^江新治百藏差出候所無御滞本馬五疋人足四拾六人差出候書付取届出候^并問屋目附豊屋喜左衛門右同断相届問屋入用員九拾弍式分八厘有之候書付差出候

但御先払も七里飛脚を以再応御断有之候得共昨日申付候趣を以絶^而御先払相勤被下物等^ハ無^之候

問屋目附麻上下^ニ而罷出居候得共当年^者披露^并被下物等も無之旨届出候

九月十三日 快晴

一御用日登城

一昨日三助様御通行御先払絶^而御断被成候趣^并問屋目附迄当年^者被下物無之義御用番^并大目附へ申達候

一元魚町油屋与三兵衛役介高島道友義先達^而百日尋申付其後又々日延願差出候処又々限日来候処少々手懸りも出来候^ニ付来辰二月迄日延願差出聞届候然ル所道友義ハ先達^而人別除差出候節御用所方御移も有之日延願為差出候義^ニ付先例^ニ者無之義^ニ候得共御内々及御噂候段御用所へ申達候

一古道具屋^江相渡候定書之写今日大目附へ差出候

一大目附伊達与吉郎方遊行出役之節供人之義被相尋候^ニ付先前^者何れも若堂四人召連候所安永三年大沢三平時分御槍持^ニ付御貸馬も

不出若堂式人召連候旨申達候所左之通被申渡候

遊行出役之砌並も有之義^ニ付先今般^者若堂式人召連可申合羽籠ハ未決之旨披申聞候

一孤独扶持本証文差出内貸差引算様余り四匁老厘^并内貸百^一拾匁近藤伊左衛門方相廻り大年寄へ相渡候^{尤過額有之廿八日処ニ記ス}

一西今町松尾屋源之丞妻出産月取叱先例之通申達候様申付ル

一講元共方万人講被仰付被下候様之願内意此間主膳殿へ申達右願書差出置候処当時何れ共被仰出も無之処下方可願筋^ニ而も無之候間先不取上ケ差戻置候様主膳殿方被仰出其旨申達右願書案文差戻候

九月十四日 快晴

九月十五日 快時

一去ル朔日記置候東新町藁屋与七下人太助拾候金紛裏含小物西新町伊崎屋弥市落候段申出相違無之^ニ付相渡可申哉之旨東新町年寄方伺書差出^并伊崎屋弥市口上書も差出無相違候ハ、夫々印形取置相渡候様申渡折節序有之候^ニ付御用番中へ懸御目相届大目附中へハ手紙^ニ而相届候

一桶屋町桶屋市右衛門役介浜七義御城代組内田政八渡屋敷へ引越申度人別離願差出承り届ル

一鍛冶町宗道大明神今夕宵祭^ニ付鍛冶町美濃職人町之両町揚ケ焼出候段大年寄届出承り置

一信州善光寺御用懸り大目附小須賀貢方善光寺如来明十六日晚正六ツ時大円寺出立之旨申出候間町年寄保頭出役^并同心組且又非人等

も見廻り候様取計可申旨申来ル尤下方^江者兼^而申付置候義^ニ者候

善光寺

得共明朝廻り孫八百藏ニ未明ニ安岡町へ入込居如来同勢不残出立跡方致警衛向方へ不見様ニ、東新町迄見送り候様ニ申付尤何事そ有之候ハ、早速組付可取計旨申付ル大年寄方も先日着候砌ハ町年寄保頭出役之義向方へハ不申達候得共明朝者罷出候段向方役人可申達哉之旨伺出候ニ付其通申付候様及差図

一仙石越前守殿領分百々村化藏寺方西新町三門屋茂十郎へ懸合無之趣津一件之義大庄屋古田次郎兵衛方化藏寺口書写茂十郎へ懸合無之趣津山役中へ被申越候様ニ次郎兵衛へ差出候写差送り候旨申越次郎兵衛方之断挨拶も一向無之甚不詰之趣併別ニ孫左衛門へ内分別書ニ庄屋共甚不取計ニ付急度叱申付置候段ハ申越候得共表向之書面ニ左様之義も不相見甚不筋之趣ニ候得者今一応申遣候様ニも申達候得共此上者至而六ヶ敷此上申遣不致承知候得者直ニ役筋懸合ニも可相成候ニ付内分申越候書面を証ニ取置濟候ニも可然旨大年寄共も申候ニ付其旨御用番主膳殿江罷越相伺候処随分其通ニ可然候得とも御同役江も御相談之上可被仰出之旨被仰聞罷帰居候処又々呼二来「」分ニ不相濟候間化藏寺并且中方一札取候歎又ハ大庄屋古田次郎兵衛方駢と一札差越候様可申遣候旨被仰出候ニ付右之趣奉畏候処右且中ハ所々支配違入組候義ニ候得者次郎兵衛手先ニ一札取候事者迎も出来申間敷且又次郎兵衛一札と申も必定難致義ニ候得者此上ハ次郎兵衛書面ニ卒尔之段懸合之義御用捨被下且又別紙之通最早茂十郎ニ懸り合無之候間此段自拙者宜御断申候様ニ願出候間御断得御意候段駢と申越候様可申遣之旨申上候処左候ハ、其趣ニ取計候様被仰出其旨孫左衛門へ申付候処同人存寄

ニ右之段返書ニ駢と申遣候者角立不宜哉ニ被存幸彼方へ内分申越候義ニ付彼一人致披見候処御断挨拶文段無之候故此趣ニ而者定而同役も致承知間敷右化藏寺方之別紙写も本書ニ而も無之候得者下方へ難申渡候間任御懇意同役江不相見孫左衛門一人致披見内々ニ差戻候間訊立候様ニ御認かへ被成且又化藏寺本書も御廻候様ニ致度旨可申遣哉之旨伺出尤之義ニ付其旨早々取計候様ニ付其段御用番江手紙ニ申達候

九月十六日 快晴

一信州善光寺如来出立ニ付孫八百藏曉七ツ半時此方安岡町へ罷出扣居六時迄出立同勢不残出立之跡を押へ東新町迄見送り町廻り相勤町分無滞通行相濟候段届出候ニ付御用番并懸り之大目附小須賀貢へ手紙ニ相届候大年寄方も町分無滞通行相濟候段届出候一郡代三浦十郎左衛門被来夜前八子ニ博奕参会之者被召捕右之内安岡町吉兵衛忪左助と申もの有之候ニ付相糺可申同類参会之内町分之者も右之外ニ十人計も可有之差口有之乍然隱名ニ駢と不相分候得共先申聞候旨被申聞候ニ付番夜廻孫八百藏定治嘉七四人差向右差口之町々為相糺候処下紺屋町勘八老人召捕組合預ヶ申付置候段届出其外ハ名面并住所等も不相分又ハ他出或立帰もの等ニ不相知他出之者ハ夫々ニ尋申付置候段同心組罷帰申出候并安岡町吉兵衛忪左助と申もの有之哉之趣大年寄へ糺申付候処安岡町神目屋弥吉借屋住吉兵衛忪左助ニ相違無之右吉兵衛義者桶屋職ニ此節出職ニ罷出留主之由申出其段郡代所江申遣候

一元永見造酒助殿家来内田伝内義先日高倉江来候趣相聞目明非人差

向候段大目附^江及噂置候

九月十七日 快晴

一河原町髪結万吉義八子博奕参会之差口ニ付昼廻り孫八百藏差向候
処昨日方致他出罷帰不申由ニ付「尋申付候段罷帰相届出候ニ付
右名面住所等不相分もの共相札候様」寄へ申付ル

一播州網干丸尾屋六三郎一人例年之通荒物類塩物卸売来候段中之町

小山屋与三右衛門宿切手差出^{翌年六月十三日掃}

一播州網干余陸屋武兵衛一人例年之通八百屋物鯉節卸売ニ来候段右
同人宿切手差出右同断

一播州網干平松屋惣九郎一人例年之通小間物晒蠟卸売ニ来候段右同
人宿切手差出又右同断

一信州木曾筑磨郡藪原宿古屋善吉一人例年之通木櫛卸売来候段右同
人宿切手差出^{十一月廿六日掃ル}

一郡代三浦十郎左衛門方八子博奕参会之内ニ山下官弥長屋もの円藏
と申もの有之郡代所ニ召捕被置候ニ付長屋者等之義ハ当役可引受
義ニ付引渡候上ニ御互ニ可相届候旨申来右等之先例ハ双方へ御
達有之候事ニ当役^江も何之何某長屋もの受取遂吟味候様ニ御用
番中御差図之旨大目附中方御達有之候上ニ可受取先格ニ付御沙
駄之上ニ可受取旨及返答候処如何被心得候哉又々及御沙駄置候
間御勝手次第可相渡旨申来依之御家中長屋もの等吟味之義ハ当役
可引受事ニ候得共支配ニ而無之候間私ニ可引受筋ニ而も無御座
候得御達有之候上ニ可受取旨及返答候御用番中方山北村佐
吉方ニ博奕参会致候山下官弥長屋もの郡代手筋召捕候旨右之者

御役筋へ郡代方御引渡申候ハ、御受取可成候右之趣郡代方申出候

ニ付得御意候段手紙ニ申来り右相答之御受仕郡代中^江唯今主膳
殿方相受取候様御達有之候間御勝手次第御受取可申尤請人差添御
引渡有之候先格ニ付受人御差添可被下候旨十郎左衛門^江申遣候処
最早夜ニ入候事故明昼後引渡可致旨返書来候

九月十八日 快晴

御用日登城

一仙石越前守殿領分百々村化藏寺方西新町三門屋茂十郎へ盜賊懸り
合一件之義去ル十五日之処ニ記置候処返書申付置候処昨日明見大
庄屋古田次郎兵衛方返書差越候処化藏寺口書も至而六ヶ敷所押
申付候義夫ニ御承知も無之其上次郎兵衛方も断之書面可差越御
案紙被相廻候得共左様難相成此上立合吟味罷越候共不埒明義ニ
有之候間此上ハ如何様ニ相成候も不苦候間御存寄次第可被成旨
手切之書状差越右書面昨日大年寄差出今日御用所ニ誂申上此上
ハ右一件初方之懸合得与相調自拙者懸合候様取調可奉伺旨申上候
処其通取計様御用番御差図ニ付大目附^江も及噂置右取調候様大年
寄へ申付ル并来書差戻候

一徳守祭礼宵祭ニ付警固差出右ニ付蠟燭五挺例歳小頭方受取相濟候
処右小頭受取書ニ大目附印形無之而者不相渡候由ニ付又六差「依
而拙者方大目附へ差出印形受ケ大納戸へ相渡候

一徳守宮宵祭ニ付例歳之通九時方警固五人差出尤小頭老人当日之出
番昼廻り平組四人差出候尤別条無之候得明日届出候事尤今夕之
賄ハ官脇町方差出候事先格也尤今日出役之者又六新治定治嘉七為

治

一遊行上人先触正徳延享之兩通写伊達与吉郎へ差出候

一遊行来着取計伺帳面先日付紙いたし伊達与吉郎へ被相渡右付紙之通致清書与吉郎へ為見候処此通_ニ而宜候間町方へ申達候様_ニ被申聞候

一郡代所方山下官弥長屋者_ニ凹藏受人小性町田中屋喜三郎下受備前屋新吉煩代人喜与助差添_并安岡町左助右両人手紙差添引渡_ニ足輕差添来小頭代孫八出番左十郎百藏差出於門内受取手錠打替候右受取候段及返書候右_者去ル十五日夕八子佐吉方_ニ而博奕参会之者共也右一卜通り遂吟味左之通申付ル

吟味中手錠懸ケ受人預ケ

山下官弥長屋者

右受人小性町田中屋喜三郎

凹藏

下受人備前屋新吉

五十九才

吟味中手錠懸ケ組合預ケ

安岡町神目屋弥吉借屋住

吉兵衛悴

左助

右同断

下紺屋町

勘八

右立会例之通小頭代孫八書役大年寄出番左十郎百藏右之通取計置候段御用番中へ罷越相届大目附_江者手紙_ニ而相届尤御用番中_江も外御用序_ニ付罷越候

一右之者共差口候旨川崎権太夫長屋者勘三郎二橋久三郎長屋者源藏_并桜岡正三郎長屋もの名面不相覚年比三拾才計之者右三人一所_ニ致博奕候旨白状_ニ付右三人引渡候様被仰付候様御用番中へ罷越相届

一野辺之久藏玉林熊と申もの博奕参会之旨及白状其段十郎左衛門へ及通用候

一徳守宮宵祭_ニ付元魚町二階町戸川町鍛冶町材木町細工町上紺屋町宮脇町例歳之通関貫九ツ時迄大門開置候段大年寄届出其段御用番中_江者序_ニ付以参相届大目附_江者手紙_ニ而相届候尤内町_并惣側関貫開置と認遣右_ニ付立番付置候義大年寄へ相尋候処徳守宮宵祭_并六月観音之節ハ立番不付置候先格之旨申出後藤日記相調候処六月観音之節ハ立番付置と記候処も有之候得共徳守宮宵祭之節ハ立番之義認無之大年寄場合取計も右之通_ニ而マチ_ノ相成候_而者不_レリ之義故以後ハいつ_ニ而も大門開置候節ハ立番付置候様_ニ可申付候旨孫左衛門へ申達候

一徳守宮宵祭_ニ付例歳之通二階町元魚町境町新職人町美濃職人町鍛冶町西今町材木町

右町々々揚桃灯差出候旨大年寄申出承置

一 大目附中今般銀札板行損候_ニ付新板行出来右銀札新銀札打交致通用候様_ニ廻状到来写取町方_并組中高石垣番まで相触候

一 龍野役人関口作兵衛三沢清太夫方安岡町蓬屋太助盗もの質取候一

「_一」之義_ニ付目明孫兵衛打合之吟味筋有之候_ニ付被相伺候処取計候様曲渕甲斐守殿御達_ニ付御役人中差添早速被差出候様_ニ可致候処此節洪水御用_并検見御用等_ニ而急_ニ得不取計致延引候間追_而可致案内之旨申来其段御用番_江口達_ニ而申達致承知候間被仰下次第可差出旨及返書可申段相伺候処其旨宜取計候様_ニ御差図有之右来書_并返書追_而可差出旨申候処不及其義追_而孫兵衛差出候様申来候

節可被申聞旨被仰聞候大目附^江者追^而可及噂事

一院庄清眼寺被盜もの衣類一つ安岡町岡崎屋伊兵衛方^ニ有之由寺社

取次後藤郷助^方尋有之右^者八月廿五日岡崎屋^方届出其節郡代所^江

者及通用置候旨申達右届書郷助へ相廻候処即刻被差戻候

九月十九日 快晴

一德守宮祭祀ニ付警固小頭又六平組新治佐十郎百藏為治五ツ時方差

出弁当例歳之通大重箱ニ握飯三重煮^メ大重ニ一重小重箱三重ニ握

飯一組尤一重残し手盆を入酒三升差遣候

一生野御代官稻垣藤四郎殿今夕櫓村泊^ニ而明廿日町分通行坪井泊之

旨郡代所方通用有之依之先規之通町分不及掃除見苦敷無之様申付

保頭^并同心組先私可申付旨御用番^并大目附へ手紙^ニ而相届大年寄

へも其旨ニ取計候様申付ル尤組中へも申達候

一生野御代官稻垣藤四郎殿先触来候段左之通写差出

覚

一人足 拾三人

内四人乗物一挺 式人具足 三人長持一棹 老人合羽

一本馬 式疋

外 人足式人

右^者稻垣藤四郎当田方為検見明十九日昼時作州東北条郡小淵村出

立備中国阿賀郡山奥村迄被相越候条於宿々書面之人馬無遲滯差出

可被繼立候尤渡船川越止宿等之義ハ差支無之様取計可然候此先触

早々順達小坂部村方山奥村^江可被相届候以上

稻垣藤四郎手代

中沢良右衛門

卯 九月十八日

櫓村 津山 坪井 久世 勝山 小坂部 山奥

右宿々問屋中

年寄

泊り附

十九日櫓村 廿日坪井 廿一日 山奥

右先触御用番中へ差出大目附^江も申達候

一德守宮警固無別条相濟候段六半過比届出其段御用番^并大目附へ手

紙^ニ而相届候尤昨十八日夕御徒目附山田新三郎下目附坂本敬助今

十九日御徒目付西原郷平下目附安井友治^ニ而候由小頭方書付差出

候

但右両日共小頭麻上下平組大ノ字羽織袴

一大目附小須賀貢方明廿日生野御代官稻垣藤四郎殿通行ニ付御使者

被差出望月健五郎東大番所^ニ而相勤候様立宿申付候様申来大年寄

江申付候处材木町三家屋幸三郎へ申付候由申出其段貢^江手紙^ニ而

申達ス 九月廿日 快晴

一生野御代官稻^垣藤四郎通行ニ付佐十郎百藏五時過御先私差出八

時過無滯町分通行相濟候段届出其段御用番へ手紙^ニ而相届大目附

松岡治部助折節拙宅へ被參合候付其俣相届候右通行ニ付取計如左

一町分通節不及掃除不見苦程ニ申付候事

一保頭先私 一同心組両人大之字羽織袴木杖^ニ而先私

一 東大番所^ニ御使者有之御使者立宿材木町へ申付候事
一 御先弘同心組立宿も大年寄^方申付候事之由

一 齋藤孫右衛門義用事^ニ付[■]土居宿^{三郎}平方へ明廿一日罷越十日計
り逗留仕度旨月番蔵合^方届出承り届ル十月十日帰ル届但追願有之
一 稲垣藤四郎殿先触写御用番へ差出候処手紙^ニ而被差戻候追^而大目
附へ可差出候

一 御伝馬賃錢取計之義問屋へ為相尋候所惣馬持之損^ニ相成候由申出
候

一 来ル廿三日秋葉祭礼同廿五日関守祭礼^ニ付右両夕西今町焼灯例歳
之通差出候段大年寄届出承り置

一 備前国山小畑町鼠屋甚八悴清兵衛一人例年之通元結完^ニ来候段^二
階町境屋伊右衛門宿切手差出^{翌年五月廿日帰ル}

九月廿一日 快晴

一 郡代所^方八子博奕参会鍛冶町繁蔵掘端禮完新差口之旨申来出番定
治為治差向新義組合預ケ申付ル繁蔵義ハ離帳もの^ニ候

一 遊行上人来着^ニ付大目附中取調伺濟之帳面伊達与三郎^方被相廻役
筋入用之所書取候様申来候

一 三軒屋中尾藤助病氣引込候旨小頭^方届承り置

但以前ハ少々之義ハ不相届候処当時^者御使組代リ^ニ隔月^ニ二兩
之内一人つ、被遣候^ニ付一人引込候得^者使組代リ^ニ不出候間
御使組小頭之方^江も相届候事之由尤日々一人ハ朝夕稻荷山ヲ相
廻り候事也

一 山下官弥長屋円蔵差口博奕参会之伝と申もの大年寄へ吟味申付候
処材木町万屋与三兵衛借屋住松屋善吉と申もの^ニ而^有之へく哉之

旨申出他参留申付候様申渡候他出仕候由^ニ付急尋申付候

一 元魚町小原屋新吉今朝組合預け申付置候処無心元旨^ニ付手錠願出
夜廻り^方取計候様申付ル

一 遊行上人来着取計伺濟之帳面大年寄へ相渡

一 富丸様御病氣之処御養生不被為叶去ル十二日御死去被成候依之今
廿一日方来ル廿三日迄鳴物御停止之御触大目附中^方廻状到来写取
町方^并組中牢屋三軒屋高石垣番迄相触候様書役^江申付ル

一 富丸様御卒去被成候^ニ付為伺御機嫌明廿二日御徒格已上^并登城相
濟候部屋濟^ニ至迄麻上下着用四時登城候様^ニ御奏者番中廻状到来

^ニ付例之通夫々廻勤申達候様大年寄^江申達候然^{玉置源五兵衛}罷出
ケ様成御凶変之節之廻勤ハ大年寄札元計之様^ニも相覚候得共駈と
不相覚義^ニ付伺候段申出^并秋香院様之節之義共彼是申候得共夫ハ

引当^ニ不相成真鏡院様之御例可然と申達天明六午年真鏡院様御
卒去之節之日記相調候へ共町人廻勤等之義不相見差懸り候義^ニ付

真鏡院様御卒去之節之日記致吟味何分其節之通^ニ可致旨申達置候
一 大目附中^方来ル廿三日之御用日明廿二日^ニ相成候段手紙^ニ而申来

類役中へも及通用候

九月廿二日 快晴

一 富丸様御卒去被成候^ニ付為伺御機嫌御徒格已上^并登城相濟候部屋
住^ニ至迄麻上下着用四時登城^ニ付五ツ半時登城御奏者番^方三奉行
迄例之通於七間廊下御小性頭代り大目附謁有之一同罷出上席御奏
者番中^方富丸様御病氣之処御用生不被為叶御卒去被成奉絶言語奏
依之御機嫌奉伺候旨申上之末席^方引退右之段御用所^江も可申上義

哉と近藤伊左衛門方大目附松岡治部助へ相尋候処御凶変ニ付御機嫌伺之義故御用所_江者不及申上旨差函ニ付何方_江も御凶変之不及挨拶候

一 大年寄以下御目見之もの_并町年寄廻勤之義真鏡院様之節之通ニ可致旨夜前達置候処齋藤孫左衛門日記ニ廻勤仕候様被仰出夫々_江相達廻勤仕候旨有之由ニ付今日何れも廻勤仕候然ル所今日触書扣を相改候処真鏡院様之節一旦廻勤申達候趣ニ相認メ消して其上_二町人共不及廻勤例ニ付為知而已申達と有之候左候ハ、今般之様成ル取計_ニ而廻勤致し相濟候上_ニ而認直し候事と被察候右之趣ニ候得_者以来ケ様之節_者不及廻勤候義ニ候併今日杯も大庄屋も致廻勤候哉之様ニ承り伝候間追_而郡代所と申合以来一同ニ可取計事

一 明廿三日之御用日今日ニ相成候ニ付例之通三奉行一同御用所_江罷出当役申上候御用向無之旨申述引取

一 万人講当年_者休会被仰出候旨大目附中_方達有之其段大年寄共へ申達候

一 稲垣藤四郎殿此間被通候先触写大目附中へ差出候所最早入用ニ無之旨直ニ被返候

一 遊行上人人馬継送りニ相成候得_者在方寄進馬三拾疋被仰付候様ニ書付伊達与吉郎へ差出候

一 普請武芸ハ今日方不苦旨大目附廻状到来写取惣町中_并組中牢屋三軒屋高石垣番迄相触ル尤町方へハ武芸之義相除

一 御藏米六拾九匁米六拾五匁

九月廿三日 快晴

一 牢渡伺出昼廻佐十郎喜七差向候処無別条旨届出候

一 牢舍人善心夜前_方致吐写_{今朝}ニ至り俄ニ衰候旨医師願出大年寄へ申付郡代_江も及通用且又弥市新吉も毎々服薬申出候得共其俣打捨置候間午序遂診察候様ニ大年寄へ申付ル

一 但州朝来郡大月村外科医師中路玄亭同人妻さん右夫婦兩人勝間田町薬屋善七郎内縁有之用事ニ付来候間五十日計逗留為仕度願書差出承り届ル_{十月廿四日掃掃}

一 御領分東北条郡田辺村伊助弟直四郎義一人福渡町河内屋多助引受度人別人願下方引合相濟候段大年寄申出承り届

一 公義御触上総国_下総国村々百性共日蓮宗不受不施之_之伝法_ヲを習受其身ハ勿論勤候もの迄重キ御仕置ニ相成候ものも有之候処近年_ニ及ひ右宗門之内新門徒又ハ内信心杯と名目を付不受不施之僧を日蓮同様ニ尊敬いたし有之旨急度御制禁之旨御触被仰出候旨大目附廻文到来写取町中組中牢屋三軒屋高石垣番迄相廻候

九月廿四日 曇

一 備前松平上総介殿内河合兵大夫_方飛札到来遊行上人いつ比来候哉問合申来右来書伊達与吉郎へ差出爰_元ニ_而も未一向相知不申候段可及返書哉之旨手紙_ニ而申達候処御伺有之候処右之通未一向相知候間相知候ハ、自是為相知可申旨及返答候様手紙_ニ而申来其旨取計候

九月廿五日 雨

一 御領分西北条郡新田村百性佐助悴庄吉一人西今町橋本屋義八引受人別人願下方引合相濟候段申出承り届

九月廿六日 曇雨

一 牢番内田利兵衛妻妊娠小頭届出候

一 仙石越前守殿領分百々村化藏寺（ツツミ）を西新町三門屋茂十郎（ツツミ）江盜賊懸り

合一件向方大庄屋古田次郎兵衛方先日手切之書面差越候ニ付自分

方役人江可及懸合右初方之懸合書面等取調申付置大方出来可仕

処藏合孫左衛門存付ニ候ハ、程々者濟寄候処今少之義ニ而事破

レ甚氣之毒成義先比内濟之義も藏合先之養父阿賀屋善平方叔父甥

之統柄ニ付申越候趣ニ候得者今一応善平心付ニバ差遣懸合七見申

度旨申出至極尤之義何れ其元并自分不存事ニ而善平内縁統柄を以

懸合之義者不苦旨及挨拶置候処右善平方古田次郎兵衛方へ人差出

昨晚罷越候由ニ而直ニ藏合申出候者右之人向方へ罷越善平主意得

与申聞候処先比も善平方深切之段申越候ニ付内濟申懸候処藏合方

好之書面来候得共此方ニ而も一己之取計とハ乍申極内々ハ上役江

も伺候而取計候義ニ候得者藏合方申越候通ニ者難出来筋ニ付及破

談候右及破談候節善平へ不申遣及破談候者善平深切を無ニ致甚心

得違取計仕其段者今更氣之毒奉存候尚又深切ニ被申越候段ハ忝被

存候間左候ハ、此方之成丈十分之挨拶書下案相認可相廻候間是ニ

而承知被下候ハ、此通ニ者認可遣旨申化藏寺口上下案ニも卒忽之

懸合仕候段相認次郎兵衛書面ニも何分内濟被下候様奉頼と相認差

越候下案孫左衛門差出夜前主膳殿へ罷越相伺候処伺之通内濟聞届

候段今日手紙ニ而申来其旨孫左衛門江申達并右一件懸合之趣取調

最早不入ものニ者候得共得与取調差出置候様ニ手紙ニ申達ス

九月廿七日 晴

一新魚町福本屋菊之丞持来候古道具屋株堺町稻野徳左衛門讓受商売

仕度願書双方連印ニ而株札差出承り届ル右株札御作事江しらけニ

差遣名面認替追而可相渡事

一 江戸町奉行小田切土佐守殿組上田甚八と申もの当所江用事有之馴

染ニ付二階町組屋忠三郎方へ罷越候ニ付十日計逗留為仕願書差出

承り届ル尤ケ様之義不及御噂義ニ候得共彼義者御用等可有御座程

も難計ものニ付明日日出仕之上御内々可及御沙駄事（ツツミ）

一 西今町南側ニ而鳥羽屋源十郎取持之家屋敷表口五間裏行拾五間但

半役東隣者橋本屋義八西隣者則鳥羽屋源十郎借屋ナリ右家屋敷三

ケ年以前七月質物ニ書入永田屋喜七取次ニ而壹貫三百匁借用仕候

処此度元利返済受返し申候段届書差出承り届ル

一 右鳥羽屋源十郎家屋敷今般代銀札貳貫五百匁ニ相極町内吉原屋庄

吉へ壳渡度願書差出承り届同廿九日壳券状差出

一 美濃職人町南側ニ而錦屋万助家屋敷表口貳間裏行拾七間但七步半

役也東隣者三笠屋伊右衛門西隣者三嶋屋勇治也右家屋敷代銀札八

拾匁ニ相極町内三笠屋伊右衛門へ壳渡度願書差出し承り届ル同廿九日壳券状差出

一 美濃職人町北側ニ而杉屋幸吉家屋敷表口貳間半裏行拾四間但六步

役也東隣者杉屋伊兵衛西隣者乗物屋佐吉家也右家屋敷代銀貳百五

拾匁ニ相極町内乗物屋佐吉へ壳渡度願書差出承り届ル同廿九日壳券状出

一 遊行上人来着ニ付蘭田川堰留来月二日方取懸り可申旨大年寄届出

候

一 八子佐吉方ニ而博突参会之者 下紺屋町甚八 小原屋新吉

安岡町左助 山下長屋者円藏 右四人九時方呼出立会例之通^ニ 而
遂吟味候

一 茅町木屋浅吉鍛冶町桂屋源治義八子佐吉方^ニ 而 博奕参会之旨小原
屋新吉指口^ニ 付夜廻り方組合預ケ取計候様申付候処 而人其他参致
候由^ニ 「」直^ニ 尋申付置候旨罷帰相届依之翌廿八日大年寄へも其
段申渡候

九月廿八日 快晴

一 御用日^ニ 付例刻登城

一 安岡町坪屋与八郎義先比福永屋為助方細高酒榼五本買受候処内卷
本損有之不用立候^ニ 付勝間田町桶屋久太郎へ壳渡度願書差出御用
番御聞濟^ニ 付大目附へ相渡置御聞届申渡候尤右願書御用所^江 持出
口上^ニ 而 申上濟尤右酒榼焼印^并 福永屋榼出候封印願出候付小頭又
六^ニ 取計候様申付ル

一 伊達与兵衛殿方先日於御席被仰聞候^者 問屋^ニ 而 人雇候得^者 小口錢
取候^而 不埒之事^ニ 候間承り糺候様被仰聞依之相糺候様大年寄へ申
付置候処左之趣認差出大意記置

一 御用之日雇差出候節ハ卷人^ニ 付八厘

一 御家中^并 町方へ相對日雇差出候節ハ卷人^ニ 付六厘

一 御米出中背賃ハ卷俵^ニ 付三厘千俵^ニ 付三拾匁内式匁小口

錢として問屋へ取中背手取式拾八匁也

右之通古来方取来之事^ニ 而 先前方右之通仕来候段問屋方書付差出
於御席与兵衛殿へ差出候処先前方到来之事^ニ 候得^者 其分^ニ 而 宜候
得共雇主方小口錢取候と申筋^ニ 而 者 聞へも不宜紛敷様^ニ も有之候
間左様之筋^ニ 候ハ、以来小口錢程賃錢を上ケ賃錢之内方取り

日雇方問屋へ小口錢を差出と申形^ニ 致可申是迄卷匁之日雇代^ニ 候
ハ、以後^者 卷匁六厘之日雇代と申立候様^ニ と被仰聞候^ニ 付其段大
年寄へ睨と申渡候様^ニ 申達又右問屋方差出候書付单筒^江 へ入置且又
馬之米出し賃錢承り候処卷駄^ニ 付拾式文位之由是ハ問屋への小口
錢ハ取不申候由

一 江戸町奉行小田切土佐守殿組上田甚八来候事御用所^ニ 而 御内々及
御沙^江 駄候

一 孤独扶持去ル十三日受取候処算様^江 違^ニ 而 式拾匁式分七厘過錢有之
藏合方差戻勘定所下代牧田義助へ相渡候処内借証文之認違^ニ 而 式
拾匁ハ相戻式分七厘ハ内借本証文之算様^江 過^ニ 而 可致返上節之由^ニ
而 証文認かへ差出し印形いたし相渡右銀札式拾匁式分七厘義助へ
差戻相濟

一 遊行上人弓削へ人馬^ニ 而 継送り候正徳年中之郡代町奉行「」懸合
右人馬取計方不残書抜先日郡代十郎左衛門へも為見置候処「」
被差戻候付大目附伊達与吉郎へ差出人馬取計先例^ニ 候間御披見被
成被置候様^ニ 申達置候

一 東西町鍛冶屋太兵衛借屋住清助義御領分西北条郡惣社村正觀寺^江
引受度人別離願差出寺社取次引合相濟御聞届申達候

一 宮脇町阿賀屋助五郎屋守江間屋茂兵衛夫婦二人徳守宮裏門西角地
子居新嶋屋弥助役介^ニ 引越度人別除願差出寺社取次引合相濟聞届
申達候

一 仙石越前守殿領分当国百々村化藏寺方西新町三門屋茂十郎へ盜賊
懸り合之義去ル廿六日内濟内意伺出候通明見大庄屋古田次郎兵衛

方大年寄へ之来状化藏寺方卒忽之懸合致候断津山役人中へ申遣被
呉候様ニ願出候口書写相廻し右ニ付次郎兵衛方内分ニ御濟被下
候様ニ奉頼候と申添状差越大年寄方差出し於御席読候御用番中
へ申上候所其通承り届致内濟候様可及返書旨御差図ニ付左候ハ、
三門屋茂十郎組合預ケも差免可申旨申上候所御聞濟ニ付其段大目
附へ及噂置右返書取計候様大年寄へ申渡候

一 下紺屋町中横町西側ニ而名原屋忠兵衛家屋敷表口三間半裏行三間
但式歩役也北隣者桶屋六右衛門南隣者出口屋佐助右家屋敷境町美
濃手屋清右衛門取次ニ而銀札式百七拾匁月壹歩半之利足ニ而来辰

二月切家質ニ書入借用致度願差出承届ル十月朔日
証文出ル
文化末七月二日開し御出又

〔一〕新魚町豆腐屋又吉借屋住完道屋治右衛門義此度御中間奉公仕度
人別除願差出承り届ル

一出雲大社中官西村神太夫上下四人例歳之通且那廻り来候段西新町
山家屋利右衛門宿切手差出ス十一月廿六日届ル

一大目附松岡治部助方申達候義有之候ニ付後刻迄之内罷越候様ニ手
紙采罷越候処元往来中間相勤当時致番代西新町〔一〕人ニ相成居候
甚兵衛と申もの当春深信院殿被参候節ニ尾州熱田宿ニ而問屋場へ
流込人足肝煎を致打擲不法之義ニ付相応之御咎取計候様御道中奉
行方御達有之候間明廿九日六半時呼出し於白洲申渡候様ニ被仰渡
御叱追込之御文段書付被相渡小頭部屋目附書役へ立会罷出候様ニ
申渡置大年寄へハ明未明ニ可申達事

九月廿九日 快晴

一 西新町住元御中間相勤候甚兵衛と申もの組合年寄差添大年寄召連

六半時出候様今未明ニ大年寄へ申達候処右甚兵衛と申もの未入帳
不致何方ニ居候哉相知不申候段申出候ニ付住処相糺候様ニ申付置
右之段大目附松岡治部助へ以参申達候処左候ハ、御中間頭之方ニ
而取計可申付旨被申聞ニ付昨晚被相渡候被仰渡書付差戻候

一 右ニ付大目附松岡治部助方被申達候者都而人別出入右甚兵衛様之
義出来不宜候間以来者御中間頭と引合之上承り届候様可致之旨被
申聞候尤松岡郡代被相勤之内右之通ニ取計被来候由也併当役ニ而
者是迄先役方引合無之事ニ候得共尔来ハ可引合事

一 銭川下ヶ裏印一昨廿七日江口衛助方申来取計候

九月晦日 快晴

一 関貫番賃銭例月之通相渡

一 齋藤孫右衛門義土居へ参候所今少用事濟兼候付今七日計逗留仕度

旨孫左衛門方届出承り届ル十月十日届ル

一 安岡町坪屋与八郎并福永屋藤助酒榼改之義去ル廿八日願出之趣ニ

付小頭又六部屋目附新治差出坪屋酒榼焼印封共ニ取計濟福永屋
方封印ハ醬油榼ニ相望候ものも有之ニ付四五日相待呉候様相願候
ニ付不取計罷帰候旨兩人共ニ届出候

月番

十月 小

御家老 永見造酒助殿

御年寄 伊達与兵衛殿

大目附 佐々木右近

大年寄 玉置源五兵衛

十月朔^{己卯}日 早天少雨 晴 曉風雨

一 鍛冶場橋出来ニ付今日方往來相始候段今津屋平蔵届出其段御用番
并大目附へ手紙ニ而相届ル

一 牢舎扶持勘定古格十月一度ニ候所後藤時分方一ケ年ニ三度申付
候処右門御役初方古格之通卷度ニ而も可然旨申候ニ付其通ニ取計
置候得共以来者 守助時分之通十月二月六月と一ケ年ニ三度ニ取計
候様小頭又六へ申付候

十月二日 曇

一 御蔵米七拾匁五分町米六拾六匁五分

一 牢舎扶持勘定并当月内貸証文小頭差出奥書取計候

十月三日 曇

一 御用日之処自分義風邪ニ付出仕御断申上候段郡代三浦十郎左衛門
へ頼遣候

一 造酒株他領方受讓之義江戸御留主居田中幸助へ先達而問合申遣置
候所一昨昨日返書来リ酒造株讓リ渡之義領分違ニ候共一國中之義

ニ候得者公儀御触通之義ニ而も少も苦敷無之尤先方役人江懸合之上
承り届候義ハ念之事ニ候間引合之上聞届候而可然旨返書来リ今日
三浦士を以御用番中へ差出候処御披見之上御戻披成候由三浦方相
戻り候

一 遊行上人心対之節役順ニて先日伊達与吉郎方被申聞候者遊行着発

之節心対役順ニ而其余之処ハ格順ニ候間其旨右門へ申通候様ニ三
浦十郎左衛門へ伊達与吉郎演達有之候由三浦士方申来

一出火之節挾箱為持候様ニ相成候ニ付陣笠ハツヒ一ツつ、致不足候
ニ付今日小頭差出ハツビ卷ツ陣笠受取候

一 御近領江米相場書差遣候挾板之書付例歳之通御作事へ差遣置候
一 役所焼印柄損候ニ付御作事へ為持遣致出来候

一 米相場書之節入用之青繩油紙指札之書付例歳之通荒物方へ差出受
取候尤重而大目附中上印取候様ニ申来候

一 蘭田川堰切出来候旨大年寄方届出昼廻り孫八文蔵見分申付候処川
筋未掃除不致候旨届出候

十月四日 晴雨

一 近々御用所武芸一覽有之一昨年之通三拾歳以下素読被聴候間夫々
之師役江談可申尤日限之義追而可被仰出旨大目附廻状到来

一 御代官青木源太右衛門近藤宗右衛門方町作当御年貢米為取立近日
方町内へ入込候様申付候右ニ付若不埒之者も御座候得者吟味之上
手錠等申付候義も可有御座候間左様御承知被成置可被下旨案内之
手紙到来承知之旨及返書

十月五日 快晴

一 自分義今日三浦士相頼置致他出候

一 西川役人平沢助八富田与治左衛門方例歳之通米平均相場書頼来及
相答

十月六日 快晴

一 蘭田川不掃除之趣申出候ニ付掃除被仰付候様伊達与吉郎へ手紙ニ

而申達候但川筋ハ御作事方ヲ掃除有之候事

十月七日 快晴

一茅町吉屋平治方ニ而昨夜九ツ時湯殿之内ニ而藁少々燃へ隣家打寄早速消留候段大年寄申出例之通叱以後別而入念候様申付へく旨申達置御用番并大目附中へ手紙ニ而相届候ケ程之義ハ先格不相届候得共先達而大目附中方不審有之候ニ付相届候

一京町菊屋清左衛門義十ヶ年以前京町小性町両町年寄相勤罷在候処病身ニ罷成難相勤候間小性町年寄役免願書差出無余義趣ニ付跡役今津屋平蔵へ申付可然旨大年寄申出何之通聞届候間其旨可申付旨申達候

一二階町山手屋弥太郎家守忠蔵借家住作人仁兵衛娘市義脛行不順月取間違弥妊娠相極七ヶ月ニ相成候段届書差出先格之通取計候様ニ申達候

一新魚町豆腐屋又吉借屋住独身さよ義為渡世当国大庭郡久世村米田屋市兵衛方へ来ル已之年迄三ヶ年之間奉公ニ罷出度願書差出し承り届

一西新町吉武祐三借屋住新助義去ル丑年奉願当国勝山中町大工屋太七方へ奉公ニ差遣候所又候当卯歳方来ル巳ノ年迄三ヶ年之間逗留為仕度願書差出承り届七年八月廿七日堀ル

一牢舍人伊右衛門療治二廻り相濟代リ之医且又弥市新吉医師相願候段昨日牢番義右衛門願出例之通病躰相糺候様大年寄へ申付候所伊右衛門弥市両人ハ療治申付可然新吉義ハ捨置候而も可然旨渡部玄端申出候段大年寄申出其通申付候様ニ申達候

一牢舍人御仕着六人分例歳之通申出候旨又六申付例之通取計遣候様ニ申達候

十月八日 快晴

一人馬問屋駒米受取証文差出與書取計
一御用日ニ付例刻登城
二三浦志摩守殿領分当国真嶋郡下方村与兵衛娘義新魚町魚屋市右衛門妻ニ引受度人別人願御用番御聞濟ニ付大目附へ差出置御聞届申達候九月改ニ入

一因州知頭郡用ケ瀬玉屋助左衛門甥重郎左衛門義玉置源五兵衛役介ニ引受度人別人願御用番御聞濟ニ付大目附へ右願書差出置御聞届申達候

一二町目福永屋藤助封印櫓之内五尺櫓五本細高櫓本三尺櫓六本ノ拾式本林田町山本屋房四郎へ醬油櫓ニ壳渡度願書双方連印ニ而差出御用所へ持出口上ニ而申上候処御用番御聞濟ニ付御聞届申達候

一福渡町元大工茂右衛門義去ル丑八月大工職差留置候処当八月廿二日宮脇町生駒屋治右衛門方ニ而大工働致居候由大工棟梁見咎大年寄へ届出大年寄方ニ而双方相糺候処無相違口上取差出依之戸ノ十日可申付旨伺書差出候処何之通取計候様被仰出候ニ付其旨大目附へ相達石ニ付先格之通貫針相渡候様御作事へ御達被下候様大目附

へ相達候所承知ニ付御作事へ貫三丁針十本相渡候様手紙差遣大年寄へも右明朝取計候間茂右衛門義組合年寄召連明六半時立会ニ罷出候様孫左衛門へ相達小頭書役江も立会之義申達候尤今日八源五兵衛不快ニ付孫左衛門罷出候

一 洪水之砌格別相働候もの三拾三人式三匁ツ、御酒代被下候様致度先例ハ大目附へ申談闕所銀を以差遣候ニ付九月八日大目附松岡治部助へ談置候処今日返答有之欠所銀ニ而可差遣筋之ものニ者無之候間御用番中へ相伺御本途方被下候様可取計旨被申聞候ニ付右之旨御用番中へ伺候処早速御聞濟ニ而於其座勘定奉行へ相渡候様御達有之右書付勘定奉行へ相渡置銀札被相廻候様ニ申達置候右銀札相廻り候ハ、早々可申渡候右之段大目附江も達置候

一 揚り屋賄之義小須賀貢方尋有之先例寺社人之分書拔差遣候
一去ル三日荒物方小林曾十郎へ相渡置候青繩油紙差札之書付曾十郎方小勤者印形取差戻大目附中之上印取之曾十郎へ相渡候

一 博奕参会之者共取計考三浦十郎左衛門と連名ニ而差出候処与兵衛被差戻候依之尚又公義御触写致持参懸御目候処早速被差戻候右伺書別帳扣有之候ニ付爰ニ略之但長屋者之義ハ伺之通被仰付候ニ付大目附江及嚙之

一元魚町河内屋与七借屋住原平と申もの御中間奉公ニ罷出度人別離願書差出御中間頭内山洞太夫と引合相濟候ニ付聞届申達候

一 牢舎人御仕着数六ツ町方取寄小頭又六遂吟味相調番番共へ相渡候但大鉢拾四匁五分位也右ハ伊右衛門宜祥新吉弥市郎善藏幸吉右六人也

一 頭徳院様御法事ニ付御赦之者共考付差出候様大目附被申聞候旨郡代中相廻り候
一下紺屋町長江朝庵義備中浅口郡口林村（此江某道）田中瀬平方へ往来七十日計之逗留ニ而罷越度願書大年寄差出承り届十二月廿日帰ル

十月九日 快晴

一 大年寄小頭部屋目附立会出番老人大工老人人足老人呼出置六半時元大工茂右衛門組合年寄差添呼出左之通申渡候

其方義兼々我俣ニ而風義悪敷不埒ニ付 福渡町
先達而大工職差留置候然ル所当八月廿三日 元大工

宮脇町生駒屋治右衛門方ニ而右職分致候ニ付 茂右衛門へ
遂吟味候処其日一日計之義ニ而候得共申付を相背
不届ニ候依之戸バ申付候相慎可罷在候

但日数十日

右申渡相濟候段御用番中へ相届大目附江も相達吟味書共ニ差出
一 御藏米七拾匁五分町米六拾七匁五分

一 富丸様御義惠高院様と奉唱来ル十一日朝計御茶湯有之候段為御知廻状大目附方到来写取組中惣町江も相触候

一 道中ニ而兼々被仰出候通かさつ致間數人馬差支有之節ハ筋々相札可申出土足ニ而問屋場へ流込候様之義致間數御触大目附方到○写取組中へ差出候

十月十日 快晴

一 大目附佐々木右近方手紙到来二橋久三郎長屋もの源藏妻并娘一昨夜四ツ時過致出奔候旨通用有之候右者源藏博奕差口之ものニ付御用番中へ届置候故申来候事ナラン

一 播州網干余陸屋惣七一人例年之通八百屋物卸売来候段中之町葛屋伝助宿切手差出翌年正月十七日帰届

一 播州網干塩屋伊兵衛一人例年之通塩物并荒物卸売来候段中之町葛屋伝助宿切手差出右同断

一 御藏奉行方例歳之通来ル十六日御給米相渡候廻状到来小頭江申達

ス

一 船頭町利七ト申もの博奕差口郡代所方申来吟味申付候所他出之旨
申出尋申付候段大年寄申出候

十月十一日 快晴 曇

一 書役大脇新左衛門義夜前自分方切紙差遣今十一日五半時呼出給米
是迄三石五斗之処五斗加増四石ニ申付候段直申渡候

十月十二日 快晴

一 同心組牟屋三軒屋番年賦拝借証文差出候付御藏奉行中^江添手^一
致呉候様小頭申出御藏奉行中へ宜御取計被下候様手紙差遣

一 稲荷山竹切御作事方方今日方相始候段三軒屋番藤助届出承置

一 二階町西側ニ而塗師屋新七後家家屋敷表口式間裏行十七間但半役
也北隣ハ荒田屋十兵衛南隣ハ松原屋かん右家屋敷去々丑歳質物ニ
書入銀札百五拾匁借用仕候処此度元利返済相濟候段届書差出承リ
届

一 御領分西北条郡新田村林蔵夫婦^并悴唐吉次男浅吉右家内四人安岡
町三倉屋平兵衛引受度人別人願承リ届

一 橋本町柳屋多七夫婦去月廿二日出奔仕候段届出例之通百日尋申付
候離帳之節可及御沙^{マカ}駄事^{マカ} 翌年正月十八日掃仕承リ届ル

一 御領分東南条郡林田村さよ同娘右二人二階町湯^原屋伝兵衛妻子ニ
引受度人別入下方引合相濟候段申出承リ届

一 坪井町三船要四郎妻妊娠届延引之段去ル七日出産赤子之様子七ヶ
月位ニ相見へ月取間違届書差出例之通七夜後月取間違叱取計候様
ニ申付候

一 小性町柿屋伊助悴磯吉義拾三ヶ年以前天明三卯十月相願太田村庄
八方へ養子ニ差遣置候処此度離縁仕罷帰候段届書下方引合相濟候
段申出承リ届

十月十三日 暁時雨 快晴

一 御用日ニ付例刻登城

一 脇坂淡路守殿預リ所当国久米南条郡福渡村善吉弟宇吉義去寅七月
奉願新職人町山本屋忠右衛門役介ニ引受候処此度善吉方へ差戻候
ニ付人別除願御用番御聞濟ニ付右願書大目附へ差出置御聞届申達
候

一 脇坂淡路守殿御預リ所当国英田郡倉敷村弥次兵衛悴茂兵衛義西今
町三倉屋善四郎後家役介ニ引受度人別人願右同断取計濟^{同廿四日住宅}
^一差出^ニ

一 二橋久三郎長屋者妻子致出奔候処右博奕吟味筋ニ妻子ハ入用^ニ
無之哉と御用番与兵衛殿^并大目附伊達与吉郎方尋有之候ニ付是迄
之御形^ニ而者博奕吟味筋ニ妻子ハ入用^ニ者無之当人計^ニ而相濟候段
申達候

一 遊行上人来着聞合^者先前有之候処当年^者不及聞合候旨先達^而伊達
与吉郎方達有之候処尚又今日備中松山迄聞合ニ工者成もの差遣遊
行着之日限^并人数^并公義御触^ニ付取扱違候哉之趣聞合候様被申聞

尤聞合ニ参候人小勘者へ差遣是方も心得得^与承リ候上^ニ而明朝^ニ
而も可差遣尤松山^ニ而難相分候ハ、為知呉候様頼置罷帰候様被申
聞其段得^与大年寄へ申達候処野田屋佐右衛門へ可申付旨申候付其

通ニ取計出立候段相届候様ニ申付候尤出立候ハ、与吉郎へ相達候
筈也

一 洪水之砌相働候もの共^江被下之御酒代今日勤者所^左之通相廻候
ニ付大年寄へ相渡申渡候様ニ申付候

一 船^ニ度々相働格別 勘兵衛 利右衛門 市兵衛 儀助
致出精候船頭三^ニ又つ、 文右衛門 吉兵衛 幸助 和市 兵

助 茂七
拾人

一 東新町^ニ別^而相働 (初屋善吉 紺屋武兵衛 筏屋甚七
候者 三^ニ又つ、 三人

一致出精相働候者 鍛冶屋善右衛門 地子居惣助 五明屋三之
式又つ、 丞 初屋勘六 同 定吉 紺屋長治

作人清六 吉屋吉太郎 横山屋吉之助
作人善太郎 同 金五郎 坂本屋広吉

作人庄助 同 久七 同 宇助
鍛冶屋和助 松屋吉兵衛 鍛冶屋茂兵衛

山崎屋藤兵衛 初屋清七
式拾人 合七拾九又也

右之通翌十四日申渡候段大年寄申出其段御用番^并大目附へ手紙
ニ相届候

一 遊行上人通行之砌会釈振之書伊達与吉郎^方被相渡候由上原彦藏^方
相廻り別帳ニ認置候

一 龍野役人関口作兵衛三沢清太夫方来状安岡町菱屋太助後家^并目明
孫兵衛右兩人役人差添来ル廿二日差遣候様申来与兵衛殿へ罷越相
伺候処菱屋後家義先達^者病氣^ニ候間今般^者可罷出哉之処相糺
候上^ニ而及返書可然旨被仰出右之段大年寄へ申付候尤右^ニ付差添
御役人被仰付被下候様申達候所^而三日之内山田新三郎へ可被仰付

旨被仰候ニ付左候ハ、今般^者鎗為持罷出候様色々と申達候得共御
承知無之候

一 福渡町福渡屋義助弟善助義去ル子二月千ヶ寺参詣罷出同年十一月
式百日日延願差出其後^者追願等も不差出大年寄共も不心付其俣^ニ
相成居候処此間罷帰候段届出承り届候得共日延追願等も不致不埒
之段叱置候様申達尚又大年寄共も以来入念候様申達候

一 紀州高野山宝蓮院上下式人例歳之通旦那廻り罷越候旨材木町正木
屋才吉宿切手差出^{十二月十一日掃福^ル}

一 近藤伊左衛門上原彦藏不調法之義有之差扣伺呉候様被相頼大目附
^江申達候処不及其義被仰出其旨申達候

十月十四日 曇

一 龍野^方菱屋後家差出候様昨日申来候ニ付病気快も候ハ、押^而も罷
出様ニ昨夕申達置候処未病中ニて候得共押^而罷出可申旨申出候由
^并目明孫兵衛^江も申達置候段夜前及深更申出候ニ付今朝龍野^江之
返書相渡承知之旨申遣候右返書仕候段御用番^江手紙^ニ而相届^并来
書返書案共ニ差出し大目附^江も其旨手紙^ニ而相届候

一 洪水ニ付働候ものへ御酒代被下今朝取計濟候段御用番へ手紙^ニ
相届ケ大目附へ名面書差出候

一 遊行上人来着聞合^ニ人馬問屋相働候野田屋佐右衛門申付今朝出立
仕候旨大年寄届出其段伊達与吉郎へ手紙^ニ而相届候

一 遊行船頭町方出船ニ付腰石垣掃除之義伊達与吉郎^方尋有之町構之
場所^ニ而無之大目附^方被申付候場所ニ候旨伊達与吉郎へ手紙^ニ
而申達候

一 龍野表へ来ル廿二日安岡町菱屋太助後家目孫兵衛差出候ニ付右

差添安岡町年寄扇屋栄治近類西今町菱屋治兵衛^并戸川町年寄老

差添参リ申候様ニ可申付旨大年寄へ手紙^而申達候

一 同心組神田定治義来ル廿二日町人差添ニ龍野表へ差出候間其旨可

申付旨小頭又六へ申渡候

一 銀札場奉行江口衛助方錢拾^{固川}下手形相廻リ奥書取計

十月十五日 快晴

一 自分義三浦十郎左衛門を相頼置千年寺迄罷越候

一 久世御代官所手代貝塚五郎藏方例年之通当十五日方晦日迄之三段

相場所来月晦日取ニ可差越旨^并今十五日一日之三段相場書此人ニ

差越候様頼来大年寄へ申付例歳之通奥書印形致飛脚之者ニ相渡候

一 遊行来着ニ付導引福渡町喜庵と申ものニ申付候段大年寄申出候

一 遊行来着ニ付院庄^江渡船相廻リ候由ニ付船年寄老^人御藏元老^人差

出候様ニ大年寄へ申付候^{土橋出来ニ付御船不廻候}

一 御藏米七拾式匁 町米六拾八匁

一 京町田原屋伊兵衛売用ニ付因州鳥取四丁目うと屋喜左衛門方へ

三十五日計之逗留^而罷越度願書大年寄差出承^{十一月廿六日}り届^{届ル}

一 中之町福茂屋磯吉義三浦志摩守殿領分真嶋郡垂水村古見屋卯八方

へ当卯十月方来ル巳之年迄三ヶ年之間奉公ニ罷越度願書差出承^{届ル}

十月十六日 快晴

一 大神楽岡田忠太夫橋本町武藏屋林藏方へ今晚罷越明日方相廻り候

段大年寄方届出大目附へ手紙^而相届ル

十月十七日 快晴

一 御藏米七拾匁五分町米六拾六匁五分

一 遊行上人先触左之通七ツ前時到来写三通申付御用番^并右懸り伊達

与吉郎^并寺社取次後藤郷助へ写差遣し本書八箱之俵役所ニ預り置

候尤郡代所^江も為知「^江頭」も申達

覚

御朱印

一 伝馬 五拾疋

一 人足 五拾人

右者 遊行上人来ル廿三日当所発駕片岡昼休新町止宿翌廿四日

落合昼休坪并止宿翌廿五日津山御城下宿寺迄被相通候間宿々

人馬^并川渡等無遅滞之様支度可有之候已上

十月十六日

從備中松山作州津山迄

宿々 村々 問屋中

十月十八日 時雨嵐

一 御用日ニ付例刻登城

一 三浦志摩守殿領分真嶋郡鹿田村六治娘戸川町山北屋和助悻嘉七妻

ニ引受度人別人願御用番御聞濟ニ付大目附へ相渡置御聞濟之旨大

年寄へ申渡候^{十一月二日住宅証文差出}

一 目明孫兵衛今般龍野表へ御呼出ニ付右入用自分ハ勿論町へ懸候も

のニ而も無之候間御用向^而他所へ差遣候並ニ關所銀之内方御渡

被下候様ニ大目附へ申達候所右近治部助相談之上其通ニ取計候様

被申聞候ニ付其旨大年寄へ申渡追而受取候様ニ申付候

一同心組来ル廿日龍野へ差遣候ニ付明十九日方加人老人御渡被下候様大目附江申達候所承知ニ候処尾崎權助来ル

一船頭町腰石垣掃除先前方大目附構ニ付其旨申達置候所以来町方掃除場所ニ被仰付候段伊達頼母方被申聞不得止事大年寄へ申渡候

右者遊行上人来着ニ付彼是尋も有之先前方町方ニ而者不致大目附中御構場所之旨再応申候処承知無之剩平日迄も以後町方之掃除場所と改而被仰付候旨伊達与吉郎方被申聞候事

一遊行来着ニ付昼廻り同心組二人致不足先例ハ昼廻り相止候得共左様難取計筋ニ付加人二人来ル廿四日方被相渡候様伊達与吉郎へ申達候所承知ニ候

一備前河合兵太夫方遊行来着聞合之義先日頼来候ニ付先触到来之段為知可申遣伊達与吉郎へ申達候所同人方伺之上為知候様被申聞左候ハ、明朝立ニ而飛脚可遣候間御飛脚之者被仰付被下候様申達書役へ書状申付飛脚山本安助へ相渡同廿一日昼時

一近藤政助義遊行来着之節町奉行下役ニ而罷出候節御貸拵若堂大役人格ニ而者出候筈ニ付申立呉候様申聞候ニ付左候ハ、伊達与吉郎へ申達候所大役人ニ而者他国へ参候節ハ出候得共地廻リニ而者不出先格と覚候由返答有之候且又着服も並之通平日ハ裏付上下出立之節ハ麻上下着用可然旨及相談候処其通ニ而可然旨挨拶ニ付其旨政助へ申達候

一遊行へ下役共場合之会尺書先日上原彦藏方相廻り別帳ニ写置伊達与吉郎へ差戻候処郡代所へ相廻候様被申聞三浦十郎左衛門へ相渡

候

一遊行上人逗留中出火之節駆付人足此節方上之御道具も寺々江相廻候事故出火と申候ハ、此節方駆付人足計差出候様与吉郎被申聞大年寄へ申付候

一遊行役付操かへ候名面書後藤郷助へ相渡候并導引福渡町喜庵申付候段申通置候

一遊行来着ニ付先規之通町触差出候尤与吉郎方為見候様被申聞候ニ付相認与吉郎へ相渡候

十月十九日 曇晴

一小頭部屋目附大年寄立合ニ而六半時出番老人町大工一人差向筋違為取込組合年寄差添呼出於白州左之通申渡候

戸ノ差免候間以来 福渡町 大工茂右衛門 急度可相慎候

右取計相濟候段御用番大目附へ手紙ニ而相届候

一大目附伊達与吉郎方申達候義有之ニ付只今罷越候様手紙来り即刻罷越候所遊行上人備前佐伯迄船ニ而相送候所当年者洪水ニ而鴻

「」瀬通船難洪之趣ニ相聞候間周匝ニ而引渡候様ニ者相成間敷哉之旨備前役人江致文通懸合候様尤飛脚之旨可申付候間明朝立ニ而差遣候様与吉郎被申聞尚又河合兵太夫江可申遣旨及返答書役江申付ル飛脚中谷孫右衛門へ相渡

一新魚町福本屋庄助義売用ニ付大坂心齋橋筋北浜玉子屋九兵衛方江三十日計之逗留ニ而明後廿一日出立願大年寄聞届旨差出

十月廿日 晴 曇

一今六時左之通龍野表江差出候町人呼出大年寄小頭部屋目附立合山

田新三郎も列席^ニ而於白砂申渡新三郎へ引渡候

今般龍野役所呼出^ニ付

差出候間公辺向之義故別^而

諸事入念御尋之趣無伏藏

可申上候尤山田新三郎差添被

仰付候間同人^江引渡候間諸

事可受差図候

安岡町菱屋大助後家

右近類

西今町菱屋治兵衛

安岡町年寄

扇屋栄治

戸川町目明孫兵衛

同町年寄代

相生屋清助

右差添

御徒目附 山田新三郎

同心組 神田定治

右之面々今朝差遣候段御用番^并大目附へ手紙^ニ而相届候

一 目明孫兵衛龍野へ差出外^ニ他所方申来候義も有之由^ニ付桶屋町吉

田屋平助権目明^ニ昨日方申付候

一 紀州海士郡日方浦池谷町善四郎手代源兵衛嘉四郎政右衛門三人例

年之通櫛折敷売来候段京町団戸屋宗十郎宿切手差出

一 筑前遠賀郡柏原浦小平治手代定兵衛藤助和七三人例歳之通茶碗類

売^ニ来候段右同人宿切手差出

一 南新座関貫番賃錢百四拾式匁八分広治持参受取置

十月廿一日 快晴

一 牢舎人□□村穢多久藏賄昨今不差越不得止事昨日ハ取替置候処今

日も不差越全躰是迄刻限忘遅致迷惑候段牢番利兵衛届出郡代所へ

申遣候

一 撰州大坂神崎町住人六郎右衛門と申もの相煩伯州米子方送り出院

大年寄へ申付候

一 遊行上人先使僧八半比到着之旨道案内浜野屋嘉一郎届出承置

一 後藤郷助方遊行先使僧到着^ニ付先触伝馬箱相渡候様持使宰領来相

渡候

一 備前河合兵太夫^江一昨日差遣候飛脚昼後罷帰り遊行来着態飛脚^ニ

而為知候段挨拶返書来ル

一 牢舎人弥市伊右衛門療治二廻り相濟候段昨日申出大年寄へ札申付

候処兩人共不捨置趣吉武由三申出候由申聞候^ニ付療治申付候様申

付ル

付ル

付ル

十月廿二日 雨

一 昨日郡代所方申来候撰州神崎送りもの左之通之由大年寄申出

撰州大坂東成郡神崎町播磨屋吉兵衛借屋龜屋六郎右衛門諸國

謡修行浄土真宗大坂上本町伝通寺旦那寺手形所持米子^ニ而相

煩同所町庄屋遠藤吉兵衛方送り出し御領分新田村方送り来林

田村^江送り遣候

一 備前和氣方大年寄共へ遊行聞合申来一ト通り伊達与吉郎へ及噂有

躰^ニ申遣候様大年寄へ申達尤已後外々方申来候ハ、不及御噂及返

答候様^ニ伊達与吉郎へ申達置候

一 備前河合兵太夫へ差遣候飛脚暮時罷帰遊行上人周匝^ニ而被致上船

御引渡有之候^而も下方何之差支も無御座候^ニ付其趣^ニ取計置候旨

返書^ニ申来右返書伊達与吉郎へ差出候

一 遊行上人爰元月朔日出立之先触寺詰方問屋へ相渡刻付有之事故
早々差出候由暮時大年寄申出候尤備前大庄屋も来居向方^ニ而も周

匝上り勝手之旨申候^而右道筋可違義ハ先使僧奥院も承知之義^ニ
候得共先触ハ先規之通不差出候^者不相濟と申義^ニ而差出候由大
年寄申出伊達与吉郎へ及噂候

十月廿三日 曇

一 惠高院様御布施頂戴仕度旨配當場申出候段大年寄申出類例相調
候処真鏡院様御不幸之砌御布施願出御幼年様之御義ニ付今般一ツ
分ハ被下候得共以後^者不被下候旨被仰出其旨申達座頭共方以後^者
頂戴仕間敷旨一札取置候ニ付右之例を以相伺候処御用番御聞濟ニ
付其大目附勘定奉行へ相断置御聞濟之旨申達尤以後頂戴仕間敷と
申一札取差出候様申達ス

一 下紺屋町兵庫屋増藏妹義脇坂淡路守殿御預り所当国英田郡倉敷村
かいそ屋林藏妻ニ差遣度人別除願御用番御聞濟ニ付右願書大目附
へ出置御聞届申達候

一 御代官稻垣藤四郎殿支配所当国勝北郡市場村之内奥津川六之助^并
同人母右母子式人林田町和田屋清六引受度人別人願御用番御聞濟
ニ付右同断取計^{十一月四日住宅証文差出ス}

一 大目附佐々木右近方左之通達有之候

騎馬^ニ而致出役候節以來病馬等有之御馬差支^ニ付不差出候段
御厩方方申参候ハ、其節^者步行^ニ而可致出役尤手馬持合右等
之差支之節手馬^ニ而罷出候ハ、兼^而其旨可届置候其節^者口之
者御貸ハ不被成候

一 鍛冶町北側^ニ而忠左衛門家屋敷表口式間裏行拾七間五步役也右家
屋敷四年已前^文十一月紙屋音四郎取次^ニ而質物^ニ書入山形屋宗兵
衛方銀札七百匁借用仕候処此度元利返済右家屋敷受返し相濟候段

届書差出承り届

一 橋本町長崎屋代助義去ル八月奉願阿波徳嶋へ五十日逗留^ニ罷越候
処未用事不相濟候ニ付今三十日之日延追願同人妻願書差出承り届
ル

十月廿四日 曇

一 遊行上人発足之砌乗船場船頭町雁木之処波戸場土俵入候由大年寄
申出其段伊達与吉郎へ申達候腰石垣方外之義ニ候ハ、郡代所方
可取計候得共腰石垣内之義ニ候ハ、郡代所方可取計筋^ニ而^者有之
間敷申出候間而役致対談^并太守様御船ニ被為召候節御渡戸場之例
も可有之候間右等之義得と相調而役対談之上申聞候様ニ伊達与吉
郎被申聞十郎左衛門と致対談候得共訳立不申依之昨晚大年寄^江申
付為遂吟味候処太守様船頭町雁木方御乗船被遊候義も睨と相覚候
ものも無之大方鍛冶場方御乗船被遊其節^者郡代所方御波戸場出来
候事^ニ而町方方波戸場拵候先例一向無之候且亦此間申出候節迄ハ
水少ク腰石垣之外^ニ土俵不仕候^者不相濟趣ニ付其旨御届申上置
候処一昨夜之降雨^ニ而少々水増昨晚之趣^ニ候ハ、石杯取除候ハ、
大方腰石垣並^ニ土俵を筑可相濟哉と源五兵衛申出候ニ付其旨伊達
与吉郎へ申達候処川^者郡代所構腰石垣^者町分掃除場之義^ニ候得^者
何れ方可取計筋と申義相極申出候様^ニと被申聞候ニ付最初方申達
候^者其義^ニ而^有之候元来腰石垣ハ大目附中御構場所川^者郡代構之
義御而役御引受之御境目之義今般俄^ニ町方掃除場^ニ御達有之候義
^ニ而町方^ニ而^者一向不得義殊是迄御役筋御構場所^ニ而^も御手筋^ニ而
右等之御取計先規方無之旨被仰聞元方町方ハ猶又他之構場所之義

候得者 町方方右等之取計可致義無之ハ勿論之義左候得者 必定那代所^ニ而出来候事^ニ而も可有之哉何れ川^ニ付候波戸場之義^ニ候得者

川構方可致義^ニ而も可有之候様^ニも不案内之拙者義ハ存候得共是迄御引受之御役筋^ニ而も御決断難被成程之義昨今俄^ニ町方掃除場

被仰付候迎元来之義も不存右判断可付義^ニ而も毛頭無之殊^ニ以後^ノ迄之例^ニ相成候事^ニ候得者 中々即時^ニ御答申上候義者 決而

得不仕此上ハ御差図次第と申達候処与吉郎返答^ニ左候ハ、腰石垣迄ハ今般町方掃除場^ニ被仰付候事故腰石垣内之義ハ町分方可取計

筋と被存候間右今般之上人之波戸場ハ町方取計候様可申付尤差懸り臨時水落候様之事^ニ而も腰石垣方外へ土俵筑出候様^ニ可相成義

も難計其節^ニ至り郷中へ申付候間^者無之候間何れ^ニも今般ハ町分致取計^ニ板之懸ケ橋^ニ而も土俵^ニ而も可也^ニ取計候様^ニ可申付旨

被申聞候付其旨大年寄へ申付候

一 遊行^ニ付加人御使組福嶋為助日下勇助来ル

一 大坂北久太郎町堺筋松屋甚兵衛手代平兵衛一人例年之通小間物卸

一 売来候段二階町境屋伊右衛門宿切手差出^{翌年正月十六日始ル}

十月廿五日 少時雨

一 遊行上人来着^ニ付五ツ半時出宅泰安寺へ罷越但供立若堂二人槍挟箱草履取合羽籠ハ晴雨見合^ニ而も今日ハ不出御貸人ハ中間二人計也

諸事取計別帳^ニ記置候故略之

十月廿六日 少時雨

一 太神楽岡田忠太夫罷帰候段夜前大年寄方相届今朝大目附中^江手紙

^ニ而相届候

一 二町目福永屋藤助所持之他国請酒株当卯十月方来辰ノ十月迄壹ケ年之間中之町西屋治右衛門借受商売仕度願書差出し承り届

十月廿七日 快晴

一 古道具屋株新職人町三田屋与九郎と申もの所持之所同人義四十ケ年已前相果悴乙八不埒も有之其節仲ケ間弁銀も有之候由乙八義後

針医^ニ相成三拾四五ケ年已前当所立去り右株仲ケ間預り^ニ相成居候所今般三町目福永屋勘吉^江被下置候様道具屋仲ケ間方願書差出

右之段大年寄方^ニも記録ハ無之候得共健^ニ承り伝候様申出候義^ニ候得者 願之通被下置可然旨大年寄共申出候^ニ付願之通承り届ケ株

札認相渡候

十月廿八日 雨

一 大目附佐々木右近方申達候義有之候間四時出仕候様今早朝切紙到来

一 御用日旁^ニ付例刻登城

一 大目附佐々木右近方左之通演達有之候由三浦十郎左衛門方通用

与兵衛殿東西御勝手引受近々出坂被仰付候間揃罷出候節御悦可申達候

一 大目附佐々木右近方三奉行一同役所前へ呼出御勝手向御差支^ニ付別紙御書付之通被仰出候間可致拜見旨被申渡永き御書付被相渡御受申達退但右御書付ハ次^ニ記置候

[] 自分義今八時方遊行上人^江見廻出役^ニ付御断申上御用所^江罷

出九ツ時退出八時出宅泰安寺へ罷越遊行上人^江対面見廻申述宝物

致見物七ツ時過罷帰ル供廻り廿五日来着之節之通尤雨天^ニ付合羽

籠出ル

一遊行懸り小勘者三浦伴左衛門方遊行上人（備て様通）明後朝早出立ニ付船積明日取計候間懸合向今日多有之候間下役差出候様申候ニ付泰安寺方近藤政助へ申遣同人義七ツ前時罷出諸事申合伴左衛門江も申談置候

一泰安寺へ警固同心組平日之通兩人つゝ朝昼代り合申付置候処今日ハ宝物見物并札配り等ニ致大混雜堂之上警固兩人ニ而者防兼候趣兩人方も其趣申出候付朝出役之警固申遣四人ニ而為致警固候尤庭之警固ハ物頭組相勤候得共堂之上ハ一向不相構本堂之上警固ハ同心組計ニ而制候事也

一古城村善六義去ル八日盜賊入込四品被盜取候觸流三浦方通用有之候様大目附中差因之旨三浦十郎左衛門方相廻り觸流申付本書ハ追而大目附へ可返事町方ニ無之旨申出候

一小性町土橋破損之届書差出大目附中へ差出被仰付候様ニ申達候

一御作事へ申達置候相場書挾板今日御作事方相廻候

一三町目太力屋久治義売用ニ付大坂心齋橋筋大河町東詰玉子屋九郎

兵衛方へ世日計之逗留ニ而明廿九日出立之願書大年寄承り届差出扣昨日差出候十二月六日掃り届ル

一大目附佐々木右近方被相渡候御書付左之通

演達

当夏天氣不順ニ付稻作不宜其上八月洪水ニ而当川永荒水押道橋等数ヶ所之破損有之御損毛過分之儀依之其段公辺江御届被成候右ニ付御成箇減少其外御物入多分之義ニ付御勝手方甚御難洪ニ有之候御家中之面々も累年之難洪ニ付当時御借り米も御用捨被

成候固ニ者上御暮方此上御省略被仰付御儉約御取用被成尚又諸役所向隨分懸勤弁之鎖細之義（備て様通）たり共御儉約筋相立御入用少ニ可取計候且又近年者御家中難洪人も相増年々物成相渡候上間も無之勝手向難洪之段申出如何成物ニ候得共無余義筋も可有之ニ付御取替米有之候然ル処渡米年々出方過分ニ相成御地合ニ而も甚御指支之処当年之年柄故別而御勝手方六ヶ敷有之候乍去り難洪之面々其俣ニ被指置候筋ニ者無之ニ付是迄ハ三ヶ年之間御取替米被成年数之内ニ者取統之手段も可有之ニ付右之通被仰付尤年限之内暫武芸等打捨置候様成事ニ而者公私之指支第一士道ニも拘候事故右等ニ付而者出会御免被成候得共今般御損毛過分之義故無御扱左之通被仰付候

一御家中之面々難洪申立候節者一ヶ年家内人別扶持御取替被下置候儀是迄之通

一有役之面々江者役料等被下置候得共勤向繁多ニ而儉約も行届兼無余義事も可有之ニ付為取統以來者有役たり共無御扱役義御免御番方ハ右勤向御免可被成候無役之面々者不勤弁之筋ニも可有之候得共是御勝手向難洪之義ハ無余義事ニ候間御取上被成一同是迄之通扶持方御渡被下候間隨分遂（備て様通）艱難勝手方取統御奉公相勤候様令勤弁出勤可有之候

一已來者御勝手役人江右懸り被仰付候ニ付難洪申立之面々勝手向暮方等ニ至迄委細承り札取統之手段等申談遣候様ニ被仰付尚又其段勘定奉行へ懸り御役人方可申出旨申達候間其旨可被相心得候

一是迄難洪申立扶持方米御取替被下置候面々も来歳ハ可為出勤候乍去り是迄被仰出之年限も候得者覚悟江「違万」一出勤難相成面々ハ其段支配頭へ申出懸り御役人江右同断可申談候

一難洪申立罷在候面々之内此節出府出坂出京致罷在候類者勤先之

之事故是迄之通年限明迄者其假ニ被指置候右之通被仰付候間年限之内可及禁足万一無拗義も有之候ハ夫々支配頭大目附江申出候上可及指図候尤難洪者無余義事被仰出候迄ニ者無之候得共平日士道無怠可被相暮候事

十月廿八日

十月廿九日 晴

一 関貫番賃銀例月之通相渡候

一 遊行上人明朔日七半時出立之旨寺社取次方申来候

一 西今町永田屋喜七借屋住小松屋和助并妻悴松三郎右家内三人二ノ

宮村孫七役介ニ引越申度人別離願下方引合相濟候由大年寄申出承り届ル

一 林田町北側ニ而作人清七家屋敷表口式間半裏行拾七間但六歩式厘

五毛役東横町通西隣ハ上田屋茂八右家屋敷代銀四百五拾匁ニ相極

同町作人六之助へ壳渡度願書承り届ル十一月四日壳券状差出

一 材木町北側ニ而蔵敷屋孫三郎家屋敷表口式間裏行拾七間但式歩半

役也西隣ハ大工惣兵衛東隣ハ大工佐五郎右家屋敷境町稲野屋徳左衛門取次ニ而質入ニ書入月老歩半之利足ニ而銀札百三拾匁借り受

申〔〕願差出承り届十一月十日証文差出 寛政十一年十一月朔返し候段断番出ス

一 細工町指物屋長左衛門所持之古道具屋株林田町田辺屋茂三郎へ相

讓度尤同町和田屋清六受人ニ罷立候願書差出承り届株札認かへ相渡候

一 川向ニ而大根盗人老人□□□非人共召捕籠野御預り所瓜生原村之

もの、由小頭方申出内分ニ而追払可然旨及差図候

一 播州高砂本町伊勢屋喜十郎一人例年之通小間物売ニ来候段ニ階町

境屋伊右衛門宿切手差出

一 半凌一昨廿七日申付無別条旨新治百蔵申出候認落候故爰ニ記ス

十一月 大

月番

御家老 永見造酒助殿

御年寄 山田主膳殿

大目附 小須賀貢

大年寄 斎藤孫右衛門

十一月朔 戊申日 風

一 遊行上人出立ニ付寅刻出宅泰安寺へ罷越虎中刻上人出立石檀下座

敷之上ニ而御役順ニ町奉行物頭御使番寺社取次小勤者列居ニ而見

送ル上人手を突念比ニ挨拶有之夜明候迄泰安寺ニ見合居夜明候と

直ニ御用番中へ御届ニ罷越大目附江者途中方手紙ニ而相届帰宅委

細者別帳ニ記置候故爰略之但供立若堂式人对之焼灯檜挾箱草履取

合羽籠焼灯持老人ハ草履取方兼之

一 御吉事日ニ付麻上下着用五ツ半時登城併三奉行之御祝義申上も無

之御年限中ニ付都而被下ものも無之御用日ニも無之故御用所江も

不出役所へ出候迄ニ而御用所御下り後退出仕候事

一 久世 龍野 丹後組以上三段相場 西吉田 勝山 西川以上平均相場 例歳之

通米相場書取ニ来差遣候

一 龍野へ差出候山田新三郎方幸使^ニ而書状差越去ル廿二日御呼出吟味有之先達^ニ而之通相答孫兵衛も有躰相答夫切^ニ而何之沙駄^(ツ)も無之外懸り合之もの吟味有之哉之様^ニも相聞急^ニも濟間敷哉之旨申来候

一 下紺屋町南側^ニ而作人勘八家屋敷表口式間半裏行拾七間但五歩五厘役東隣八作人熊吉西隣^者一乘院右家屋敷今般町内紙屋庄五郎取次^ニ而質入書人銀札百五拾匁借用仕度願書差出承り届ル^{同十一日本証文差出}

一 奈良今井町墨屋伊兵衛手代藤七一人例年之通筆白粉卸売来候段京町美濃屋平五郎宿切手差出^{翌年二月十六日始ル}

十一月二日 曇

一 大目附松岡治部助^方宝曆三年十一月宮尾村三倉屋平右衛門と博奕^ニ付喧嘩懸り合^ニ而東新町半兵衛と申もの江戸表江戶表御勘定所^江被差遣候節添人等之義取調差出候様申来^{日記書抜差出}

一 関貫番所普請^并臭橋摘込代去寅十一月方当九月迄之入用式百式拾七分四分九厘証文小頭方差出致奥書

一 幾野御代官稻垣藤四郎殿手代方上米大豆相場書取^ニ来り例歳^{三段}相場書差遣候事取調置候間去年之通三段相場所差遣候得共^後以上米計之相場書可相廻旨申遣候

一 坪井方草野六左衛門他出^ニ付庄田伊三郎方平均相場書取^ニ来差遣候

一 遊行上人昨日周匝迄無滞送り今日罷帰候段姫路屋惠^三届出候大年寄届出候

一 遊行上人逗留中受取候同心組加入御使組二人日下勇助福嶋為助今

日方差戻候段昨日伊達与吉郎へ相届候

十一月三日 曇

一 御用日之処拙者義風氣^ニ付仕御断申候段^并御用向三浦十郎左衛門へ相頼遣ス

一 備前赤坂郡平山村清太夫悴三十郎義吹屋町釜屋藤治借屋住人幸八養子^ニ引取度人別入願御用番御聞濟^ニ付大目附へ差出置候段三浦十郎左衛門方申来御聞届申達候^{十二月七日住宅証文差出 十月改入}

一 雲州秋鹿郡大垣村林治娘去寅正月下紺屋町名原屋忠兵衛妻^ニ引受候所今般離縁仕親本^(ツ)江差戻度人別除願書右同断取計濟

一 豆腐直段当四月廿文売^ニ相願商売仕候処此節大豆下直^ニ相成候^{付以後拾八文^ニ可仕左之通算様書添差出}

一 壹匁壹分六厘 大豆式升代

一 三分 新代

一 壹匁四分六厘 拾壹挺分之元入

一 拾八文^ニ売立 壹匁七分七厘

一 内 壹匁四分六厘 元入引

一 残^而三分壹厘 手間代

右御用番御聞濟^ニ付大目附へ差出置候段三浦土方申来御聞届申達候

一 御勝手御引受伊達与兵衛殿方左之通御書付御渡被成候由三浦十郎左衛門方相廻り翌四日町方へ相触候様大年寄へ申達ス

町奉行 江 郡代

市郷孤独之者共前々ハ不相聞候得共近年厚思召^ニ而御救有之年々之義人数多^ニ相成御氣之毒思召候然ル所御勝手方御入用

も年々増長第一当年ハ御損毛も有之別而御差支是迄御儉約筋可成丈取計被仰出候故指向御出方も無之依而無御拋左之通被仰付候

一 孤独御救扶持来歳方兩三年之内ハ居町居村之（ハツ）之者共申合可令扶助候其後及年数ニも候ハ、居町居村之者共可為難渋候間其節ハ右年数相立候孤独之者ハ是迄之通可取計旨被仰出候

一 諸役人御中出役弁当代今暫暫前々之通郷中賄ニ被仰付候

十一月三日

一 江州多賀成龍院使僧玄乘坊上下式人例歳之通且那廻リニ来候段二階町境屋伊右衛門宿切手差出

十一月四日 曇

十一月五日 快晴

一 御蔵米七拾壹匁五分町米六拾七匁五分

一 雲州神戸郡杵築大社多久十太夫と申御師上下三人例年之通且那廻リニ来候段二階町境屋伊右衛門宿切手差出（翌年五月廿日始ル）

一 龍野表へ差出候安岡町菱屋太助後家目明孫兵衛其外差添人も不殘山田新三郎召連申刻比罷歸り於向方再吟味有之候処初之趣相答孫兵衛義も有躰ニ申述候所廿二日忝度被呼出候耳（ハツ）再吟味相濟去

ル二日口書印形被取夫切ニ而先引取候様ニと有之事ニ而四日立ニ而罷歸候由則関口作兵衛三沢清太夫方返書新三郎持參吟味相濟先引取候様ニ申達候趣申来右口書写新三郎并町方方も差出候付右口書写并返書御用番中へ手紙ニ而差出大目附江も其段手紙ニ而申達候尤今忝度済口御裁許之可罷出趣也

一去ル三日大目附小須賀貢方三浦十郎左衛門へ被申聞候者先月廿八

日遊行上人見廻ニ伊藤主水村上清太夫増見右門三人同道ニ而泰安寺へ罷越候節三人共槍を玄関前迄為立込候様ニ下目附届出候由御寺柄之義有之候処先格ニ而も有之右之通ニ致候事哉増見右門へ承り候様察度有之候由被申聞拙者義家来之義を不存と申も甚不外聞不覚悟千万之義ニ御座候得共何成御貸人之義一向心付不申元方申付候上ニ而可召連筋ニ候処無其義段甚不覚悟之至ニ御座候得共召連候もの共不相糺候而御答も難申候間相糺候上ニ而可及御返答旨申置其日召連候同心組三船新治加人御使組福嶋為助草履取九兵衛呼出相糺候処何成一向心付不申候旨ニ而誤立不申依之其日之槍持被差越候様御中間頭内山洞太夫江申遣候処御中間忠助と申もの槍持ニ罷出候由ニ而罷越候ニ付右忠助江相尋候処決而槍を立込候義不仕門前ニ而致下馬供立崩し群集之義ニ付直ニ跡ニ付槍を提げ門内へ入玄関之向之壁へ立置玄関前ニ而槍を立下馬之躰ハ決而不仕右門義ハ玄関三方へ行キ槍持ハ玄関之方江者不向直ニ東之方へ持行き玄関之向之壁ニ立懸ケ置候旨申候ニ付其旨三浦へ手紙ニ而申遣候所其旨小須賀氏へ被申達候由之処又々今日小須賀氏方三浦へ被申聞候者此間被申聞候趣ニ而さつはり相分り居候へ共輕きものなからも目附組方申出候義定而筋ハ相分り候義ニ可有之候得共何れ其躰紛敷事故右之通之申立も有之候事ニ候間物頭方ハ右紛敷躰ニ付差扣相伺候此段右門へ相達存慮承り可申旨并右門義ハ挾箱玄関江呼寄足袋はさかへ候由左候得者槍計ニ而も無之挾箱も玄関前ニ可立義も難計旨被申聞候由十郎左衛門方申聞候付右紛敷躰ニ付物頭中も差扣被相伺候義ニ候ハ、拙者義も同様ニ可伺候間其

段御伺可被下候様相頼併足袋はきかへニ付挾箱玄関前へ呼寄七候
と申義ハ決而無之兼而右之心得有之候故草履取ニ足袋はきかへ為
致懷中罷越候故右足袋ハ草履取る受取はき候間其段ハ御申達置被
下候様三浦十郎左衛門へ相頼夫方大門閉小門計開相慎罷在候処夜
ニ入小須賀方三浦へ手紙ニ而右門差扣伺之義ハ先ツ今日之処ハ役
筋ニ而承り置否之義ハ明日可申達旨申来候段三浦方通用有之候
右之通今晩方差扣伺候間御用向諸事三浦へ相頼置候

十一月六日 早天晴雨 朝方快晴

一 牢舍人弥市伊右衛門代り医牢番方願出大年寄方も右之旨并醫師吉
武祐三方容鉢書差出服薬為仕可然旨ニ付代り之醫師申付候様ニ大
年寄へ申達候

一 牢舍人新吉病氣ニ付醫師願出相札候様ニ大年寄へ申付候

一 玉置卯左衛門義備中矢懸中西与四郎左衛門方へ廿日計之逗留ニ
明後八日出立仕度願書差出明日ニ而も御用番中へ御伺被下候様ニ

三浦十郎左衛門へ頼遣候十二月二日始ル

一 遊行上人役者修領軒方町医師三人江油紙包状箱志ツ差越候由ニ
而

寺社取次後藤郷助方差越候ニ付大年寄へ相渡返事遣候ハ、明朝迄

ニ遣候様ニ申付候尤郷助方も右飛脚之もの泰安寺ニ居候得共町宿

被仰付候様ニ申達置候間御達も有之候ハ、町宿被仰付并泰安寺江

之手紙被差越右宿之者此手紙泰安寺へ致持參候様被仰付被下候様

ニと申来其旨大年寄へ申付宿紙屋助右衛門へ申付候(兼道)

一 伊達与吉郎方右遊行飛脚町宿申付候様手紙ニ而申来候ニ付其旨大

年寄へ申付右宿元魚町紙屋助右衛門江申付候右宿之名所小須賀貢

并後藤郷助方尋来り則紙屋助右衛門と申遣候

一 去月八日夕古城村善六被盜候品町方ニ無之旨大年寄届出候

一大目附小須賀貢方増兒右門差扣之義昨日申達候通紛敷ニ付而差扣

相伺と申も何とやら如何成候様ニも被存物頭方ハ挾箱持玄関前ニ

而立候と申振合ニ而差扣相伺候何とやら此方方差扣伺候様ニ誘候

様ニ而如何ニも被存此上箱持吟味ニも不及義ニ候得共此段右門へ

申達差扣被伺候ハ、存寄ニ而被伺候様ニと被申聞候由十郎左衛門

方申聞何とやら難解なその様成言詞ニ而無理ニ挾箱を持込候ニ致

候而可然と申様之口ふリニも被察直ニ其趣ニ而相伺候而も可然存

候得共自分之家来之義ニ候得者如何様共相成候得共御中間之義既

ニ此間も槍持御中間頭ニ而被相札候由又々箱持も為相札候様之義

ニ而者不相候而中ニ而申立候得者偽ニ相成猶々如何成ルものニ付左

様之義ニ而も候ハ、箱持中間呼出相札候上不及御答旨申達置御中

間頭内山洞太夫へ申遣候処右之ものハ日雇之ものニ而右入口之も

の近在へ罷越急ニ不相知旨申越候処同心組川端円藏見覚罷在城代

町住為三郎と申すもの、由申候ニ付急ニ呼出来候ニ付相札候処泰

安寺門前ニ而下馬之鉢不致直ニ持込玄関前ニ而挾箱を立下馬之鉢

ニいたし夫方向之壁ニ立懸置候由申之さつぱりと相分り是ニ而心

能相分り扱々恐入候義ニ付差扣奉伺候段三浦十郎左衛門頼遣候

一 右同断ニ付合羽籠持も拙宅へ罷越候様ニ割場方被申聞候由ニ而尤

日雇之もの、由松山寺庵長屋住之由来り候ニ付合羽籠之義相尋候

処泰安寺御門内江者不這入始終門外ニ居候由申之其俣差返し候

一 差扣伺之通被仰付候旨十郎左衛門方通用有之

一自分差扣被仰付候ニ付御免被成候迄十郎左衛門仮役被仰付候旨及
深更罷越当用申談置候

十一月七日 昼後方雨天 仮役三浦十郎左衛門

一元魚町小原村新吉先達^而博奕参会いたし候ニ付手鎖組合預ケ申付
有之則紙屋太吉豊嶋屋伝治兩人番ニ付有之候処今曉手鎖を抜キ逃
去り候旨大年寄手前へ申出候由ニ付組合方相尋候様申付候段月番
大年寄申出候ニ付番ニ付罷在候ものも一同急度尋出候様可申付旨
申付ル尤番ニ付キ居候もの不埒至極之事共今曉逃去り候節之始末
可申出旨大年寄へ申付ル

一新職人町ぬし源三郎借屋ニ罷有候村山玄宅先達^而六十日之願^ニ
四国遍路ニ罷出候処旅中^ニ而^不相勝日延ニ相成り昨夜罷帰候段申
出承届候

一玉置卯左衛門備中矢掛中西与四郎右衛門方へ要用有之御許容^ニお
ゐて八明八日出立罷越申度願書差出候ニ付御用番へ相伺御聞濟^ニ
付其段大年寄へ相達又^{十二月二日帰届ル}

一前書卯左衛門他出^并小原屋新六逃去り候趣御用番中へ申上ル
一龍野方同心組罷帰候ニ付加人御使組差戻候段^并小原屋新吉逃去候
趣且又卯左衛門他出伺候濟候趣等大目付中へ紙面ヲ以相達ス
一牢舎人新吉義相勝不申段申出候ニ付吉武脩格^五相見せ候処容躰書
差出服薬いたし可然旨大年寄申出候ニ付療養差加候様申付ル

十一月八日 曇 雨雪

一鍛冶町鍛冶藤四郎伴万之助松平遠江守殿領分播州赤穂郡尾長谷村
清助方へ養子ニ遣度願差出候ニ付御用番中へ申上大目付へも相達

承届候

一西今町福本屋伊之助借屋ニ居候小椋屋庄助^与申者先達^而罷出行衛
不相知人別除願出右同断承届候尤庄助残置候道具も有之候ニ付先
格之通り欠所物ニ取計可申段申上置

一惠高院様御法事ニ付御布施被下置座頭共請取証文^并御小兒様之事
故以後御年忌等御布施不被下旨申渡候処承知之旨請書差出候ニ付
御用番中へ申上大目付へも相達置

一安岡町菱屋太助後家一件龍野表相濟候事哉昨日山田主膳殿御尋^ニ
付今朝増児義へ相尋何分今般之使ハ相濟引取候尤御裁許之節罷出
候義も可有之段申上置

一因州八東郡市場村兵次郎四国遍路ニ罷出候処備前国津高郡下加茂
村^ニ而^相煩医療差加候処追々快氣^ニ趣同所方送り出シ今町へ送り
来候旨申出候ニ付相糺候処寺手形も所持被有紛敷義無之ニ付送り
遣候様申付候処林田村へ送り出候旨申出候ニ付御用番中^并大目付
へ紙面ヲ以相達候

一種油壱升ニ付四匁売^ニ九月方商売仕候処
四匁二分替ニ商売仕度願書差出承届ル
実種高値ニ相成候ニ付
九月八実八拾式三匁位
当時八実九拾式三匁位

十一月九日 雨雪

一今朝趣奉書を以右門差扣被成御免候

一御蔵米七拾四匁五分町米七拾匁五分

一西川平沢助八富田与治左衛門方米相場書差遣候返書来

一茅町北側^ニ而^嶋野屋伊吉表口五間式尺裏行五間但四歩半役東隣^者

打穴屋長兵衛西隣^者大阪屋喜代八右家屋敷代銀百匁ニ打穴屋長兵

衛へ壳渡度願書聞届候同廿二日壳券状差出

一 茅町南側 嶋野屋伊吉家屋敷表口式間裏行四間半式歩半役東隣者
申遣候処承知之旨申来

一 打穴屋長兵衛西隣八岡嶋屋茂兵衛也右家屋敷代銀七百匁ニ相極打
穴屋長兵衛へ壳渡度願書絵図面を以願出承り届ル同廿二日壳券状差出

一 右家壳願者 元一軒ニ有之候得共入組候場所ニ付以前方兩通
ニ願来依而絵図も添差出候事

一 御料所御廻米近々申来候間中場番人申付候様郡代所方通用有之大
年寄へ申付候

十一月十日 晴 雨雪

一 元魚町小原屋新吉出奔組合共相尋候得共行衛相知不申旨届出候段
大年寄申出依之左之通申付

出奔之節当番之者ニ付
町内預ケ申付候

他参留

申付候

紙屋太兵衛
豊嶋屋伝吉
小原屋新吉

組合者不残

一 下紺屋町作人甚八博奕吟味中組合預ケ之所組合計ニ而も統兼候ニ
付町内ニ取計候段大年寄申出承り置

一 稲荷山竹切昨日迄ニ而相濟候段中村作治届出候

一 越中富山向河原町松井屋佐兵衛一人例年之通反魂丹壳ニ来候ニ付
中之町小山屋与三右衛門宿切手差出

一 西今町小桜屋庄助残し諸道具欠所取計候ニ付部屋目附新治孫八見
届差出書付取差出候

十一月十一日 時雨風 夜雨

一 佐久間兵右衛門殿下屋敷之藪揚屋へ伏懸り雪抔降候ハ、別「」之義

可有之候旨半番内田利兵衛届出依之兵右衛門殿家臣江使口上ニ而
申遣候処承知之旨申来

一 御蔵米七拾五匁五分町米七拾壹匁五分

一 南新座からたけ摘込取計候段大年寄届出候

一 宮川大橋下夕少シ下も川中ニ五月計之赤子捨有之候段橋本町方注
進大年寄申出大目附構場所之義故為知申遣候処右等之取計先例小
須賀貢方尋来天明四辰年閏正月廿一日宮川大橋少上川中ニ菰包流
懸り内ニ赤子有之趣ニ見受候旨注進申出大目附構場所ニ付大目附
へ為相知候処御徒目附下目附見分有之候処赤子ニ相違無之數日過

候様子吟味手懸リニ可相成義無之ニ付非人共ニ取埋申付候様大目
附方申来非人共ニ申付川向惣墓へ取埋申付候先例書拔差遣都而大

目附構場所等行臥もの有之候得者見分迄非人共番申付置候先例ニ
付其通申付可置申遣候処後刻右之例を以伺置候間非人番申付置候

様申来其段大年寄へ申付候
十一月十二日 晴

十一月十二日 晴

一 宮川大橋下ニ捨有之候赤子今朝御徒目附下目附遂見分候所五月計
之赤子ニ相違無之橋之上ニ菰包有之是方流出候哉ニ相見へ其余何
之心懸之義相見へ不申候段申出候間取埋申付候様ニ大目附小須賀
貢方申来非人共ニ申付川向惣墓へ取埋申付候様ニ大年寄へ申付右
取計相濟候段大年寄方申出候付其段大目附へ手紙ニ而相違候

十一月十三日 晴

一 御用日ニ付例刻登城

一 土岐山城守殿領分当国英田郡福本村伝七忰繁松義二町目三谷屋与

三左衛門引受度人別入願御用番御聞濟ニ付右願書大目附中へ相渡置御聞届申達候同廿二日住宅証文差出

一備前邑久郡上山田村嘉三郎悴伝之助義去寅五月坪井町大工屋幾右衛門養子ニ引受候処此度離縁仕向方へ差戻度人別除願右同断取計相濟

一当九月米直段六拾九匁ニ付酒直段御定之通卷分上ヶ願書差出之御用番御聞濟ニ願書ハ御差留被成候ニ付其段大目附江及噂置御聞届相濟候段大年寄へ申達候事尤米直段六拾壹匁方七拾匁迄諸色壹匁三分売之格也

一ひ、油入用代五匁三分郡代所方相廻り齋藤孫右衛門へ相渡候

一山下官官弥長屋住円藏博奕吟味中之所備前人別之ものニ付向方へ致懸合候も六ヶ敷ものニ付下方ニ而者右等之もの立去り取計候義者間々有之候事故追払可申旨十月八日与兵衛殿へ書付を以相伺候処即刻伺之通取計候様御差図有之其趣大目附中へ及噂候処松岡より他領之もの右等之取計ハ難致筋ニ候先例ニ而も有之哉と段々尋等も有之右之先格ハ無之旨申達候所何れ見合○候様ニ被申聞尤向方方連ニ来候様可懸合旨ニ候得共先例此方方召連罷越相渡候先格ニ而連ニ来候様ニ申遣候義ハ御代官所之外ハ無之義ニ付其段申達何れ一旦伺濟之義ニ候得者御役筋御存知寄之趣を以伺直し可申之旨今日松岡へ申達候所其通可然旨ニ付与兵衛殿へ右之旨相伺候処以外御様子ニ而自分共及差図候者銘々決断之上申達候義ニ而不調法○有之候得者銘々御答可蒙覚悟之上ニ而申達候義を大目附彼是申筋ハ無之自分共不調法有之候共大目附へ可懸筋ニ而者無之左様ニ

面々差出口致候様ニ而者御政道ハ不立と申ものニ候得者何れハ彼是申候も可苦候間伺之通追払取計可申尤博奕筋之義ニ候得者絶而入用之ものニ而も無之事ニ候得者吟味中之候ニ而此筋急ニ追払可申大目附江者自分及差図候義故存寄有之候得者直ニ御用番へ可申出旨私方及挨拶候様被申聞大目附も左様ニ存寄有之義ニ候得者其元へ可申筋ニ而者無之席へ出可申義と御向座与兵衛殿被申聞引退懸ヶ候処○其元方大目附へ右之段被申達候而者被是理屈ニ相成可申候間其元方不及申自分直ニ可申達候間大目附へハ不及貪着急ニ追払可取計旨与兵衛殿被申聞候右之通故最早大目附へ可懸合筋ハ無之候得共山本官官弥御叱等之義も可有之ニ付右ハ取計候上ニ而可届哉又ハ前日ニ而も可届哉と大目附へ相尋候処右取計之義被相尋候ニ付乍内々申達候所大目附ハ存寄違御領分之物、通取計候様ニと被仰出候哉と存居候と申事ニ而何か間違不都合之事ニ御座候処山下官官弥御叱之義彼是評義有之他之人別之もの差置候者初他方来候節差置候もの御叱可有之筋と松岡治部助被申彼是御評義有之候ニ付右等之義相糺候得者追払不取計内之義と同役彼是対談有之候ニ付拙者義ハ一卜通りハ相糺存居候得共口書爪印不取義ニ御座候故駈とハ難申候得共右円藏義ハ備前方来候節大沢三平長屋へ落着夫方山田孫四郎長屋へ引越夫方山下官官弥長屋へ參申由申候処官官弥御答計ニ致其先ハ不相糺候間右追払取計候上ニ而相届候様ニ小須賀貢被申聞候

一元魚町小原屋新吉取逃候ニ付紙屋太兵衛豊嶋屋伝治手錠追込十日組合追込五日月番年寄叱取計可然旨書付を以御用番中へ相伺候処

後刻主膳殿方手紙ニ而伺之通取計候様申来候

一八子佐吉方ニ而博奕参会當時吟味中之処町方之ものハ大鉢吟味詰り候得共未郡代所ニ而宿吟味不相濟候ニ付口書も難取極其俣ニ致置候得共余り永々之義故小原屋新吉杯之義も出来不計怪我人等も

出来下方殊之外難義仕候故吟味中ニ而此俣牢番務ケニ仕置度旨御用番中へ相伺候処其通取計候様被仰聞最早取計濟ハ申上間敷旨申上置相濟候尤大目附へ者牢番預ケ取計候段可申達旨談置候

一造酒之義三步式造りと昨年被仰出候処又々今般從公儀減石御免被成候間天明六年以前迄造来之通造酒可仕旨御触出候間此段町方へ

為相知併今年者凶作水損旁御領分中ハ難被差免候間追而右御触之通可被差免候間夫迄ハ先昨年之通三歩式造りニ致候様可申達旨

与兵衛殿被仰渡右御触書ハ主膳殿方御渡被成其段町方へ相触候且又右御触之通差免候時節当役方相考申上候様与兵衛殿被仰聞候

一竹田村宇助当月朔日夕盗人這入三品被取候触流し取計候様大目附中者被相渡書役へ申付町触取計同廿二日無之旨届出

一和田村市郎兵衛去月廿一日之夕者廿六日之夕迄十一品被盜取候ニ付右触流取計候様大目附中者被相渡右同断取計本書ハ式通共大目附へ差戻候同廿二日無之旨申出ル

一龍野へ差出候安岡町菱屋太助後家口書写并目明孫兵衛口書写御用番御下ケ被成大目附中へ差出

一新魚町三沢屋与八郎悴房吉義伊達与兵衛殿へ出入奉公為仕度人別除願出承り届ル

十一月十四日 快晴

一御蔵米七拾五匁町米七拾匁

一昨日被相渡在方被盜もの触流し而通共大目附へ差戻候

一昨日伺濟候酒直段上ケ願書大目附へ差出

一宮川大橋下夕地面之処ハ町奉行構橋之雨落方上ハ大目附構橋之雨落方下ハ郡代構之由小須賀貢方被申聞仍而者此間之赤子取計も場所違ニ相成候由被申候ニ付左様之訳駈と承知不仕如何様橋下ハ町奉行構之様ニ相覚申ものも有之候得共駈と致候義ハ一向存不申候間御書付ニ而も致拜見度申候所大目附役所ニ而も駈と致候定書無

之由被申聞候付以後御見出被成候ハ、為御見被下候様ニ申達置罷歸り橋下夕行倒もの取計例致吟味候処橋下夕も大目附構場所之由

ニ不残大目附方取計有之候間右例書相認小須賀貢へ差出候

一奈良今井町岡嶋忠兵衛悴庄右衛門老人例年之通筆并刀脇指新鞘充ニ来候段京町美濃屋平五郎宿切手差出翌年二月十六日届ル

十一月十五日 雨

一昨夜更廻り申付候処町分廻り孫八嘉七御家中関貫廻り又六新左衛門無別条旨今朝届出候

一西今町小桜屋庄助諸道具入札差出致開封候処百拾四匁七厘高札ニ付相払候様大年寄へ申渡候後日銀札差出候

一小原屋新吉一件并右博奕懸り明五時取計有之候ニ付夫々江手配申付置

一大目附小須賀貢方申達候義有之候ニ付罷越候様手紙来り罷越候処左之通申渡候様書付被相渡大年寄へ申付大年寄宅ニおゐて申渡相濟候段大年寄方届出其段大目附へ手紙ニ而相届候

先比遊行上人乗船ニ付船方取計之義

御藏元

心得違罷在差懸リ其旨申出可也ニ御間

文五郎

ニ者合候得共全ク取計不行届不埒之事ニ候
依之急度叱申付候以来可入念候

十一月十六日 雨雪

一去ル十三日伺濟之者共左之通今朝取計立合又六孫八新左衛門大年

寄孫右衛門出番昼廻リ佐十郎為治定治嘉七罷出ル

町内小原屋新吉手錠申付

元魚町

預ケ置候処其方共兩人番いたし

紙屋太兵衛

なから取込行衛不相知不届之

同町

事ニ候因之急度可申付候得共

豊嶋屋伝治

憐愍を以手錠懸ケ追込申付候

相慎可罷有候

但日数十日

右ハ於白州書付を以書役申渡

小原屋新吉

其方共組合小原屋新吉義

組合

手錠申付預ケ置候処取込し

嘉兵衛

行衛不相知兼ニ心付薄所方

伊助

右等之義ニおよひ不埒之事ニ候

源治

依之急度可申付候得共用捨を以

太郎兵衛

追込申付候相慎可罷在候

清助

但日数五日

与三兵衛

佐吉

八十兵衛

喜兵衛

其方町内小原屋新吉義〇組合預ケ

月番町年寄

いせ屋

長兵衛

申付候処取込行衛不相知兼ニ
心付不行届不埒之事ニ候依之
急度叱申付以来可入念候

右組合年寄ハ大年寄於宅可取計先格之処後藤時分ニも於「」取

計候義も有之候ニ付右序ニ付於役宅申渡尤小頭部屋目附大年寄立

合計ニ大年寄方申渡候事

博奕参会吟味中牢番預ケニ

安岡町作人左助

取計定治嘉七差向牢番へ

下紺屋町作人勘八

預ケ置候

博奕吟味中之処備前領人別者

山下官弥長屋住

ニ付追払取計左十郎為治

田藏

差向年寄宅ニおゐて出番方当人江

申渡古城村へ送り出し古城村

方受一札取差出候

右田藏義追払取計候段山下官弥へ手紙ニ申達候事

右之者共取計相濟候相濟候御用番ニ大目附中へ手紙ニ申達

一伊勢山田河北助太夫名代辻田善治老人例年之通旦那廻リニ来候段

二階町境屋伊右衛門宿切手差出

一阿州名西郡高原村平左衛門一人例年之通藍玉壳ニ来候段船頭町今

岡屋浅右衛門宿切手差出

一阿州板野郡成瀬村曾右衛門一人例年之通藍玉壳来候段船頭町今岡

屋浅右衛門宿切手差出

一阿州板野郡高房村新兵衛一人例年之通藍壳ニ来候段船頭町今岡屋

浅右衛門宿切手差出

一当町広キ宿屋払底ニ付御代官并雲州家老并御女中等止宿之節大家

之者共へ相頼候^而も迷惑成筋^ニ付断申甚以差支致迷惑候^ニ付以來
者左之者共へ順番^ニ宿致候様被仰付被下候様仕度旨大年寄伺出候
ニ付去ル十三日右之趣御用番中へ相伺候処宜取計候様御差図^ニ付
其旨今日大年寄へ申渡候

御代官^并雲州家老^并女中^御
等止宿之節宿屋無之差支^ニ相成
候^ニ付其節^者順番^ニ宿致候様
申達候段大年寄方頼旁申
達候様申付候

山本屋与三七
山本三右衛門
茂渡庄右衛門
福永屋藤助
川口藤左衛門
三船八郎右衛門

玉置源五兵衛義も御本陣之義故右列^ニ可有之義と孫右衛門孫左衛
門へ考申付候処彼義ハ御本陣之義故御止宿無之候^而も年^ニ式三度
つ、用意等仕候^ニ付相除候^而平等之筋と申出候依之相除候事

一久世御代官早川八郎左衛門殿手代杉田惣四郎方御米津山川岸方積
下候分御藏元今津屋平藏郷藏へ積入置候間例歳之通出火手当^願之
書状来承知之旨及返書大年寄へ例年之通出火手当申付候様申達候

十一月十七日 曇

一牢浚申付昼廻り佐十郎文藏取計無別条旨届出候
一生野御代官稻垣藤四郎殿手代檜山寛左衛門方去ル十四日出之三
浦十郎左衛門^江来書^ニ而御廻米船印鑑之義^并此節御廻米川下ケ申
付候処船差支候^ニ付壳荷物差留呉候様^ニ申来候^ニ付船之義ハ当役
引受之筋^ニ付及返書候様被申聞候得共天明九酉年久世御代所百性
持船^ニ而自分之薪炭岡山へ積下度旨郡代所へ申来候処右ハ差障候
ニ付不相成と申義一卜通り郡代所方及返書候処又々向方方差障と

申計^ニ而者下方へも難申付候間故障之訳委敷申越候様申来其節当
役方船方之義ハ町奉行引受之義故自拙者為御報候旨先例有之^ニ付
此度も夫と同様之義と申達候得共十郎左衛門不致承知絶^而自拙者
可及返書義と被申候故右船方計之義申来候義^ニも候ハ、從拙者可
伺筋^ニ而可有之候得共船印鑑等之義も一所申来候義^ニ付而役方
別々^ニ不及返書候^而も可然義と存殊右先例も有之義故右之通得御
意候事^ニ候得共元来船持ハ拙者支配之者^ニ候得者横着^ニ而懸合間
敷と申義^ニ者毛頭無之候得共未御用番中へ御沙駄^(ツ)も無之義を從拙
者伺可取計義とも不存候間何分其旨御伺被成御用番中も御承知之
上ハ御差図次第返書可致と船方之義委敷申聞候得共兎角不吞込^ニ
而主膳殿へ其旨十郎左衛門方申達候処右門方船方之義ハ可及返書
旨申通候様十郎左衛門へ被仰達候由申来候^ニ付船方取計之義取調
申付候処左之通藏元方申出

口上覚

一船荷自他割合訳

御当地方積出し候壳荷相對荷物船積之砌長岡七ヶ村之船^并
備前田原村船当川岸へ参り居申候得^者右荷物長岡船へ三步
田原船へ三步割合遣し残り四步地船へ積申候其外御他領之
船参候義無御座候尤右割合遣し来候分^者備前方登り荷物御
当地船へ三步^分誤呉候^ニ付此方^ニ而も田原船へ三步積七申候
且又宮尾榑村辺方出候荷物ハ長岡之請方^ニ御座候処是又御
当地船参候ハ、三步ハ積七候^ニ付爰元^ニ而も三步遣し申候
一御当所御登米長岡七ヶ村之船先前方三步通り御用相勤来り残
七步通り自船積来り申候
一御公料御廻米之内当川筋へ積下ケ候分^者長岡七ヶ村之内塚角

村大戸村栗子村小瀬村久木村右五ヶ村之船請負ニ積来申候
尤御当地船宮尾榑村御廻米出候節 向方へ参り候得者 是又三
歩ハ積七申候併此義ハ船頭共相對之義故御役所方御構無御座
候尤右長岡七ヶ村之内押淵村藤原村二ヶ村 御領主大久保様
之御登米引請居候故右二ヶ村 御廻米請負不申候由ニ御座候
一御公料御廻米 長岡五ヶ村ニ限請負居申候假令御差支御座候
而も外々船見懸次第途中方引寄七積七候と申義ハ決而無御座
候尤格別之御差支御座候ハ、夫々御役所江御懸合之上御頼之
義共者可有御座哉無覺束奉存候

右之通船荷自他割合之義御尋被成候ニ付申上候以^(マ)

卯十一月

御藏元 惠三郎
文五郎

同

右之通之趣ニ而爰元之船ニ御廻米積之義ハ無之是迄も渴水年ハ御
廻米請負居候長岡船ニ荷積候義ハ不致候様ニ向方船肝更方爰元藏
元へ申来其段致承知御廻米川下ケ中ハ長岡船ニ荷積不為致候
事之由譬隱荷積為致候而も木知ケ原御番所ニ而通し不申候由既ニ
三四日以前ニも右之通御廻米請負候船ニ荷積不為致候様ニ向方肝
更方御藏元へ頼来此節其通ニ取計居候由申出候

右之通之義先前方下方懸合ニ而相濟来居候処今年初ニ申来^{向方}

長岡船ニ限り候と不申越唯御廻米川ケ中売荷物差留具候様ニと申
来候得共定ニ書面之不審ニ而可有之と存候ニ付御廻米請負居候長
岡船ニ限り売荷物為積申間敷と及返書候尤返書全文ハ書翰認ニ有
之ニ付爰ニ略之尤右下案相認^并右之割合船積之書付差添主膳殿へ
差出相伺候処後刻手紙ニ而宜取計候様ニ申来候付生野飛脚のもの
へ返書相渡候

但十郎左衛門抔も爰元之船之売荷物差留候様ニと之義も難計
様ニも被申至極尤之様ニも一卜通ニ而者相聞候得共兼而御廻
米受合居不申船之義ニ候得者譬差留候而も御廻米積ニ向方へ
ハ不参候故向方之用ニ不立義ニ候得者○弥爰元之船ニ御廻米為積
度と申義ニ候得者売荷不差留爰元之船を借りニ可参筋ニ候間
来書文面ニ而無之義ニ候得共御廻米請負候長岡船ニ限り荷積
差留可申と及返書候義ニ候万々一爰元之船ニ荷積差留候と申
義ニ候得者御城下計ニ不限一國中大難洪之義ニ而江戸御伺ニ
も被成度程之趣ニ相聞候

大年寄共申聞候者今般向方船肝更方爰元御藏元へ右長岡船荷
積差留来候日其朝も致出船候ニ付藏元方其段及返書右頼之書
状披見刻方ハ指留可申及返書候所其朝出船之荷船木知ケ原ニ
而差留其趣船頭共方爰元へ懸合無之内ニ致出船候旨申述致通
船候由御藏元申聞候段申聞弥長岡船計之義ニ相違無之義と被
申聞候

一生野方申来候船印鑑之義ハ郡代所方受答有之候事故不相記之
右之通ニ付公儀御廻米川下ケ中ハ御廻米請負居候長岡船ニ荷積不
為致候様御藏元へ可申付旨大年寄へ申達候

十一月十八日 曇夜雨

一御用日付例刻登城

一脇坂淡路守殿御預り所当国勝南郡湯郷村百性李四郎兄善四郎義材
木町河嶋屋彦左衛門養子ニ引受度人別人願御用番御聞濟ニ付大目
附へ相渡置御聞届申達候^{同廿四日住宅証文差出}

一安永三年遊行来着其前年ニ差越候先触差出候様伊達与吉郎方被申
聞遊行一連之書付入袋之内ニ有之写取今日差出候

一伊勢内宮藤波神主名代松井奎兵衛御師一人例年之通且那廻リニ来

候段二階町境屋伊右衛門宿切手差出

一 鍛冶町北側^ニ 鍛冶長八後家家屋敷表口式間裏行拾七間但五步役
東隣ハ鍛冶屋忠左衛門家西隣ハ横野屋源右衛門借家也右家屋敷代
銀五百匁^ニ 相極鍛冶屋五郎右衛門^江 壳渡度願書差出右願之通承リ
届候^{同廿日壳券状差出}

十一月十九日 快晴

十一月廿日 曇

一 無宿善之丞と申もの田邑村方米納ニ詰米へ罷越候もの、衣類を盜
取御藏奉行中^江 郡代所^江 申参右無宿善之丞郡代所へ受取候由^ニ 付
牢番預け申付候間立合差出呉候様三浦十郎左衛門方申来夜廻りよ
リ立合牢番預ケ取計候

十一月廿一日 晴

一 元魚町小原屋新吉組合追込昨日迄^ニ 而五日ニ相成候間今朝差免候
様大年寄^江 申付候処其段取計相済候段届出其旨御用番^并 大目附へ
手紙^ニ 而相届候

一 三町目真砂屋治助借屋住長門屋宗兵衛悱新吉義今般日下新吉と相
改伊達与兵衛殿へ出入奉公為仕度^ニ 付町内人別除願出承り届ル
一 牢舎人伊右衛門新吉弥市療治今日切^ニ 而二廻り相済候処新吉弥市
ハ休薬候^而 可然伊右衛門義ハ老躰之義寒中ハ持兼趣之旨執ヒ
吉武修格申出候旨大年寄申出牢番方も右同様申出依之新吉弥市ハ
休薬申付伊右衛門義ハ療治申付候様大年寄へ申付候処北村季齋へ
申付候段大年寄申出候

一 御藏米七拾六匁町米七拾式匁

十一月廿二日 快晴

一 二町目伏見屋茂七義壳用^ニ 付大坂大川筋綿屋義兵衛方十五日計之
逗留^ニ 而明廿三日出立願大年寄聞届差出候^{十二月十一日届ル}

十一月廿三日 晴

一 御用日登城

一 脇坂淡路守殿御預り所当国英田郡沢村庄助^并 悱又兵衛右二人福渡
町小文字屋忠左衛門引受度人別入願御用番御聞濟^ニ 付大目附へ相
渡置御聞届申達候^{同七日住宅証文差出}

一 錢通用百壹文ニ相成候段大年寄届出候

一 新魚町南側^ニ 而備前屋勤兵衛所持之家屋敷表口式間裏行拾式間但
三步役也東隣ハ伊勢屋重右衛門西隣ハ魚屋甚助也右家屋敷代銀
四百目^ニ 相極同町加登屋源左衛門へ壳渡度願書差出し承り届ル
^{十二月朔日壳券状差出}

一 遊行出立候節勤書近藤政助差出候

十一月廿四日 晴

一 新魚町櫻野屋茂市郎義製墨^并 扇子商壳今般相始候^ニ 付三ヶ年之間
右細工人南都坂ノ新屋町墨屋久兵衛^并 右同所三条通下町墨屋久三
郎^并 扇細工人大坂嶋之内油町老目^并 和泉屋半兵衛悱清八右三人召
抱置細工為仕度之旨願書差出承り届ル

一 手嶋流講尺七話人御賞詞調豊屋喜左衛門差出

十一月廿五日 雨

一 本覚寺義町中寒中念仏修行本蓮義右同断題目修行伺濟之由寺社取
次後藤郷助方通用有之大年寄^并 小頭^江 申聞置候事

十一月廿六日 曇

一元魚町小原屋新吉組合紙屋太兵衛豊嶋屋伝治手錠追込昨日迄^ニ而

十日^ニ相成候^ニ付今朝呼出し大年寄小頭部屋目附立合^ニ而手錠追

込差免候段申渡尤出番兩人差向召連出候事右差免候段大目附御用

番中へ手紙^ニ而相届候

十一月廿七日 快晴

一今晚入寒^ニ付寒中御機嫌伺平服^ニ而四時揃五半時惣登城御奏者番

方三奉行迄例之通於七間廊下御小性代謁有之上席御奏者番方寒中

御機嫌伺申上之末席方引取其外^江者寒中之不及挨拶支配頭寄親へ

寒中見舞相勤候事也

一船頭町元屋市右衛門所持之家屋敷南側^ニ而表口三間裏行七間五寸

但杵軒役也東隣ハ錢亀屋孫四郎西隣ハ高松屋藤吉右家屋敷代銀

三百七拾匁^ニ相極小性町瓜生原屋平吉へ売渡度願書差出承り届ル

^{十二月廿七日売渡状差出}

十一月廿八日 快晴 夜雨

一御用日例刻登城

一問屋目附御賞^并手嶋流町講釈師^并世話人御賞之伺書御用番中へ差

出右扣別帳^ニ認置候故爰^ニ略之

一脇坂淡路守殿御預り所当国勝南郡瓜生原村半治郎悴吉兵衛一人桶

屋町小座屋利助引受度人別人願御用番御聞濟^ニ付大目附へ差出置

御聞届申達候^{十二月九日住宅証文差出}

一芸州高田郡甲立村定四郎悴利七桶屋町桶屋はや借屋住哥野屋平六

養子^ニ引受度人別人願右同断取計濟^{十二月九日住宅証文差出}

一豆腐直段十月十八日十八文売^ニ相願候処大豆高値^ニ相成候^ニ付

十九文売^ニ直段上ケ仕度左之通割合書を以願出右同断取計濟

一杵匁式分七厘 大豆式升但六拾三匁五分かへ

一三分 薪代

×杵匁五分七厘 十丁分元入

拾九文^ニ売立杵匁八分八厘

内杵匁五分七厘 元入引

残^而三分七厘 手間代

一京町畳屋宇三郎裏御堀へ塀覆式間計御堀^江崩込候^ニ付取繕仕度足

代下し願書大目附へ差出御達相濟候^ニ付勝手次第^ニ御作事へ致案

内候様^ニ申達ス

一山田新三郎龍野へ菱屋後家差添^ニ罷越候節当六月之臨時入用百疋

と銀杵匁と三匁と之書付^并十月罷越候節臨時入用百疋 杵匁 三

匁 式匁之書付両通差出自拙者大目附へ差出右之通御勝手へ御達

被下候様^ニ申達候処承知^ニ候

一先達^而松岡治部助へ差出置候人馬問屋助郷之義明石姫路へ聞合之

書状被差戻此趣^ニ而者助郷之義も難取計候旨被申聞候

一於御用所大目附出席左之通被仰渡候

町奉行へ

茂渡藤右衛門悴兵吉

玉置卯左衛門悴忠四郎

三船八郎右衛門悴要四郎

右之者共札元見習申付候此段可被申渡候以上

右之通主膳殿方被仰渡候^ニ付親元へ悴召連出候様^ニ奉書差出ス

但玉置卯左衛門義ハ他国行留主中^江付札元中として卯左衛門悴同

道罷出候様ニ奉書差遣候

一遊行人馬弘方備中松山へ佐右衛門方文通ニ而聞合候様伊達与吉郎被申聞候ニ付其段源五兵衛へ申達候

一播州広峰魚住藏人上下三人罷越候段京町花屋権兵衛届出尤藏人も来候尤例年之通三人入扇子箱持参致受納候事十二月十二日届届ル

一但馬生野御代官稻垣藤四郎殿手代中沢良右衛門高橋督三郎方例年之通当卯正月方十二月迄之錢相場書来正月上旬ニ取可越候間調置吳候様頼之書状来例之通及返書

一小頭大年寄出席左之面々老入つ、呼出於座敷申渡銘々江書付相渡候

札元見習 被 仰付候

父藤右衛門同道 茂渡兵吉
父他參ニ付同役武田十郎兵衛同道 玉置忠四郎
父当稱ニ付同役茂渡庄右衛門同道 三船要四郎

右申渡相濟候段大目附并御用番中へ手紙ニ而相届候

一是迄世上物騒成ル沙駄(マツ)も無之候得共最早時節柄之義故来月朔日方例暮之通町方拾老町廻リ非人加廻リ式組可申付旨御用番中伺濟ニ付大目附へも及噂置大年寄へ申付候

一牢舎人伊右衛門病氣差重り候段牢番方申出医師方も其旨届出容躰書差出郡代所へ相達候

一番賃錢大年寄差出候

一近藤政助方遊行中勤書差出候

十一月廿九日 快
十一月晦日 大雪

一関貫番賃錢例月之通相払候

一大目附小須賀貢方御手廻リ被召抱候ニ付寄七人相触候様ニ中奥目付方申立有之候間宜取計候様手紙ニ而申来依之中奥目附土岐雄助へ何日頃迄ニ申出候様ニ可相触哉と尋出候処来月十三日迄ニ申出候様相触度旨申来候付其段相触候様ニ大年寄へ書付を以申渡候

一阿州名西郡桑嶋村武右衛門手代銘右衛門一人例歳之通藍玉売ニ来候段京町今子屋半兵衛宿切手差出翌年五月廿四日届ル

一阿州板野郡中留村兵助手代佐助一人右同断来右同人宿切手差出右同断

一阿州名西郡桑嶋村平治兵衛手代庄助一人右同断来右同人宿切手差出右同断

一摂州有馬辻堂茂兵衛一人例歳之通筆白粉売ニ来候段中之町甲屋幸助宿切手差出

一播州網干余子浜菊屋弥十郎悴源治郎一人例歳之通小間物売ニ来候段右同人宿切手差出

一播州網干新在家伊部屋清六一人例歳之通塩物鯉節卸売ニ来候段右同人宿切手差出

一大坂淀屋橋筋梶木町河内屋甚七手代宗兵衛一人例歳之通桃灯張替ニ来候段右同人宿切手差出

一作州大庭郡社村義右衛門と申もの西国順礼ニ罷出若州大飯郡長井村ニ而相煩同所ニ而療養相加へ追々快氣ニ趣候得共歩行難相成願

ニ付酒井修理大夫殿内若州大飯郡代官佐藤土岐介本多小兵衛送り状を以送り来候段川部村方申出候ニ付送り遣候様申付候旨郡代三

浦十郎左衛門方通用有之先格之通送り届候様大年寄へ申付候

十二月二日 快晴

一 於町方他之者罷越豊屋商売勝手次第致候而も不苦候哉と郡代所方尋有之役所而も急ニ難相分大年寄共へ相尋候処株と申義も駈と不相覚勿論被仰出之御定も不相覚候得共是迄之致来於町方ハ當時豊商売之外之ものハ豊屋の弟子ニ不相成候者商売不相成致来候旨豊屋共へも内々相尋候処大沢三平時分ニも他之者来豊商売致豊屋仲ケ間方差留其節役所江も申出候処差図者不相成候得共致来候得者先其趣ニ致置候様ニ移も有之候由豊屋共も申候旨齋藤孫右衛門申出候付尚又同役申談得与相糺置候様ニ申付置三浦十郎左衛門へも先右之趣申遣置候翌年二月七日之処ニ記置候

一 御年寄伊達与兵衛殿大坂御用ニ付去ル十九日被致出坂候

十二月 大

月番

御家老 永見造酒助殿

御年寄 山田主膳殿

大目附 伊達与吉郎

大年寄 藏合孫左衛門

十二月朔戌 旦 晴曇

一 遊行上人来着出立逗留中人馬間屋小入用小手形間屋方差出候旨大年寄差出及一見差戻候但入用ハ高百六拾六匁八分式厘

一 柔姫様御義向後極字相認候様大目附廻状到来写取組中へ差遣候
一 柔姫様御義大和守様御嫡直丸様江御縁組御取結被成候段為御知大目附廻状到来写取組中へ差出但右等之為御知ハ町方へハ不相触恐悦御帳付之節廻勤之義計年寄以上へ申達候先格也尤直姫様之御縁組之節右之取計也

一 柔姫様御縁組御取結被為濟候ニ付右恐悦申上有之候間明三日四時麻上下着用登城候様ニ大目附伊達与吉郎方三奉行連名之手紙到来

十二月三日 雨

一 柔姫様御縁組被為濟候恐悦申上ニ付三奉行已上麻上下着用四時登城例之通於七間廊下御小性頭謁御奏者番方三奉行迄一同罷出上席御奏者番方柔姫様御縁談御取結被為濟候恐悦申上候旨申上之末席方引取

但三浦十郎左衛門当病不參断頼来其段大目附へ相届当病三浦十郎左衛門名代増見右門と名札ニ相認大目附役所江差出置七間廊下而申上候節一同申上相濟七間廊下ノ敷居外迄引取又立掃り右之通申上十郎左衛門名代相勤候事

右早而三奉行一同御用所江罷出上席当役方右恐悦申上之早而御用向申述之上席方引取引懸ケニ「附所へ恐悦之挨拶申述之事

一 馬持共廿五人例歳之通卷人ニ付大豆式俵半つ、拝借之願書差出勘定奉行へ懸合候所存寄無之旨ニ付御用所へ申「御聞濟ニ付右願書大目附へ差出置御聞届申達候

一 二階町名木屋喜助後家離縁之聲と公事御裁許書御用番へ伺置候
一 宿屋株之者共願ニ付町触可取計之旨御用番中へ伺置候

一遊行上人來着取計人馬問屋証文大年寄與印_ニ而差出與_一取計

一仙石越前守殿領分百々村化藏寺_ハ三門屋茂十郎_ヘ盜賊筋懸り合一
件取調帳式冊大年寄_ヲ差出遂熟讀大年寄藏合孫左衛門_ヘ差戻預り
置候様申渡候

十二月四日 曇

一宿屋株之者共願_ニ付町触_并二階町名木屋喜助後家願書昨日伺置候
通取計候様御用番中_ヲ手紙_ニ而申來候

一札元見習茂渡兵吉玉置忠四郎三船八郎右衛門右三人印鑑大年寄_ヲ
差出候

十二月五日 曇

一牢舎人伊右衛門療治今日迄_ニ而二廻り相濟候_ニ付明日_ヲ中村易安
_ヘ申付候段大年寄届出_并牢番_方も届出候

一牢浚申付昼廻り孫八佐十郎差出候所無別条旨届出候

十二月六日 晴

一宿屋株之者共_方願書差出近來無株之者宿致候_ニ付差留候様願書差
出依之願書之趣御用番中_ヘ差出以來宿屋株之者共も他所もの連日
無願差置申間敷_并無株もの他所もの一夕_ニ而も差置申間敷宿屋株
之もの_方も遂吟味候様_ニ触書可差出候旨伺濟之上今日町触_一出
候大目附_江も相達候事

一二階町名木屋喜助後家養子離縁後娘致妊娠候_ニ付養子_方相構可申
義と訴出右養子_ニも答書為致_并仲人大年寄場合_ニ而遂吟味候処急
度夫々筋立町内送り等も差遣候上妊娠相頭候由_ニ相違無之依之其
旨御用番中_ヘ相伺筋立離縁後之義_ニ候得_者養可差構筋無之_ニ付願

御取上ケ無之差戻候旨申付候様大年寄_ヘ申付候

一福渡町板屋幸助方_ヘ一昨四日夕八ツ時分表部を迹シ盜賊入込

白袖老反 加賀絹半疋 白木綿三反 木綿染地老反 嶋木綿老
反 銀二丁四拾五六匁位 南鐮二片 銀札式百三四拾匁計

被盜取候旨届出_差出目明_方も右之趣_并夜前西今町常屋と申もの_方
_ヘ盜賊這候旨小頭を以申出依之町方老町切_ニ四ツ時_方明ケ迄全躰

手から手_ヘ渡引廻候_ニ嚴敷夜廻り致候様大年寄_ヘ申付其段御用番
御宅_ヘ罷越相届右願書も差出大目附_ヘ者手紙_ニ而町方物騒之趣_ニ

付今夕_方嚴敷夜廻り致候様申付候段申達候

一目明孫兵衛此節瘧疾相煩候_ニ付仮役申付呉候様願出桶屋町吉田屋
平助_ヘ目明仮役申付候

一東新町橋本屋茂右衛門借屋住作人金吾去月十一日罷出不罷帰候段
届出百日尋申付候

一福渡町南側_ニ而作人佐助家屋敷表口式間裏行拾三間但半役也西隣
ハ作人庄兵衛東隣ハ作人宗七借屋也右家屋敷代銀札百匁相極同町
作人宗七_ヘ壳渡度願書差出承り届ル_{同七日壳券状差出}

十二月七日 晴

一勢州朝熊岳明王院使僧休可坊悅中坊宝藏坊儀中坊上中八例年之通_マ
且那廻り來候段小性町肥地屋繁藏宿切手出

一京都愛宕山長床坊使僧柳意坊上下二人例年之通且那廻り_ニ來候段
右同人宿切手差出

一上紺屋町北側_ニ而作人庄兵衛家屋敷表口式間裏行拾壹間壹尺但式
歩五厘役西隣八角屋八左衛門借屋東隣八灰屋与右衛門借屋也右家

屋敷質物ニ書入来辰三月切月式歩之利足ニ而下紺屋町福住屋吉左衛門取次ニ而銀札百匁借用之願書差出承り届同月日本証文差出

一御領分西北条郡香々美藤屋村佐平次倅金四郎一人戸川町作人金十郎役介ニ引受度人別入願下方引合相濟差出承り届

一西今町常屋文兵衛方へ去ル五日之夕八ツ時分裏方盜賊這入

立嶋古とき表一浅黄繼裏添 横袖半てん綿入一 袖なし羽織一
但木綿織 嶋女單物一 白切木綿二切 古つき品々 紙入一内銀札拾六七匁入 蠟燭四十挺 売酒錢筒 〆九品

右届書差出候ニ付明日御両所へ申達町触可取計事

一安岡町出屋太郎兵衛義米船積之義ニ付馬方と出入出来双方願書差出候処大年寄場合為筋立内濟取計候由大年寄申聞承り置

十二月八日 曇雨

一御用日例刻登城

一備前赤坂郡神田村百性平右衛門夫婦并倅藤吉并娘并平右衛門弟柳

七以上家内五人安岡町岡崎屋善吉後家茅町借屋家守太助引受度人別入願御用番御聞濟ニ付大目附へ差出置御聞届申達候

一西今町常屋文兵衛被盜もの届書御用番へ差出并此間之福渡町板屋

幸助被盜もの届書も一所ニ御用番へ差出市郷御触流被仰付被下候様申達置後刻大目附中郷中触流取計候様自拙者郡代中江相廻候

様被申聞持参十郎左衛門へ相渡ス并町方触流差出候

一去ル六日町触取計候宿屋株之触今日大目附中へ差出

一上原彦藏并三浦十郎左衛門当病不参頼来大目附中へ申達并御用向取計候

一備中小坂部水屋弥之助殿内近藤武左衛門中嶋幸右衛門方去ル五日

例歳之通相場書相廻候為挨拶釜敷紙二束差越先格之通及返書

一目孫兵衛龍野表へ差遣候諸人用式百拾卷匁九厘証文差出「取計候尤關所銀之内方御払被下候ニ相極居候事

十二月九日 晴風

一久世御代官早川八郎左衛門殿支配所大庭郡余野下村兵治郎方新魚町弓削屋太助へ菜種代不埒ニ付貝塚五郎藏内藤大右衛門方添簡持参兵治郎代人源治郎出訴候ニ付宿紙屋助右衛門方差出依之御用番へ持参仕尚当人呼出相札相違も無之義ニ候ハ、濟申付其上ニ而返書認可相伺旨申達候処御承知ニ付其段大目附へ手紙ニ而相届今九時弓削屋太助召連出候様大年寄へ申達夫々立合手配申付候尤右添簡夜前来候右序ニ付大工竹治も呼出候様ニ大年寄へ申付候

一大目附中廻状到来今崎栄藏并倅平吉右面名之者有之候ハ、其所留置来ル十三日迄ニ有無共ニ可申出旨御触書到来写取町方并組中牢屋三軒屋高石垣番迄相触来ル十二日迄ニ有無共申出候様ニ相触候

一大年寄小頭部屋目附書役立合ニ而左之通申付ル

早川八郎左衛門殿支配所大庭郡余野下村

新魚町

兵治郎煩代源治郎方出訴之趣相違無之旨
ニ付右買懸り代急ニ相濟候段早々可申出候

弓削屋太助

一大工竹治当時材木町河嶋屋彦左衛門義立合右之通ニ而呼出候大工庄兵衛と遺恨之義相糺候処致納得大工庄兵衛義誤一札致候ハ、願書「印形いたし可遣とさつと相濟候

一牢舍人伊右衛門致病死候段牢番義右衛門届出其段郡代所江申達候死骸見分御徒目附下目附郡代下代被差出候事故其節小頭部屋目附

立会见分差出右見分差出候段計御所江可届先格也旧格ハ郡代所御仕置ものニ小頭部屋目附差出候而も不及届候事

一 田渚右源太長屋住甚六夫婦二人福渡町阿賀屋助治借屋住小兵衛引受度人別人願差出承り届ル

一 材木町梅鉢屋助左衛門所持之旅籠屋株当卯十二月方来未ノ年まで五ヶ年之間橋本町因幡屋磯右衛門借り受商売仕度願書差出承り届ル

一 「儀御廻米積切候段郡代所方申来其段大年寄へ申達候

一 牢舎人伊右衛門病死見分暮前時郡代所方申来牢屋出入夜中ハ不致例ニ付及断候処明朝五ツ時見分可致旨申来其段小頭へ申付候

十二月十日 晴風

一 牢舎人伊右衛門病死ニ付死骸見分御徒目附妹尾九十郎下目附中村林平郡代下代木村金治同心組小頭川端又六部屋目附三船新治五ツ時差出別条無之旨届出其段御用番并大目附へ手紙ニ而相届ル尤死骸ハ山北村へ引取被仰付候由郡代所死骸出牢切手相廻り役所手形ニ認かへ差遣候

十二月十一日 晴曇

一 公儀御廻米積切候段今津屋平藏届出候

一 公儀御廻米相済候段御蔵元へ申来候得共役所方御差免無之候間長岡船ニ御登七米為積候義も不仕相待罷在候長岡船も来居候間御免有之候者今日方も御登米為積可申旨御蔵元伺出候段大年寄申出未役所江通用ハ無之候得共大方相済候義ハ通用も有之間敷候下方ニ而向方御蔵元へ弥通用有之候義ニ候ハ、苦かる間敷候間可然様

及差図可申之旨申渡候

一 播州広峰社人魚住藏人明日日出立候ニ付暇乞罷出候

一 元魚町久保木屋嘉兵衛借屋住源助一人此度三木覚太夫長屋へ引越度人別除願差出し承り届ル

十二月十二日 快晴

一 公儀御廻米此間三浦十郎左衛門方積切候段通用有之其趣申達置候処又々今日公儀御廻米積切候段此間心得違ニ而及通用候処昨十一日切ニ而積切候段断旁為知有之其段大年寄へ申達候

一 中尾藤助妻女子出産之段小頭又六届出候

一 御領分久米南条郡大谷村和平次役介忠治と申者小性町挽屋ひろ養子ニ貰受度人別人願承り届ル

一 橋本町長崎屋代助阿州徳嶋西新町松井屋善兵衛方へ商売躰ニ罷越来ル十五日日出立仕来辰ノ年十二月迄卷ヶ年之間逗留仕度願書差出し承り届ル

一 新職人町坂本屋源兵衛後家持来候古道具屋株二町目小倉屋「吉讓受商売仕度願書株札差添差出承り届右株札御作事ニ而しらせ七名面相認替翌十三日申渡候様大年寄へ相渡候

一 御用番主膳殿方一名之御奉書到来右門義御用之義有之候間明十三日四時登城候様申来例之通及御受

十二月十三日 曇

一 御用日登城

一 拙者義被為召候ニ付罷出候段大目附へ相達役所ニ扣居候処宇治橋之間江相廻候様申来於焚火之間御用番主膳殿方左之通被仰渡候

遊行上人來着之砌致出役太儀^ニ 増兒右門

思召候

右御礼申上^并大目附役所へ罷出御礼申上候処御意御達^ニ者不及廻勤候間御用所へ御礼^ニ不及罷出大目附^方被申聞候

一 於御用所大目附出席遊行懸り左之面々別紙之通御賞申渡候様主膳殿^方被仰渡候

大年寄 御使者宿 町医師 御藏元 寺詰町 先僧案内 人馬

問屋 式步中買 髮結 導引 山城屋

右早^而於大目附役所左之面々も賞詞申渡候様被申聞候

大工町棟梁 町大工 賄方町人 晝屋

右^ニ付大年寄源五兵衛へ直奉書差遣齋藤山三郎へハ父孫右衛門召

連候様直奉書差遣し町医師^方人馬問屋迄ハ大年寄召連出候様奉書差遣又式步中買以下ハ大年寄宅^ニおゐて為申渡候事但大年寄ハ於座敷申渡町医師^ハ使者之間^ニおゐて申渡其余ハ不殘於玄關申渡候事申渡文段別帳有之^ニ付爰元略之右申渡相濟候段翌朝御所へ相届候

一 御尋之今崎栄藏同悴平吉と申名面町方裏借屋迄遂吟味候処無御座

候旨大年寄書付差出^并小頭部屋目附^方支配之組中高石垣番迄遂吟味候処右同名之之^モ無御座申出其段大目附へ口上^ニ而相届候

一 大目附^方以前牢番相勤候大谷栄藏と申もの類名^ニ而疑敷もの^ニ付父子共召捕置候様被申聞當時美濃職人町^ニ居候由^ニ付小頭^并出番

昼廻り四人御城へ呼寄申付候処栄藏悴天徳と申ものハ勘当もの^ニ而當時爰元^ニ「^レ」不申由^ニ付出番兩人差遣右栄藏組合預ケ^ニ申付候

様申付悴天徳義ハ急^ニ召捕候様^ニ目明へ可申付旨又六へ申付ル後

刻出番罷帰り栄藏預ケ申付置候段申出候^ニ付吟味筋有之候^ニ付召連出候様大年寄へ申付ル右天徳義ハ當時大坂^ニ而入牢致居候由目明申候旨又六申出候

一 三浦志摩守殿領分当国真嶋郡鹿田村武兵衛持來候天明八申年公儀

書上ケ相濟候造高三百七十石造酒株中之町和泉屋三郎助讓受度願差出先達^而江戶表御留^主居へ承り合候処一國中ハ領分違^ニ而も譲り

受不苦義^ニ付先方役人へ懸合之上承り届可然旨申來候^ニ付勝山役

人渡部唐兵衛神原九郎左衛門へ問合之書状下案差添御用番へ差出候処思召無之其旨取計候様被仰出其旨大目附へ相達右^ニ付明朝立

飛脚差遣候間被仰付被下候様申達候所承知^ニ候^而夜^ニ入御飛脚杉

山源藏來書状相渡

一 三浦志摩守殿領分当国真嶋郡勝山今屋くに娘義西今町福本屋伊之

助妻^ニ去寅四月引受候処此度離縁仕差戻度人別除願書差出御用番御聞濟^ニ付大目附へ願書差出置御聞届申渡候

一 西今町三倉屋善四郎後家悴栄治義兼^而不行跡其上出奔仕候^ニ付三

ヶ年已前義絶勘当仕候処當時倉敷村^ニ罷在先非を悔相歎候^ニ付勘当差免度人別人願書差出右同断取計済

一 安岡町綿屋万吉方へ去ル九日夕八ツ時分奥之縁雨戸^方盜賊這入着類木綿類三德類^ニ至迄廿一品銀札五拾匁被盜取候届書差出候御用

番へ差出し市郷触流し被仰付被下候様申上置候

一 公儀御廻米船積相濟候段向方^方小桁番所^江も相断候由懸^ニ飛脚を以郡代所へ通用有之候^ニ付昨日為知有之候段三浦十郎左衛門申聞

候

一 大年寄内々申出候者 当年公儀御廻米運賃引合不申故^受負之長岡船

不出精いたし御差支ニ相成候由右ニ付久田岩田森原辺之船持共平
日備前迄売荷物積下ケ相成候様被仰付候ハ、相働可申旨申候処〔
義者^追而如何様ニも可相成と御役人申候付船持共銘々損失いたし

御廻米御用相勤候由之風聞有之必定不遠内々可致通船候間小桁御
番所ニ御差留置被下候様仕度蔵元共内々歎出尤先年宝曆六年子
四月久世役所切手ニ而筏乗下ケ候節船頭共小桁御番所^江相頼差留
夫方願書差出懸合ニ相成以後不相成方ニ相濟其後寛政元酉年四月

中谷村下分磯右衛門持船ニ而炭薪備前へ積下ケ度旨懸合有之候処
願書差出相濟候段^并昨年中測賀〔綿積下ケ之義も及断相濟候義
共具ニ十郎左衛門へ相咄置此段小桁御役人へ差合居候様ニ被仰聞
被下候様申達候所承知ニ候

一 柔姫様御義先月廿三日大和守様御嫡直丸様へ御縁組御願書市岡丹
後守殿を以被差出候所御受取被成候段為御知之廻状大目附中方来
組中へ相触候

一 今日組合預ケ申付候美濃職人町中屋栄藏呼出し小頭部屋目附書役
大年寄立合出処相尋候処祖父以来大谷と相名乗り御作事相勤今崎
と申苗字ハ親類縁者ニも無之子供ハ男女二人切ニ而右男子徳治二
郎吉忠吉と申当五月勤当仕候由申之口書印形取之明朝大目附へ可
差出事
六月アリ

十二月十四日 曇

一 柔姫様御願被為濟^并昌丸様御袴着被為濟候為御悦来ル十八日三奉
行以上申上有之候間麻上下着用四時登城仕候様大目附中演説有

之候旨上原彦藏方通用有之

一 美濃職人町中屋栄口書大目附へ致持参口書之通紛敷義も無之唯同
名と申計ニ而差構之筋無之此上ニも疑候得^者勘当之忪大坂^江罷出
被召捕候哉之程難計と申計ニ候得共是以久離願濟候上ハ貪着有之
間敷筋と存候間組合預ケ差免可然哉ニ存候旨申達候処又候種々と
申談之上如何様左様ニも可有之候間其旨御用番中へ申達口書被差
出候様ニと挨拶有之依之主膳殿へ罷越右之旨申上右口書差出置罷
帰候

一 遊行上人来着之砌役懸り之者共御賞昨日被仰出候通夜中迄ニ申渡
相濟候段御用番^并大目附へ手紙ニ而相届候

一 西川役人平沢助八富田与次左衛門方例年之通寒中為見廻經節三連
^并酒式升相送り及相答
十二月十五日 快晴

一 大目附伊達与吉郎方呼ニ来罷越候処昨日口書差出候美濃職人町中
屋栄藏義口書大坂表へ被相廻候ニ付栄藏義牢番預ケ申付候様御用
番中被仰出候旨被申渡候ニ付牢番預ケ^而者不相当之旨申達候得

共甚不承知之趣ニ付其旨御受致罷帰り出番新治差向牢番預ケニ取
計尤右之通不相当成義不便之事ニ付例^ニ者不相当事^ニ者候得とも
揚屋へ入置夜具等も望之通入遣中間取扱ニ致候様ニ牢番へ申付候
尤独身もの、義ニ付組合方賄申付候様大年寄へ申渡候右取計相濟
候段御用番へ手紙ニ而相届大目附へも右同断相届栄藏口書致置
大目附中差^{差出}候

一 三浦志摩守殿内渡部唐兵衛柳原九郎左衛門へ昨日遣候飛脚今日罷

帰リ造酒株讓渡之義向方^二而も承知^二而差構無之候間聞届遣候様
^二返書申来^并公辺へハ相届不申可相濟之旨申来右返書^并和泉屋三
郎助願書共御用番へ手紙^二而差出候

十二月十六日 快晴

一中之町和泉屋三郎助勝山領方造酒株三百七石讓受願之通御聞届被
成候間宜取計候様夜分御用番中^方手紙^二而申来其旨大年寄へ申達
今般右取計相濟候段大目附へ手紙^二而相届候
一西今町孤独半兵衛後家病氣差重り届出當時御扶持不被下候事ゆへ
無別義死去届候ハ、勝手次第葬致候様^二大年寄へ及差図候
一牢舎人^一ノ宮村音松義吟味^二付呼出候間牢屋立合出呉候様郡代所
方申来出番孫八差向出牢取計晩方入牢文藏差向取計

十二月十七日 雨

一西北条郡新田村喜右衛門夫婦悴熊治右三人西今町玉屋吉右衛門引
受度人別入願下方引合相濟候段大年寄申出承り届
一非人頭へ例暮三人^江沓俵被下^并廻之字羽織代^并目明非人扶持当月
朔日方十五日迄之分大年寄受取証文差出し奥印取計候
一御廻米今日迄^二而積切候段御藏元熊野屋文五郎届出候

十二月十八日 小雨

一昌丸様御袴着被為濟^并柔姫様御縁談御願書御受取被成候恐悦申上
^二付三奉行已上謁有之麻上下着用四時登城例之通於七間廊下御小
性頭謁御奏者番已下三奉行迄一同罷出右恐悦申上末席方引取早^而
御用所^江罷出恐悦申上統^而御用向申上之上席方引取引懸^二大目附
^江も恐悦之自分挨拶可申述筈之処不斗心得違御用所^江恐悦不申上

御用向計申上^并大目附^江も恐悦之不及挨拶沙^{マツ}駄なし^二相濟候

一板倉周防守殿領分備中哲多郡八鳥村長右衛門悴清助一人戸川町山
手屋伊助引受度人別入願御用番御聞濟^二付大目附へ右願書差出置
御聞届被成候段大年寄へ申渡候同廿六日住宅証文差出

一新職人^{マツ}作人佐七雇人庄助と申もの去ル十四日暮六時過大番所西今
町入口^二而女着青梅鳴くるり綿入沓拾候届書差出張紙可申付旨御
用番中伺濟大目附^江も申達其旨取計候様大年寄へ申付ル

一福渡町阿賀屋助治借屋住藤右衛門悴藤吉義当卯十五歳罷成兼^而不
所存もの其上当月朔日出奔仕行衛不相知候^二付親類義絶勘当仕度
願御用番中御聞届相濟右之通取計相濟^{同廿六日証文差出}

一久世早川八郎左衛門殿御代官所大庭郡余野下村兵治郎方新魚町弓
削屋太郎へ菜種買代滞り去ル九日記置候通取計置候所内濟相濟濟
口一札訴訟人方差出候^二付貝塚五郎藏内藤大右衛門へ返書下案相
認御用番^一伺候処思召無之其通取計候様手紙^二而被仰出返書取
計濟口一札写差遣候尤大目附へ右之段相届書類差出置候

一林田上之町権治方^江這入候旦度村盜賊幸吉義当八月廿一日郡代所
^江引渡委細八月廿一日之処記置候右盜賊其節引渡之義先例等被書
出承知^二者候得共未御評義中之義右盜賊光嚴寺外屋敷^二而蚊屋盜
候義有之候^二付町奉行所^二而吟味有之候様被仰付候度郡代中より
申達^二付何れ^二も此盜人ハ郡代所方引渡候ハ、受取当役所^二而遂
吟味候様主膳殿被仰渡奉長候旨御受申上候右盜賊引渡之先例并書
ハ八月廿日之所^二記有之候

一若君様御髮置被為濟候御祝頂戴仕度配當場願出候段大年寄申出先

例明和元年申十二月十九日竹千代様御髮置御祝被下候例有之大目附へ承合候処十一月二日御髮置御祝義被為濟候由ニ付其段御用番中へ相伺候処御聞濟ニ付大目附江申達大目附方勘定奉行へ通用有之大年寄へ御聞濟之段申渡候

一大目附伊達与吉郎方御目見医師当時払底ニ付二三人被仰付可然旨御用番中へ申達置候間名面認差出候様被申聞差出候伺帳ニ記置候故爰略之

一大目附伊達与吉郎方先日善心死骸見分之節相牢之もの罷出死骸致取扱候段御徒目附下目附届出候如何成義ニ候哉と察度有之候ニ付又六新治牢番義右衛門呼出し相糺候処義右衛門申候者番子牢内へ入候義ハ不致先格ニ而牢内へ為這入候節穢多頭江申遣穢多頭方差越候穢多か牢内入候得共番子ハ決而牢内江者不入義致来ニ付先格死骸見分之節ハ相牢之者牢口迄持出し夫方番子受取取計候先格ニ而善心死骸見分之節も相牢之もの致世話持出し牢口扱く甚難働所場故相牢之者一寸牢口迄出候得共直ニ這入申候由申之又六新治ハ其所恥と不相覚甚不念之段恐入候旨申之依之与吉郎宅へ罷越右之段申達何れ不埒之義向後ハ相牢之ものニ取扱不為致候様ニ付申付候得共今般之所実ニ見分之節相牢之もの致取計候哉又ハ牢口迄出候義哉此段恥と相分次第御咎之申付方も可有之候間得と御糺被下候様申達候処何分今一応得と相糺候上可申達と被申聞候三船新治申候者牢之封印牢番切錠を明ケ善心出候上ニ而見候由申之封印を牢番一人ニ而切候義ハ有之間敷筋と相尋候処いつも立合封印を切候義ハ不仕跡ニ而封印為見候由申之候ニ付夫ハ甚不埒之取計

以来ハ互ニ声を懸ケ立合ニ而封切候様ニ可致其段何れも演達致候様ニ申付候

一伊達与吉郎方呼ニ来即刻罷越候処常盤屋善兵衛後家こま義徘徊御免之処馬場半助長屋ニ致住居候由ニ付同心組差向召捕候様尤今明日之内ニ而も不苦候間問を遣主人江者不申達首尾能召捕候様被申聞出番孫八嘉七呼出得と申含^差向候処今夕ハ間ニ遣候人ニも故障有之殊ニ馬場奥之土蔵ニ致住居候由ニ候得者無案内難踏込夜中之義旁以難召捕候間明朝呼出し途中取ニ可仕旨申出其通ニ可取計旨及差図候

一大目附中方廻状到来女院様去月晦日崩御ニ付今日方廿日迄三日之内鳴物高声御停止尤普請ハ不苦旨御触到来写取町方并組中牢屋三軒屋番迄相触候様ニ小頭并大年寄へ例之通申達候

一去ル十三日申渡候遊行ニ付寺院并山城屋善左衛門へ被下もの相廻り大年寄へ相渡候

一大年寄三人例年之通御手当頂戴仕難有仕合奉存候旨御礼罷出ル

十二月十九日 曇

一馬場半助長屋住常盤屋善兵衛後家こま召捕ニ新治百蔵差向候処途中北郷門兵衛前ニ而召捕来一ト通り承り糺候処当七月方馬場方へ折々参居候由申候得共半助賄を給候ニ而も無之自炊ニ而相暮候趣ニ付直ニ手錠懸ケ御中隱中ニ付牢番預ケ申付其段御用番并大目附へ手紙ニ而相届尤半助へも右之通被仰付同心差向候処途中ニ而召捕候段案内手紙を遣ス尤追而可及差図迄牢屋賄ニ取計候様牢番へ申付置

一牢舎人美濃職人町中屋栄蔵義食事取扱憐愍を以中間取扱ニ為取計置候処元来可致牢舎もの中間扱ハ致間敷筋ニ付当分相頼為取計置候而も永々之義逆も可行届筋而も無之ニ付今日日穢多取扱ニ申付ル右ニ付此節加人下番中間も出候事故内々小勘者三浦伴左衛門へも懸合置候事故此段申達候

一遊行御用懸リ町御賞之内ニ賄方引受相働候三人江鳥目老ハ五百匁ツ、被下と大目附中方書付相廻リ其段申渡置候処右被下もの今日勘定所方老人分相廻候ニ付三浦伴左衛門へ尋遣候処賄方三人江老ハ五百匁被下之伺ニ候由申来候ニ付其段大目附伊達与吉郎へ相届置候

一若君様御髮置御祝来ル廿三日座頭共へ割渡候段配當場届出候段大年寄届出候

一林田上之町半平夫婦母粹新治右家内四人林田村作人新助引受度人別入願大庄屋引合相濟候旨大年寄申出右願之通承り届候段申達候

一例歳之通自廻ニ付町触差出候

一遊行上人御朱印之外先触人足ニ而も賃錢可取旨備中松山ニ而懸合有之右懸合決着之処間屋方幸便を以聞合候様申付置候処少し訳合も有之耽と不相分旨今日返書差越候由間屋方返書差出翌廿日伊達与吉郎へ差出候

十二月廿日 晴

一牢舎人伊右衛門死骸見分之節之義去ル十八日之所ニ認置通猶又大目附伊達与吉郎方御徒目附下目附相糺候処死骸取扱候穢多ハ一人

も出居不申相牢之者取計殊ニ相牢之者引出置一旦致入牢候処又々牢番呼出し死骸之蒲団を為取其節相牢之者今日ハ二度御免とあた口申候由申立候旨被申聞候付郡代所へ参り金治久蔵ニ承り候処相牢之者内方持出し外ニ穢多二人ニ而引出相牢之者ハ直ニ致入牢二度牢内方出候趣ハ見懸不申候得共二度御免と申候者聡と承り相覺居候併見分之節相牢之者取扱致候義ハ無之旨申之又六新治ハ一向聡と不相見候由申之不相分候ニ付牢屋へ孫ハ差遣相牢之者相糺候様申付候処□□穢多久蔵と申もの牢内方改所一間半計之間指出候直ニ可致入牢と仕候処牢番義右衛門序ニ蒲団をはぐりておゐて這入と申候ニ付立戻り蒲団をはぐり直ニ致入牢右故二度御免と申候得共二度牢口出入仕候義者無之旨申候右之通人々ニ寄少々覚違言詞違ハ有之候得共何れ支配之者共不調法ニ相違も無之義故大目附伊達与吉郎へ遂内談候上ニ而左之通御用番中へ相伺候処伺之通取計候様被仰出左之通申渡候

去ル十日牢舎人伊右衛門死骸見分之砌

同心組小頭

右死骸牢内方引出候節牢外迄

川端又六

相牢之者ニ手伝為致右躰之義ハ

同 部屋目附

決而致間敷管之処其方共義

三船新治

其場ニ乍立合何之心付も無之段役義不相応不念至極候

依之追込申付候相慎可罷在候

但日数七日

其方共義去ル十日牢舎人伊右衛門

牢番

死骸見分之砌右死骸牢内方

和田義右衛門

引出候節牢外迄相牢之ものニ

同

手伝為致右躰之義ハ決而致

内田利兵衛

間敷義都^而牢内之内義ハ其方共へ御預之事^二候得^者
万端別^而入念可相勤処右跡之致取計不届至極候
依之追込申付候相慎可罷在候

但 日数五日

右^者於小座敷部屋目附三船孫八^一立合又六新治書役新左衛門読
渡之右早^而左之通申渡

当分小頭仮役申付候

三船孫八

当分部屋目附仮役申付候

神田定治

△右早^而於門間孫八定治立合^牢番^兩人^江書役新左衛門読渡之

△右^二付加人四人申立牢番加人御使組下田吉右衛門石井庄助來兩

人とも牢番^方申送り得と承り大切^二膝代番相勤候様申渡尤牢番

兩人申渡之間ハ下番中間へ得と申付置來候様^二申付置呼出候

△同心組加人ハ日下勇助吉田菊治來役割申含候様孫八^江申付ル

△右申渡取計相濟候段御用番^并大目附へ手紙^二而相届候

十二月廿一日 晴風晚雨

一御藏米七拾五匁町米七拾老匁

一伊勢山田村田三太夫名代高井重藏御師上下式人例年之通且那廻り

^二來候旨^二階町堺屋伊右衛門宿切手差出^{翌年五月廿日}

一伊勢山田御炊太夫名代西佐助御師上下式人例年之通且那廻り來候

段右同人宿切手差出右同断

一牢舎人当年中之服薬代百七拾四匁六分^{但一貼三分つ、并}牢屋緒入用当役

と五拾匁相私右残五拾老匁六分八厘合式百式拾六匁式分八厘之証

文小手形添孫八差出致奥印

一飯目明代一日五分ツ、盜賊を小屋へ預ケ候賄代一日老匁つ、非人

^并飯目明シ他所へ差遣候日雇代雜用之外^二一日五分ツ、右之類当
年分合八拾三匁五分証文小手形添孫八差出致奥印候

十二月廿二日

一左之もの共安岡綿屋方吉方盜賊手懸之もの^二付茂市義孫兵衛召捕

候^二付當時そは近辺^二居候由申事^二付小屋^二而相糺候様申付遂吟

味候処今以新魚町^二家も有之候由聴と盜賊とも難相分候得共綿屋

へ入候盜人ハ徳兵衛と申もの^二而當時山城と申^二居候由^并安岡

町和田屋佐助も携有之候様^二申候^二付出番差遣手錠組合預ケ昨日

申付置夜前出番差向相糺候処口書差出し右^二付今朝左之通御用番

中へ相届大目附中^江も手紙^二而相届候

吟味中牢番預ケ

新魚町豆腐屋

但宿賄魚町へ申付候

又兵衛

孫
茂市

吟味中手錠

安岡町和田屋

組合預ケ

治助悴

佐助

御用番主膳殿御宅へ罷越右兩人之取計相届^并右茂市差口^二綿屋方

吉方へ這入候盜人ハ西在山城と申所^二致山居候由徳兵衛と申も

の、由之間召捕^二同心組式人目明^并非人差向可申相候候処何濟^二

付左之通申付ル

山城へ盜賊徳兵衛召捕

神田定治

差向候段申付ル

江原文藏

目明孫兵衛

非人八人

十二月廿三日 晴

右之段伺済ニ付取計候段大目附へ相届并同心組兩人差向候間加人
式人申達候処御使組荒木其助山本弁助兩人来り候
右之通部屋目附仮役差向候ニ付右代り左之通申付ル

当分部屋目附仮役申付候

石名佐十郎

右山城へ差向候もの共雜用五拾匁孫八方手形差遣齋藤孫右衛門よ
り銀札五拾匁取かへ相渡させ候

新魚町豆腐屋茂市賄組合へ申付候様大年寄へ申達候

一町医築瀬玄隆文字相札明日迄ニ申聞候様大目付方申来大年寄へ申
付候

一惣町入用暮之大割惣高式貫百五拾七匁四分五厘内人馬問屋入用巻
貫三百七拾匁五分六厘右帳面逐一見差戻候

一下高倉村常藏入牢手形郡代所方相廻り自分手形ニ認かへ出番為治
立会差向候

一牢舎人音松吟味ニ付呼出し牢屋立合郡代所方申来為治申付候

一左之もの共盜賊手懸り之風聞有之ニ付番佐十郎為治差向左之通
申付置御用番并大目附へ手紙ニ而相届候

三町目

組合預ケ申付候

若本屋重兵衛

元魚町

小嶋屋源三郎

右之通申付候段大年寄へも申達候

一中之町小原屋三之助家屋敷北側ニ而表口三間裏行拾七間但三步三

厘役西隣ハ米子屋いち東隣ハ坂原屋甚兵衛右家屋敷此度質物ニ書

入月巻歩半之利足ニ而来四月切式百五拾匁借用仕度願承り届ル同廿

一御用日例刻登城

一 大工庄兵衛戸川町住先年職留申付置候処町惣大工惣代幾右衛門組頭

棟梁共方御免被成下候様歎書先年も当人方歎書差出候所惣大工共
方相願候様之事ニ候ハ、御聞届被成候而も可然旨一学殿被仰聞其
旨申達置候処漸惣大工共方願書差出候間御用番主膳殿并相伺候処
御聞済ニ付右歎書大目附へ差出置御聞届大年寄へ申達候

一 常盤屋こま御裁許伺之通被仰出其旨大目附へ相達置明朝可取計手

当小頭へ申達候

一 例歳之通大三十日夕惣町関貫材木町河原町船頭町桶屋町戸川町福
渡町宮脇町細工町上紺屋町鍛冶町元魚町二階町小門開置立番付置
候段大年寄届出御用番并大目附へ相達候

一 牢屋受取もの紙しやうふほうき類之受取書例歳之通牢番共差出候

段小頭方差出大目附上印形取牢番吉右衛門へ相渡

一 昨日大目附方被申聞候柳瀬元柳之文字認差出候

一 元魚町黒坂太兵衛方へ九月十三日之夕盜賊這入木綿三束計木綿裕
羽織二ツ被盜取心得違ニ而届致延引候段届書差出御用番差出触流
被仰付被下候様申達町触差出候

一 關所銀式百七匁五分七厘有之例年之通帳面式冊堅紙ニ而納証文相

認勘定奉行上原彦藏へ相渡候

一 五拾四艘之船持共当春拝借之五拾匁つ、此節上納可仕筈之処当暮
ハ必至之難洪ニ付来辰暮迄上納延引仕度歎書差出尤天明六年ニも

右等之歎有之候由申出候ニ付相調候処其節^者歎ニ付老艘ニ米三俵

つ、拝借被仰付候今般之願ハ別ニ拝借可仕ニも無之当暮上納仕来

春直ニ拝借仕候処爰ニ而上納延引仕来春之拝借ハ仕間敷と之義ニ

付勘定奉行上原彦藏へ遂内談候処左様之筋ニも候ハ、内分ニ而其

通取計可遣旨申聞候ニ付其段大年寄へ申達来春拝借之節相納候様

申付候

一美濃職人町中屋栄藏義大坂表方今崎栄藏御尋ニ付右類名ニ付牢番

預ケ被仰付置同人口書大目附中方大坂表^江被差出候所類名^ニ者候

得共御尋之もの^ニ而者無之殊ニ忤等も勘当之義ニ候得^者猶又差構

無之旨申来候間牢番預ケ差免候様大目附伊達与吉郎被申聞右栄藏

組合年寄呼出し出番百藏差向呼出大年寄小頭部屋目附立合^ニ而於

白砂大坂方類名之ものニ付御不審懸り候得共差構無之旨申来候間

牢番預ケ差免町内へ差戻候段申渡候

一大年寄忤見習之義御用番へ相伺候処御返答無之候

一町作御年貢皆済候段御代官青木源太左衛門方於御城通用有之候

一錢通用百文ニ相成候段大年寄届出候

一於御用所大目附出席左之通可被申渡旨御用番主膳殿被仰渡左之通

ニ申渡候

家業出精ニ付門松御免

御目見被仰付三人扶持

被下之候

家業出精ニ付門松

御免

柳瀬元柳

北山修齋

同 修伯

高島生齋

^{右早ニ口達修齊修伯八同居ニ付}

右八十徳着用ニ而召連候様ニ大年寄へ奉書差遣於座敷小頭部屋目

附^{末平医者}故詰合大年寄詰合ニ而申渡之

当春三月迄綿実油絞立

数年取計候ニ付銀沓貫目

被下之候

右ハ剪纸差遣し呼出候小頭月番大年寄立合於座敷申渡之

手嶋流講釈相勤候ニ付

銀拾五匁被下之候

右^者呼出ハ大年寄へ切紙差遣申渡ハ御目見被仰付申渡候後之義ニ

付於座敷小頭月番大年寄立合ニ而申渡之

手嶋流講釈相勤候ニ付

銀拾五匁被下之候

手嶋流講諸事引受致

世話ニ付銀拾五匁被下之候

油元方^并絞立綿実取集

等別^而出精相勤候ニ付

銀五百匁宛被下之候

右四人大年寄召連出候様剪纸差遣於小座敷小頭部屋目附大年寄立

合ニ而申渡之

一於座敷小頭立合左之通申渡之

支配之もの共左之書付之通

夫々可申渡候

渡部玄端

玉置源五兵衛

北山修伯

徳山朴也

豊屋喜左衛門

久山勘八

細屋忠三郎

蔵合孫左衛門

町大工棟梁

式人

右^者一昨年昨年ハ於白濁申渡候得共不当之義ニ付大目附を以御用番中へ相伺今年^者大年奇申渡ニ取計候

遊行賄受負之者 伊勢屋伊太夫
鳥目五百文つゝ、
被下之候 花屋 忠八
平田屋幸助

右^者遊行ニ付賄受負相勤去ル十三日鳥目老貫五百文宛被下候段申渡相濟候処小勤者調達不調法ニ付差扣何出候間右之通申達直しいたし候様大目附伊達与吉郎被申聞依^而右之通申達候

玉屋伊右衛門
二月屋喜右衛門
菊屋 清左衛門
野田屋佐右衛門
糍屋 伊助
福永屋幸藏
櫻野屋茂一郎
生駒屋治右衛門
手嶋流講釈
致世話候ニ付
銀七匁五分つゝ、
被下之候

右世話人被下ものハ先格之通工面ものニ^而差遣候事尤何之節も右之通申達御用番へ相伺候先格ニ候得共分^而被仰出ハ無之大目附中^方伺之通取計候様ニと差図有之候事

右御本途^方出候被下もの不殘勤者^方相廻大年奇へ相渡候

右取計不殘相濟候段翌廿四日御用番^并大目附^江手紙^ニ而相届候

一川部村金七方へ去ル六日夕盜賊這入着類^并脇差一腰盜取候町触取計候様大目附^方被申聞町触取計本書^者差戻候

一藤屋村源六隱居屋へ十一月廿七日夕盜賊這入衣類脇差十三品盜取候町触右同断取計

一牢番加人石井庄助不快ニ付引替末沢折治今日^方来ル

一備中津宇郡妹尾村小判屋太郎兵衛一人例年之通量表元結木綿卸売ニ来候段勝間田町山形屋喜兵衛宿切手差出

一林田町大工藤右衛門大円寺^方作料先銀取不埒仕候ニ付大円寺^方致出訴寺社取次後藤郷助^方願書被相廻大年奇聞糺候上^ニ而内扱之義後藤へ懸合置候
十二月廿四日 晴

一昨廿二日山城村へ差向候定治文蔵孫兵衛^并非人共夜前四時過罷帰リ目差候盜賊徳兵衛義ハ得不召捕右同類無宿源五郎堀田領分人別之穢多善兵衛右兩人召捕罷帰リ夜前牢番預ケ申付置及深更候間今朝御用番^并大目附へ手紙^ニ而大意計相届置候

一今五ツ時孫八佐十郎出番百蔵菊治差向於牢屋左之通取計

数度悪事致御城下沓里四方追払 常盤屋善兵衛後家

申付置候処去九月御赦ニ付寺院歎ニ因^而 こま

徘徊被差免候所今般馬場半助長屋へ立帰リ忍居候ニ付 御領分^道〇払申付候

右^者河辺村之方へ送り出し庄屋手形取帰候右取計済候段御用番^并大目附へ手紙^ニ而相届之右取計之段馬場半助へ案内手紙差遣候所同人義今朝御叱御小性組へ不座遠慮被仰付候由ニ付藤本十兵衛方へ申達置候

一山城村盜賊徳兵衛同類安岡町盜もの取扱候無宿定吉と申もの今朝山城村^方差越候ニ付先牢番預ケ申付置候尤其段御用番^并大目附へ相届候

一寺社取次後藤郷助^方牢舍人助太夫義吟味ニ付今日呼出候間立合差

出呉候様申来当番円蔵出牢立合差出晚方入牢之砌夕番為治差向入
牢為取計

一 萩野嘉七不快ニ付引込小頭方届出承り置

一番賃銀当月并正月半月分大年寄差出

一 山城村へ差向候同心組目明今朝方呼出し相糺候処他之入帳之者召
連掃り義懸合不詰り不束之趣ニも相聞候ニ付依之右之右之始来大
意相認差懸り無拗義とハ乍申御人別之もの一人召連掃候段捕手之
者不束之至其段ハ御用捨被下候様頼入申遣右ニ付乍御世話御人差
向御穿鑿被下候様相頼此方方も尚又差向可申段堀田相模守殿役人
西山伝六へ之下案相認御用番中へ差出候処伺濟ニ付右之趣大目附
へも一卜通り罷越申達置右ニ付西吉田へ之飛脚被仰付被下候様申
達七半時過御飛脚河野伊右衛門相廻り書状相濟候処四時過受取書
取帰候

一 三町目若本屋重兵衛手錠小ク候而痛候段大年寄方届出夜廻り者打
かへさ七候様孫八へ申付ル

十二月廿五日 快晴

一 牢番和田茂右衛門内田利兵衛追込昨日迄ニ而五日ニ相成■今朝小
頭宅おゐて部屋目附立合差免候様仮役孫八へ申渡取計相濟候上御
用番并大目附へ手紙ニ而相届候右ニ付牢番加人二人明日方差戻候
段大目附へ相届候

一 山城村へ差向候定治文蔵昨日一日休息ニ而今日方出勤ニ付加人二
人可差戻候処萩野嘉七引込ニ付山本并助一人今日方差戻候様小頭
へ申付其段大目附へ相届候

一 綿改之者昨年之通左之通口銭割渡可申旨大年寄伺出伺之通宜取計
候様ニ申達候

一 貳貫四百文

能勢屋源助方ニ有口銀

一 貳拾貳匁

高瀬屋勘右衛門方口銭

一 百拾八匁

豊屋喜兵衛方ニ有之口銭

×貳貫五百四拾匁

内 壹貫五百貳拾四匁

問屋三人江

但六歩之割也昨年ハ五歩之割相渡候処当年ハ至

無拗ニ付六歩之割ニ相渡候事

百七拾七匁八分

小遣文吉へ

但七厘之割

五百九拾六匁九分

改人兩人江

但貳歩三厘五毛之割

百貳拾七匁

中買共江

但五厘之割

但昨年ハ中買六七八人ニ而綿売買取次相勤候中買ニ限り

相勤候付口銭ハ取居候ニ付二重ニ相成不当ニも有之趣

ニ候得共当年ハ中買仲ケ間不残相勤綿売買ニ不携もの

も有之候ニ付被下候筋ニ付差遣候事

×貳貫貳百九拾八匁七分

残而百拾四匁三分

豊屋喜兵衛へ預ケ置

当八月八日大坂屋喜与八高瀬屋勘右衛門和泉屋清助へ

綿問屋申付置候処客無之由

十二月廿六日 快晴

一 祇園三位之御札例歳之通蔵合孫左衛門方へ差越候旨届出候ニ付其
段大目附中御序之節御人被差向候様仕度段手紙ニ而申達候
一 西吉田役人西山伝六江一昨日山城村盜賊徳兵衛義懸合置候所昨廿

五日暮時返書来申遣候盜賊德兵衛義ハ兼而久世表方差出候様申来居穢多共方久世へ差出候段昨廿五日届出右届書写相廻候昨昼後山城村へ役人差遣此上小三郎不召捕候得者不相分義ニ付小三郎召捕爰元方人差出候ハ、右小三郎可相渡旨書書申来右飛脚之者ハ昨日受取書相渡差帰し置右再答ニ小三郎義ハ此方入用之ものニ而も無之候間山城村へ人差向候義ハ可致延引右德兵衛久世へ被召捕候上ハ右懸合之者共ハ不殘御呼出ニ可相成ニ付其段久世へも懸合候間右写相廻申候善兵衛義御呼出シニも相成候ハ、御引渡可申候間其御役所方御引渡有之様致度旨下案相認御用番中へ相伺候処其旨取計候様被仰出其旨大目附へも口達ニ而申達右ニ付御飛脚之者兩人被仰付被下候様相達候処川野伊右衛門相廻リ七ツ半時西吉田へ再答差出候四時受取書罷帰ル

右始末相認并西吉田へ両度之書面写差添德兵衛懸合ニ付召捕置候無宿もの御入用ニも候ハ、御渡可申善兵衛義ハ西吉田方御受取被下候様ニ致度旨久世へ差遣候下案相伺候処是又同様被仰出御飛脚之者萩野勘十郎相廻リ暮時差遣

一京町今出屋半兵衛持来候古道具屋株当卯十二月方来ル申ノ十二月迄五ヶ年之間材木町川嶋屋善七借り受商売仕度願書差出承リ届ル

十二月廿七日

一川端又六三船新治追込昨日迄ニ而七日ニ相成候ニ付今朝呼出し孫八定治立合ニ而於小座敷追込差免候段申達之右差免候段御用番并大目附へ手紙ニ而相届候

一右兩人出勤ニ付孫八定治佐十郎飯役差免候段申達

一右ニ付同心組加人不殘可差返所病人有之候ニ付壱人差殘置兩人差戻候段大目附へ相届候

一西吉田西山伝六方昨日之返書今七時過差越何之事もなく御紙面之通致承知候と計申来右返書御用番中へ差出候

一久世へ差遣候飛脚暮六半時比罷帰リ右返書ニ先日中郡中見廻リ之者盜賊躰德兵衛と申もの召捕帰リ一ト通り相糾候処京都無宿年来致盜当所町へも這入山城村ニも懸合之者有之由及白状入牢申付置江戸表へ相伺置候間御下知之趣ニ随ひ追而自是可及御懸合旨申来候右返書明日御用番中へ可差出候

十二月廿八日 朝小雨 曇

一歳末御祝義申上ニ付有役之面々麻上下着用五ツ半時出仕例之通於七間廊下御小性頭謁有之御奏者番方三奉行迄一同罷出上席御奏者番方歳末御祝義申上候段申上之末席方引取早而御用所江三奉行一同罷出歳末之御祝義申上之早而御用向申上之上席方引取大目附役所ニ而歳末之挨拶申述之

一主膳殿詰江戸来三月出府被仰付一同罷出御悦及挨拶

一若君様御髮置御祝義頂戴之御受書配當場差出例之通御用所へ持出口達ニ而申上大目附へ差出置

一久世方之返書御用所へ差出山城村盜賊德兵衛義江戸伺に取計候段返書来候事故江戸御留主居御留へ及通用可申哉と相伺候処其通取計可申旨幸今夕御飛脚仕廻ニ付差遣候様被仰出候ニ付此間内方西吉田并久世へ懸合之書類都合六通写認田中幸助へ相廻候

一 關所銀此間相納候勘定帳^并御金奉行請取書上原彦藏方相廻り御用
筆筒へ入置

一 顯徳院様御一周忌御赦^ニ付寺院方歎出候もの共御聞届相濟候^ニ付
夫々申渡宜取計候様尤右名面書ハ寺社取次方可相廻之旨大目附伊
達与吉郎方手紙^ニ而郡代連名^ニ申来候仍^而寺社取次後藤郷助へ
承り合候処当役方申渡候ものハ鉄炮町源藏老人^ニ而辰屋後家ハ此
度も相濟不申旨外^ニ郡代兩名^ニ而林田上之町宇兵衛と申もの有之
由申来候且又右源藏親類ハ一方村源右衛門と申もの^ニ候間明後大
三十日取計可申候間其節一方村源右衛門差越可申之旨郡代所より
申来候

一 郡代所方八子博突打吟味中牢番預ケ取計度候間明五ツ時牢屋立会
差出呉候様郡代所方申来其旨申達置

一 御用番主膳殿方町方之者組合預ケ申付有之面々此節之義故組合難
義^ニも可有之万^一取辻候様之義出来候^而者却^而不宜候間牢番預ケ
取計候様被仰出奉畏今日直^ニ取計可申旨御受申候所最早届^ニ者不
及旨被申聞候依之大目附へ其段相達置出番孫八佐十郎呼出左之
面々牢番預ケ取計候様申付ル

御尋筋有之^ニ付
吟味中牢番預ケ
申付候
但宿賄申付ル

安岡町 和田屋佐助
三町目 若本屋重兵衛
元魚町 小嶋屋源三郎

右取計相濟候段大目附へ手紙^ニ而相届大年寄へも申達候

十二月廿九日 曇

一大目附廻状到来当八月廿九日洪水^ニ付田畑御損毛高老万六千三百

五拾石三斗余有之候間御用番戸田采女正殿へ去ル十三日御届被成
候段為御知廻状来写取組中牢屋三軒屋高石垣番迄相触候様小頭へ
申付候

一 夜前同心組夜廻り定治為治町方受廻り申付小頭又六書役新左衛門
闕貫受廻り申付候処何れも別条無之段今朝届出候

一 郡代中方博突参会之者共左之通吟味中牢番預ケ申来り出番為治差
向牢番預ケ取計候

山北村佐吉 同村長藏 同流民甚助 惣社村与吉
東一ノ宮村文藏 西一ノ宮村忠八

一元魚町小嶋屋源三郎妻子二人有之候処暮兼賄等も仕兼候^ニ付横山
村親類惣右衛門と申もの有之候^ニ付彼方へ兩人共引取牢賄仕度旨
願書承り届候

一 一ノ宮社人堀内助太夫寺社取次方揚屋へ入有之候処出牢手形相廻
り自分手形^ニ認かへ出番定治差向出牢取計候尤同人揚屋被差免候
^ニ付下番中間加人差戻候段伊達与吉郎へ手紙^ニ而相届候

一 郡代所方一ノ宮社人助太夫義寺社方方受取牢番預ケ取計候間牢屋
立合差出候様申来出番為治差出牢番預ケ取計候

一 西吉田西山伝六方飛脚差越此間懸合候盜賊徳兵衛義江戸伺^ニ取計
置候間御下知之上呼出可申候間右懸合善兵衛^并忰小三郎源五郎定
吉手当致置候様久世手代方申越候間今日小三郎召捕^ニ捕子差出候
間爰元^ニ召捕置候もの共右之心得^ニ而手当致置呉候様申来御紙面
之趣致承知候旨及返書^并右書面^ニ山城村百性定吉と久世方申来候
趣^ニ相見^江候間別紙^ニ爰元^ニ捕置候定吉と申ものハ無宿^ニ而御座

候趣左候ハ、別人ニ而も有之哉又ハ同人ニ而候哉否追而被仰聞候
様申遣候右之通取計候段来書并返書下案共御用番中へ即刻差出候

十二月晦日 快晴

一元御家中長屋住源藏義徘徊差免今朝郡代所方親類江差出小頭部屋
目附立合ニ而左之通申渡之

元御家中長屋住源藏義

一方村庄屋 七右衛門

御城下追払被仰付候処今般

同 組合 伊兵衛

頭徳院様御一周忌御赦ニ付

源藏親類 源右衛門へ

寺院難ニ寄而御城下徘徊

申渡

被差免候

右取計相濟候段御用番并大目附へ手紙ニ而相届候

一右御赦ニ付先達而郡代兩名ニ而差出候林田上之町宇兵衛徘徊被指
免今朝於郡代所被申渡候段通用有之様

一札元茂渡藤右衛門山本三右衛門義実方之伯父死去候ニ付定式之忌
服廿日引込候段大年寄方申出其段御用番并大目附へ手紙ニ而相届
候

一町方夜廻り非人加廻り之義大年寄伺出兼而申達候通り先今夕切ニ
而為引取候様ニ及差図其段御用番并大目附中へ手紙ニ而為念申達
置候

寛政八^丙辰年

町奉行御用日記

四十九

正月「」 増見右門

十二月「」

(表紙)

寛政八^丙辰年

正月小

月番

御家老 永見造酒助殿

御年寄 山田主膳殿

大目附 松岡治部助

大年寄 玉置源五兵衛

正月元^戌 甲旦 大雨

一年頭御祝義御嘉例之通惣登城御札式諸事別帳之通無滞相済

正月二日 快晴

一大年寄早朝罷出町方御静謐之段相届

一御用初ニ付例刻登城諸事別帳御嘉例之通無滞相済

一御蔵米七拾七匁町米七拾三匁

正月三日 快晴

正月四日 快晴

一去卯年中之錢相場書大年寄差出候^但三通

一勝山渡部唐兵衛榊原九郎左衛門方例年之通年頭之祝書来り及相答

一御蔵米七拾五匁五分町米七拾壹匁五分

一茂渡藤右衛門義明五日方忌被差免候段勘定奉行方申達有之候処主

膳殿直ニ御聞濟ニ^而其段町奉行へ伝達候様御達有之候由上原彦蔵

方伝達有之候ニ付明五日方忌差免候段奉書差遣候右申達候段翌五

日御用番^并大目附へ手紙^ニ相届候

寛政八^丙辰年

町奉行御用日記

正月ヨリ

十二月迄

増見右門

正月五日 雨

一先格之通大年寄札元年頭初而謁盃遣ス礼式別帳之通

一札元悴見習被仰付今日初而謁早而年頭盃遣ス

札元見習被仰付候ニ付

初而謁ス銘々三本入

扇子箱持參

藤左衛門悴茂渡兵吉

卯左衛門悴玉置忠四郎

三船八郎右衛門悴三船要四郎

札元山本三右衛門忌中引込三船八郎右衛門当病不參其余者不殘罷

出候但大年寄盃相濟早而見習三人謁早而札元謁盃統而見習も罷出

候

一三丁目福永屋助右衛門義売用ニ付大坂安堂寺町三丁目紅屋市郎兵

衛方江卅日計之逗留ニ明六日出立願書大年寄聞届差出候二月三日帰ル

一先格之通大年寄組中書役牢屋三軒屋へ年礼ニ罷越候

正月六日 雨

一例歳之通御藏元惣町年寄人馬問屋大保頭目明且又問屋目附年礼受

之諸事別帳之通但惣町年寄四拾式人罷出并問屋兩人共当病

一今日方昼夜廻り差出候事

正月七日 曇

一坪井草野六左衛門方例年之通年頭祝書来及相答

一生野手代中沢良右衛門高橋督三郎方錢相場書取ニ来例年之通取調

遣

一西川役人平沢助八富田与治左衛門方例年之通年頭祝書来及相答

一牢舍人善兵衛療治今日迄ニ二廻り相濟全快ニ付休薬届牢番申出

尤大年寄も全快休薬之旨申出候

正月八日 曇

一御用日例刻出仕今日ハ申上候御用向無之

一來ル十六日町人登城之義御奏者番中へ申達候処例年之通登城候様

可申達旨小須賀貢被申聞尤来歳方ハ右申達候節名面書差出候様被

申聞候右之段夫々江申達取調名面書差出候様大年寄へ申達候

一左義長町触例歳之通差出候

一藏合方川切手差出與印書取計

正月九日 曇

一大円寺へ林田町大工藤右衛門作料不埒之義旧冬廿三日後藤郷助方

懸合内済申付候処納納仕候由大年寄申出候右大円寺願書ハ此間後

藤へ差戻候

正月十日 晴風雪

一孤独扶持内貸証文昨年本証文ニ認かへ差出置候処右差引殘銀六拾

五匁四分六厘勘定所下代広治致持參右ハ孤独拾壹人ニ割渡可然旨

ニ付其旨大年寄江申立相渡候

一江戸小勤者相田茂市神村平兵衛方旧冬廿八日出返書来大年寄共献

上もの代式百疋相廻候様申越右返書大年寄へ為見候

一元魚町小嶋屋源三郎家内横山村惣右衛門方へ当分引越候段旧冬廿

九日申出承届置候処村方ニ不致承知候趣ニ付又々元魚町へ罷帰

候段大年寄申出承り置

一來ル十六日登城之町人名面書大年寄差出候

正月十一日 寒風少雪

一大目附松岡治部助方罷越候様手紙来即刻罷越候所左之通被申渡候

三浦十郎左衛門義忌中引込ニ付右引込中郡代仮役被仰付候

右御請仕十郎左衛門へ及案内候

正月十二日 晴

一 錢通用九拾九文ニ相成候段大年寄届出候

正月十三日 快晴

一 御用日登城主膳殿御不参ニ付造酒助殿へ申達候様ニと之義ニ而例之席へ罷出一応及御挨拶其上ニ而御用番中之間へ這入敷居一ツ隔御用向申述之早ニ而郡代所御用向無之旨申述之

一 造酒助殿方主膳殿義不快対談も難出来趣ニ付此間方直ニ承り居候間今明日之内御用向有之候ハ、御宅へ罷越可申上候旨被仰聞候

一 鍛冶町鍛冶幸七娘いよ義去々寅年二月義絶勘当仕候処当時倉敷村ニ罷在心底相直り先非を悔相歎候ニ付勘当差免度願書御家老造酒助殿御聞濟ニ付大目附へ差出置御聞届申達候

一 西今町三倉屋茂兵衛兄栄治義御手廻り奉公ニ差出度人別離願書差出御中間頭内山洞太夫へ懸合之上承り届ル

一 勝間田町福井屋市右衛門弟岩治御手廻り奉公ニ差出度人別離願書差出右同断取計候

一 来ル十六日登城町人名面書御奏者番伊達与吉郎へ差出并御門通行断ニ付中奥目附土岐碓助へ名面書相渡

一 大目附廻状到来昨年十一月十日公儀ニ而御男子様御誕生被成松平敬之助様と奉唱候ニ付右御差合之名面可相改旨御触到来町方組中牢屋三軒屋へ相触候

一 柔姫様直丸様江御縁組御願昨年廿七日御願之通被為蒙仰右恐悅申上来ル十六日四時御徒格以上并部屋住迄登城候様御奏者廻状到来

組中へ為相知大年寄へも廻勤候様申達候

正月十四日 曇

一 三浦十郎左衛門義今朝忌御免被成候段通用有之候

正月十五日 晴

一 自分具足鏡開例年明十六日之処明日若柔姫様御祝御酒被下候付今日具足鏡開取計組中牢屋三軒屋呼寄例年之通盃遣諸事例歳之通当病不参 書役新左衛門 嘉七 円蔵 三軒屋藤助

一 川端円蔵不快引込候段又六方届出候
正月十六日 快晴

一 御具足御祝頂戴例歳之通無滞相濟
一 柔姫様御縁組御願被為濟候恐悅申上於七間廊下御小性頭謁例之通御奏者番大目附三奉行一同罷出上席御奏者番恐悅申上早ニ而三奉行一同檜之間へ罷出上席当役方右恐悅申上早ニ而右同様御用所へ申

上大目附江も右及挨拶早ニ而右恐悅ニ付御酒御吸物被下置坊主部屋於前廊下三奉行一同頂戴之早ニ而又御奏者大目附三奉行一同七間廊下江罷出御小性頭へ御戴物之御礼一所ニ申上候

一 大年寄札元御用達御蔵元町医年頭御祝義申上御奏者番小須賀貢へ謁例歳之通於席々無滞相濟

大年寄 斎藤孫右衛門 玉置源五兵衛
札元 武田七郎兵衛 茂渡庄右衛門 茂渡藤右衛門
川口藤左衛門 玉置卯左衛門 山本三郎左衛門
妹尾平兵衛

札元見習 茂渡兵吉 玉置忠四郎 三船要四郎
御用達並 木屋太兵衛

御用達並 木屋太兵衛

御蔵元 熊野屋文五郎 姫路屋惠三郎

町医師 柳瀬元柳 中嶋宗元 北山修斎

高島生斎 渡部玄端 北山修伯

当病 大年寄蔵合孫左衛門 忘中○山本三右衛門 当病札元三

船八郎右衛門

正月十七日 晴 曇少雨

一御蔵奉行山野十郎兵衛方人馬問屋御蔵へ馬を不差出稠敷申付候

も等閑之致方急度申付呉候様昨日於御城申聞候ニ付其旨急度申付

候様大年寄へ申渡候

正月十八日 晴

一御用日例刻登城

一去卯年中人別出入改書御用番中^江差出候処左之通

覚

一他所方引越 百四拾八人 内男八拾四人 女六拾四人

一一生 百五拾七人 内男八拾三人 女七拾四人

〆三百五人

一他所へ引越 九拾壹人 内男五拾人 女四拾壹人

一死失 百六拾六人 内男八拾三人 女八拾三人

〆貳百五拾七人

差引^而

四拾八人増

右之通去卯年中町方出生人別出入相改書上申候以上

正月十八日 増見右門

一皆木屋甚助義組合預ケ申付置候所殊之外渡世ニ致難義候段内々歎

出無余義趣ニ付先役後藤守助取計之節之伺書^{取計}并拙者義○出牢組合

預ケニ取計候節之伺書を以御用番へ相伺最早組合預ケ被差免候^而

も可然旨申達置候

一二階町畑勘平裏御堀端塀覆致度ニ付御堀へ足代下し願書差出大目

附へ差出候

一八子佐吉方^而博奕参会致候下紺屋町作人勘八安岡町神目屋弥吉

借屋住吉兵衛倅佐助呼出し口書致印形候但立会例之通

一去暮牢番預ケ申付置候三丁目若本屋重兵衛元魚町小嶋屋源三郎呼

出し遂吟味候但立会例之通

一寺社取次後藤郷助方来ル三月十五日方誕生寺ニおゐて供養事修業

仕候ニ付御城下東西両橋へ建札仕度之旨大信寺を依願出候処「」

御聞届相済候段通用有之大年寄へ申達候

一橋本町柳屋多七義去九月致出奔届出候ニ付百日尋申付置候処尋出

候所英田郡江見村ニ罷在様子相尋候処少々之借物差支ニ付致出奔

候趣ニ付右借物銀主方へ相断筋立申候間召連帰申度旨組合共歎書

差出来未及御沙駄^{ツツ}も義故即刻承り届候

正月十九日 雨雪

正月廿日 少雪

正月廿一日 晴

正月廿二日 晴

正月廿三日 晴

一西新町安長屋卯太郎義此度鳥沢喜八と相改伊達右門太方へ出入奉

公仕度人別離願差出承り届

一播州広峰社人魚住隼人方例年之通年頭祝書来及相答

正月廿二日 晴

一新魚町南側^而淀屋弥兵衛家屋敷表口三間裏行拾貳間但本役也東

隣ハ武嶋屋嘉兵衛西隣ハ伊勢屋重右衛門也右家屋敷小性町芦田屋

佐助取次ニ而質物ニ書入耄貫目当辰二月方来ル午ノ十二月迄三ヶ年之間借用仕度願書差出承り届

一坪井町鍛柄屋吉右衛門倅寿ニ義寛政四年子二月相願京都大仏正面通伊勢屋又兵衛方へ罷越医道修行仕度奉願此節罷帰候付猶又当辰年方来ル午年迄三ヶ年之間右同人方へ罷越医道執行仕度願書差出承り届※年十月廿三日追願承り届

一勝間田町西屋半兵衛持来候旅人旅籠屋株中之町坂原屋甚兵衛讓受商売仕度願書差出承り届ル

正月廿三日 雨

一御用日例刻登城

一三町目高雄屋藤助倅豊三郎義土井大炊頭殿領分当国久米南条郡弓削村村上一右衛門養子ニ差遣度人別除願御用番中御聞濟ニ付右願書大目附へ相渡置御聞届申渡ス

一新魚町五百介母方へ去ル十七日夕盜賊這入着類并切れく五品盜取候届書尤触流願出右同断相濟町方触流取計候

一堀田相模守殿領分新野山形并土屋主稅殿領分新野堀坂辺ニ偽七札出来旧臘廿八日在方目明文太郎方へ致持参同人方届出候得共聡々取上ケも無之打捨有之候処昨日銀札場奉行方届等も有之候由上原彦藏方内聞も有之尚又大目附中方三浦十郎左衛門を以伝達も有之候ニ付三船孫八石名佐十郎目明孫兵衛岩藏差向候段内意申渡相待居候処尚又夜前大目附中方何分明日於御城可申談旨手紙ニ而申来今日於御城大目附中方御用所江も相伺候処手配之通同心組差向候様御差函之旨被申聞候ニ付御城方孫八佐十郎へ剪紙差越兼而申付

置候通罷越遂吟味候様ニ申付候処即刻罷立候由也尤用心金五拾匁孫右衛門取かへ候様ニ申達候

一八子佐吉方ニ而去歲博奕参会之者共先格之通左之趣書付を以御裁許御用番中へ相伺置候

兩人とも口書を以先格之通咎 安岡町 佐助
牢舍百日可申付旨相伺 下紺屋町 勘八

橋本町久吉 源原町髮結万吉 橋本町沼屋八十七
材木町松屋善治 鍛冶町桂屋源治 茅町木屋浅吉
船頭町中野屋理七

右七人ハ吟味之節致出奔候ニ付右組合へ百日尋申付得尋出不申候得者先格之通過料五百文つゝ差出候様ニ可申付之旨書付を以相伺置候

但右之通相伺候ニ付存寄申達以後ハ防兼候段御聞置被下候様主膳殿へ申達候処造酒助殿御存寄被仰出依之旧年十郎左衛門と連名ニ而兵衛殿へ差出候弁書尚又差出候様主膳殿被仰聞候ニ付又々差出候

一三船孫八石名佐十郎新野山形へ偽七札師吟味ニ差向候ニ付加入兩人大目附へ申達河野儀兵衛石井庄助来ル

一御藏米七拾匁五分 町米七拾匁五分

一町方懐妊吟味書御用所へ差出候義相止候ニ付大年寄手前ニ而調置候様ニ申付置候得共妊娠吟味相耳候様之風聞も相聞候付年寄共呼出以前之通嚴重ニ取計候様申達尚又妊娠改書先前之通差出候様大年寄へ申付候

一林田町大工藤右衛門大円寺へ不埒有之候段旧年後藤郷助方掛合有

之其段申付候所銀札式拾匁致持參以後之返濟之義一向不申聞候ニ
付又々大円寺方口上書差出候由後藤方被相廻大年寄へ相渡又々殿
敷申付候様ニ申渡候

一遊行來着逗留中大年并町詰町人共勤書帳面都合五冊大年寄差出伊
達与吉郎へ相渡置候

正月廿四日 雪 風烈

正月廿五日 少雪 晴 風

一似七札吟味ニ差向候三船孫八石名元藏目明孫兵衛岩藏今朝五時前
罷帰申出候者新野堀坂村本多春庵と申医師方へ參り相札候処明白
成申披ニ手懸り無之依之新野山形卯助方江參候処卯助義此節銀
納ニ致出坂留主之由ニ卯助父文助ニ懸合候処成程似七札之挨拶

ニ參吳候様長八と申もの方卯助被相頼津山初屋文太方へ忤參候由
及承居候間右長八江御尋ニ相分り可申文助申候ニ付長八方へ罷
越相札候処大工内田権正方被相頼挨拶ニ卯助同道ニ罷越候得共
一向携無之趣申候へ共連々可帰旨申懸候所長八妻申候者右之訳ニ

而之義ニ候ハ、夫長八方大工権正を被召連帰候様ニ申候ニ付権正
ハ留主之旨申候得者此間罷帰り居候由申之候ニ付夫ハ幸之義と何
茂同道ニ而右大工権正方へ參り相札候処右銀札ハ三ヶ月之もの并

講銀札其外方も取集候銀札ニ而忠左衛門と申ものニ式拾九匁相渡
候処忠左衛門津山へ持參候所右之内悪札宥枚有之初屋文太郎ニ押
へられ候由ニ而致立服右銀札式拾八匁返し候ニ付右銀札ハ此辺之
弁藏と申ものニ拾式匁相渡且又他遠方之者名面ニ八匁相渡残り八匁
ハ致所持居今般京都江登り候節白川殿役人江相咄候処為見候様ニ

申聞候ニ付差出候所何れ似七札と有之義ニ候得者預り置候由ニ而
不被返右之通ニ外々江相渡候得共文太郎押候残之札ハ悪札ニ而も
無之事哉何れも返り不申毛頭贖札携り無之旨申候ニ付右拾式匁受
取候弁藏相札候所宥式匁ツ、所々へ相渡申候ニ而何之故障も無之
相濟候趣申之少も手懸り之手段無之依之弁藏方佐十郎一人宛之一
札置罷帰候段申出尤大工内田権正ハ衣冠ニ而爵を持罷出白川様
之御出入と申并右似七札京都へ差出候所甚訝敷候得共差当り可疑
ケ条無之ニ付不得心処其俣ニ致置帰候段申出即刻其旨御用番并大
目附へ罷越相届郡代江も及通候

一同心組加人石井庄助不快引込ニ付荒木其助來ル

一牢舎人新吉幸吉病氣申出去ル廿二日療治申付候

一泰安寺へ御仏詣仕候節御名代之方へ於泰安寺不及会釈候様ニ勝手
へ成共引退居候様ニ可仕旨去ル十三日大目附方上原彦藏へ演説有
之候由通用有之候

正月廿六日 晴

正月廿七日 晴

一似七札吟味ニ新野へ差向候孫八佐十郎今日方出勤ニ付加人河野磯
兵衛荒木其助今日方差戻候段大目附へ手紙ニ而相届ル

一去ル十七日之夕被盜取候品川口藤左衛門方へ質物ニ有之右ハ美濃
職人町鳥屋豊藏勘当之忤半兵衛と申もの差置候由ニ而右半兵衛召
捕遂吟味候処盜取候ニ相違無之旨下吟味口書取目明孫兵衛差出候
ニ付番孫八佐十郎差出入牢申付置其段御用番大目附江手紙ニ而
相届候

一西新町菊場屋藤右衛門義大坂大河町玉子屋九郎兵衛方へ来ル廿八日出立廿日計逗留仕度願書大年寄聞届差出

正月廿八日 曇

一御用日例刻登城

一勘定奉行土原彦藏当病断ニ付助行被相頼御用向取計候

一脇坂淡路守殿御預り所当国英田郡倉敷村百性甚七^并妻娘右家内三人伏見町備中屋兵吉引受度人別入願差出右甚七義八元追放ものニ

而候^書安永八^己年八月廿八日御赦ニ付帰住宅被差免候ものニ付

右願〇差出候御用番御聞濟ニ付大目附へ差出置御聞届申達候

二月五日住宅証文差出

一豊屋喜左衛門義書付を以存寄申上置候

一牢浚申付候処昼廻り定治為治無別条段昨日申出候

一新魚町五百介母方へ去ル十七日夕盜賊這入被盜取候品林田町ふか

や安之丞方^并三町目福永や太兵衛方ニ有之取次美濃職人町文右衛門と申出候ニ付文右衛門他参留申付置候

一坪井町年寄浜のや宗兵衛義福渡町坪井町両町年寄役ニ拾ケ年計相

勤候処久々之病氣近来差重リ^而迎も本快^者難仕趣自身ニ存命之内御役免被仰付候様仕度絶^而相願候ニ付願書為差出候得共未跡役之人

も何れとも難申上追々相考可申上候得共右之趣ニ付先役義被差免候様申候付願之通聞^(二)届候尤急ニ跡役調出候様ニ申付候

一二階町山本屋周右衛門所持之自国受酒株当辰正月より同十二月迄

一ケ年之間元魚町福津屋三吉借受商売仕度願書差出承り届ル

一二階町組屋忠三郎所持之自国受酒株寛政三^亥六月方宮脇町松野屋

伝助借受商売仕候処限月来候ニ付尚又当辰正月方来ル申之正月迄五ケ年之間借受商売仕度願書差出し承り届

一玉置六郎左衛門所持之他国受酒株寛政三年^亥三月方美濃職人町玉

置太兵衛へ貸置候処双方勝手ニ付此度取返し度願書差出し承り届ル

一古道具屋改帳面古道具屋頭差出候旨大年寄差出受取置

正月廿九日 曇風

一安岡町久米屋友七義売用ニ付大坂土佐堀式町目木屋与兵衛方へ廿

日計之逗留^ニ而明朔日出立仕度願書差出承り届ル

一番賃銀正月半月分相渡候

二月大

月番

御家老 永見造酒助殿

御年寄 山田主膳殿

大目附 佐々木右近

大年寄 斎藤孫右衛門

二月朔^丁丑日

一小沢又右衛門横村井庄藏前関貫損候ニ付繕可申付哉之旨玉置源五

兵衛伺出其通取計候様申達ス

一御藏米七拾三匁町米六拾九匁

一 盜賊異名転々徳本名次郎吉當時忠吉後後喜兵衛と申無宿一昨廿八日安岡奥之山中^ニ目明孫兵衛召捕申出下吟味申付候処京町大村屋元魚町黒坂屋坪井町福衛屋へ忍入盜取候^ニ相違無之旨及白状^并先達^而大坂方御尋有之候今崎栄藏悴喜兵衛と申ものも此もの^ニ相違無之趣^ニ相聞候段申出候^ニ付出番日下勇助差向入牢申付置右之段御用番^并大目附へ手紙^ニ而相届候

二月二日 快晴

一 安岡町小倉屋七右衛門所持之自国受酒株寛政四年^子十二月東新町出雲屋幸吉借受商売仕候処限月来候^ニ付尚又当辰正月^子来ル戊ノ十二月迄七ケ年之間借受商売仕度願書差出承り届ル^{享和三年正月五日取戻}一 牢屋仕切証文六石三斗三合七勺五才但此俵拾九俵三升三合七勺五才右八卯十月辰之正月廿九日迄牢舎人十二人分証文差出奥書取計之^并内貸証文奥書取計之
一 目明非人扶持証文奥書取計之

二月三日 晴

一 御用日登城
一 勘定奉行上原彦藏当病不参^ニ付被相頼御用向取計之
一 船持共例歳之通老艘^ニ付五十匁つ、都合式貫七百匁^并書差出御用番御聞濟^ニ付大目附へ相渡置候尤旧年勘定奉行へ懸合置候通旧年返済得不仕今般之拜借^ニ而上納之筈也^而上原へ可及通用事
一 坪井町福衛屋伊兵衛方へ去ル廿^七日盜賊入込三拾七品被盜取候届書差出右ハ転徳^ニ而召捕候事故不及触流候得共右届書御用番へ差出大目附へ相渡置候但都合六百五六拾匁位之もの也

一 小性町屋根屋源七家守平七借屋住作人弁藏^并妻悴重吉右家内三人大久保加賀守殿領分勝北郡成松村金藏養子^ニ引越度人別除願書御用番御聞濟^ニ付大目附へ相渡置御聞届申達候
一 札元茂渡藤右衛門義伯州日野郡黒坂村大塚安右衛門方へ廿日計之逗留^ニ而明四日出立仕度願右同断取計濟
一 福渡町皆木屋甚助義親類預^ケ被差免候様何置候所何之通主膳殿方被仰出左之通大年寄へ申渡

親類預^ケ差免候

福渡町 柴木屋甚助

右之段申渡候様大年寄へ申渡早^而憐愍を以右之通申付候間尔来急度身持相慎候様^ニ可申渡旨申達右取計相濟候段御用番^并大目附へ手紙^ニ而相届候尤何之書付不相度候

一 於御用所大目附出席左之通御用番方被仰渡候

口書之通之義^ニ付百敲之上

無宿盜賊

御領分追払可付候

善藏

右ハ郡代所之盜賊^ニ而郡代と申談候処来ル六日取計可然^ニ付其旨大目附へ相届立合御徒目附下目附被差出候様相届置候^并小頭書役^江も其段申達置候

一 牢舎人若本屋十兵衛小嶋屋源三郎転々徳本名喜兵衛半兵衛右四人

九時呼出立合例之通^ニ而遂吟味左之通取計候

吟味筋相濟候^ニ付出牢申付

元魚町小嶋屋

居町へ差戻候

源三郎

口書印形申付候

三町目若本屋重兵衛

右同断

盜賊 半兵衛

遂吟味置候

同 転々徳喜兵衛

右之通取計小嶋屋源三郎差免候義御用番并大目附へ手紙ニ而申達候

一右軼々徳喜兵衛義ハ美濃職人町中屋栄藏勘当之悴ニ候得者親へ懸り候義ハ無之と存居候得共公儀ニ而元禄十一年ニ御領分之者之悴江戸へ出主を殺候節親も追放ニ相成候義有之候間中屋栄藏義も他参留申付置可然旨松岡治部助被申聞候付他参留申付候様大年寄へ申渡候

一福渡町皆木屋甚助親類預ケ差免度段相伺候節先役後藤守助伺之書面御用番中へ差出置候所今日御差戻不被成追而御差戻可被成旨主膳殿被仰候

一川端円藏引込ニ付今日吟味取計ニ寄而同心組致不足依之今日一日切ニ加人老人申立福嶋為助来夜廻り申付候

一安岡町扇屋栄治兄参兵衛義不勝手ニ付為渡世去ル丑ノ正月相願伯州倉吉西中町三好屋善五郎方へ罷越限年ニ付罷帰候所尚又今ニ三ヶ年之間右善五郎方へ罷越渡世仕度願書差出承り届寛政十二年中歲四月廿六日掃候段届出ル

一備前邑久郡山田牛窓大工市兵衛五郎左衛門喜右衛門半右衛門源右衛門小作右六人例年之通細工ニ罷越候段二階町境屋伊右衛門宿切手差出候翌正月廿八日帰り届

一律令巻冊役所付ニ御渡被成候段大目附佐々木右近伊達与吉郎方被相渡役所單筒へ入置但添役たり共不可見事ニ候由

一庁事秘録右御同人方拝借被仰付候間写取役所付ニ致候様被申聞尤禁他見之事故書役ニ為写候義不相成旨被申聞候尤写取可致返上事

翌巳五月廿三日伊達与吉郎一差戻候

一遊行上人来着取調伺帳差出候様伊達与吉郎方申来旧年之伺帳二册差戻候

二月四日 曇

一吹屋町柳瀬元柳病用ニ付備前佐伯侯孫十郎方へ三日之逗留ニ而明五日出立願書大年寄聞届差出候七日掃届ル

二月五日 雨

一坪井町福渡町両町年寄浜野屋宗兵衛依願役免申付候ニ付右跡役坪井町ハ小倉屋喜助福渡町ハ宮脇町住阿賀屋助治へ可申付之旨大年寄伺出其旨取計候様及差図

一狩野洞学孫他家相統之八百屋平左衛門洞学跡断絶之歎書差出候得共可取上筋ニ而も有之問數旨大年寄内意申出其旨及差図

一明朝牢屋ニおゐて取計有之処円藏引込ニ付同心組不足ニ付加人一人被仰付候様ニ大目附へ手紙ニ而申達候

一安岡町綿屋万吉方盜賊徳兵衛一件西吉田久世へ掛合趣江戸御留主居田中幸助へ旧年申遣候所承知之旨返書来於向方も早川八郎左衛門殿より伺有之久世ニ而吟味被仰付候間引合之者差出候様根岸肥前守殿より御達有之候段申来候尤役人立会候様ニ被仰出候旨ニ候大目附佐々木右近方左之通手紙ニ而申来候

旧冬山城村ニ而盜賊徳兵衛与申者早川八郎左衛門殿被召捕吟味方御伺之処今度右手筋ニ而吟味有之候間懸合之者差出御役人立合差出候様於江戸表根岸肥前守殿被仰渡候旨申来候ニ付為御心得御達申候近日之内久世方申参へく候間御手練可然様御取計置可有之候以上

一 郡代所方□□村穢多久藏明朝出牢申付候由出牢手形廻り役所手形ニ認かへ置

一 京町畳屋宇三郎家屋敷大破ニ付羽守様御通行迄ニ可然取計候様去ル三日御用番中方御沙駄有之是日大年寄へ申達候

二月六日 曇

一 於牢屋郡代所盜賊左之通取計被仰出例之通六半時小頭又六部屋目附孫八書役新左衛門差出御徒目附山本洞四郎下目附中村政兵衛立合左之通書役新左衛門読渡之出番定治佐十郎皿村へ追払一札取差出候

其方義去卯三月六日円宗寺村利八 無宿盗人
土藏を切破り盗いたし不届之事ニ候 善藏
依之百敲之上御領分追払申付候

右取計相濟候段御用番大目附へ手紙ニ相届候

一 □□村穢多久藏郡代所方出牢申来今朝出牢取計候

一同心組加人老入当日切ニ申立置候処荒木其助来昼廻申付候

二月七日 晴 曇

一 高石垣番所破損有之候ニ付繕之義大年寄申出候ニ付伺之通宣取計先格之通追入用受取相渡候様ニ申達ス

一 牢舎人新吉善之丞療治ニ廻り相濟善之丞義者休薬可仕旨牢番申出当又吉武祐三方新吉義も最早命分ニ氣遣ハ無之旨容鉢書差出候付兩人共休薬申付候

一 畳屋商売株之様ニ畳屋共相心得居候義去十一月晦日大年寄へ吟味申付置候処其後答も無之役所記録ニも見当り不申候間株と心得居候者心得違之義ニ候旨畳屋共へ申聞置可然旨大年寄へ申達候

一 町医師柳瀬元柳義去ル四日備前佐伯へ三日之逗留ニ病用ニ罷越一度願書差出候処是迄左様之例不聞及候ニ付大年寄へ相尋候処今般御目見被仰付御扶持方被下置候ニ付願書差出候旨申出候ニ付都而

他所行ハ何れニも可届筋ニ不届とも不苦トハ難申筋ニ候得共ケ様之些之逗留迄先例も無之願出候様ニ相成候而差支ニも

可相成候間各場合ニ宣取計先格之通ニ致候方可然旨及差戻候

一 元魚町指屋平三郎借屋住伊部屋久藏義旧臘十五日因州江罷越候旨ニ罷出今以罷帰不申相尋候も行衛不相知旨届書差出先格之通而百日尋申付候追離帳之節可及御沙駄候

百日尋申付候追離帳之節可及御沙駄候

一 林田町作人六之助借屋住平七義信州善光寺參詣往来百五拾日之逗留ニ来ル十五日出立之願差出承り届ル九日晦日帰ル

一 田中川土橋之下ニ端月之赤子捨有之候旨石名佐十郎申聞候ニ付其段大目附へ為知手紙差遣候所夜四時前大目附中明五時御徒目附下目附見分差出候間夜中非人番付置候様手紙ニ申来其内風聞ニ承り候得者城代町文吉と申もの取埋候哉之趣承り候得共承知之旨返答申遣置大年寄へ非人番申付候様ニ申達并暮方風聞承候得者

取埋候ものも有之哉之趣ニ相聞候間遂吟味無之候ハ、早々申出候様申達置候所丑時比大年寄方非人吟味仕候得共相見へ不申候之旨申出候ニ付其旨手紙ニ大目附中へ申達候尤取埋候風聞も内々申達候

二月八日 曇 風

一 御用日登城

一 勘定奉行上原彦藏当病不参ニ付被相頼御用向取計之尤御手廻り之

類出府届書小勘者内山洞大夫不恙之書付差出其俣相届候処間違有之由ニ而三浦十郎左衛門を以差扣相伺候候処不及伺出之旨大目附被申聞濟

一 去卯十二月十八日届出候西今町入口ニ而新職人町佐七雇人庄助と申もの拾候着物安岡町松屋伊助落候由ニ而同切とも差出相違無之ニ付相渡度旨願書差出御用番并大目附中へ其旨口達ニ而申達例之通証文を取相渡候様大年寄へ申渡候

一 三町目若本屋重兵衛吟味口書差出御裁許相伺置

一 無宿半兵衛吟味口書差出御裁許相伺置

一 茅町和哥屋六三郎義堀田相模守殿領分西々条郡河本村久右衛門へ仕入懸ケ式百拾三匁六分五厘有之其内式拾匁計之代ものハ取戻し右不埒ニ付添簡願出候ニ付御用番へ相伺候候御聞濟ニ付大目附中へも申達置候右ニ付添簡可相渡候処痲瘡病人出来急ニ難參候間今少延呉候様大年寄申出候ニ付追而願次第可相渡事

一 上紺屋町八百屋平左衛門歎書差出度内意有之右者狩野洞学所持之狩野家系図先年洞学孫女差上依之生涯式人扶持被下置先年致死去右平左衛門右女之兄弟ニ而洞学孫ニ候処他家致相統居候処同人義も久敷町人家筋之ものニ候処当時平左衛門孤独同前ニ相成り洞学子孫断絶ニ付御憐愍相願候願書内意大年寄伺出兼而内聞も有之趣ニ相聞候ニ付大目附松岡治部助へ於別席相談猶又於別席御用番山田主膳殿へ内意之趣相伺候候処右願書暫預り候様御申ニ而御受取被置候処後刻於御席此願可取上筋ニ而も無之候間差戻候様被仰聞其段大年寄へ申達右願書差戻候

一 勘当願濟候而も致悪事候得者親兄弟へハ公儀ニ而科懸り候様ニ

大目附伊達与吉郎被申聞候付致吟味候処寛延三年三月十三日日記ニ久離と願候得者公儀江御届入候間義絶勘当と相願候様夫ニ而も一家へ科ハ懸り不申候段相記有之其旨書拔伊達与吉郎へ差出以後之義相尋候処先格之通ニ而可宜旨挨拶ニ而相濟候

一 夜前之田中川赤子捨有之候義ハ如何成候哉と大目附へ相尋候処致方も無之義故其分ニ致置候段御用所へも申上相濟候段被申聞夜前ハ段々御世話之旨自分挨拶有之候

一 遊行上人来着取計帳面伊達与吉郎へ差出置候分不残被差戻受取置候

一 錢通用百文ニ相成候段大年寄届出候

一 御藏米七拾式匁町米六拾八匁

一 西今町永野屋安兵衛義大坂淀屋橋大川町紀国屋藤兵衛方へ四十五日計之逗留ニ而明九日出立願大年寄聞届差出病欠付延引断出

一 寺社取次後藤郷助方町住之下社家名面書出候節之苗字相認候事と被相尋候ニ付大年寄へ相尋候処老人立而願書差出候節者苗字相用組合連印等ニ而一烈（イ）相認差出候節者名計相認候先格ニ候由申出其段郷助へ申遣候

一 去ル五日大目附中方御達有之候山城村徳兵衛義公義方御渡之書付左之通之由大目附中方被相渡写取差戻

早川八郎左衛門御代官所作州西々条郡原村ニ而無宿徳兵衛と申もの召捕致吟味候堀田相模守殿領分同郡山城村山中ニ忍ヒ罷在御領分同国津山町ニ而盗取候品を右山城村百性定吉江相渡壳捌候趣申立候由ニ而取計方八郎左衛門相伺候ニ付同人

方^ニ而一件吟味詰可相何旨申渡候依之引合之もの八郎左衛門
方懸合次第同人方へ差出吟味之節役人立合有之様存候以上
辰正月

上書

松平仙千代殿留守居 根岸肥前守

一大目附佐々木右近方右之通公義方御達有之候得^者其段久世へ案内
可申遣事之由粗及承居候間先格相調宜取計候様ニ手紙ニ而申來書
類取調候得共右等之類例睨と見当り不申尤御代官所ニ而之取計も
御役御勤被成候私領方之人別之ものハ公義江御伺之上御呼出ニ相
成左も無之私領方之人別之ものハ公義ニ無伺直ニ申來御呼出シニ
相成候形ニ粗承リ居右故歟余リ右等之義不相見ニ宅藤左衛門御呼
出之節も公義伺之上御呼出シニ相成候様ニ相見へ候得共此方方御
達有之候案内申遣候書翰扣も相見へ不申昨年安岡町菱屋太助龍野
へ御呼出之節^者公義江伺之上御呼出シニ相成御留主居^トへ御達有之
候段江戸表方申來其節^者太助死後右後家も病中ニ付龍野方不申越
内ニ右之段申遣可然と致評義此方方申遣候義ニ而此度之例ニも難
致依之郡代所承リ合候^ト郡代所ニ^者公事喧嘩変死場所吟味等毎
度懸合有之右等之砌公義方御達有之候得^者其段及案内來候之由申
來依之御用番主膳殿御宅へ罷越役筋先例ハ睨と無之候得共郡代所
右之通之取計ニ候得^者久世へ案内申遣可然哉と相伺候処其通取計
候様御差函ニ付佐々木右近江罷越右ニ付明朝飛脚差遣候間御飛脚
之者被仰付被下候様申達置御勘定所方御達之御書付写取別紙之趣
御達有之候間尚被仰下次第差出可申尤堀田相模守殿人別之者ハ先
日^茂御懸合之通向方方御受取被下候様致度右案内得御意候段申遣

御飛脚村上吉右衛門罷越相渡候

一元魚町黒坂屋太兵衛義伊勢參宮三十日計之逗留ニ而十二日出立之

願書大年寄承リ届差出^{三月十一日届ル}

二月九日 曇 夜雨

一大目附佐々木右近方申談度義有之旨申來相越候所此間田中川ニ捨
有之候赤子紛失等之義昨夜御存寄被仰聞候通如何之ものニも候間
郡代申談以後^リニ相成候様ニ可取計旨此段郡代^江別ニ達ハ無之
候間申通可然様取計候様被申聞候付其段三浦十郎左衛門方へ罷越
及通用

一吹屋町柳瀬元柳義伯州米子家中築瀬平之丞方へ親類ニ付明後十一
日罷越十五日計逗留仕度願書大年寄承リ届差出^{同廿三日届ル}

二月十日 雨

一久世へ差遣候飛脚之者罷歸り委細承知之旨入御念候義と申返書來
リ^并向方^江も御達有之自是も可得御意と書状認置候旨ニ而仕懸候
書状一所ニ差越向方^江も御達有之來ル十六日方八郎左衛門殿被懸
吟味候間右引合当町安岡町綿屋万吉ニ町役差添御役人中立合可被
差出候其外山城村之もの共ハ西吉田へ申達候間右御役人と宜御懸
合可成旨貝塚五郎藏内藤大右衛門方書状差越尤承知ニ候ハ、別ニ
不及御報旨申來右書状御用番中へ持參差出依之先格之通差添御役
人被仰付可被下町方も右之手配可申付置猶又吉田方も申來候ハ、
可相伺候得共是^江も御役人差添被仰付候先格と申達置歸り懸大目
附へも右之段申達置大年寄呼出シ安岡町綿屋万吉義久世表へ御呼
出ニ付町役人差添來ル十五日差出候様可申付申達候

一 伊達与兵衛殿昨九日大坂方帰着ニ候

一 三町目余田屋与七伊勢参宮三十日計之逗留ニ而来ル十二日出立之

願書大年寄承り届差出候 三月十日梅ル

二月十一日 快晴

一 茅町吉田屋平治持牛致病死候ニ付取捨仕度届書差出勝手次第取捨候様ニ申付ル

一 茅町木屋清八去九月八子博奕吟味之節出奔百日過候得共行衛不
相知旨届出来御裁許も無事故尚又嚴敷尋申付候様申渡候右清八義
三四年已前清八と致改号候由昨年之処ニ淺吉と記有之

一 安岡町綿屋万吉久世役所へ御呼出之節差添人町年寄扇屋栄治罷出
候段大年寄届出候

一 川端円藏義一昨日致出勤候記落候ニ付爰ニ記ス

二月十二日 雨

一 西吉田役人西山伝六方飛札差越山城村盜賊一件久世表方差出候様
申来候間来ル十五日早天ニ代官成田鶴兵衛と申もの立合ニ差出候

間其節同人爰元へ来案内可致候間無宿源五郎同定吉穢多善兵衛右
三人鶴兵衛へ相渡候様ニ申越承知之旨及返書置御用番中へ致持参
右ニ付京町使者屋敷ニおゐて引渡可申候間御徒目附被仰付被下候
様ニ申達大目附江も其段序ニ付以参申達候右ニ付同心組致用意候
様ニ小頭へ申付大年寄へも使者屋敷取片着致置候様ニ申達候

一 遊行上人来着取計一件帳面都合七冊書役新左衛門へ相渡置候

一 遊行上人備中松山ニ而御伝馬之外人馬賃錢相払候哉之聞合返書先
達ニ而問屋方差出与吉郎方被差戻候付大年寄へ相渡

一 牢舎人弥市病氣申出候ニ付大年寄へ医師申付候

一 大目附佐々木右近方先日之田中川赤子尋仕候旨申出候ニ付明十三
日五時御徒目附下目附見分差出候間夜中非人番申付明朝見分相濟
候上ニ取捨候様ニ戌刻頃申来其段大年寄へ申付候

二月十三日 晴風

一 御用日之処自分義瘁疾差起り出勤難致当病不参断三浦十郎左衛門
へ頼遣ニ御用向相頼遣

一 堺町花屋文助倅吉兵衛義割場御中間奉公致候処病身ニ付番代仕候
間人別人願書差出御中間頭三浦伴左衛門内山洞大夫へ手紙ニ而引
合相濟聞届大年寄へ申渡候

一 堺町年寄稲実屋義十郎義大坂堂嶋北町潮屋源兵衛方へ四十日計之
逗留ニ而来ル十五日出立之願書大年寄差出跡役ニ隣町へ頼置候旨
ニ付承り届ル

一 西今町山際屋和兵衛所持之古道具屋株二町目武本屋宇兵衛讓受度
願書株札差添出承り届右株札しらせニ御作事へ差出名面認かへ相
渡

一 大坂南本町三町目紙屋藤兵衛手代新兵衛一人例年之通菜種卸売来
候段二階町堺屋伊右衛門宿切手差出

一 勢州安芸郡白子村形屋仁右衛門手代庄吉伊兵衛右式人例年之通紺
屋形売ニ来候段堺町西川屋善助宿切手差出

一 安岡町綿屋万吉義来ル十五日差出候ニ付同心組差添三船新治江申
付候様小頭江申渡右留主中加人御使組耆人明十四日御渡候様大目
附へ手紙ニ而申達候

一 田中川捨赤子見分濟候ハ、取捨候様申付置候所昼比過も失強番いいたし居候由及聞候ニ付定而見分之者等ニも申付候義も可有之哉と心付其段大年寄へ申達候処御徒目附方非人共へ尚又取捨候様御沙駄（マツ）有之候迄ハ大切ニ番致候様申付候旨申出候ニ付其段大目附へ手紙ニ尋ニ遣候所取捨候而不苦旨申来其段大年寄へ申付候処先例之通川向惣臺へ取埋相濟候段申出其段大目附へ手紙ニ申達候

ニ相聞候間右等之懸合さへ無之候ハ、勝手次第之事と被申聞候由三浦方申来候右等之沙駄（マツ）一向不存義故尚又可相糺事御藏奉行山野十郎兵衛方先月十六日馬方共不働問屋共不取計之段叱置呉候様噂有之大年寄へ申達置候処其旨嚴敷申付候段大年寄申出候

一 遊行上人出立之砌船積人足員數伊達与吉郎方被相尋玉置源五兵衛へ申達候所十五人差出候由書付差出三浦十郎左衛門を以与吉郎へ差出候

一 林田町大工藤右衛門義大田寺方先銀取不埒之義先日申渡置候処残銀ハ七月迄ニ返納可致旨致一札相濟候段大年寄届出候ニ付其段寺社取次後藤郷助へ申遣大田寺届書差戻候

一 小性町茂渡庄右衛門家守中村屋庄助孫鶴吉義大久保加賀守殿領分当国久米北条郡領家村治助養子ニ差遣度人別除願差出三浦十郎左衛門を以相伺候処御用番御聞濟ニ付大目附へ渡置候旨申来候ニ付御聞届大年寄へ申渡候

一 安岡町綿屋万吉方盜賊山城村徳兵衛一件ニ付久世江之差添御徒目附山田新三郎へ被仰付西吉田へ盜賊引渡ハ御徒目附藤田弥治兵衛へ被仰付候由兩人共案内ニ来り委細之義申談置候

一 大年寄歳末年頭献上物代先達而差出早々可相廻候所御便兩度迄取殘漸今日之御便ニ差遣候

一 土井大炊頭殿領分当国久米南条郡下弓削村民右衛門悴栄藏義小性町瓜生原屋平吉屋守嘉平次借屋住源藏養子ニ引受度人別入願書右同断取計濟同十九日住宅証文差出

一 牢舍人弥市病氣難捨置旨吉武修格申出候旨ニ付療治申付候様申達候

一同心組久世江差遣候ニ付右跡之加人御使組荒来其助来ル

一 土井大炊頭殿領分久米南条郡上弓削村宮之助弟参吉義戸川町久米屋新七引受度人別入願右同断取計濟同廿三日住宅証文差出

二月十四日 曇
二月十五日 雨

一 美濃職人町中屋栄藏義勘当之悴喜兵衛入牢勘当而も科ハ親へ懸り候旨大目附中被申聞候ニ付他参留申付置候処役所日記くり出し勘当ニも親へハ科ハ不懸旨有之右書付先日伊達与吉郎へ差出是迄之通ニ而宜旨ニ相極候間父中屋栄藏義他参留差免可申之旨三浦十郎左衛門を以大目附江及噂候処喜兵衛盗もの父栄藏預り居候様

一 安岡町綿屋万吉方へ盜賊這入候ニ付同人義久世表へ御呼出ニ付今六時呼出し小頭大年寄立合ニ而久世表へ差出候ニ付添御役人山田新三郎へ引渡候段申渡山田新三郎へ相渡ス

安岡町 綿屋万吉
同町年寄 扇屋栄治

差添同心組 三船新治
御徒目附 山田新三郎

右綿屋万吉町役差添山田新三郎召連出候段久世手代貝塚五郎藏内藤大右衛門書状差遣并綿屋万吉被盜もの品書并穢多善兵衛召捕候節之口書写并盜もの致取次候定吉口書写右三通差添遣右状箱新三郎へ相渡候右出立之段御用番并大目附へ手紙并相届候

一右盜賊懸合之者旧年山城村并召捕置候左之三人於町会所西吉田役人成田鶴兵衛へ御徒目附藤田弥次兵衛を引渡候

山城村并召捕候無宿 源五郎

同村方翌日来候無宿 定吉

同村并召捕候穢多 善兵衛

右三人引渡并付同心組三船孫八神田定治石名佐十郎中山百藏小野田為治加人日下勇助右六人立付并今曉六時前牢屋へ差向尤目明式人繩取式人尤善兵衛義八前付故繩取不付入棒突牢番子式人盜賊懷中物持老人牢審中間老人致警衛正六時町会所へ引出御徒目附藤田弥治兵衛三人之者へ西吉田へ引渡候段申渡弥治兵衛方引合相濟候上西吉田手代中山九八江相渡尤挨拶并付綱之俵并相渡候由

綿服裏付肩衣着

一襖并罷出候

旅装束

踏込着用

御徒目附

藤田弥治兵衛

堀田相模守殿代官

成田鶴兵衛

右同断内手代

中山九八

右引渡無滞相濟候段何れも届出其段御用番并大目附へ手紙并相

届候

一境町西川屋善助方へ備前岡山野田屋町出石屋清右衛門元結卸売并来候所近年病身并相成得不罷越依之同人親類備中国加陽郡惣社町作屋善兵衛と申者切尺長刻たはこ紙類卸売并差越度願差出承り届ル

二月十六日 晴

二月十七日 快晴

一中之町広戸屋勘助忰宇兵衛義今般永見造酒助殿供并百日計之逗留并出府仕度願書差出承り届四月十四日届ル

一御藏米七拾三匁町米六拾九匁

一山城村へ盜賊徳兵衛召捕并差遣候入用証文四通都合百七匁式分三厘九毛右致奥印

一新野堀坂へ似七札吟味并差遣候入用銀札場受取四拾五匁六分証文致奥書

二月十八日 曇

一御用日登城

一西今町直屋久米之助家守桶屋平作借屋住白銀屋嘉左衛門娘義土并大炊頭殿領分当国久米南条郡原田村万治郎養女并差遣度人別除願御用番御聞濟并付大目附中へ差出置御聞届申達候

一中之町鳥羽屋豊八借屋住米沢屋利右衛門并妻忰常藏元藏右家内四人脇坂淡路守殿御預り所当国勝南郡羽仁村五郎右衛門方へ引越度人別除願右同断取計濟

一船頭町中村屋庄助義西寺町光嚴寺兼帯新田村長雲寺江被仰付候南

京操芝居徳守於社地興行仕度右世話役被相頼候付勸進元仕度願書
差出寺社取次後藤郷助へ引合之上承り届候段大年寄へ申達候

一元魚町指屋平三郎去ル七日届書指出候同人借屋住伊部屋久蔵義去
十二月十五日商向罷出不罷帰候付去ル七日届書差出百日尋申
付置候処昨夜罷帰リ商売向不仕合殊病氣得罷帰リ不申延引

候段申候趣届書指出候付届も不致他国へ罷越故障付逗留之
義不申越不恙之至候此段大年寄宅へ呼出し急度叱候様申付ル

一博奕取計之義昨年兩役一紙伺候通可取計之旨主膳殿与兵衛
殿御談之上御列座主膳殿方被仰渡候右訳ハ別紙有之尤大目

附江も達置候右ハ当分御裁許なく御教迄指置候考也

一三町目若本屋十兵衛居町弘美濃職人町鳥屋太兵衛勘当之倅半兵衛

五十敲之上追扨伺之通宜取計候様主膳殿方被仰渡候之目附中
も御徒目附下目附立合之義追日限可申達旨相達候所敲以上之被
仰渡ハ大目附出席被仰渡候御定法付其旨日記認置候

様大目附中被申聞候

一平井半平方へ昨夜盗人這入下女之縮緬帯巻筋被盜取候付内分

而致吟味呉候様内々相頼来小頭又六を以目明孫兵衛へ申付ル

一坪井町福恵屋伊兵衛方へ転々徳這入盜取候品其俣目明孫兵衛
預リ居外へ差構之無之義故未転徳吟味ハ不詰候得共相渡遣候も

可然旨松岡治部助へ遂内談候処同意被申候故其段御用番中へ申
達候処勝手次第相渡遣候様被仰出依之取寄逐吟味候上相渡候

様又六江申付相渡受取書差出候

一郡代所方田邑村庄助大笹村周蔵右兩人牢賄在方致兼致迷惑候

付扶持米可相廻候間取計呉候様相頼度旨三浦十郎左衛
門被申聞候付其段牢番共へ申付候様又六江申付ル

一大目附方永見造酒助殿明朝御出達付例之場所へ罷出及挨拶候様
被申依之例之通三奉行席順中之口竹之内御杉戸際へ罷出暇乞
之及挨拶

一与兵衛殿も江戸立帰リ今日被仰付候由沙駄有之候得共大目附方何
之沙駄も無之付御悦不及挨拶候

一近藤伊左衛門今日御小性頭格被仰付候并岡源蔵大坂引越竹内要左
衛門相勤居候御役向被仰付候

二月十九日 雨

一造酒助殿今朝御出府被成候

一盜賊転徳白狀口京町大村屋源右衛門新魚町瀧屋弥十郎相尋候
処申口之通相違無之旨届書差出候

一鍛冶町鍛冶市郎右衛門義廿二ケ年年寄役相勤候処病身相成候間
倅又市郎名代差出度願差出承り届

一西今町馬持井口屋利助持馬錦毛病死届出勝手次第取捨申付候

一江戸御奏者岡村要助太田舍人方大年寄共歳末献上逐披露候旨去
十二月廿八日之書書来大年寄へ相濟候

一博奕沙駄有之付夜廻り出番百蔵為治定治勇助更廻り差出心当り
之処三ヶ所踏込逐吟味候様申付候処何方も何之別条も無之旨申出
ル

二月廿日 晴

一江戸御奏者岡村要助太田舍人方大年寄共年頭献上物逐披露候旨止

月十六日之返書来大年寄へ相渡候

一 大坂山本町大坂屋忠兵衛手代与右衛門源助右兩人例年之通小間物卸売ニ来候段西新町山家屋利右衛門宿切手差出三月三日掃ル

二月廿一日 快晴

一新魚町中横町西側ニ而米屋治兵衛所持之家屋敷表口三間裏行拾七間但半役也尤裏ニ建物長屋二ヶ所北隣ハ作人福太郎南隣ハ門屋助市也右家屋敷元魚町安屋八十次取次ニ而質物に書付銀札五百匁当辰二月方来ル十月切巻ケ月巻歩ツツ四朱之利足ニ而借用仕度願書差出承り届三月十七日証文差出

一 御領分西北条郡田辺村幸右衛門義孝人西今町大工屋伝兵衛引受度人別人願大庄屋引合相濟差出承り届ル

一 平井半平方紛失もの出候由案内有之候

二月廿二日 晴

一 船頭町北側ニ而高松屋藤吉所持之家屋敷表口三間三尺裏行六間壹尺但巻軒役也東隣ハ瓜生原屋平七西隣ハ高松屋藤吉納屋也右家屋敷代銀四百五拾匁ニ相極町内中村屋庄助へ売渡度願書差出承り届ル廿八日売券状差出ス

一 西今町山手屋彦助妻出産之処出生後小兒死去大年寄遂吟味組合年寄一札并中嶋宗玄谷鉢取病死ニ相違無之段届出候

一 三町目岩本屋重兵衛呼出し組合年寄差添出大年寄小頭部屋目附立合左之通書役方読渡之

其方義去冬出所も不相糺木綿 三町目 若本屋
品々買取其後盜物と相知候而も不申出

盜賊之疑受候而も身晴も不致却而扱ニ付 重兵衛

銀札を以内濟致し吟味ニ相成候而も申披無之落着同■
之始末不届ニ付急度可申付候得共格別之憐愍を以
居町払申付候向後住居徘徊致間敷候

右昼廻り佐十郎文藏差添出し居町払取計候右取計相濟候御用番并大目附へ手紙ニ而相届候

一 盜賊牢舍人軋徳ツツ呼出し立合例之通ニ而遂吟味口書取之

一 盜賊半兵衛敲払明朝可取計間御徒目附下目附被指出候様大目附へ手紙ニ而申達右之段小頭并書役へ申付置

二月廿三日 晴

一 今六半時於牢屋御徒目附妹尾九十郎同心小頭又六部屋目附孫八書役新左衛門下目附江田清右衛門立合書役新左衛門左之通読渡之

其方義兼々不行跡ニ付 美濃職人町

父太兵衛方勘当除帳ニ相成候処 鳥屋太兵衛勘当之悴

立婦去月十七日夕新魚町五百助母方へ 当時無宿盜賊

忍入盗いたし不届之事ニ候依之五十敲之上 半兵衛

御領分追払申付候以後立婦於令徘徊者可為 曲事者也

右取計相濟出番定治為治皿村へ送り出庄屋一札取罷帰ル右之段出仕之上御用番并大目附へ相届候

於大年寄宅小頭又六部屋目附孫八立合左之通申渡之

右半兵衛盜物質ニ取置 二町目小倉屋

触流之節無之段申出不吟味不埒ニ付叱之上追込但日數三日 茂兵衛

立合無之大年寄申渡之

右半兵衛盜物質置取次 美濃職人町 文右衛門

いたし候付叱之上質物料并銀申付候

右半兵衛盜物質ニ取候

林田町ふか屋 勘十郎

ニ付右品取上ケ代物損失申付候

右取計相済候段出仕之上御用番并大目附へ相届候

御用日例刻登城

一長雲寺芝居於德守社地興行役者名面書東西両橋へ建札仕度并興行

中太鼓打廻り之願書差出御用所へ持参口達ニ而申上御聞濟ニ付大

目附へ相渡置御聞届申達候

一手嶋流講尺之義去暮も申上候通御不幸後ハ懈怠ニ相成今以同様之

趣ニ御座候少々ハ下方入用も有之事ニハ候得共教訓致候程之印ハ

有之事ニ候得者矢張先前々之通出精仕候様可申達哉と奉存候段御

用番中へ相伺候処其旨取計候様主膳殿被仰聞候ニ付其旨大年寄へ

申付候

一美濃職人町中屋栄藏義昨日方呼出勤当之悴喜兵衛より盜もの預リ

候義ハ無之哉と双方相糺候処栄藏喜兵衛ともニ決ニ而左様之義無之

旨申候ニ付其段大目附へ相達右ニ付栄藏他参留差免候段申達置其

段大年寄へ申付候

一大坂立売堀二丁め播磨屋惣吉一人例年之通小間物売ニ来候段中之

町小山屋与三右衛門宿切手差出

四月廿一日堀

一船頭町中村屋庄助德守於社地南京操芝居興行勘進元請負一札差出

受取置

一二町目林田屋あさ取持之屋敷地南側ニ而表口三間裏行拾七間但八

歩役也右窓屋敷西隣ハ三谷屋与三右衛門東隣ハ尾高屋善七也今般

代銀五百匁ニ相極町内作人茂兵衛へ売渡度願書承り届

一盜賊^喜兵衛異名転々德盜物持出候材木町船頭町紺屋町小沢横関

貫番吟味口書取大年寄差出候

一美濃職人町三笠屋伊右衛門持来候古道具屋株当三二月方来ル西ノ二

月迄五ヶ年之間坪井町吉野屋勘十郎借受商売仕度願書差出し承り

届ル

午五月廿六日取返し済

二月廿四日 快晴

一德守宮於社地芝居近々有之候間彼地へ罷越間敷大目附廻状到来写

取組中へ差出

一東新町橋本屋茂右衛門借屋住作人金五郎去ル卯十一月廿一日罷出

不罷歸其段相届百日尋被仰付候処昨廿二日罷歸候旨届書差出承り

届ケ不埒之段叱置候様ニ大年寄へ申付候

一番賃銀勘定帳大年寄差出受取置

一自分義明廿五日木山寺へ当日帰り参詣仕候段大目附へ手紙ニ而相

届三浦十郎左衛門へ留主中頼手紙ニ而申達候尤^大目附中へも郡代

頼置候段端書ニ申遣候

二月廿五日 雨

一自分義当日帰り木山致参詣候

二月廿六日 快晴

一三町目佐和屋孫四郎方今暁七半時比出火致出馬候処西隣神代屋和

兵衛福谷屋伝助右三軒焼失及鎮火五時比引出引懸ケニ御用番へ相

届大目附へ組使ニ而相届候

一佐和屋出火手あやまりニ無相違旨届書大年寄差出御用番御宅へ

致持參先規之通三日追込可申付旨口達^ニ而相伺候処其通宜取計候
様即刻被仰出小頭部や頭屋目附差向大年寄宅^ニ而叱追込申渡其旨
御用番并大目附へ手紙^ニ而相届候

一出羽守様御拜領之鶴今早朝宿送^ニ而玉置源五兵衛方へ来り早々坪
井宿へ送り遣無滞相濟候段大年寄届出先例遂吟味候処天明八年二
月七日御拜領之鶴送り来候節も不及届承り置候故先規之通承り置
候

一三町目佐和屋孫四郎今暁出火之砌銀札六メ勿計致紛失候段申出
目明孫兵衛へ考申付置候所戸川町広嶋屋佐助義必定盗取候趣^ニ付
早々家さかし^ニ而も仕度旨小頭方申出番佐十郎勇助差向ケ遂吟
味候処右銀札無之旨申出候得共先組合預ケ申付置候

一今暁火事場^ニおゐて京町水之手のものへ組之者及差図候得共不相
用候^ニ付以後左様之不埒無之様^ニ可申付旨大年寄へ申渡候

一今暁出火之節神田定治不罷出相尋候処翌日当番之者ハ前夜九時過
方之出火^ニハ不罷出先格之者小頭部屋目附方申出甚タ不^レ之致
来^ニ付以来^者惣出^ニいたし当番之者ハ引^取候^ニ候まで詰切候様^ニ申付
候尤明ヶ番之者ハ朝番壺ツ詰越夕番之者^者泊り壺ツ詰越候事也

一此砌風説^ニ雲州^ニ而他国方持来候直し灰を酒^ニ入人損シ候様^ニ風
説有之爰元^ニ而も沼田屋吉田屋榮屋佐和屋相調候由^ニ而諸人右之
もの方^ニ而酒相調不申候由風聞有之依之呼出遂吟味候様大年寄
へ申達候所孫左衛門立合遂吟味候処決^而左様候義無之処右躰之風
聞受甚迷惑仕罷在候所御吟味被下候^者甚難有旨申趣^ニ御座候由申
出候^并惣酒屋共も遂吟味候様^ニ申付置候

一右酒之直灰売候もの爰元^江も来候由風聞有之^ニ付宿屋共不残遂吟
味候様申付候所去十月比上方もの手つま杯致品之奇妙成事致伝受
候夫婦連之もの紙屋助右衛門方^ニ四五日致逗留候もの有之其後宗
永寺門前^ニ居候由瀧右衛門と申もの有之候得共酒直之義ハ承り不
申候由申出何れ^ニも旅籠屋^ニ無届二夜と差置候義ハ不届之義^ニ付
急度叱置候様大年寄へ申付候尚又惣宿屋共も遂吟味候様^ニ申付置
候

去十月比旅人瀧右衛門と申もの
元魚町紙屋
四五日差置候由申出御定法相背
助右衛門
不届至極^ニ候依之急度叱申付置候以来入念可申候

二月廿七日 雨

一藏合孫左衛門罷出申聞候^者昨日御沙駄^{マツ}有之候酒之直灰売候もの加
茂之小中原酒屋へ一昨日来向方^ニ而色々と致評義召捕御支配生野
御代官所へ可訴出哉是も程遠之義^ニ候間津山へ可申上哉杯と致評
義居候由右酒屋之馬方大村屋源右衛門方へ罷越相咄候由申聞候付
右躰之風聞も有之毒物売之もの、義^ニ候得^者決^而買取間敷^并町分
^ニおゐてハ立宿も致間敷旨大年寄場合惣町^江濱達致置候様^ニ孫
左衛門へ申付置右之段郡代所^江も相咄御用番中へ罷越具^ニ相達候
処其通^ニ而宜旨被仰聞候

一牢屋へ佐久間兵右衛門殿下屋敷之竹倒懸り候段牢番申出候^ニ付其
段当番孫八を以執権へ申遣候

一下紺屋町一乘院来月七日出立金毘羅參詣十日之逗留^ニ而罷越度願

大年寄承り届差出 三月十四日堀ル

一吹屋町持福院右同断願書差出 三月十七日堀

一上紺屋町威徳院右同断願書差出

一堺町小林主水右同断願書差出 三月十三日堀

一吹屋町熱田数馬右同断願書差出

一西今町北側 ニ 而紙屋六藏家屋敷表口四間裏行拾五間但本役也東隣

ハ直屋久米之助借屋西隣ハ庭瀬屋佐助借屋也右家屋敷建物不殘

質物ニ書入来巳ノ二月切一ヶ月沓歩式朱之利分 ニ 而町内野々口屋

八十良取次 ニ 而銀札沓貫目借用仕度願書承り届ル 翌廿八日証文差出寛政十二年七月前返断書出

一東新町延屋重四郎妹龜義去卯四月御領分勝南郡国分寺村友八妻 ニ

差遣候処此度離縁罷歸り候ニ付人別人願下方引合相濟候段申出承

り届ル

一河原町熱田市正倅大藏義金毘毘參詣来月七日出立十日之逗留 ニ 而

罷越度願書大年寄聞届差出 十三日堀ル

一三町目佐和屋孫四郎焼失之御紛失もの、義ニ付戸川町左助昨日預

ケ申付置候処同人母福渡町喜助母 同人弟同町庄兵衛方へ昼廻り

定治勇助差向家財為相改候処心懸之義無之由又々戸川町佐助方へ

差向遂再吟味候処心懸之義も無之為計策組合預ケ差免禁足申付候

其段大年寄へも申達候

一三町目佐和屋出火之御致出精候もの共左之通御賞申渡度旨大年寄

伺出其旨取計候様ニ申渡候

出精之町々

船頭町 元魚町 新魚町 鍛冶町

美濃職人町

惣火消引取候後下火出精消留候町々

伏見町 材木町 京町 橋本町 新職人町

下紺屋町 式町目 東新町 安岡町

一大目附佐々木右近方申談度義有之候間參候様申来罷越候処世上風

聞之毒酒之義及承候哉存寄等も有之哉之趣被相尋候ニ付一昨日方

認候趣一々相達置

一三町目佐和屋紛失もの、義も今朝御用番中へ粗申上置候事右毒酒

尋之序ニ大目附へも及囀置候

二月廿八日 快晴

一御用日登城

一因州氣多郡志賀野上町幸三郎夫婦式人福渡町森原屋宇兵衛引受度

人別人願御用番御聞濟ニ付大目附へ差出置御聞届申渡 五月八日住宅証文出又

一元魚町龜屋定兵衛娘義大久保加賀守殿領分久米北条郡大坪和西村

伊八養女ニ差遣度人別除願右同断濟 庚申四月十三日離縁

一御代官稲垣藤四郎殿支配所当国勝北郡植村惣兵衛孫為吉義西今町

綿屋金兵衛養子ニ引受度人別人願右同断 三月朔日証文出

一吹屋町吹屋八左衛門借屋住作人与吉方へ去ル廿三日盜賊入込衣類

蒲団四品被盜候届書差出御用番へ差出右ニ付触流被仰付 被下 候様

御用番へ申上置町方触流取計候

一宮脇町西関貫大戸扉損し開閉難相成御繕被下候様届書差出大目附

中へ差出候

一鍛冶町鍛冶幸七義本源寺長屋住利右衛門娘倅万三郎妻ニ貫受度人

別人願差出寺社取次後藤郷助引合之上承り届候 正月改ニ入

一 福渡町作人茂兵衛弟龜吉義此度御中間奉公ニ罷出度ニ付人別離願書差出御中間頭三浦伴左衛門へ懸合之上承り届候

一 林田町藤屋新治父半平義此度江原半平と相改山田主膳殿へ出入奉公仕度ニ付人別除願書承り届ル

一 昨寅十二月廿八日主膳殿町方衣服奢侈之被仰出有之翌卯之正月十一日町方へ致演達受一札取候処無伺町方計左様ニ取計候義ハ不相濟市郷同様ニ可致取計義と段々蒙御不審差扣も伺懸候処夫ハ落着之上之義御差図ニ而町方触書取集差出候様小須賀貢方被申聞不

残取集去二月三日差出置候処夫成ニ相成何之御沙駄も無之処右町方之御触扣今日小須賀貢方被差戻候ニ付差扣可相伺と申候処夫ニ

者不及是切之事ニ而相濟候旨被申聞依之右御触扣夫々江差戻候様ニ大年寄へ申付孫右衛門へ相渡候尤右之内新魚町分一帳相見へ不申候ニ付其段小須賀貢へ手紙ニ而申遣置候

一 京町吉田屋喜八郎筑前国太宰府天神宮へ参詣仕度往来四十日計之逗留ニ而明廿九日出立願差出承り届四月朔日届ル

一 牢舍人弥市療治二廻り相濟代り医願出未可薬症之由ニ付北村季斎へ申付函容鉢書郡代所へ相廻し候

一 大目附小須賀貢方出羽守様兼御懸日ハ三月五日六日之処未何之沙駄も無之候得共京町豊屋宇三郎家大破未繕ニ取懸り候趣も相見へ不申何れ出羽守様御通行迄ニハ何れとも取計候様被申聞其段大年寄へ申達急度筋立候様ニ申付候

一 錢通用百卷文ニ相成候段届出候

二月廿九日 快晴

一 出羽守様御免駕御延引被成候御日取御議定之上追ニ而可相觸旨廻状来院庄御茶屋守方申出候旨郡代所方通用有之

一 惣社村和七牢番預ケ申付候間立合差出呉候様郡代所方申来立合文藏差出

一 牢舍人■善之丞吟味ニ付差出呉候様郡代所方申来同人取計之晩方入牢之節立合孫八差出取計之

一 加茂小中原へ来候風聞有之候毒菓売延屋岩藏方ニ致止宿候趣郡代所方申来致吟味候様又六へ申付ル

一 茅町岡崎屋善吉後家家守作人太助役介平右衛門夫婦悴藤吉娘右家内四人正月廿日罷出不罷帰候段届出百日尋申付候追ニ而除帳之御可及御沙駄候

一 中之町北原屋三之助家屋敷去卯十二月質物ニ書入式百五拾匁借用候処元利返済受返候段届書差出候

一 延屋岩藏方へ目明孫兵衛罷越遂吟味候折節岩藏ハ他参之由右加茂小中原ニ而毒菓売と申ものハぢてつと申坊主ニ而長崎出生之由

妻も有之ぢてつハ五十計妻ハ四十計ニ候由去ル廿六日岩藏方へ来致逗留候処拾式人連ニ而今朝致出立候由岩藏留主之義故耽々不相分^外ニ台岳と申尾張名古屋生之禪坊主薬売老人去ル廿五日方来

致逗留居申^申経惟子売真帳と申坊主夫婦連ニ而去年十月廿四日方来居夫真帳ハ商ニ罷出妻之厄言人残居候由甚不埒之趣申出候ニ付岩藏義急ニ呼返し候様孫兵衛へ申付且又大年寄^江右岩藏方旅人二人至^而鳥散成ルものニ付旅籠^屋頭へ預ケ申付候間旅籠屋頭より遂吟味可差出尤番人も旅籠屋仲間方一人組合方一人申付候様大年

寄へ申付候

一 関貫番賃銀拾五匁大年寄差出候

一出羽守様鶴御拝領之御返書安藤对馬守殿^江之御状箱老ッ今日来り
無滞送り候段^間屋御本陣玉置源五兵衛より申出候段月番大年寄届
出候

二月晦日 雨

一目明岩藏夜前及深更罷帰候段大年寄方申出候同人義役柄不相応烏
散成もの数日差置不埒至極ニ付左之通申渡候様小頭又六へ申渡尤
部屋目附立合

存寄有之ニ付目明役

目明

取上ケ候

岩藏

右申渡相濟候上大年寄宅^ニ而延屋重四郎^{岩藏事}呼出し烏散成もの数

日差置不埒之段吟味詰口書取差出可申^并岩藏方ニ逗留之台岳^并尼
右二人旅籠屋頭方遂吟味口書取り差出候様ニ大年寄へ申付置

一 三町目佐和屋孫四郎火元御咎追込一昨日迄^ニ而三日ニ相成候間昨

廿九日可差免之処今朝迄致失念今朝差免候様大年寄へ申達置自分
義不調法之段三浦十郎左衛門を以差扣相伺候処差扣伺之通被仰付
候段大目附方申来候旨三浦方申来候右跡役三浦へ被仰付候旨案内
有之御用向申送之

一 関貫番賃銀例月之通今朝相渡候

三月小

月番

御家老

御年寄 伊達与兵衛殿

大目附 小須賀賀

大年寄 藏合孫左衛門

三月朔^丁日 曇

一 御用番与兵衛殿方御奉書到来右門差扣御免被成候間今日方出勤仕
候様申来御礼廻勤仕候

一 京町畳屋宇三郎塀修^ニ仕候ニ付御堀^江足代下し度願書差出し小須
賀賀^江罷越差出候

一 京町角屋利兵衛借屋住小山屋六兵衛役介その義妊娠月取間違之断
書差出先例之通出産之上叱取計候様ニ申達候

一 久世御代官所^江差出候安岡町綿屋万吉年寄扇屋栄治吟味一ト通り
相濟御徒目附山田新三郎召連今七半時罷帰り右引合之者共口書写

七通新三郎取帰り万吉被盜もの、内九品御裁許之砌可相渡筈ニ候
得共何れ可筋筋之もの故先内々預ケ置候由^ニ而相渡持帰り残之

被盜ものハ藤兵衛と申盜賊取扱右藤兵衛不被召捕候故相知不申由
尤追^而御裁許之砌御呼出し可有之候間夫迄万吉義遠方之他參被差

留候旨直ニ被申渡候由新三郎より承之尤吟味一ト通相濟候段返書
も来候比段御用番^并大目附へ手紙^ニ而相届候右口書写ハ追^而可差

出旨申達置候

三月二日 曇風

一 与兵衛殿御宅へ罷越久世表^ニ而吟味口書写七通山田新三郎持帰り候俟差出今般之吟味ハ此方之事計^ニ而向方之吟味筋ハ一向無之候^ニ付右為挨拶書状差遣可然相伺候処少々御存寄も被仰出候得共得と申披候得^者左候ハ、伺之通取計候様^ニ被仰出左候ハ、明後四日書状差遣可申右下案後刻差出可奉伺旨申達置罷帰^リ紙面を以右書面下案差出候所何之御存知寄も無之段口上^ニ而御返答有之候明日飛脚之者大目附へ申達明後四日差遣可申事尤右挨拶之書状差遣候義山田新三郎^江遂内談其上大目附松岡治部助^江遂内談候処何^茂同意^ニ付相伺候事

一 久世表へ差出候同心組三船新治明日方出勤^ニ付留主中加人御使組荒木其助明日方差戻候付其段手紙^ニ而大目附へ相届候

一 薪森原村^ニ而明日明後日芝居致興行候段郡代所へ申出候由郡代所方申来先例之通市郷共見物^ニ不参候様触書差出^并目明共差遣致監察候様可申付之旨郡代中方御用番へ被相伺伺済之上大目附^江も被相達済候段郡代中方申来先例之通町触差出目明^江も先規之通罷越致監察候様申達候様^ニ小頭^江申付ル右之通郡代所^ニ而伺済候事故当役方ハ不申達候事尤一昨寅十月中須賀^ニ相撲有之候節ハ御中陰^ニ付触書差出院庄御境目^ニ目明非人昼夜差出候得とも平日他領芝居之節ハ右之通町触差出目明差遣致監察候様^ニ申付候先格也

一 先月廿六日廿九日之所^ニ記置候酒之直灰売候もの、義^ニ付延屋岩藏義大年寄宅^ニ而相糺候処度々長逗留之客差置候段不調法無申披誤入候段口書取差出尤右等之毒灰売候ものハ無之旨^ニ候^并當時居

合候^{云々}忌岳^并尼智性旅籠屋頭より相糺候処右躰之毒灰売候もの^ニ而^者決^而無之旨口書取差出依之岩藏義先禁足申付置

一 安岡町綿屋万吉被盜もの、内九品扇屋栄治預り罷帰^リ候由預り手形差出し写大年寄方差出候

一 京町大村屋源右衛門被盜もの、内播州上郡^ニ而高田屋へ預ケ候羽織ハ内々取戻し相済候段届書差出候

一 坪井町北側^ニ而藤屋嘉右衛門家屋敷表口四間裏行拾七間但壱軒役也西隣ハ三船四郎右衛門東隣ハ靴屋くに家屋敷也右家屋敷廿五ヶ年已前明和九年^{壬辰}十月質物^ニ書入五百匁浜屋源右衛門方致借用候処此度元利返済受返し候段届書差出候

三月三日 小雪

一 上^一付組中罷出懸ケ^ニ謁例之通神酒出之当番昼之内麻上下着用泊方平服昼廻^リ例之通不差出夜廻^リハ差出候事

一 延屋岩藏方薬売坊主疑敷義も無之^ニ付明朝追払候様^ニ目明へ申付候様^ニ又六^江申付ル

一 薪森原村芝居^江目明孫兵衛罷出候所疑敷義無之旨孫兵衛届出候且又加茂小中原致徘徊候延屋岩藏方^ニ致逗留候疑敷薬売坊主してつと申もの^ニ在分^ニ而召捕罷帰候段同人申出候^ニ付毒灰売^ニ而^者無之哉売薬之品々相改申出候様孫兵衛へ申付尤延屋岩藏方へ差置候様^ニ申付ル

一 目明仮役明石屋庄七へ昨日方申付候段又六申出候

三月四日 晴

一 久世^江差遣候飛脚山本八十助来書状相渡候

一西今町永野屋安兵衛義播州大坂淀屋橋紀国屋藤兵衛方へ罷越度願書大年寄聞届差出候但四十日逗留ニ而五日出立四月二日帰

一坪井町福惠屋伊兵衛義撰州大坂梶木町玉子屋九兵衛方へ三十日計之逗留ニ而来七日出立之願書大年寄聞届差出同廿三日帰

一中之町平岡屋忠右衛門義右同断四十五日計逗留ニ而来七日出立之願書大年寄聞届差出四月十二日帰ル

一西新町稻屋忠右衛門義母召連京都妙覚寺參詣三十五日之逗留ニ而来ル五日出立之願書大年寄承り届差出四月二日帰

一延屋岩藏方へ昨日差遣候葉壳慈ツツの旅籠屋仲ヶ間方番付候様ニ昨日大年寄へ申渡候

一西今町永延屋彦右衛門妻義京都妙覚寺へ參詣八十日之逗留ニ而来ル六日出立之願書差出承り届五月七日帰

一西今町正田屋平兵衛母義右同断願承り届右同断

一西今町永田喜七妻義右同断願承り届右同断

一新魚町樫野屋茂市義京都烏丸通二文字屋九兵衛方へ廿四五日之逗留ニ而来ル七日出立之願書承り届四月五日帰ル

一延屋十四郎方江夜前差遣候葉壳坊主里笛義旅籠頭方遂吟味口書差出候毒灰等取扱候ものニ而者無之趣ニ付可追弘之処在方ニも致止宿候ものニ付郡代江も懸合候処向方ニ而も致吟味度旨ニ付下方目明場合ニ而在目明へ引渡候様孫兵衛へ申付候様又六へ申付候

三月五日 晴

一久世御代官所手代内藤大右衛門方へ綿屋万吉方盜賊吟味一件挨拶書状昨日差遣候所飛脚之者今朝返書取罷帰候

一左之通取計候尤小頭宅ニおゐて部屋目附立合申渡

今般格別之存寄を以

目明役申付候尔来急度相慎可勤候

夜前四時過町目明方

在目明へ引渡候尤毒灰携無之

毒酒灰携無之ニ付

御領分追弘申付候

目明仮役

差免候

右之段取計濟候段小頭又六方届出候

一目明孫兵衛昨日新森原芝居江罷出候所疑敷義無之一今朝届出候

一牢番内田利兵衛妻女子致出産依之血忌引込候段小頭方届出候尤右

ニ付加人入候ニ付牢番引込有之候間明日方加人御渡被下候様ニ大

目附へ手紙ニ而申達候御使組野尻和助来

一元魚町糺屋伊助ツツ幸吉義大坂会所町玉子屋九郎兵衛方へ四十日計

之逗留ニ而来ル七日出立願大年寄聞届差出四月五日帰

一西今町公文屋清左衛門義大坂梶木町玉子屋九兵衛方へ廿日計之逗留ニ而明後七日出立願大年寄聞届差出同廿七日帰ル

一目明孫兵衛今日新森原芝居へ罷越候所昨日切ニ而相濟候段届出候

一関備前守殿御先触到来御暇被蒙仰候得者四月十六十八日兩日之内

出立五月三日五日之内勝間田勝山と御通行先触写差出御用番へ差

出候大目附江も申達候尤八日ニ申達候郡代所江も及通用候

福渡町皆木屋

甚助

東新町延屋岩藏方ニ

致止宿候葉壳坊主

里笛夫婦倅三人

右同断急岳

尼智性

安岡町明石屋

庄七

三月六日 雨

一新魚町五百助母被盜もの六品請取ニ出小頭又六方相渡受取書取差
出右半兵衛盜もの、内ニ木綿女古帯老筋木綿長襦半老ツ有之右ハ
深屋安之丞差出候質物之内之品ニ而主無之ニ付闕所ものニ取計又
六へ申付封之闕所もの、内へ入置同十三日ふか屋勘十郎へ預ケ置
候預り一札差出候

一林田町常盤屋丈右衛門撰州能勢郡妙見宮江參詣十七日之逗留ニ
而明七日出立願大年寄差出し承届ル同廿二日帰ル

一安岡町大坂屋宇八同浜吉久米屋鶴藏福嶋屋武兵衛嶋屋熊一郎扇屋
久米太郎右六人金毘羅參詣八日計之逗留ニ而明七日出立仕度願書
大年寄差出承り届ル同十三日帰ル

一二階町河内屋金右衛門金毘羅參詣願右同断差出承届同十六日帰ル

一德守宮社地ニ而致興行候芝居役者式拾八人福渡町松山屋清助宿仕
度願書大年寄差出承り届逗留中博奕敵敷制禁申付候様ニ大年寄へ
申達候

三月七日 快晴

一德守宮社地芝居今日致大入明日方始候段夜前届出今朝御用番中
へ相届大目附江も右ニ付同心組差出候段手紙ニ而相届候

一福渡町浜屋亀四郎屋守勘治借屋住伝兵衛娘すか孫いま右二人西国
順礼ニ二百日計逗留ニ而来ル十日出立願聞届ル同廿二日願下ル

一德守宮芝居大入ニ付孫八百藏差出候所無別条引取届出候

三月八日 曇風

一御用日登城

一鍛冶町龍起水損届書差出御繕被仰付候様ニ大目附へ申達差出置候
一脇坂淡路守殿預り所当国英田郡別所村利助悻弥助一人中之町檜物
屋伝助引受度人別人願御用番中御聞濟ニ付右願書大目附へ差出置
御聞届申達候同十二日住宅証文差出二月改ニ入

一雲州神郷郡荒木村藤兵衛夫婦娘三人悻藤七石家内六人中之町今勢
屋勢平引受度人別人願右同断濟同十二日住宅証文差出

一福渡町阿賀屋助五郎借屋作人善五郎悻菊治義兼ニ不所存者之処去
十一月罷出不罷帰候ニ付義絶勘当仕度願書右同断取計濟四月十七日本証文
出又

一河原町大工屋伝藏借屋住藤七後家養子藤吉義七ケ年已前養子ニ仕
候処今般離縁親元堀田相模守殿領分久米南条郡山之城村善八郎方
へ差戻度人別離願右同断濟

一御台様御着帯御祝頂戴仕度配当場願出相伺候処先例義ニ付大目附
へ問合候処弥被為濟候由ニ付其段御用番中へ申上候御聞濟ニ付
大目附へ達置御聞届大年寄へ申渡

一配当場方申出候者淑姫様御紐落御祝頂戴座頭共方申出候得共先例
見出不申依之差押置候所万春姫様之御先例聡と書留居候由申出候
ニ付遂吟味候処其通ニ付頂戴仕度旨大年寄迄願出大年寄場合ニ而

も先例相札候処弥有之旨ニ付大年寄方申出役所扣も為相改候処相
違無之ニ付乍延引右之段御用番中へ相伺候処差遣候様被仰出其段
大目附へ達置御聞届申達候

一旅籠屋延屋（マカ）十四郎義叱追込伺之通被仰出候明朝可取計事

一盜賊（マカ）転徳御裁許相伺候御存寄被仰出尚又得と考可申之旨御用番
被仰聞候

一京町甲斐屋源藏借屋作人太郎助方へ二月六日夕盜賊這入衣類六品

被盜取候届書指出御用番中へ差出御触流し被仰付被下候様申達御

聞濟ニ付町方触流申付ル

一被盜もの届書ニ何拾何匁位之ものと義認候様先年被仰出在方ニ

者今以其通ニ候間町方ニ而も以来其通ニ取計候様与兵衛殿被仰聞

大年寄へ申付候

一人馬問屋方姫路明石へ郷路聞合之書面大年寄へ差戻候

一大目附月番小須賀貢方左之通被申渡候

近藤伊左衛門在方へ出役留主中上原彦藏引込中ニ付私へ仮役被

仰付候表向引受支配等之義可取計候

一主膳殿来ル十二日出立ニ付御退出候節竹之間御杉戸外ニ而例之通

御暇乞「候尤先格席順ニ致着座候処近藤伊左衛門存寄ニ而絶ニ而役

順ニ着座可致被申聞任其意候以来右之通ニ可致事

一德守宮芝居へ又六百藏勇助差出候所無別条札数百拾式枚之由届出

候

三月九日 快晴

一大年寄於宅小頭又六部屋目附孫八差出左之通申渡

旅籠屋ハ旅人二宿と差置

東新町延屋

間敷所鳥散成もの度々数日差置

岩藏

不埒ニ付追込申付候但日数七日

右取計相濟候段与兵衛殿へ手紙ニ而相届候所与兵衛殿ハ在方御出

役御留主之由ニ而主膳殿御承知也大目附江も同断相届候

岩藏義右之通之所頭役之分と

元魚町旅籠屋頭

心付薄不埒之段急度叱置以來

笹屋

敵敷相改候様ニ申付ル

友治

一近藤伊左衛門今朝出立之段大目附へ手紙ニ而相届ル

一京都烏丸通六角下ル町ニ文字屋九兵衛手代茂兵衛一人来候段京町

海老屋長右衛門宿切手差出元禄八年八月十一日掃ル

一德守芝居無別条木戸札式百三拾四枚新治為治届出ル内藏見留ニ出ル

三月十日 快晴

一撰州豊嶋郡池田村目野木町植木屋平兵衛老人例年之通来候段新魚

町鳥屋与三兵衛宿切手差出

一関備前守殿大坂通行之処山崎路通行ニ相成依之宿違候ニ付先触

来候段大年寄差出併勝間田勝山之泊ハ不違事故何方江も不及御

沙駄候

一德守宮芝居無別条木戸札式百五拾枚又六定治百藏届出候

一林田上之町広川義左衛門長屋夜四ツ半比焼失致出役候処一軒切ニ

而即刻致鎮火引取懸与兵衛殿御留主ニ付主膳殿御宅へ罷越引取候

段相届大目附江者馬脇方組之者使ニ而口上ニ而相届八時比掃宅い

たし候但大目附も出馬也

一出火出役引取候節同心組引下り馬脇へ附添不来候ニ付存寄相尋候

処先格馬脇ハ兩人相勤来候由申之候得共其義も無之何れも心得違

之趣ニ付以來ハ八人共馬之左右へ附添供致候様ニ申付候

三月十一日 少雨 風

一德守宮芝居今日ハ致延引候段届出候

一下紺屋町万性院金毘羅參詣十日計之逗留ニ而来ル十五日出立之願

大年寄聞届差出同廿一日掃ル

一坪井町吉野屋勘三良大坂梶木町玉子屋九兵衛方へ三十日計之逗留

二 而明十二日出立之願大年寄聞届差出四月七日楯ル

一信州木曾筑摩郡葦原宿古屋善兵衛と申者一人例年之通木櫛卸売来候段中之町小山屋与三右衛門宿切手差出

一牢舎人弥市療治二廻り相濟代リ之医申出其段大年寄へ申付候処未相勝候ニ付中村易安へ申付候段申出候

一殊之外風烈ニ付暮後方町々火用心申相廻候様ニ可申付旨大年寄申越其旨取計候様及差函

一近藤伊左衛門暮過時罷帰候段相届呉候様申来其段大目附へ手紙ニ而相届留主中御用向申送候

一公儀御触大目附方廻状到来去々寅十二月廿五日下午総国流山村百性与七鴛養子惣助義養父母并妻養方弟致切殺逃去り未相知不申候ニ付再触写取町中并組中へ差出候

三月十二日 曇 風 少雨

一今町野浪屋新四郎妻死躰出産孫右衛門相改無別条旨例之通改一札差出

一西今町野々口屋七郎右衛門義年寄役拾七年相勤候処近年足痛仕候ニ付悴八十郎へ名代役被仰付被下候様願書差出願之通承り届候

一牢舎人弥市療治中村易安へ申付候処外科之受前之病氣故外科へ被仰付候様ニ申出候付原田春桂へ申付候段大年寄届出候

一德守芝屋致延引候段届出候

三月十三日 晴

一御用日登城

一茅町和哥屋六三郎義西吉田領河本村久右衛門へ壳懸出入一件ニ付

去月八日西吉田江出訴添簡願出御用番中御聞濟之処悴痲瘡相煩候ニ付今少添簡相渡候義致延引呉候様大年寄方申出任其意置候処此

節右痲瘡病人も致死去候ニ付可罷出処扱人を以内濟仕候ニ付願下ケ願書差出し其段御用番并大目附へ及御沙ツ願書差戻候

一大目附佐々木右近方「」場往還筋出火ハ公儀江御届入候事之様相覺先例相調居候得共未得尋出不申候間役筋ニ而も相調候様被申聞

依之先例相調候処左之通ニ御座候ニ付其段右懸へ申達候

宝曆九卯年二月晦日境町出火之砌ハ竈数表口間数書上ケ消失之ものへハ封し銀札御免被成候様相見へ申候

同年十一月安岡町茅町両町出火之砌ハ間数書上ケ封し

銀札御免被成両町へ銀子拾貫目被下置候様相見へ申候

寛政四子年六月廿日二町目出火之砌ハ表口間数書上ケ不申

竈数計御届申上候様ニ相見へ申候（宋）公儀御届八月十日在之

右之通三度共公辺御届之義ハ一向相見へ不申候

一新魚町五百助母方へ盜賊進入候段正月廿三日届出右盜人半兵衛召捕相札候処右之品林田町ふか屋勤十郎方ニ有之差出候品之内ニ女

古木綿嶋帯老筋女木綿長襦半一ツ有之右両品者五百助母之被盜物ニ而「」無之ニ相極依之去ル六日闕所ものニ取計候様又六へ申付

候得共得与相考「」処何方之盜物ニ而も当時主無之候得者盜賊半兵衛所持之ものニ而質ニ置候得者其俣可差置筋ニ付先当分ふか屋

勤十郎へ預ケ置候間其段申渡候様大年寄へ申渡右両品相渡し九年月過弥主無之候ハ、ふか屋へ可差遣候事

一德守官芝居無別条木戸札三百拾四枚又六定治勇助届出候

一先月廿六日三町目佐和屋出火始終刻限認差出候様大目附佐々木右近方申来大年寄へ尚又相尋遂吟味候上左之通手紙ニ而申達候

八ツ時分出火いたし六時過致鎮火候

一去ル十一日出候公儀御尋もの心懸之義無之候ハ、先例之通証文差出候様大目附廻状到来写取町方并組中へ差出候

三月十四日 曇

一大目附佐々木右近方呼来罷越候段先月二町目出火御届入候間軒数并出火鎮火刻限認差出可申尤先年安岡町出火之節御届扣并御留主居方申来候書面右式通被相渡候ニ付左之通写置候

一宝曆十辰正月十三日

一十一月廿五日夜安岡町出火ニ付公儀御届書写如左

私在所作州津山去月廿五日丑刻安岡町と申所より出火西北風絶翌廿六日卯刻過茅町と申所ニ而火鎮り申候焼失左之通

一足輕屋敷 拾壹軒

一寺 貳ヶ所

一町家 百七拾八竈

一百姓家 拾九竈

右之外城内并家中屋敷無別条人馬怪我等者無御座候段申越候依之御届仕候以上

十二月十二日 御名

寛政四年二町目出火之砌御留主居方大目附へ相廻候書付左之通

覚

一 駅場と申候者惣而旅人往来筋之義御座候得者右通り筋八町家并百姓家共ニ御届有之候事

但何時方出火何時鎮火何間ニ何間之棟何拾間焼失竈数者何軒と申儀委細ニ申来候様被仰遣度御座候尤通り筋

「一」候も裏家等ニ而少々之義ニ候ハ、御届ニ及不申候事

附紙

但駅場ニ者無之候得共往来方見渡之横町杯も其模様ニ寄候而ハ御届も可有之義ニ御座候間是又同様申来候様被仰遣度候

一 焼失之趣ニ寄御届之有無者御当地ニ而取扱候之義故何分ニも巨細ニ早々申参候様被仰遣度御座候以上

寛政四年八月 御留主居

(朱字) 寛政四年届書八月十日宛ニ有之

右ニ付届書差出候様被申聞候付左之通相認佐々木右近へ差出

去月廿六日丑刻三町目出火左之通町家竈三軒焼失仕卯刻鎮

火仕候

棟行五間 一軒 棟行七間半 一軒 棟行八間 一軒 棟行六間半 一軒

右之通焼失仕候此段御届申上候以上

三月十四日 増兎右門

一二丁目小倉屋茂兵衛金毘羅参詣八日之逗留ニ而明十五日出立願大

年寄承り届差出 同二十一日焼九

一 德守宮芝居無差別条木戸札三百六拾式枚新治百藏届出候

三月十五日 少雨 風 昼後晴

一 德守芝居雨天ニ付延引届出候

三月十六日 少雨 風 晴

一 東新町延屋岩藏追込昨日迄ニ而七日ニ相成候ニ付大年寄於宅「一

追込指免其段御用番并大目附へ手紙ニ而相届候

一 自分義三町目出火御届之義不心付去ル子年二町目出火御届之例も

得不見出元方相覚不申其段一通り申上置其後又々遂吟味候処二町目出火之砌御届ニ付軒数等書出候義見出大目附中へ申達候処不調

法之旨三浦十郎左衛門迄察度有之依之十郎左衛門を以差扣相伺候
処不及其儀被仰出尤去ル十四日之処ニ記置候江戸表御留主居方申
来候出火御届之義先年御達置も可有之筈之処無其儀此段ハ大目附
中御不念ニも候得共已来者右書付之通役筋ニ而請持居出火之度々
ニ調出相届候様伊達与兵衛殿方御達有之候旨大目附小須賀貢方手
紙ニ而十郎左衛門へ申来通用有之候以来「其旨相心得可申事
一自分義今昼後二ノ宮辺罷越候ニ付三浦十郎左衛門相尋置候

一德守宮芝居無別条木戸札四百拾八枚孫八勇助届出候

三月十七日 快晴

四月改入

一坪井町福後屋伊兵衛借屋住倉敷屋富治夫婦二人林田村高原屋伊兵
衛方へ引越度人別離願下方引合相濟候段大年寄申出承り届

一京町田原屋伊兵衛義備後福山大黒町いなりや宇兵衛方へ三十八日
計之逗留ニ而明十八日出立之願大年寄聞届差出四月廿四日帰ル

一先月十五日堀田殿役人盜賊受取ニ来候節元魚町紙屋太兵衛へ頼来
候趣申出迎ニ出候様ニ申候処右為挨拶南簾一片相送り候由内々札
申出候

一公儀方御尋之もの疑敷義無之旨惣町中吉通并自分証文合式通大年
寄差出組中一通牢屋吉通三軒屋一通高石垣番吉通并非人共遂吟味
候大年寄書付吉通都合七通差出書役江預ケ置

一德守宮芝居無別条木戸札三百五拾八枚又六定治為治届出候

三月十八日 雨

一御用日登城

一郡代三浦十郎左衛門当病不参大目附へ相届

一二階町作屋藤助御堀江足代下候願大目附へ差出

一御台様御着帯御祝義并淑姫様御紐落御祝儀配當場頂戴御受書両通
御用席へ持参口達ニ而申上大目附へ相渡置候

一堺町豊屋喜左衛門屋守福本屋勘七借屋住作人勘兵衛妹ちの義御代
官早川八郎左衛門殿支配所当国西々条郡久田河内村岡本内記妻ニ
差遣度人別離願御用番御聞濟ニ付大目附へ差遣置御聞届申達候

一大久保加賀守殿領分当国久米北条郡大坪和西村幸七妹さわ義橋本

町杉屋市右衛門妻ニ引受度人別人願右同断取計濟四月廿日証文差出

一堀田相模守殿領分当国勝南郡長内村伝藏悱弥助夫婦悱音吉右家内
三人橋本町松田屋佐助引受度人別人願右同断済四月廿日証文出ル

一元魚町油屋与三兵衛役介高島道友離帳願申上懸候処思召被仰出候
ニ付尚又相考追可奉伺旨申上置於別席小須賀貢へ申談ル

一関備前守殿御先触先日來候処御故障ニ付御宿割違又々御宿割先触
到來江戸四月十六日十八日之内ニ相成候得者爰元五月三日五日兩
日之内佐用一津山と御泊リニ相成候段申来玉置源五兵衛御宿御受

可仕哉と伺出其段与兵衛殿御宅へ罷越相伺候候処思召無之候ニ付御
受仕候様ニ可相達旨大年寄へ申達右先触写大目附へ差出

一二階町嶋本屋乙治娘死躰女子出産遂吟味候処疑敷義無之旨例之通
一札并玉置源五兵衛見届一札差出

一德守宮芝居無別条木戸札式百五拾三枚新治文藏見習巴藏届出候

一播州加藤郡三木町形屋与兵衛一人例年之通紺屋形壳ニ来候段勝間
田町山形屋喜兵衛宿切手差出

一播州右同郡同町德屋平兵衛一人右同断来右同人宿切手差出

一境町美濃屋清右衛門義大坂堂嶋北町瀧屋源兵衛方へ廿五日計之逗留^ニ而明十九日出立之願大年寄聞届差出^{四月十一日届ル}

一 下紺屋町作人勘八牢賄宿^ニ而も久々之義得致不申先達^而已来組合方取計居候処是又久々之義^ニ而組合も統兼候^ニ付一町内方取計候様仕度旨願出候段大年寄申出其通申付候様申達候

三月十九日 快晴

一 德守芝居昨日雨天^ニ付今日致延引候段勸進元届出候

一 宿馬見分小頭川端又六部屋目附三船孫八差出蔵合孫左衛門於宅達見分相揃無別条旨大年寄孫左衛門問屋目附喜左衛門相揃届出毛附帳差出候

三月廿日 晴

一 德守宮芝居無別条木戸札四百拾式枚又六佐十郎勇助届出候

三月廿一日 快晴

一 播州網干新在家伊部屋清六一人例年之通塩物^并鯉節卸売^ニ来候段中之町甲屋幸助宿切手差出^{四月廿七日届届有之}

一 德守宮芝居無別条式百七拾枚木戸札有之候段新治為治円蔵届出候

三月廿二日 快晴

一 福渡町伝兵衛娘すか孫召連西国順礼^ニ罷出度願書去ル七日差出候 処孫女相勝不申候^ニ付旅行延引仕度段大年寄申出承り届ル

一 德守宮芝居無別条木戸札三百六拾六枚又六定治百蔵届出候

三月廿三日 快晴

一 御用日登城

一 林田五町方昨年洪水之砌土手損今以御繕無之何卒御繕被仰付二尺

計も地形上ケ度八出尻新川埋り新開等も多出来候間水はけあしく候故洪水之節難義仕候段歎書差出郡代江致相談候処尤之事之様^ニ

一 被申候得共六ヶ敷趣相聞何分被及御沙駄^沙可然旨被申候^ニ付土手御繕等も有之候事故大目附へ申達候処右等之義八町方と可相願筋^ニ而も有之間敷御普請方如才ハ無之事^ニ而順々^ニ取計可申候事^ニ

候併右願書一卜通りハ見置可申由^ニ而被請取置候尤町方ハ御普請所之義恐入候事^ニ者候得共町方急難之義身命^ニ者難替事^ニ候間被仰付候ハ、御手伝^者可致と申趣孫左衛門方も申聞候得共先此義ハ不申達候

一 鍛冶町龍起水繕之義大目附へ致催促候処御作事へ被仰付置候間御作事へ差出候様被申聞候付其段大年寄へ申達候

一 大坂村尾至右衛門方爰元町人左之もの共大坂御堂筋ひるや町千鳥屋喜右衛門へ雛代相滞り不埒^ニ付可致出訴候得共左候^者御名も出候事恐入奉存候間何卒内濟被仰付被下候様至右衛門へ願出於向表可取次筋^ニ而茂無之其訳申聞候得共達^而相願候間先預り置可申尤申遣候^而も六十日限^ニ濟口申付候杯と申取計^ニ者決^而無之旨申達置候依之内分^ニ而相濟候得^者致安心候事故不苦義^ニ候ハ、大年寄場合^ニ而成とも為御懸合被下候様仕度旨内々^ニ而申越別紙書付左之通

一 銀三拾式匁九分七厘

作州堺町 芦田屋佐市

一同百式拾六匁八分八厘

津山元魚町伊勢屋半四郎

一同式百七拾七匁三分九厘也

三町目伊筒屋 幸助

右之通雛代銀相滞度々催促仕候得共我候計申一切埒明不申候何卒急々罷登相渡可申候様被為仰付候ハ、御慈悲難有仕合^ニ奉存候以

上

寛政八年辰三月 大坂御堂筋ひる屋町千鳥屋喜右衛門印
作州津山御屋敷 御役人衆中様

右書面之趣乍内々御用番中へ申達候処宜取計遣可申尤先方ハ至
長敷取計方ニ候得者 早々相濟遣^已後^レニ例ニも相成候様ニ致度
左右衛門取次兼候趣ニ候得共以來共随分取次内分ニ而 濟遣候様ニ
取計可然事ニ候間此段も相伺置候段左右衛門心得ニ相成候様ニ御
差図と可申遣旨与兵衛殿被仰出候幸今晚飛脚仕廻ニ付一ト通り大
坂^江及返書委細^者 相札候上可及細覚旨申遣置大年寄へ相札濟口申
付候様ニ申付ル孫左衛門口ふリニハ古借^ニ而^者無之哉井筒屋幸助
と申ものハ四五年以前ニ致死去候もの、様ニ申候間左様之事ニも
候ハ、相統人呼出し相札候様ニ申付ル尤大目附^江も及噂置候
一 徳守宮芝居無別条木戸札三百四拾式枚孫八文蔵届出候

三月廿四日 快晴

一 御領分東南条郡粉山村八十八俵伝吉一人茅町打穴屋長兵衛引^{ツツ}受引
受度人別入願承り届ル
一 昨日申達置候大坂方売懸ケ滞り三人呼出候所堺町芦田屋^者 此節売
用ニ出居候ニ付妻ニ申聞候処早速筋立候様可仕旨可申遣之旨申候
由其外二人ハ致死去當時居不申幼年之俵又ハ養子等^ニ而 御座候^而
一向不相分候得共来月十五日迄ニ相濟候様ニ申付候旨大年寄申出
候
一 牢渡昼廻孫八文蔵申付候所無別条旨届出候
一 大坂村尾左右衛門へ右三人之町人^江 今日申渡候処二軒ハ逼塞老人
ハ他出警身代限り弁致申付候共致不足可申程之趣ニ候間懸合候て

先方ニも其心得^ニ而 致了簡相濟呉候様ニ取り合被呉候様ニ明日御
組出立幸便ニ付申遣

一 徳守宮芝居無別条木戸札五百八拾三枚又六佐十郎為治見習円蔵届
出候

三月廿五日 晴風

一 徳守宮芝居無別条木戸札六百七拾五枚又六定治勇助届出候
一 牢舍人弥市療治二廻り相濟候段申出候付例之通大年寄へ申付候処
未相勝候ニ付引続原田春桂へ療治申付候段申出候

三月廿六日 晴

一 萩野嘉七病気全快ニ付今日方致出勤候右ニ付加人勇助今日方可差
戻候処芝居も今日切^ニ而 不軽大入大洪難ニ付幸之義故今日芝居出
役候様ニ申付ル

一 徳守宮社地芝居無別条今日切^ニ而 相濟木戸札四百拾式枚新治百蔵
勇助届出其段御用番^井 大目附へ手紙^ニ而 相届候

一 萩野嘉七出勤ニ付加人御使組日下勇助明日方差戻候段大目附中へ
手紙^ニ而 相届候

三月廿七日 快晴

一 徳守宮社地芝居役者今朝出立之段勧進元届出候役者宿方も右同断
一 前訓講尺明廿八日方相始候段大年寄届出候

一 戸川町広嶋屋義助家屋敷戸川町南側^ニ而 表口四間裏行拾七間但半
役也西隣ハ作人物七東隣ハ妙願寺地子居屋敷也右家屋敷代銀札式
百七拾匁ニ相極町内備中屋源助へ売渡度願書差出承り届ル<sup>同廿九日売券
状出ル</sup>
一 鍛冶町伊賀屋忠蔵^井 悴利助二人当国真嶋郡垂水村塚谷屋延右衛門

方へ当辰年方午歳迄三ヶ年之間奉公罷越度願大年寄差出承り届ル
一 大年寄歳末年頭献上物代式百疋相廻候処受取候段江戸小勘者方申
来大年寄へ為見候

三月廿八日 曇 夜雨

一 御用日登城

一 脇坂淡路守殿御預り所当国久米南条郡福渡村百性熊治郎役介豊并

同人妹国右女二人戸川町打穴屋長七借屋住富士屋金五郎引受度人

別入願御用番御聞濟ニ付右願書大目附へ差出置御聞届申達候

同廿九日住宅証文差出ス

一 戸川町平田屋平八借屋住吉田屋伝蔵悻六之丞義五ヶ年以前子十二

月義絶勘当致候処心底相改候ニ付勘当差免度願書御用番御聞濟ニ

付右同断取計濟

一 脇坂淡路守殿御預り所当国久米北条郡宮尾村庄兵衛一人戸川町平

野屋助左衛門引受度人別入願右同断取計濟 同廿九日住宅証文差出ス

一 雲州松江末次町市之丞夫婦二人桶屋町嵯峨屋宇兵衛借屋住作人長

藏引受度人別入願右同断取計濟 四月四日本証文差出

一 酒直段去冬米相場七拾匁余致候ニ付兼而御定之通左之通卷分上ヶ

願出御用番中御聞届ニ付右願書并割合書大目附へ差出置御聞届申

達候

酒直段御藏米七拾匁方八拾匁迄仕候節左之通

名酒卷升ニ付 卷匁九分方式匁四分迄

極上酒 同 卷匁七分

諸白 同 卷匁四分

上酒 同 卷匁式分

生酒 同 九分
下酒 同 七分五厘

右酒直段定ハ去ル寛政四^壬年十一月酒改共方左之通宝曆八^戌年正月鈴木喜右衛門在役中被仰出候定之由左之通直段定書差出

但宝曆八年八井上弥三兵衛役中也何歟不詳尤古役方承り伝卜申事

(朱字) 而酒改方差出役所日記正月十七日之処ニ有之不詳

酒直段定宝曆八^戌年正月鈴木喜右衛門様御在役中被仰出候由

古役方承り伝候

米相場三拾五匁方八九匁迄仕候節酒直段

名酒卷升ニ付 代卷匁卷分

上酒卷升ニ付 代八分

中酒卷升ニ付 代七分

下酒卷升ニ付 代五分

下々酒卷升ニ付 代三分五厘

米相場四拾匁方四拾八九匁迄仕候節酒直段

名酒 卷升ニ付 代卷匁三分

上酒 同 代卷匁

中酒 同 代八分

下酒 同 代六分

下々酒 同 代四分五厘

米直段五拾匁方五拾八匁迄仕候節酒直段

名酒卷升ニ付 代卷匁五分

上酒 同 同卷匁式分

中酒 同 同卷匁

下酒 同 同八分

下々酒 同 同六分

米相場六拾匁方六拾八九匁迄仕候節酒直段

名酒壹升^ニ付

代壹匁八分

上酒 同

同壹匁五分

中酒 同

同壹匁三分

下酒 同

同壹匁

下々酒 同

同八分

右定書^ニ寄^ニ而已來左之通^ニ相定度寛政四^壬年十月差出候酒定直

段書付左之通尤當時此通^ニ伺濟

御藏米相場三拾五匁^方四拾匁迄仕候節酒直段

名酒壹升^ニ付

代壹匁三分^方壹匁八分迄

極上酒 同

同壹匁壹分

諸白 同

同八分

上酒 同

同七分

生酒 同

同五分

下々酒 同

同三分五厘

御藏米相場四拾壹匁^方五拾匁迄仕候節酒直段

名酒壹升^ニ付

代壹匁五分^方貳匁迄

極上酒 同

同壹匁三分

諸白 同

同壹匁

上酒 同

同八分

生酒 同

同六分

下々酒 同

同四分五厘

御藏米相場五拾壹匁^方六拾匁迄仕候節酒直段

名酒壹升^ニ付

代壹匁七分^方貳匁貳分迄

極上酒 同

同壹匁五分

諸白 同

同壹匁貳分

上酒 同

同壹匁

生酒 同

同七分

下々酒 同

同五分五厘

御藏米相場六拾壹匁^方七拾匁迄仕候節酒直段

名酒 壹升^ニ付

代壹匁八分^方貳匁三分迄

極上酒 同

同壹匁六分

諸白 同

同壹匁三分

上酒 同

同壹匁壹分

生酒 同

同八分

下々酒 同

同六分五厘

御藏米相場七拾壹匁^方八拾匁迄仕候節酒直段

名酒壹升^ニ付

代壹匁九分^方貳匁四分迄

極上酒 同

同壹匁七分

諸白 同

同壹匁四分

上酒 同

同壹匁貳分

生酒 同

同九分

下々酒 同

同七分五厘

御藏米相場八拾壹匁^方九拾匁迄仕候節酒直段

名酒壹升^ニ付

代壹匁^方貳匁五分迄

極上酒 同

同壹匁八分

諸白 同

同壹匁五分

上酒 同

同壹匁三分

生酒 同

同壹匁

下々酒 同

同八分五厘

御藏米相場九拾壹匁^方百匁迄仕候節酒直段

名酒壹升^ニ付

代壹匁壹匁^方貳匁六分迄

極上酒 同

同壹匁九分

諸白 同

同壹匁六分

上酒 同

同壹匁四分

生酒 同

同壹匁壹分

下々酒 同

同九分五厘

右定書を以寛政四_{壬子}年相伺候処其通取計候様御用番山田主膳殿
方十一月廿日被仰出候右定書同年之日記ニ可記処認落候ニ付爰ニ
記置候且又酒直段上ケ下ケハ秋物新穀造込之酒売出候節と寒造春
売出候節と両度之外ハ上ケ下ケ不相成尤造込時節之相場を以相定
候事此段寛政四_{壬子}年十一月廿七日之日記ニ記有之候
一 牢凌昼廻り方申来候処無別条段佐十郎文蔵届出候

三月廿九日 晴

一番賃銀例月之通相渡

一 郡代所方博奕一件ニ付長蔵と申もの牢番預ケニ相成居候処右長蔵
義病氣ニ付療治被仰付被下候様庄屋共方郡代所へ願書差出候由昨
日三浦十郎左衛門方相廻り是迄例無之筋違之義牢番共方病氣等之
義ニも宿へ内通可致管ニ無之依之小頭又六へ為相糺候処長蔵義
此節病氣之躰一向無之猶又右躰之義宿元へ申聞候義_者決_而無之旨
牢番足輕式人下番中間二人一札取差出其段郡代所へ申達右一札相
廻候

一 河原町狂人婆居所無之ニ付小屋懸ニも致遣候様先達_而及指図置
候処右住所六拾式匁ニ出来候由大年寄申出兼_而之工面ものニ_而

払遣候様ニ及差図

一 鍛冶町龍起水繕致出来御作事方受取候段大年寄届出候

一 小川横関貫之普請出来候旨大年寄届出候

一 三町目出火後ハ今以非人夜番申付候処際限も無之義ニ付今夕方引

取候旨届出候段大年寄申来候

四月 大

月番

御家老 安藤丹後殿

御年寄 伊達与兵衛殿

大目附 伊達与吉郎

大年寄 玉置源五兵衛

四月朔_{丙子} 旦 快晴

一 安藤丹後殿東武方今日御帰着

一 坪井町山際屋平六和州大峰参詣廿日計逗留明二日立願書大年寄
承り届差出_{同十五日掃}

一 下紺屋町長江朝庵伯州赤崎伊当屋清兵衛方へ四十日之逗留_而来

ル五日立願書大年寄聞届差出_{五月廿八日掃ル}

一 茅屋町吉屋平次和州大峰参詣四十日計逗留_而明二日立立之願書

大年寄聞届差出_{同十五日掃ル}

四月二日 曇

一 大目附廻状到来去月十九日江戸深川御抱屋敷御玄関御台所焼失依

之御差扣御伺被成候処御伺ニ不及段即刻御差図御座候旨為御知廻

状到来写取組中へ相達_并大目附伊達与吉郎方右御焼失ニ付御機嫌

伺_并御差扣被為候候御伺ニ不及段被仰出候恐悦右両様申上明三

日四時登城候様手紙_而申来類役中へ及演達

一 前訓講尺為勵致出席候処朴也相勤ル出席式百八人

一元魚町松屋源藏弟義助うつけもの不行跡ニ付何卒兄源藏へ御預ケ被下候様内々相願候趣ニ相聞候ニ付教訓之義ニ候得者不苦義ニ付義助不行跡ニ付兄源藏へ預ケ候段呼出大年寄於宅申渡候様ニ大年寄へ申渡候処翌三日申渡候由ニ候

四月三日 晴

一御用日^并江戸御抱屋敷御焼失ニ付御機嫌伺^并御差扣ニ不被為及恐悦申上ニ付三奉行以上檜之間衆迄四時登城着服之義大目附へ承り合候処御祝義之恐悦ニ而無之故平服袴計ニ而候之旨被申聞候例之通七間廊下ニおゐて御小性代謁有之御奏者番方三奉行迄一同罷出上席御奏者番方深川御屋敷出火ニ付御機嫌奉伺候^并右ニ付御差扣御伺被成候処不被為及候段御差図御座候恐悦申上候旨申上之引取一備前津高郡円祥村市三郎妹義新魚町紙屋元吉借屋住人原平妻ニ引受度人別入願御用番御聞濟ニ付大目附へ渡置御聞届申達候^{三月改入}

四月四日 快晴

一播州網干塩屋伊兵衛一人例年之通塩物荒物卸売參候段中之町津田屋伝助宿切手差出^{七月廿八日掃ル}
一播州網干余陸屋惣七一人例年之通八百屋物卸売來候段右同人宿切手差出右同断

四月五日 雨

一牢舎人宜祥新吉病氣之旨牢番共昨晚申出夜前大年寄へ申付置候処今朝宜祥病氣差重り候段申出尚又大年寄へ申付候跡見春鷗申付容鉢書差出候処宜祥義ハ湿腫内攻之旨申出即刻療治申付容鉢書郡代所へ相廻候新吉義ハ藥石候^ニ者不及旨申出候

一手嶋流講尺為勵去ル二日致出席今日切^ニ而相濟候ニ付致出席候処北山修白相勤三百三拾人出席有之候

四月六日 晴

四月七日 雨

一鍛冶町東番所^并二階町南番所大破候付普請取計候段大年寄届出承り置

一播州網干平松屋惣九一人例年之通小間物晒蠟壳ニ來候段中之町小山屋与三右衛門宿切手差出^掃_{同八月八日掃ル}

四月八日 晴 風 霞

一御用日登城

一伯耆国日野郡生山段塚六郎左衛門娘札元玉置卯左衛門粹忠四郎妻ニ引受度人別入願御用番御聞濟ニ付大目附^江差出置御聞届申達候
一一ノ宮市町之触書例歳之通差出
一惣側御藪筈之御触例歳之通差出

四月九日 晴

一播州高砂本町伊勢屋喜十郎一人例年之通小間物売ニ來候段二階町堺屋伊右衛門宿切手差出^{五月十三日掃ル}

四月十日 曇 晴

四月十一日 雨

一樞野屋茂市郎内々申出候由^ニ而藏合孫左衛門方昨日申出候^者元津山福渡町出生組屋源左衛門方ニ致奉公居候者当時大坂天満十町目ニ住居沢屋万助と申もの先日茂市郎出坂留主へ來候由於大坂致対談候処京都西運寺東雲閣為修覆西雲寺方万人講御頼被成度旨万助

出入之義ニ付津山へ御頼之使者被差遣し致案内候様御頼之由尤昨年京都御留主居^江も懸合有之候之由茂市郎へ万助方段々相頼候得共一向不及頓着致断以後此義ニおゐてハ決^而御懸合不被下候様及断ニ置候段右懸合之応対振り委敷申出候ニ付其段与兵衛殿へ罷越及御沙駄置候委細之義ハ爰略之^{但与兵衛殿承り候得。昨年懸合有之候。濱濱西運寺殿之由也。}

一大目附伊達与吉郎方呼ニ来罷越候処銀札場札摺共致贖札候様子銀札場奉行方申出候間先預ケ^ニも申付置銀札場奉行へ委細遂対談致吟味候様被申聞尤御用番中御達之旨被申聞仍之孫八嘉七定治為治差向

京町若松屋義助同倅岸三郎

倅喜次郎

同町品屋宗兵衛

二町目道具屋兵五郎

西今町常屋文兵衛

同町原田屋嘉兵衛同

二階町させる屋藤助

元魚町八百屋茂兵衛

坪井町大津屋儀八

右拾人組合預ケ申付尚又大年寄方も年寄へ嚴敷預ケ申付候様申達置先右之通取計置候段御用番^并大目附へ手紙^ニ而相届江口衛助へも及通用候

四月十二日 雨

一 牢舎人助大夫乙松宿賄致兼候ニ付今朝切^ニ而昼賄方ハ得持參不仕旨牢番共へ相断候由申出候ニ付其段郡代所へ申遣候

一新魚町灘屋弥十郎方へ昨晩久世木野屋五郎兵衛と申もの参り吐血致早速夫々^江人差遣候得共大病之義故内々申出候由大年寄申出承り置

一 町方溝見分例歳之通昨日孫右衛門又六孫八今日孫左衛門又六新治

罷出遂見分候処別条無之旨届出候

一 御領分林田上之町筏屋甚七弟万助夫婦^并娘右家内三人東新町清六引受度人別人願承り届ル

一 上紺屋町南側^ニ而津嶋屋民吉家屋敷表口四間裏行拾七間但半役東隣ハ津嶋屋源右衛門西隣^者作人清吉也右家屋敷西之方^ニ而表口式

間裏行拾壹間御役式分五厘付同町中野屋平八後家^江代銀式百匁^ニ売渡度願承り届ル^{同十八日宛券状出}

一 京町南側^ニ而石井屋并四郎家屋敷表口七間裏行拾七間但九步役也東隣ハ花屋権兵衛西隣ハ多加屋鶴治右家屋敷東之方^ニ而表口三間

半裏行拾七間三步五厘役付代銀札式百五拾匁^ニ町内研屋和兵衛へ売渡度西方^ニ而表口三間半裏行拾七間五歩五厘役付代式百五拾匁^ニ町内飾屋源七後家へ売渡度願書大年寄差出承り届^{同十八日宛券状出通出ル}

一 二階町丸尾屋長兵衛役介善吉義御領分西北条郡山北村林藏方^江為引越申度人別離願差出承り届

一 御領分勝南郡国分寺村伊兵衛妹船頭町備中屋三之丞妻^ニ引受度人別人願差出承り届

四月十三日 晴

一 御用日登城

一 脇坂淡路守殿御預り所当国英田郡倉敷村卯兵衛一人二階町三保屋十右衛門家守松本屋喜助借屋住三原屋定七引受度人別人願御用番御聞濟^ニ付大目附へ差出置御聞届申達候^{同廿二日住宅証文差出}

一 万人講殘銀員數^并銀札員數書出候様与兵衛殿先日被仰聞候^ニ付殘銀式拾壹本銀札^并拾九貫五百式拾壹匁五分四厘有之候旨預り手名

面員數委敷認差出候

一先日与兵衛殿へ御内意申上置候なたか瀬ニ而船ニ而米つき車之義勝手次第願差出候様ニ与兵衛殿被仰聞其段大年寄へ申達候

一伊達与吉郎方此間被相渡候賈札并右書付今日差出候様被申聞候付今日差戻候

一牢内所々釘ゆるミ所有之由ニ而右繕候間暫時入替昼廻定治為治取計之

一牢舍人弥市病氣最早休業ニ而も可然旨医師申候由大年寄申出候ニ付休業申付候

一大目附廻状到来去月十九日御台様御安産御男子様御誕生被成御名松平敦之助様と奉称候間御名差合之名相改候様被仰出候段申来写

取町中組中へ差出候
一ノ宮市町例年之通田植祭当日たり共下々迄罷越間敷旨大目附廻状到来写取組中へ差出候

四月十四日 快

一賈札一件之者共今朝五時方呼出立合例之通ニ而遂吟味候処未白状者不致候得共大躰疑敷もの并携無之様ニ相見へ候者共右之通申付候

吟味中

入牢申付

吟味中手錠

組合預ケ

組合預ケ

差免

西今町常屋文兵衛
坪井町大津屋儀八

京町 若松屋

義助

京町 原田屋嘉兵衛
同人 倅喜四郎

吟味中

他参留

二町目道具屋兵五郎
元魚町八百屋茂兵衛
二階町品屋宗兵衛
同 町きせる屋藤助
京町 若松屋義助倅
岸三郎

右之通取計候段御用番并大目附中へ手紙ニ而相届候

一ノ宮市町昨年之通警固差出候様昨日大目附伊達与吉郎方被申聞候

四月十五日 雨

一御蔵米七拾壹匁町米六拾七匁

四月十六日 雨

四月十七日 雨

一安岡町大坂屋喜与八義古川村助右衛門岩平利右衛門江田地質入借金不埒ニ付先達而願出郡代所へ懸合置候処当三月晦日元利返済相済候旨届書差出候

一西今町橋本屋義八借屋住和氣屋新助夫婦娘二人右家内四人伴部長屋へ引越度人別除願聞届候

一西今町中横町ニ而岩井屋清右衛門所持之家屋敷表口式間半裏行九間但式分式厘役也北隣ハ永田屋喜七南隣ハ元屋佐吉也右家屋敷代銀百五拾匁ニ町内桶屋清助へ売渡度願書承り届ル同廿八日宛券状差出

一御領分西々条郡吉原村勘助娘義福渡町作人伝助妻ニ引受度人別人願書承り届ル

願書承り届ル

四月十八日 快晴

一 御用日登城

一 雲州秋鹿郡秋鹿村佐助悻平五郎一人吹屋町作人忠助引受度人別人

願御用番御聞濟ニ付大目附へ差出置御聞届申達候五月朔日住宅証文差出

一 土岐山城守殿領分当国英田郡奥村百性安兵衛娘義伏見町飾磨屋利

兵衛妻ニ引受度人別人願右同断取計濟同廿六日住宅証文出

一元魚町油屋与三兵衛役介高島道友義先年致出奔弥行衛不相知候ニ

付除帳願差出候得共御用所方御差図ニ付又々尋申付置候処弥不相

知候ニ付除帳仕度先日願書差出与兵衛殿へ相伺候処御考之筋有之

候間今暫見合置候様被仰出右願書預り置候処離帳願之通承り届候

様今日与兵衛殿方被仰出候ニ付右願書伊達与吉郎へ手紙ニ差遣

置御聞届申達候三月改入

一 郷中ニ油桐植付被仰付有之在方へ兼而致大切生立候様ニ被仰付置

候処免角端荒等致し損候由町方ニも作人有之候間町作之もの共隨

分致大切不損候様ニ可致旨町作庄屋方作人共へ申付候様ニ与兵衛

殿被仰出候ニ付其旨申付候様大年寄へ申付候

一 万人講殘雖左之御書付之通被仰付候間其旨相心得引渡候様ニ伊達

与兵衛殿方御書付御渡被成候ニ付其旨大年寄へ申渡之

町奉行江

万人講興行之義承知之通暫休会ニ有之候間前々方之殘雖銀高を

以已後寺社方修覆料ニも可被下御内含ニ付左之者共預ケ置工

面申付候間随分出精遂勤弁年々致勘定万人講省略方御役人江帳

面仕立可差出候尤已後興行有之候節者例格之通取計取主申出候

上者可相渡候
四月十八日

早而是迄大年寄共預置候分夫々江引渡可申候

別紙名面

川口藤左衛門

玉置卯左衛門

茂渡藤右衛門

久山勘八

豊岡与左衛門

講元 三人

一大目附伊達与吉郎方当春三町目出火御届ニ可相成候ニ付江戸表へ

先達而申遣候所出火之節方余り延引ニ相成候ニ付御届も難致由ニ

付御届も不被成候由子ノ年二町目出火も遅く申参候間御届無之由

依之已来者鎮火早々軒数相改可申出候態飛脚ニ申参候間其旨相

心得候様被申聞候
一去ル十五六日林雨ニ付少々水増候処林田百間敷肩切口江者三四寸

ニ越候様ニ有之東新町之者共殊之外致氣遣尤すき水も致難義ニ

付土手普請之義促催申出其段大目附勘定奉行へ申達候

一二町目伏見屋茂七義八出河原方御殿河原之辺之砂取集津川山ニ

鉄山仕度願書差出郡代所へ懸合置候処勘定奉行近藤伊左衛門より

伏見屋茂七鉄山稼一己之願ニ仕候様申出候得共実ハ一己之稼ニ

無之上方被仰付御名代ニ相成候事故右願書等差出候ハ、早々承

り届候様被仰聞依之聞届候段大年寄へ申達候

一 明十九日一ノ宮田植祭ニ付此間被仰聞候通組差出候段大目附江及

噂置候

一 与兵衛殿来ル廿三日出府ニ付例之通御下り懸ケ御暇乞致候様大目

附中方被申聞例之通及挨拶尤御役順致着座候

一西園寺殿方万人講御頼御断之御返答書面写与兵衛殿方御渡被成一見之上大目附中へ差戻候様被仰聞候ニ付伊達与吉郎へ手紙ニ而差戻候

一一ノ宮市町ニ付參り懸之大坂難波新地七人連曲馬乗り世話役之義被頼候間參り込世話仕度吹屋町甚吉願書差出兼而対談之「」寺社取次へ不及懸合承り届候

一「」元妹尾平兵衛印形相改候段印鑑差出候

一万人講殘錐御引上ケニ付手嶋流講尺入用取計等之義於御席与兵衛殿へ及御噂候処先ツハ行成ニ致置可然当年者致懸之義ニ候得者先其俣ニ致置当暮入用御払之節ハ御本途方ニ而も可被下候間其節可申上尤右入用一ケ年何程入候事哉書付差出可申并右之趣ニ拙者出席ハ相止候様与兵衛殿被仰聞候右一ケ年入用調出候様大年寄へ申付候

一林田町作人喜六後家倅金次義淺野金次と相改古市主殿江出入奉公仕度ニ付除帳願差出承り届ル

一二階町川本屋忠吉取持之他国受酒株当辰四月方来午ノ四月迄元魚町福津屋三之丞借り受商売仕度願書差出承り届ル

一明十九日一ノ宮田植祭ニ付同心組出役小頭へ申付候尤是迄ハ小頭ハ部屋目附不出日ハ罷出候様申付候得共又六義も病身ニ罷成殊ニ旧格ハ一度つ、出候事故当年方ハ御田植当日其後一兩度都合市中

ニ而三度見合小頭罷出候様又六へ申付候尤諸事昨年之通無間違大切ニ相勤候様ニ申付候

四月十九日 快晴

一小須賀一学殿去ル十五日江府方御帰着也

一与兵衛殿出府ニ付今日方一学殿御用番被相勤候旨大目附中申来尤類役中へも及通達候様申来而役江及演説

一牢舎人宜祥昨日ニ而療治二廻り相濟候ニ付代り医願出候ニ付致吟味代之医申付候様大年寄へ申達候所宜祥義致全快候間最早不及服薬旨跡見春鷗申出并弥市義病氣申出是又同様申付候所是又不及服薬旨同医申出候旨大年寄申出候ニ付休薬申付ル

一一ノ宮市町曲馬受負証文吹屋町甚吉差出

一一ノ宮田植祭警固無別条引取候段又六佐十郎為治届出候

四月廿日 快晴

一「」船八郎右衛門倅要四郎印形相改印鑑差出

一御領分東北条郡上高倉村兵八倅与吉義勝間田町年寄善七郎養子ニ仕度人別入願大庄屋引合相濟候由大年寄差出承り届

一一ノ宮警固定治嘉七罷帰り別条無之旨相届候

四月廿一日 快晴

一一ノ宮出役新治百藏無別条届出候

一贖札一件之者共明廿二日於牢屋遂吟味度所一ノ宮出役ニ付同心組致不足候間明廿二日一日切ニ加人兩人被仰付被下候様大目附中手紙ニ而申達候所笹岡与兵衛高木理八来候

四月廿二日 快晴

一贖札一件之者共於牢屋九時方遂吟味立合又六新左衛門孫八出番定治嘉七召連罷出原田屋喜四郎若松屋義助水攻取計候処不及白状候尤嘉七義ハ若堂ニ致召連罷越候

吟味中人牢申付候

京町若松屋義助

右之段翌廿三日出仕之上御用番大目附へ相届候

一ノ宮出役文蔵百蔵無別条段届出候

一明廿三日も於牢屋遂吟味度間又々加入式人被仰付候様大目附へ手

紙ニ申達候

四月廿三日 曇

一御用日登城今日贖札一件遂吟味候ニ付御改申九前時下城

一木下淡路守殿領分備中国賀陽郡山之上村善太郎娘下紺屋町作人浅

右衛門妻ニ引受度人別人願御用番御聞濟ニ付大目附へ渡置御聞届

申達候 同廿九日住宅証文差出

一於牢屋若松屋義助原田屋嘉兵衛遂吟味候ニ付又六新治文蔵為治召

連出遂吟味候処昨日之通嘉兵衛及白状候得共申分不相分候ニ付尚

又追而可遂吟味事

一ノ宮市町ニ付大坂十三人連まんさい芝居参り懸リニ神主方世話

役被相頼候ニ付世話仕度願書堺町山手屋利七願書差出承り届ル統

而受負証文差出候

一備中国賀陽郡惣社村作屋喜兵衛一人切尺長刻煙草紙類卸売来候段

境町西川屋善助宿切手差出右ハ当二月十五日承り届候備前岡山野

田屋町出石屋清右衛門代リニ相願今年初而来候もの也七月十日補ル

一手嶋流講釈一ケ年之用高認出候様先日与兵衛殿方被仰聞今日与

兵衛殿不参ニ付一学殿江差出候但一ケ年之用高合三百四拾壹匁

九分也扣有之

一下紺屋町土橋損候届書差出大目附中へ差出候

一下紺屋町大溝埃堀損候届書差出大目附中江差出候

一今日加入御使組河村金吾松尾乙助当日切ニ罷出昼夜廻り申付候

一牢屋敷南裏門之垣ニ臭橋植継有之候様瀬嶋平吉へ申遣ス

一ノ宮市町無別条段孫八嘉七届出候

四月廿四日 快晴

一ノ宮市町ニ付参懸リ九人連女力持輕業芝居世話役之義神主方被

相頼候ニ付彼地へ参込世話仕度願書下紺屋町鳥屋利兵衛差出大年

寄持参承り届候処後刻右輕業受負一札差出候

一御領分東北条郡公郷中村彦六倅喜七義去々寅年六月桶屋町樽屋甚

助後家養子ニ仕候処離縁仕度願書下方引合相濟候段大年寄申出承

り届ル

一二階町高田屋治三郎借屋住吉井此助母義遠藤吉左衛門役介ニ引越

度人別離願差出承り届ル

一二階町高田屋治三郎借屋住吉井此助義佐久間兵右衛門殿へ奉公仕

度人別離願書差出承り届

一橋本町佐賀屋勘右衛門家内林蔵義伊達与兵衛殿出府供仕度願書差

出承り届ル

一二階町三保屋十右衛門松本屋喜助借屋住松葉屋市右衛門娘その義

御領分久米南条郡八出村文七方へ養女ニ差出度人別離願下方引合

相濟候段大年寄申出承り届ル

一伏見町作人才之丞家屋敷貳拾六ケ年以前卯四月町内大工利助取次

ニ質物ニ書入銀札四百五拾匁借用仕候処此度元利返弁受返し相

濟候段届書差出候

一 西新町余野屋伝七家屋敷六ヶ年以前亥十二月質物ニ書入壹貫二百
匁借り受候処此度元利^返濟受返^返し候^返届書差出候

一 西新町南側ニ余野屋伝七家屋敷表口七間裏行拾七間但本役也東
隣ハ高野屋利兵衛西隣者清水屋吉兵衛也右家屋敷町内木和屋源兵
衛取次ニ而質物ニ書入銀札貳貫匁借用仕度願書差出し承り届ル
同廿五日質入証文差出

一 西新町北側ニ安永屋いそ家屋敷表口貳間七步五厘裏行十七間但
四步役也東隣ハ丁子屋源左衛門西隣ハ樽屋勘右衛門也右家屋敷代
銀札壹貫百匁ニ相極同町樽屋勘右衛門へ売渡度願書差出承り届
同廿五日売券扶差出

一 一ノ宮出役定治為治無別条役届出候
四月廿五日 快晴

一 一ノ宮市町ニ付^届例年之通^届今日ハ目明兩人つ、罷出候付在宿目明
不足ニ付市中安岡町明石屋庄七飯役申付候段又六申出承り届ル

一 御城廻り草苅今日ハ相始候段三軒屋番中尾藤助届出候
一 一ノ宮出役^届新治文藏見習^届岡藏無別条役届出候

一 痢病除御藥例年之通被仰付出来候段去ル三日大目附へ相届置候
処未取ニ不差越如何之義ニ候哉と村山三立方申聞候得共未大目附
中ハ何之沙駄も無之郡代^江承合候処先日大目附へ相尋候処今年
も被下候由被申聞候旨申来候間村山三立方受取大年寄へ相渡候但
七千貳百貼受取候尤五月之節ニ入三日目ニ服用之事

四月廿六日 快晴
一 京都烏丸通六角下ル町ニ文字屋九兵衛手代彦太郎武助例年之通具

服物売ニ来候段京町海老屋長右衛門宿切手差出^{八月五日彦太郎一人帰ル}

一 越中富山船橋町松井屋源兵衛忰伊八同手代嘉七喜助以上三人例年
之通反魂丹売ニ来候段京町美濃屋平五郎宿切手差出^{翌三月九日帰ル}

一 関備前守殿安永三年止宿之例書大年寄差出
一 一ノ宮出役小頭又六孫八百藏無別条役届出候

四月廿七日 雨

一 一ノ宮市町ニ付参掛り大坂難波新地七人連曲馬乗り世話役仕度船
頭町瓜生原屋伝吉願書差出承り届ル^{同廿八日受負証文差出}

一 右同断ニ付参掛り大坂五人連こま廻し芸居世話役新魚町さつま屋
大助願書差出し承り届ル^{同廿八日受負証文差出}

一 酒造高拾貳軒ニ而千貳百拾七石七升ニ而運上八百五拾壹匁九分五
厘上納仕候由酒改方書付差出候

一 一ノ宮警固出役佐十郎嘉七無別条役届出候
四月廿八日 快晴 夜大雷雨

一 御用日登城
一 茅屋町西米屋伝吉なたか瀬ニおみて水車船仕度願先日御内意濟候
ニ付差出候様申付置候処差出今日右絵図を添御用番^江差出候処大
目附へ相渡置御聞届申達候

一 西今町大工嘉左衛門福渡町大工茂右衛門職留御免之歎書棟梁共方
大工庄兵衛御免之節之通ニ取計差出候付御用番中^江差出相伺候候
御預り被置候

一 安岡町大和屋与三兵衛忰助義勘当仕度願書御用番御聞濟ニ付大
目附へ相渡置御聞届申達候^{五月十三日証文差出}

一 林田上之町大溝浚例年之通東西新町中之町組頭共方差出郡代中へ懸合候上御用番江申上尤願書持参ニ而口達ニ而申上相濟右同断取計

一 早川八郎左衛門殿支配所大庭郡田原村善七悴清七義伏見町田原屋左助養子ニ仕度人別人願右同断取計濟同廿九日証文差出

一 堀田相模守殿領分当国西々条郡塚谷村利兵衛夫婦式人桶屋町備中屋庄兵衛役介ニ引受度人別人願右同断濟五月二日住宅証文差出

一 林田土手並請願之義猶又大目附へ申達候所勘定奉行へ達置候様噂有之勘定奉行へ懸合候処今日伺相濟候由通用有之嚙近日方可取懸旨大年寄へ達置候

一 痢疾除御葉三百六貼不足之旨大年寄申出村山三立方受取相渡合（御帳付）七千五百六貼也組中支配方人別四拾八人之旨又六申出并我等家内七人都合七千五百六拾帖村山三立方より受取候

一 関備前守殿御止宿近寄候ニ付大年寄方先例書認出猶又役所ニ而も取調大目附中へ差出候処書付不及差出左之通取計候様大目附伊達与吉郎被申聞候

- 一 諸事先規之通可取計事
- 一 町奉行御着之上自分伺ニ罷出候事
- 一 本源寺溪花院徳守宮御参詣有之候ハ、御往来之節之通御徒目附下目附同心組御先相払御本陣御案内可致事
- 但右御通筋掃除可申付置事右ニ付御着之砌御徒目附下目附御本陣近辺ニ暫扣御参詣之様子相待居候間御本陣方可申達事右立宿も可申付事
- 一 出火御除場本源寺大信寺但御道筋林田町横町橋本町方ニ筋目延命寺見通し之町方御案内可申尤御徒目附下目附も先立ニ出

候得共御案内ハ御本陣可相勤同心組も警固をミトメ御先相払勤候様ニ被申聞其段小頭江も申付置候

一 関守へ御参詣可有之様子ニ候ハ、御本陣方宜可及断之旨被申聞源五兵衛へ申渡置候

- 一 盜賊喜兵衛義度々立帰リ盜取候品も多死罪相当之者ニ候得共未初罪之義殊ニ頭徳院様御三回御忌も不被為濟内之義ニ候得者難免ものなからも御法事之節御赦と申候得者格外之義ニ付当秋御赦之砌助命被仰付可然旨相伺候御用番与兵衛殿より助命難被成候間得者考候様被仰出御差出被成元方右之通之ものニ候得者死罪ハ相極候事ニ候得共取計方ハ有之間敷哉と松岡治部助へ遂内談候処助命難取計候間死罪ニ伺可然旨被申聞此上ハ致方も無之ニ付御三回忌方内ニ死罪取計候而も不苦義ニも候哉相成候事ニ候得者差延度ものと大目附小須賀貢へ遂相談候処同意ニ候得者駈と致候先例も無之事故御用番へ相伺候様被申聞依之今日御用番小須賀一学殿へ於別席御内意相伺候御委任之役筋ニ候得者死罪可伺等之処御三回御忌過可相伺夫迄ハ差延置候様ニ於御席申述候様被仰聞其旨於御列席申上候御聞置被成候段被仰出候
- 一 小須賀貢方今津屋孫十郎義依願暇差遣何之故障も無之候間願出候ハ、町人別ニ相結候様被申聞候
- 一 大目附伊達与吉郎方伊勢屋長右衛門義廣犀角致商売候旨目附之者方申出有之御用番中へ申達候所被遂吟味候様被仰出候旨被申聞依之今日可遂吟味之所一ノ宮出役ニ而組不足候間加人三人被仰付候様申達候所下山忠士笹岡与三兵衛加藤登八三人来候
- 一 播州網干余子浜菊屋弥七郎悴源治郎一人例年之通小間物売来候段

中之町甲屋幸助宿切手差出

一 伊勢長右衛門賈犀角壳之吟味立合又六新左衛門孫八源五兵衛罷出
遂吟味右^ニ付葉屋仲ヶ間小田原屋猪平次菊屋清左衛門美濃屋^{手代}
武助葉屋善七郎呼出銘々犀角致持参引合為致吟味候処偽物^ニ相違
無之旨相極長右衛門義八実父代方持来生合之所^并買口不相覺候旨
申之依之一卜通り口書取置左之通申付置

吟味中手錠懸ヶ

伊勢屋

町内預ヶ

長右衛門

右之通申付置候段御用番^并大目附へ手紙^ニ而相届候

一一ノ宮出役新治為治見習^ニ蔵無別条段届出候尤昨日迄ハ一向人無
之処今日ハ夥敷群集候由申出候

四月廿九日 晴

一 林田町之内袋町南側^ニ而作人多助家屋敷表口三間半裏行六間但三
步役東隣^者横町通り筋西隣^者入江屋十兵衛右家屋敷代銀札六拾匁
^ニ相極同町川田屋忠助^江壳渡願書差出承り届^{六月五日壳券状差出}
一一ノ宮出役定治百蔵無別条段届出候
一番賃銀大年寄方差出候

四月晦日

一 牢舍人長藏病氣申出吉武修格へ療治申付ル容躰書差出候ハ、郡代
所へ可相廻尤病氣之段も申遣候但昨日申付候
一 郡代三浦十郎左衛門昨日一ノ宮出役^ニ付留主^中受持頼来候
一 例月之通番賃銀相渡候
一一ノ宮出役孫八文蔵無別条段届出候
一 越中富山板屋理兵衛役介宗之助宇八二人例年之通昨日来当十月迄

召抱置申度願書大年寄差出承り届ル

一 稻荷山草苺今日切^ニ而相濟候段三軒屋番藤助届出候
一 関備前守殿近々御止宿^ニ付御本陣前へ下々迄不差遣候様之御触去
ル廿八日到来写取組中へ相触ル認落候故爰^ニ記ス

五月 小

月番

御家老 安藤丹後殿

御年寄 小須賀一学殿

大目附 松岡治部助

大年寄 斎藤孫右衛門

五月朔^丙 午 旦 快晴

一 大目附廻状從江戸表御飛脚到来大守様益御機嫌克被成御座去月
十九日御老中御連名之御奉書御到来被成桜田組御務中川修理大夫
殿御跡役被蒙仰候旨為御知廻状到来写取組中へ相触右^ニ付来ル三
日恐悦申上有之候間麻上下着用出仕候様大目附中方演説有之候由
近藤伊左衛門方通用有之
一 牢舍人長藏容躰書郡代所へ相廻ス
一 繰綿直段追々引下ヶ綿屋共殊之外致損失壳兼候^ニ付自分下し^ニ川
下へ差遣度候間其分ハ口銭御免被下候様^ニ仕度相願殊之外損失之
上之義尤之義^ニ付左様も被仰付可然大年寄申出其趣宜取計候様相

達置候処右取計ニ付去秋方綿俵改數合三千百三拾五本有之候旨書付差出

一ノ宮出役佐十郎為治無別条段届出候尤今日著大群集ニ候由
五月二日 雨

一林田上之町権治方へ這入候盜賊幸吉去八月郡代所へ相渡候所十二月十八日又々受取致吟味候様主膳殿方被仰渡候処今日郡代所方引渡有之小頭者人出番者人ニ而受取之入牢申付置候尤出番孫八者人ニ而出牢立合并入牢共ニ取計之尤右幸吉受取候段御用番并大目附へ手紙ニ而相届候

一中ノ町玉野屋藤十郎娘義御城代組内田嘉作妻ニ差遣度人別離願差出承り届ル

一材木町番所大破ニ付普請申出承り届ル

一一ノ宮出役定治嘉七無別条旨届出候

五月三日 曇

一御用日并桜田組御務被為蒙仰候恐悦ニ付三奉行已上檜之間衆麻上下着用四時登城例之通於七間廊下御小性頭代謁有之御奏者番方三奉行迄一同罷出恐悦申上候尤一統恐悦申上無之廻動も無之事故御用所江著恐悦不申上候事

一顯徳院様御家督初大手組御務被為蒙仰候節著一同恐悦御帳付候処今般著其儀無之候尤郡代所ニ而者郷中江為御知取計候由ニ相聞候得共顯徳院様被為蒙仰候節町方江著一同之為御知無之故不差出候一御用所へ一同罷出候節御用向無之

一関備前守殿御止宿之節自分伺ニ罷出候節口上振大目附へ伺置候処

左之通申述候様伊達与吉郎被申聞候

備前守様御止宿被成候間自分伺罷出候

一昨日郡代所方受取候盜賊幸吉義遂吟味候上ハ御裁許可奉伺候得共右盜物質屋ニ有之当用之ものニ而少も早く受取度旨ニ相聞候間一ト通り遂吟味候上ハ相渡遣申度旨御用番中へ相伺候処御聞濟ニ付大目附江も申達置候

一関備前守殿御止宿之砌ハ御使者宿齋藤孫右衛門方ニ高張桃灯二張台共并蠟燭迄も御渡被下候様大目附へ申達候所承知ニ付小勘者内山洞大夫江懸合御門通行六ヶ數候間右当日孫右衛門宅へ御廻被下候様ニ相頼候処承知ニ候

一関貫普請入用并南新参鼻橋橋込去卯ノ十一月方当三月迄五百八拾壹匁八分壹厘四毛有之候旨齋藤孫右衛門受取証文小頭迄差出與書取計之

一一ノ宮市町明四日切ニ付例年之通町触差出候

一当三月金毘罷參詣止宿旅人式百三人有之頭錢四百六文旅籠屋頭受取候旨書付例年之通差出候

一元魚町美濃屋義此間犀角一品所持仕候様ニ申候処三品も有之趣ニ相聞候ニ付不殘可差出并惣町薬屋共所持之犀角不殘今明日ニ直々役所へ差出候様可申付大年寄申付候

一一ノ宮出役新治百蔵無別条段届出候

五月四日 雨

一牢舎人長藏容鉢書吉武修格差出郡代所へ相廻候

一昨日申付候薬屋美濃屋彦兵衛小田屋猪平治健屋茂助薬屋善七郎二

文字屋嘉左衛門菊屋清左衛門犀角差出候所別条無之住屋市左衛門
万屋与三兵衛無之旨申出候尤差出候犀角逐一見即刻差戻

一ノ宮警固今日ハ小頭又六罷出候様申付置候処雨天ニ付得不罷出

佐十郎文藏差出候処夜九ツ半時罷帰届出候 昨三日之夕四ツ前時

比こま廻し芝居もの、内大吉宗兵衛兩人近辺江罷出候処於途中何

者やらん四人理不尽致打擲宗兵衛ハ逃去り大吉 被打倒致絶氣右

四人之者も逃去り候由同道宗兵衛立歸り助ケ連歸り候処一向証氣

無之漸今八ツ半時比言舌も少々相分申候 右相手ハ一ノ宮村勘右

衛門子分ニバ二ノ宮村庄助養子ニ差遣候忠吉と申ものニ 候由今

忝人ハ右勘右衛門忝ニ 而 必定可有之と存候由右勘右衛門と申もの

ハこま廻し旅宿忠右衛門隣家ニ 而 右忝ハ助太夫喧嘩一件之者ニ 而

御預ケニ相成居候処兼 而 隣家之者ニ 而 及見居候処惣髪と相見江候

間右御預中長髪故右之者ニ 必定相違有之間敷哉と察候旨右忠吉義

ハ去ル朔日木戸江 来同道人有之無入可致申之及口論少々打擲致

候様之義有之候由右之意魂ニ 而 之意趣晴ニ 而 可有之右忠吉と勘

右衛門忝ハ兄弟分之者ニ 候由同道人宗兵衛義 即刻逃去り喧嘩相

手も不相覚宿江も不被帰近辺ニ忍ヒ居打擲相濟立戻り連歸り候事

ニ 委細不相分候処大吉義少々舌舌相分り候様ニ 相成り漸相手も

知候得共何方へ逃去り候事哉相知不申外二人ハ一向見覺無之旨申

之右一件ニ付御徒目附岡沢恵十郎郡代下代木村金治其外警固打寄

逐相談何卒内分ニ 而 相濟度取扱候得共相手方無之事故内濟取扱も

出来兼右大吉義ハ元大坂出生ニ 而 當時播州飾西郡青山村住人ニ 而

一橋様御領分之者ニ 候由疵所も七ヶ所計有之余程之大疵ニ 有之爰

元ニ 而 之程之義御吟味も不被下候様之義ニ 候得者 罷歸り相願候杯
と申趣之由右取扱ニ 隙取及深更其外ハ例歳之通無滞引払相濟候旨

届出候ニ付一ト通り郡代所江も懸合御届可有之義ニ 候ハ、此方

も相届可申旨申遣候所可相届義之由申来依之御所江 早々可届所

及深更候義故翌五日早朝大目附へ大躰申出候趣手紙ニ 而 相届御用

番江 喧嘩有之義計手紙ニ 而 相届候然ル所大目附松岡治部助方返

書ニ 而 当役江承り居候趣委敷郡代所江可申遣則届手紙も郡代所へ

相廻候由申来候尤大目附方不申来別ニ 委敷申遣置候所右忠吉義預

ケニ 申付今日一ノ宮ニ おゐて遂吟味候様ニ 申付置候由 勘右衛門

忝も可遂吟味旨郡代所方返書来候

一札元妹尾平兵衛一ノ宮出役無滞引取候段届出候

五月五日 曇

一ノ宮喧嘩一件今早朝相届候事

一端午ニ付例之通組中罷出仕前謁例之通神酒差出

一ノ宮市中芝居引受之者共御礼罷出候

五月六日 曇

一盜賊幸吉義九半時方呼出又六新治新左衛門出番定治為治立合遂吟

味口書爪印取之質屋共盜物質取候分差出候様申付候

一ノ宮市町同心組昼弁当代式拾匁四分受取小頭又六差出し相渡候

五月七日 曇

一札元茂渡藤右衛門忝兵吉義大庭郡湯本村江 廿五六日計入湯為仕度

願書差出承り届ル六月四日帰ル

一盜賊幸吉盜物質屋方取上ケ郡代所 寺社取次江為持遣候右扣委敷

別帳ニ有之

一 牢舎人安岡町桶屋佐助牢賄不差越候旨牢番共届出大年寄へ申付候
一 牢舎人幸吉盜物質屋方取上ケ候処右代物式拾六匁幸吉所持致居候
ニ付左之通割戻候様大年寄へ申付相渡候

元拾壹匁ニ付 五匁九分壹厘八毛

元拾六匁ニ付 八匁六分八毛

元貳拾壹匁三分貳厘ニ付拾壹匁四分七厘 高松屋平左衛門
三船八郎右衛門
武田屋後家

一 綿実油絞一昨^五日迄ニ絞リ仕廻候段昨日久山勘八届出候

一 昨日土井波江犬病犬ニ相成直ニ非人共へ申来天野郡治宅ニおゐて
打殺候段非人共届出候段大年寄申出候

一 三浦十郎左衛門被參被申聞候者一ノ宮芝居もの喧嘩一件致落着候

所勤進元さまま屋大助四日ニ出役之同心組江申聞候上ニ而可致返
答と申是而已ニ而相滞候間急ニ致落着候様ニ申付遣候様被申聞粗
相尋候所未相手も不致白状扱人貫ニ相成相濟候由被申聞療治代ハ
何方方出候哉と相尋候所其段者如何取計候哉存不申候得共定而一
ノ宮村入用ニ取計可申哉と被申候ニ付其旨先刻御手紙ニ而被仰下
候故急々致落着候様薩摩屋大助呼寄申付候様申付候所同人義ハ

一ノ宮ニ被差留候段申候ニ付急々呼寄セ可申付旨申付置候段申候

処大助差戻候義ハ用事差支ニも相成候間申遣候様ニ被申聞候得共

左様之義丈ニ而申付候義も如何成義殊ニ内濟と有之義ニ候得者双
方得心之義ニ候得者大助義左様之義可申答ハ無之処左様申聞其ケ
条計不得心候義も有之事と存候左候得者權柄ニ役筋方申付候而者

内濟之本意も無之何れ大助不被差戻候而者誰人江可申事も難致筋
ニ候得者一寸御差戻被下候ハ、急々落着申付早々今夕中ニも差戻

候様いたし候ハ、御差支之義も義も有之間敷義と申候処相違も
無之さつはり致落着居候事故申遣候而も可相濟義と再応被申聞
候ニ付左様も思召候ハ、態々御出之義と申殊ニ役筋ニ毛頭存寄
有之義ニ而も無御座元来右之意味合取計等一向不存義ニ候得者年
寄寄申付差遣其段大助へ申付早々罷帰候様可申付旨及返答即刻大
年寄へ其段申付候

○
卯十月廿
(挿入)

五月八日 晴

一 御用日登城

一 一ノ宮芝居者喧嘩一件療治去ル五日迄ハ一ノ宮村ニ而医師申付候
得共同日昼後方ハ不及貪着今以服薬不仕罷在候間急ニ手当被仰付
可被下旨さまま屋大助願書可差出所一ノ宮ニ被差留罷出候義不相
叶候故同人代同町魚屋与七方願書差出候由今早朝大年寄差出夜前
十郎左衛門被申聞候趣とハ甚之相違訝敷事ニ候右願書早々十郎左
衛門へ差遣宜御取計候様ニ申遣候

一 盜賊幸吉口書を以御用番中へ御裁許伺置候

一 殘錐預リ証文引合度旨井口恵左衛門申之御城江致持參読合候

一 郡代所方牢番預ケニ相成候八子博奕打長藏義病氣ニ付出牢為致候
段申来立合三船孫八差向出牢取計候

一 夜前一ノ宮江差遣候新魚町年寄櫻野屋茂一郎夜五ツ半時比罷歸リ
大年寄召連罷出直ニ承り候処落着候と申来候者決而相濟候事ニ者
無之扱人方さまま屋大助へ内濟ニ付候様ニ申候間随分内濟可仕存

寄ニ有之候と申候迄ニ而一向内濟之取扱懸合も今昼迄ハ無之既ニ

茂一郎見受候所も役者共ケ様ニ不筋立候而不相濟候間致直訴可

申とかけ出し候を扱人共引留候様子ニ而有之候処庄屋共追々出候

而大助不埒之趣段々茂一郎へ申懸ケ候ニ付右之取計ニ来候事ニ無

之段申答候而も再応申懸理非相詰候ニ付不得止事及答候右庄屋共

申候処一々不筋之義ニ而及承候処大助ニ非分ハ毛頭無之段及答候

得者返答無之趣ニ候処今昼比方本内濟ニ取懸リ晩方迄ニ内濟相調

候趣右扱方ハ相手未知義故扱人共貫ニ相成互ニ顔つく立引ニ而貫

相濟内分之諸入用ハ扱人共出遣候趣ニ而相濟内分之様子密々承

り候処相手疵人江金子三両計も遣金瘡代并惣役者共五日方今八日

迄之逗留賄代不残扱人方差出候由ニ相聞候旨申出并右喧嘩之節庄

屋多市と申もの夜廻リニ廻リ懸リ見受候処余リ大騒成趣ニ而恐敷

相成川端ニ跪致見物候処一人川向へ逃ケ去り候を跡方追懸ケまで

くと声を懸候もの、音声慥ニ承リ寛居候ものニ而相知居候段多

市方直ニ大吉へ相咄候を外ニも承リ居候ものも有之由申候ニ付先

日も三浦方手懸之義も及承候ハ、申聞候様ニ申来候事故右大意手

紙ニ而郡代所へ申遣候

五月九日 雨

一郡代所方一ノ宮喧嘩一件内濟相調濟口一札差出夜前下代共引取候

由一札写来り右写差戻候

一郡代所方無宿盗人忠蔵入牢申来手形来認かへ出番嘉七差向取計

五月十日 雨

一伊藤主水昨日被参尚又今日村上清太夫被参被申聞候者此間於一ノ

宮三日之夕芝居者喧嘩有之候処即刻警固へ不相届依之三日出役之

者無別条段届出其旨相届置候処四日出役之者方届出三日出役之者

無念ニ相成如何ニ付勘進元方三日出役村上清太夫小頭西村平八江

即刻不相届不念之段断ニ参候様ニ而相成間敷哉之旨相談ニ付其段

可申付旨及返答置其段大年寄へ申付ル尤已来喧嘩等有之候ハ、即

刻届出候様ニ致度旨被申聞其段も申付置候

一尾州嶋崎神職吉田左右上下三人例年之通旦那廻リ罷越候段堺町西

川屋善助宿切手差出六月廿五日燗屋ル

一元魚町武田勇吉所持之自国受酒株去ル丑七月橋本町松田屋佐助へ

貸置候処限月来候ニ付取戻候届書差出

一奈良今井町墨屋伊兵衛手代藤七一人例年之通筆白粉売ニ来候旨京

町美濃屋平五郎宿切手差出同八月五日燗ル

五月十一日 曇

五月十二日 快晴

一安岡町神目屋和吉家屋敷式十年已前大坂屋宇八江質ニ入候処一向不相

濟昨年方願書差出候由大年寄内意申聞候付致売買相渡候様申付候

様及指図

一安岡町作人宇助家屋敷十二年已前鍛冶長右衛門へ質ニ入候処右宇

助死絶當時有縁三原屋八蔵同弟十助兩人致世話候処不筋之旨願出

候由大年寄内意申出右同様ニ申付候様及差図候

一元魚町伊勢屋長右衛門義積氣不相勝候ニ付服葉仕度旨願出勝手次

第申付候

五月十三日 快晴

一 御用日登城

一 脇坂淡路守預り所当国久米南条郡福渡村忠兵衛忤喜兵衛老人元魚

町古屋清蔵引受度人取付正入願御用番御聞濟ニ付右願書大目附へ差出

置御聞届申達候六月朔日証文差出

一 御台様御出産御祝并柔姫様御縁談被為濟候御祝頂戴仕度旨配當場願出右兩様とも先例有之ニ付申達候御用番御聞濟ニ付大目附へ其段申達置御聞届申達候

一 盜賊幸吉五十敲之上追払伺置候処伺之通勝手次第取計候様御用番

中方被仰出依之大目附中へ追而取計候節可相届候間立合御徒目附被差出候様ニ申達置候尤先格ハ大目附立會ニ而 被仰付候処今日ハ無其義直ニ被仰出候

一 公保田村文右衛門方へ去ル八日夕盜賊入込十二品盜取候触流取計候様ニ大目附中方被申聞写取本書ハ差戻町触取計町方ニ無之旨廿四日申出候

一 西今町南側ニ而 三倉屋茂兵衛家屋敷表口三間裏行拾五間但三步三厘役東隣者永田屋喜七西隣ハ小嶋屋孫三郎也右家屋敷ハ裏行十五

間之内南方ニ而 南北八間之間ハ東西式間半也右家屋敷今度沓貫三百匁之質物ニ書入来已二月切ニ而 一ヶ月沓歩沓歩三朱之利足ニ而 綿屋金兵衛取次ニ而 借用仕度願書差出承り届ル同十九日証文差出

一 塚町南側ニ而 倉敷屋和助家屋敷表口四間半裏行拾間御役三步三厘四毛東隣西隣共稻実屋要助家屋敷ナリ右家屋敷代銀二百匁ニ相極

中之町玉置卯左衛門忤三郎介へ壳渡度願書差出承り届同十六日証文差出

一 堺屋南側ニ而 稻実屋要吉屋敷地表口四間裏行拾六間但半役也東隣ハ丸屋幸吉西隣ハ倉敷屋和助也右屋敷地之内表口四間裏行九間三

步添代銀札五拾匁相極倉敷屋和助へ壳渡度願書差出承り届同十六日証文差出

五月十四日 快晴

一 関備前守殿先触到来御暇御延引ニ付五月三日御出立被成同廿日津山御止宿被成候間諸事先達而申来候段無差支様ニ頼入候段申来候旨先触写大年寄差出御用番江手紙ニ而 差出大目附へ其段相届郡代

并村山平字も兼而頼ニ付為相知候

一 大目附方手紙ニ而 来ル廿日関備前守殿御止宿ニ付諸事先日申達置候通宜取計可申旨申来候

五月十五日 晴

一 盜賊幸吉敲払明六ツ半時取計可申候間御徒目附下目附立合被差出候様大目附へ手紙ニ而 申達候小頭又六書役新左衛門へも右取計手都合申付ル

一 明日伊勢屋犀角一件可遂吟味処追払取計ニ付組致不足候ニ付明十六日当日切ニ加人式人御渡候様ニ大目附へ手紙ニ而 申達候高木利八山本弁助来

一 右ニ付伊勢屋父子惣業屋不殘并職人町喜助召連九ツ時出候様ニ大年寄へ申遣候尤長右衛門義ハ出番差向候事也右取計立合之義小頭

江も申付候

一 郡代所方河原町庄五郎と申もの八出村町作分上り地去暮主付度旨申出候ニ付当春迄相待候様町作庄屋方申来置候所右地所去暮打起

し作物仕付候由御代官方申出有之候依之郡代所ニ而 被相札候ニ付明十六日四時右庄五郎并組合町役町作庄屋櫻野屋友三郎差出候様

手紙ニ而 申来其段大年寄へ申付候

五月十六日 雨

一 今六半時於牢屋御徒目附河村市兵衛下目附植月馬助小頭又六部屋

目附新治出番佐十郎文藏立合左之通取計但読渡書役新左衛門

所々致盜候ニ付五十敲之上

無宿盜賊

御領分追払

幸吉

右取計相濟候段御用番并大目附へ手紙ニ而相届候

一 伊勢長右衛門義可遂吟味呼出候処先日以來病積ニ而罷在候所昨今

別ニ不相勝今日之趣ニ而者 睨々受答も難仕由ニ付呼出致延引候右

ニ付御使組加人兩人受取置候所致延引候付加人差戻候段大目附へ

手紙ニ而相届候

一 関備前守殿来ル廿日御止宿ニ付先例之通町触差出候

一 河原町庄五郎義郡代所へ差出候所被遂吟味口書被取候由他參留申

付呉候様申来其段大年寄へ申付候

五月十七日 雨

一 大目附中方林田辺ニ病犬式正有之下山憲助高田小一右衛門方之犬

とかみ合候由左候得者直ニ移り候もの故右等聞糺打殺候様ニ非人

共江可申付旨手紙ニ而申来其旨大年寄へ申付候

五月十八日 曇

一 御用「」登城

一 御代官早川八郎左衛門殿支配所当国大庭郡上河内村池田金五郎姉

小性町今津屋平藏家守あわや定右衛門借屋住富沢伴水役介ニ引受

度人別人願御用番御聞濟ニ付右願書大目附へ差出置御聞届申達候

同廿八日住宅証文差出

一 東新町橋本屋茂右衛門借屋住金五郎夫婦娘右家内三人脇坂淡路守

殿御預り所久米南条郡大戸村丈八方へ引越度人別除願右同断取計
濟

一 関備前守殿御止宿之節御使者立宿并御徒目附下目附立宿名面書大

目附へ差出候

（朱字）

非人病犬廻り五合扶持被下ハ六月十日
伺濟跡ニ而五月十八日方五合つ、被下

種△

一 大目附中方此病犬致徘徊候処非人計ニ而者 内山下并御家中屋敷

江追込候節取計行届兼并人ニ不喰付内ニ不打殺候得者間ニ不合候

へ共主有ル犬ハ非人ニ而者 取計出来兼候間加人兩人相渡候間昼廻

之同心組四人差出朝兩人非人四五人つ、二組東西へ立分り非人ニ

及差図何方之屋敷裏等迄も為流込置同心組方相届ケ可申并内山下

へ追込候節非人這入候事不相成候間同心組這入右之段何方江も

為相知割場御既御作事へ相為知可申左候得者人差出「」有之

候尤内山下方方も銘々人差出候様演説有之候尤百性町人ニ而も御

門迄病犬追懸来候者有之候ハ、勝手次第内山下江這入打殺候様同

心組方可及差図旨被仰渡依之非人一組人数者彼等存寄次第ニ可致

尤同心組兩人ニ而者 老人つ、東西へ立分り相廻り病犬「」節互ニ

聞付一所ニも可相成朝夕〇四人可差出旨及返答其旨小頭大年寄へ

申付候様ニ申渡尤朝昼非人二組つ、役所迄差出候様ニ申付候御使

組野田數右衛門笹岡与三兵衛兩人来ル

一 元魚町「」屋喜助義唯今迄禪宗当国久米北条郡山手公文村幻住寺

旦那ニ候処遠方ニ付此度津山西寺町長安寺へ寺替仕度「」兩寺納

得之上ニ而候由右喜助家内男式人女老人三人ニ而候由今日宗旨奉

行赤見類助方伺濟候段通用有之候ニ付右願書聞届「」寄へ申

渡候 同日長安寺寺手形写差出

一坪井町浜屋源右衛門忰次兵衛夫婦去年三月方真嶋郡新庄村^江出職致候処右妻妊娠仕候ニ付罷帰申出産之上又々罷越申度願書差出承り置

一新魚町油屋善右衛門義備前西大寺へ十日計之逗留^ニ而明十九日之出立願書「」寄承り届差出^{六日朔日届ル}

一來ル廿一日晴雲院様廿七回御忌被為当候之旨大目附中方為御知耳之廻状来写取町方^并組中へ差出

一近來病犬有之趣ニ付当役へ被仰付打殺候様被仰付候得共主人へ方氣を付未病氣不発内ニ打殺候様ニ可致候旨大目附廻状到来組中へ^者其俵差出町方^江者先例之通文段認かへ差出

五月十九日

一伏見町大坂屋利七義家内四人四国遍路百日計逗留^ニ而六月七日出立仕度願書差出承り届ル^{翌巳ノ四月廿三日届ル}

一関備前守殿明日御止宿ニ付組致不足候間廿日廿一日兩日加人老人大目附へ申立候処加藤登八来夜廻申付ル

五月廿日 快晴

一関備前守殿止宿一向相知不申候間聞合之人差出可申旨大年寄伺出宜取計候様ニ申達候

一伊勢屋長右衛門義不快少々ハ快方ニ付可也ニ可罷出旨一昨日大年寄方申出「」遂吟味候処備前守殿止宿旁急ニ難遂吟味候ニ付呼出し左之通申付置候

吟味中牢番預ケ

伊勢屋長右衛門

右同断ニ付町内預ケ 同人忰 又助

長右衛門宿へ出番孫八百藏兩人差向家財封印いたし^并藥種取寄「」帳面類取上ケ候

右之通取計置候段御用番^并大目附へ手紙^ニ而相届置候右立合大年寄孫右衛門小頭又六部屋目附新治出番佐十郎嘉七

一東新町南側^ニ而鍛冶屋太兵衛家屋敷表口三間半裏行拾七間但四歩三厘七毛也東隣ハ鍛冶屋忠助西隣ハ則願主鍛冶^(三)太兵衛持屋敷也右家屋敷代銀五百匁ニ相極太兵衛役介藤兵衛へ壳渡度願書差出承り届ル^{同廿八日光券状差出}

一関備前守殿今夕御止宿之処一向様子不相聞候ニ付必定今夕^ニ而^者有之間敷旨御用番^并大目附へ手紙^ニ而申達候処大目附中方「」之面々為引取候間相知候ハ、早々可相届旨申来候^并伊達与吉郎方

も御止宿相知候ハ、御使者金田四郎へ為相知候様ニ申来候

一郡代所方作州久米北条郡宮部村仁助と申もの西国ニ罷出江州彦根方送り来相送り候様申付候旨通用有之其旨申付候様大年寄へ申付候

一関備前守殿追触来候段亥之刻前左之通写差出

以廻状致絡達候然^者備前守去ル三日江戸表発足被致候処途中一日差支^ニ而先達^而相触候定日一日後レ相成候段日坂駅方廻状差出候処滞候^而順達不致候由一日後レ候^而先達^而定割之通十六日

伏見駅止宿被致候間其御心得通行之節人馬差支無之様ニ頼入存候前日八疋当日十八疋人足拾老入申候尤泊り御本陣へも右之趣御通達頼候此廻状備中小坂部問屋迄早々御順達頼存候已上

関備前守内

五月十五日

保岡柴殿

西宮方小坂部迄

宿々御問屋中

右写御用番中へ差出大目附^并伊達与吉郎^江も相届尤頼^ニ付御取次
村山平学御使者金田四郎小勘者三浦伴左衛門^并郡代所^江も及通用
候

一 関備前守殿御止宿^ニ付町方取計左之通先格を以大年寄伺出其通取
計候様^ニ申付候

一 御本陣

一 御使者宿

右下宿

一 此方様御使者立宿

右下宿

一 御奉行所御立宿

右下宿

一 御徒目附下目附立宿

一 右同断

一 右同断

一 御先弘中立宿

一 右同断

一 右同断

一 御本陣詰

一 御使者案内

一 在宿医師

（高島生齋
内海察州

一 御本陣前人留

西三津屋平左衛門前

戸川町年寄

東平野屋治兵衛前

下紺屋町年寄

右休息所

（堺町中野屋伊助
京町鳥取屋茂三郎

一人馬問屋詰

豊屋喜左衛門

一出火御除場

本源寺

一 御馬宿

大信寺

一時太鼓為知

新魚町塩田屋嘉吉

一 川部御立註進

橋本町

一 玉琳御懸り註進

権兵衛

一 堺町^ニ而当日方翌昼迄自身番

菊右衛門

一 夜廻り五町

堺町

一 御本陣^江

（元魚町二階町堺町京町
新魚町

一 御関札

米中買式歩中買

一 御関札

并髮結相詰候事

一 御関札

元魚町住屋市左衛門前

一 御関札

京町疊屋宇三郎前

一 本源寺溪花院^江御仏詣可被成哉^ニ付本源寺門前東西見通し

往來半分ツ、并中横町右同断西今町へ掃除申付候

并妙願寺御參詣道も右同断申付置

福永屋幸蔵

大村屋源右衛門

稲実屋義七郎

平野屋助左衛門

櫻野屋茂一郎

福永屋幸蔵

一宿馬式拾五疋内三疋用意馬殘^而式拾疋

一人足之事

一山駕籠之事

一御通行之節往来荷物土手筋へ相廻候様ニ東新町安岡町へ申付候

一非人夜廻り^并□□□火用心非人頭へ申付候

一給仕人 内二人御使者宿

一出火人馬配問屋へ申付候事

一人馬寄七所 新魚町

一夜具之事

一御徒目附下目附立宿

一御先^{（御使所也）}私立宿

五月廿一日 曇

新職人町山本屋忠右衛門
新職人町塗師辰助

一関備前守殿聞合ニ此間佐用へ遣置候人足八半時比罷歸り夜前姫路

御宿今夕佐用御宿明廿二日当所御止宿之旨承り歸り候段大年寄申

出即刻御用番^并大目附へ相届^并御奏者伊達与吉郎へ^{（江）}も申達^并郡

代小勘者御取次^江も及通用候

一関備前守殿加古川方之追触亥刻来り所々川支^ニ而二日後れ^ニ相成

先^ニ触候通御止宿之旨保岡柴殿方之触状写差出御用番へ差出大目

附中へも其趣相届候

一安岡町南側^ニ而作人卯助家屋敷表口式間五尺六寸裏行拾間但老分

式厘五毛東隣ハ橋留屋喜与松西隣ハ御数也石家屋天明五巳年十二

月同町鍛冶長右衛門方へ八拾匁之質物^{（竊に）}書入候処此度受返し相済

候段届書差出候^{（同廿五日宛券状差出）}

一右之家屋敷代銀式百四拾匁ニ相極同町鍛冶長右衛門へ壳渡度旨願

書差出承り届ル^{（同廿五日宛券状差出）}

五月廿二日 雨

一関備前守殿御先番之面々土居立^ニ而昼過当所へ着坪井^江越弥今夕

当所御止宿之旨ニ付申刻出宅立宿藏合孫左衛門方へ罷越相扣居候

処戌刻過御到着被成本陣源五兵衛方案内有之御本陣^江罷出候処御

取次棍並織人と申仁罷出及対談左之通申^{（江）}伸候

備前守様今夕当所御止宿被成候ニ付自分伺參上仕候当所之義

者^別而御不自由可有御座と奉存候御用等も御座候ハ、可被仰

聞候此段兼^而被申付置候間具々無御遠慮可被仰聞候尤下役之

者共御本陣近辺^ニ為相詰置候間此者共へ可仰付候

右之段申^{（江）}伸候処可申聞由挨拶^ニ者候得共御取次之御様子ニ付申上

可置候間何分宜と及挨拶候処御察之通取次之義故左候ハ、追^而可

申段々御叮嚀入御念候御事と挨拶有之直ニ引取御取次玄関之端迄

送り出候夫方藏合^江者不立寄直ニ帰宅仕自分伺^ニ罷出候処無別条

唯今引取候段手紙^ニ而先例之通大目附計へ相届候

供立^{（挑灯 割場）}馬^{（若室 手組 貞治 草履取 手人 槍 割場）}
同^{（口之者）}同^{（馬若室 手組 貞治 草履取 手人 槍 割場）}合羽籠^{（割場）}

五月廿三日 雨

一今晚七ツ時御使者宿斎藤孫右衛門申出候^者関備前守殿方又々御使

者有之候段御本陣詰之者方申出候段届出先格之通俄之義故御取次

通用候段申遣候御奏者方之義故大目附方ハ不申達候旨松岡治部

助方返書来間違候^而者如何哉と存右大目附返書村山平学へ為持遣

関備止宿^{（符差）}村山平学^江其段及通用大目附へも右之段相届俄之義故平学^江も及

候所此度ハ一場茂右衛門出順ニ付申通置候間其段大目附中（通て候所）相

届候様申来又々其趣大目附へ相届候処御奏者番へ相届候様申来候

ニ付其旨伊達与吉郎へ手紙ニ而申達候処承知之旨申来候

一 関備前守殿本源寺溪花院へ御参詣之御合候処御着御遅刻并大雨ニ

付御代参ニ相成候由夜前八木六右衛門と申仁本源寺溪花院へ御代

参相勤候由尤夜前之御使者も八木六右衛門也格式ハ物頭之由承之

一 関備前守殿六半過無滞御出立町分御通行相濟候段御先弘方届出候

旨御用番并大目附へ手紙ニ而相届候

一 関備前守殿方今朝之御使者ハ棍並織人と申仁ニ而無滞相濟候段斎

藤孫右衛門届出候但御取次ハ一場茂右衛門也此方様方之御使者ハ

金田四郎并昨日之御取次ハ村山平学也

一 関備前守殿御止宿ニ付人馬問屋入増三拾匁六分有之候由豊屋喜左

衛門書付差出候但人足廿一人也 本馬拾七疋也

一 蔵合孫左衛門義関備前守殿へ先格献上物いたし御目見致候由ニ而

当年も饗節二十差出御目見江被仰付左之振合之由申聞候

孫左衛門初而入念候旨蒙御意御次へ行御用人之由須知丈右衛

門被逢金式百疋被下右同人方厚挨拶有之夫方御同人旅宿へ御

礼ニ罷出引取候由

一 大目附御奏者番兼帯伊達与吉郎方以来左之通申付候様被申聞書付

を以斎藤孫左衛門へ申付置候

一 御大名様方御通行之砌是迄御使者案内之者途中へ出迎御使者

有之哉御名面ハ如何と相尋候由向方御使者沙駄無之ニ此方

方誘出候様之義ニ而不宜候間以来御使者案内途中へ出迎候

義相止メ問屋本陣辺へ出し置可申候向方様方御断無之方々様

（通て候所）
一 關通行之節いつニ而も御取次ハ御出置被成候間向方ハ必
定問屋并本陣へ懸り御使者宿相尋可申候間其節御使者宿へ可
為致案内事

一 是迄御使者宿へ御次坊主被差出候得共坊主ハ薄茶たて候計ニ

而御茶道場合之振合ニ持てなし茶煙草迄都而給仕者給仕子共

ニ為致来候由甚心得違之事ニ付以来御使者宿へ給仕子共差

出候事相止メ御使者之茶煙草給仕ハ勿論之義御取次并詰之

小従人組迄之茶煙草給仕迄都而坊主致候様ニ被仰付候間其旨

相心得以來御使者座敷江余入ハ差出申聞敷事

且又是迄御取次と坊主と品者替り候共同間ニ而支度致候由是

又甚心得違之事ニ候間以來坊主江御使者宿之下人ニ而致

給仕勝手歟又ハ次之間ニ而も御取次之所へ不見江所ニ而支度

可為致事此段者無急度以來右之通心得違無〇様ニ可申付旨ニ候以

上

寛政八 西 辰 年五月廿三日

一 札元三船五郎右衛門久々中風ニ而行歩不相叶御役難相勤候ニ付役

免願書差出勘定奉行近藤伊左衛門へ懸合候上御用番中へ差出置候

一例歳之通橋之上ニ而涼候義法度之町触書差出

一 関備前守殿方金子式百疋被下候由ニ而昨朝一場茂右衛門御取次ニ

出候節御使者棍並織人方相届呉候様ニ一場茂右衛門へ相頼候由ニ

而今晚方茂右衛門方相廻候翌廿四日文通序ニ付大目附へ右之段及

噂候

五月廿四日 雷雨

一 院庄川兼田川土橋引取今日方船渡ニ相成候段郡代所方通用有之

一 美濃職人町三笠屋伊右衛門大坂北堀江四町目阿波屋甚助方廿日

計之逗留ニ而明廿五日出立願大年寄聞届差出 六月十五日堀丸

一 関備前守殿御通行ニ付加人耆人加藤登八受取置候処今日ハ差戻候
段手紙ニ 而大目附へ相届候

一 宗旨奉行月番赤見類助方昨日例歳之通宗旨証文案詞相廻り大年寄
へ相渡候

五月廿五日 雨

一 大年寄孫右衛門小頭又六部屋目附孫八書役新左衛門立合ニ 而伊勢

屋長右衛門父子九時ハ呼出し遂吟味候但出番定治佐十郎

右厚角目利ニ付惣町薬屋西新町丁子屋源左衛門勝間田町薬屋善七

郎林田町鍵屋茂助伏見町小田屋伊平次京町菊屋清左衛門同町二文

字屋嘉左衛門元魚町美濃屋彦兵衛代武助同町住屋市左衛門西今町

鳥羽屋源十郎安岡町綿屋万吉呼出し口書取候

一 美濃町職人町喜八と申もの伊勢屋長右衛門方大坂へ飛脚ニ参候者

ニ付呼出し口書印形取候

一 □□□非人共当時廻り相勤候もの式拾耆人計ならてハ無之処病

犬廻リニ日々拾六人ツ、罷出殊之外難義之旨ニ相聞尤最早病犬沙

駄も相止候故廻りも相止可然様ニハ存候得共去ル廿一日其段大目

附へ達置候得共評義之上可及差因旨挨拶ニ 而未何之沙駄も無之候

ニ付不得止事明廿六日ハ二人ツ、一組朝夕八人ツ、差出尤病犬沙

駄有之候得者即刻余分ニ罷出候様可申付巨大年寄へ申付候

五月廿六日 雨

一 河原町庄五郎義町作之義ニ付相糺候義有之候間明廿七日五ツ時後

年寄組合先日之通差添郡代所へ差出候様申来大年寄へ申付候

一 河原町庄五郎作り上候裸麦六斗四升同穂之俣耆東河原町庄五郎家

主ニ預り候様ニ申候ニ付今日預り置預り手形相渡候旨右写差出候

一 ノ宮市町出役之同心組夜食弁当之儀小頭部屋目附ハ願出候廿三

日大目附松岡治部助へ申達置

一 病犬ニ付非人廻り作日ハ人数致半減朝夕八人ツ、差出候段大目附

へ及噂候

五月廿七日 雨

一 兼田川院庄川留り候段郡代所方通用有之大年寄へ申達候但五ツ半

時申来

一 林田町三升屋勤吉役介平左衛門義今度勝手ニ付上之町御中間孫兵

衛方へ引越度人別除願差出承り届ル

一 国嶋栄庵長屋住作人忠助夫婦二人上紺屋町中野屋平八後家家守作

人宇兵衛引受度人別人願承り届ル

一 上紺屋町南側東横町ニ 而米屋政右衛門家屋敷表口式間裏行六間御

役表歩式屋也北隣ハ鉄屋其八南隣ハ売主家屋敷也右家屋敷代銀札

式百五拾匁ニ相極町内八百屋平左衛門へ売渡願書承り届ル

橋本町東側ニ 而松田屋佐助家屋敷表口三間裏行拾式間但半役也北

隣ハ広瀬屋喜助南隣ハ朝本屋源藏後家也右家屋敷代銀札三百五拾

匁相極伏見町紙屋伝吉へ売渡願書承り届ル

一 四ツ時分大年寄申出候者東新町善太郎と林田上之町与市と中之町

ニおゐて致喧嘩与市を善太郎致打擲打臥右与市ハ往来ニ臥居善太

郎義ハ中之屋勘店先之義故彼方へ引入レ置候由届出折節夜廻り帰

り懸り新治文蔵差向ケ右善太郎義手錠懸ケ組合預ケニ申付取可

置尚又郡代下代立合与市疵遂見分罷帰候様申付差出右ニ付郡代十

郎左衛門方へ罷越右之通之義ニ付早々下代可被差出其場遂見分させ申段申達承知ニ候

五月廿八日 少晴曇少雨

一 御用日登城

一夜前差出候新治文蔵今朝五半時過罷歸り善太郎義ハ東新町人別ものニ候得共七八ヶ年已前家売払當時ハ住所無之候由然共手錠懸ケ元之組合共へ預ケ置与市疵見分も大庄屋肝煎組合町分組合年寄双方不残立会遂吟味候処些之疵ニ而下駄ニ而面部を致打擲少々ツ、三ヶ所疵有之程共医師申付候処少も氣遣成義ハ無之旨尤元来意根有之義ニ而者無之誠ニ当座之口論方事起り候義ニ候由一札并疵見分書取罷歸り候ニ付内済可取計之旨大年寄へ内々申達置右一札出仕之上御用所へ差出候所早々御差戻シニ付大目附へ差出置候

一二町目三谷屋与三左衛門義御当国内英田郡福本村伝七悻孫四郎と申者去ル卯十一月御願申上候而役介ニ引受候処此度向方へ指戻度人別除願御用番御聞濟ニ付大目附へ差出置御聞届申達候

一 堀田相模守殿領分御当国内勝北郡馬桑村長助甥清吉義小性町肥地屋繁蔵借家住人助右衛門養子ニ引受度人別人願右同断取計濟

六月十八日住宅証文出ル

一 大久保加賀守殿領分当国久米北条郡中北下村百姓和助悻忠吉義上

紺屋町加登屋庄吉引受度人別人願右同断取計濟

六月四日住宅証文出

一 板倉周防守殿領分備中松山本町松屋伊三郎姉義三町目小田原屋幸助引受度人別人願右同断取計濟

六月八日住宅証文差出

一 盜賊徳兵衛一件久世ニ而吟味右口書写七通大目附中左被差戻書役

一新左衛門へ相渡置

一 昨年御候約触申渡候義ニ付惣町中御触扣取上ケ大目附へ差出置候所新魚町分巻冊致紛失先達而不相戻候所今日大目附中左被差戻大年寄へ差戻候

一 於御用所大目附出席左之通御用番左被仰渡候

町奉行へ

札元三船八郎右衛門義去歲以来病氣ニ而手足不叶ニ相成

役義難相勤候付願之通札元役被指免候同人依勤功

悻要四郎札元役申付候出精可相勤候尤御擬作是迄之

通被下候且又八郎右衛門義役義無恙相勤候ニ付帶刀被指免候

右之通被仰渡候ニ付先格之通八郎右衛門へ悻召連罷出候様直奉書

差遣候所名代武田七郎兵衛要四郎召連罷出於座敷小頭又六大年寄

立合ニ而右之通申渡早而書付相渡候右取計相濟候段御用番并大目附へ手紙ニ而相届候

一 御台様御初産之御祝并柔姫様御縁談被為濟候御祝頂戴仕候御請書配當場差出御用所へ持参口達ニ而申上濟早而大目附へ差出候

一 博奕打山北村長蔵義先達而牢番預ケ中服薬之義郡代所へ願出候義

ニ付郡代中へ懸合置候所食餌持参之者中際迄参り牢舎人長蔵と

致直談候旨申出候由今日郡代所方右届書相廻り小頭又六へ致吟味

候様ニ申付ル

一 関備前守殿去ル廿二日御止宿之砌支配方江被下物書出候様ニ大目附中被申聞候依之玉置源五兵衛へ申付候所左之通書付差出松岡江致持参差出ス

一 鱉 二 連

蔵合孫左衛門

御目見金貳百疋被下候

一 魴魚 五枚

玉置源五兵衛

一 茄子 一箱

御目見 御止宿料金三百疋被下

別ニ当日御待受^并御献上仕候為御会釈

金三百疋被下之候

一 関備前守殿^江 寺社之面々献上^并目見等も有之候由^ニ及承候^ニ付自

分^レ為心得認見せ候様申付置候所左之通書付差出

一 御礼

難波宰典

御菓子 一箱

御菓子ハ御断^ニ而御差戻し被成候^而御礼計御納被成候

尤御目見仕候^而金百疋被下候

一 輕焼 一箱

千年寺使僧

御菓子ハ御断^ニ而御差戻し被成候尤使僧^ニ而

御目見ハ無御座候

一 御菓子 一箱

妙願寺

御扇子 二箱

御目見尤御本陣^ニ而御吸もの御酒御菓子杯出之

一 御菓子 一箱

本源寺

御菓子ハ御断^ニ而御差戻し被成候尤

御目見御座候

一 御扇子 一箱

安国寺

御扇子^著御断^ニ而御差戻し被成候尤是^著

溪花院無住^ニ付兼帯^ニ付被出候

御目見金百疋被下之

一 関備前守殿御止宿之砌蔵合孫左衛門義無伺差出候段大目附月番^并

伊達与吉郎方察度有之差扣可伺様之申懸ケニ候処松岡宅へ罷越諸

事先例之通取計候様御役筋方御達有之伺書等も差出候所不及御披

見^ニも先例之通^ニ而宜と被仰聞候義ニ付先規之形^ニ候間拙者承リ

届切^ニ而差出候段申張先差扣不伺相濟候

五月廿九日 雨 曇 少晴

一 例月之通番賃銀相渡候

一朝廻り文蔵百蔵義於二階町病犬一疋打殺非人加人四人程も出候旨

相届候

一元魚町年寄老入役^ニ而難相勤^ニ付豊屋喜兵衛元魚町年寄兼帯ト申

付度旨大年寄伺出其旨申付候様申達ス

一 桶屋町内海察州借屋住和氣屋十兵衛同悻長之助右兩人当月上旬在

方へ二三日逗留^ニ罷越候段申参候処不罷帰候^ニ付家内見改候処諸

道具一品も不相見依之所々相尋候得共行衛相知不申旨届書差出例

之通百日尋申付候

一 安藤丹後殿組牧権治役介佐市と申者京町今出屋半兵衛養子^ニ仕度

人別人願差出承り届ル

一 常宝院兼住所二階町不動堂^并鎮守疱瘡守護神^江 灯明之施主有之候

ニ付例年之通来ル七日方十四日迄除疫為祈禱護摩修行支度願書差

出承り届ル

一 下紺屋町文殊院跡祇園会式例年之通来ル六月七日より同十四日迄

御戸開除疫祈禱支度願書差出承り届ル

一 牢舍人博奕打長蔵父藤兵衛牢食持参之砌及面談候之旨申出候書面

郡代所方昨日相廻り其日之当番和田義右衛門御中間伝助於小頭宅

一 関備前守殿御止宿之砌蔵合孫左衛門義無伺差出候段大目附月番^并

一 関備前守殿御止宿之砌蔵合孫左衛門義無伺差出候段大目附月番^并

又六新治立合遂吟味候処決_而左様之義ハ無之旨口書式通兩人方取
差出_并我等義も直_ニも相糺候処毛頭相違無之旨申候_ニ付右返答郡
代所へ相廻御糺有之候様ニ申達置候

一 祇園会中例歳之通二階町北之関貫四時迄開立番付置候段大年寄申
出候来月三日可及御沙_(マツ)駄事

一 兼田川院庄川渡船留り亥ノ刻過郡代所方申来大年寄へ申達候

六月 小

月番

御家老 安藤丹後殿

御年寄 小須賀一学殿

大目附 _(船所正) 佐々木右近

大年寄 藏合孫左衛門

六月朔乙酉旦 雨

一 院庄川明キ四時過郡代所方申来大年寄へ申達候

一 兼田川明キ九ツ前時郡代所方申来大年寄へ申達候

一 西今町野々口屋七郎右衛門義撰州能勢郡妙見宮_江往来十五日之逗
留_ニ而_{參詣願大年寄差出承り届_(同十一日届)}

一 院庄川兼田川渡船留り候段酉之刻郡代所方申来大年寄へ申達候

六月二日 雨 曇 少晴

一 先月廿六日夕元魚町二階町南関貫二丁目伏見屋茂七前_ニ徳山朴也

養子大悪心ものニ付彼宅を焼候ニ付近辺へ断之由張紙いたし右ハ
朴也之先之養子宗兵衛と申もの年齢三十計元備中笹沖出生のもの
ニ而{兩親共ニ}塚角村へ来居候処当時ハ木知ケ原_ニ居候由右宗兵衛
ニ而{可有之哉手跡等も}彼_ニ似寄候由殊ニ廿六日_ニ爰元へ来候由木
知原之者元魚町亀屋方へ来居候者申候由目明ニ申付為相糺可申哉
と大年寄申出其旨取計可申_并近隣之者迄も別_而心を付致用心候様
申付置候処目明共右宗兵衛ニ不行合最早木知ケ原へ帰候由尤未木
知ケ原入帳_ニ而_{も無之哉之様ニ}申出候由孫右衛門申出其段御用番
中へ罷越委細相届候処以来随分心を付可然旨挨拶也大目附へ罷越
候処_(マツ)留_主ニ付手紙_ニ而_{右之段相届候尤目明共ニ}も別_而心を付可申
旨小頭又六へ申付置候

一 兼田川渡船相始候段九ツ半時郡代所方申来大年寄へ申達候

一 東新町善太郎林田上之町与市去ル廿七日中之町_ニ而_{之喧嘩右与市}

疵所平愈届出候由郡代所方届書相廻り候

一 朝廻り孫八定治元魚町ニおゐて病大らしき犬一疋打殺昼廻佐十郎

数右衛門福渡町皆木屋甚助宅ニおゐて右同断一疋打殺ス

一 院庄川渡船相始候段暮前時郡代所方申来大年寄へ申達候

六月三日 雨 晴

一 御用日登城

一 祇園会式中例歳之通二階町関貫四時迄開立番付置候段御用番へ相
届大目附へも申達候

一 西今町大工嘉左衛門福渡町大工茂右衛門義我俣之働有之大工職留
申付置候処惣大工共方歎書先達_而差出御用番中へ差出置候処御聞

届被成候段御用番被仰出其段大年寄へ申達右申渡相濟候段御用番
大目附へ手紙^ニ而相届候

一 常盤屋こま義先達^而追払取計候処又々致箱訴同人諸道具未馬場半
助^ニ有之候間御渡被下候様相願候追払もの、義^ニ候得^者無取上筋
^ニ候得共宜考候様御用番中被仰聞候間考付其上^ニ而焼捨可然旨大
目附中被申聞被相渡候

一 下紺屋町長江朝庵備前岡山小畑町浜屋喜兵衛方へ四十日計之逗留
^ニ而来ル五日出立之願書大年寄聞届差出^{七月十二日燃ル}

六月四日 雨

一 病犬^ニ付廻り之非人共殊之外致難渋候^ニ付昨日大目附へも及樽置
今日方一組^ニいたし朝二人昼二人罷出病大有之節ハ早々加人差出
候様^ニ夜前大年寄共へ申付置今朝方右之通^ニ取計候其段大目附中
へ手紙^ニ而申達候

一 東新町善太郎上之町与市喧嘩内濟調不申段昨日大年寄申出今日郡
代所へ申遣置尤立合吟味^ニも及間敷候間双方^ニ而可遂吟味旨申達
置

六月五日 曇 夜雨

一 牢舎人安岡町佐助牢食今朝持不来候旨牢番利兵衛届出大年寄へ申
達候

一 牢舎人忠藏弥市病氣^ニ付医師願出例之通大年寄へ申付候

一 東新町南側^ニ而飯綱屋石右衛門家屋敷表口式間半裏行拾七間三歩
三厘也東隣ハ山本屋三郎左衛門西隣ハ添口屋茂兵衛也<sup>并裏ニ式間
三</sup>
^ニ三間之土蔵一ヶ所共山本屋三郎左衛門方へ老貫五百匁之質物^ニ入

来已五月切一ヶ月老歩半之利足^ニ而借用仕度願書承り届ル同十七
日証文差出^{己未}四月受返ス

一 福渡町作人忠助借屋住九右衛門四国遍路罷出度百日計之逗留^ニ而
来ル六日出立之願書承り届ル

一 札元三船要四郎父八郎右衛門義真嶋郡真賀村へ廿五六日計入湯仕
度願書大年寄差出承り届ル

一 牢屋病人中村易安^ニ為見候所弥市ハ持病之事故不葉候^而も可宜忠
藏ハ療治被仰付候様^ニ申出候段大年寄申出其旨申付候

一 病犬有之由^ニ付加人申付昼廻り方非人六人差出候然ル処得不打殺
由^ニ付明日も六人差出候様申付大年寄へも申達置

六月六日 晴

一 非人廻り朝夕共六人ツ、差出所々之犬打殺之

一 播州網干天満屋義兵衛一人例年之通反物卸売来候段中之町小山屋
与三右衛門宿切手差出^{同八月八日燃}

一 右同所丸尾屋六三と申もの一人例年之通荒物売来候段右同人宿切
手差出右同断

一 右同所余陸屋武兵衛一人例歳之通八百屋物^并鯉節売^ニ来候断右同
人宿切手差出右同断

一 東新町善太郎手錠封印損候段大年寄方届出廻り^ニ申付ル

一 南新座臭橘摘込例歳三拾匁之処当年ハ裏之方大切込^ニ付八拾匁^ニ
而可申付旨伺出其段申付ル尤明日方相始候事

一 郡代所方因州岩井郡納代浦惣七と申もの問屋方駕籠^ニ而林田村へ
送り出候由林田村方申出候段尋有之下方相糺候処誕生寺方病人^ニ

而 来り問屋共無何心送り出し甚不調法之旨林田へ受取ニ可參候間
御差戻被下候様大年寄申出其旨郡代所へ懸合大年寄へも宜取計候
様ニ申付候

六月七日 雨

一 茅町阿波屋伝吉借屋住嶋野屋伊吉并母右家内二人新田村平助方へ
引越度願書大庄屋引合相濟候由大年寄差出承り届

一 祇園會ニ付二階町元魚町行灯例年之通差出候由大年寄届出承り置
一 東新町善太郎義我俣ものニ而日々二度つ、酒吞候由組之者より申
出候ニ付御預ケ中之義左様之義ハ堅致間敷旨大年寄江申達候且又
同人喧嘩一件今日方内濟扱人入候由大年寄内々申出ル

一 因州之順礼惣七義夜前林田方引戻し候由同人義ハ西国之出懸ケニ
而先月九人連ニ而坂原屋甚兵衛方ニ致止宿備中足森まで參り候所
足痛ニ而難歩足森方老人先へ歸り候由格別之痛ニ而も無之巷式里
位ハ歩行も相成候由依之何卒不送返候様ニ相願そろく歩行ニ而
出立仕度旨申尤拾四五匁位ハ^貯も無之候由任其意度旨今朝伺出候
ニ付宜取計候様申達置候所大年寄共心付ニ而四百文計も遣候由尚
又近辺方も少々ツ、差遣八百文計も候由殊之外難有かり是ニ而者
因州境迄ハ賃駕籠ニ而被掃候由申之甚悦罷立候由申出候右取計問
屋共不埒之旨得与相糺候処都而送り物ハ安岡町西今町方東新町へ
送り問屋共ハ兼而之様子一向不存何方方ニ而も送り出しさへすれ
ハ宜事と心得居問屋共自分入用ニ而無何心送り出候由惣而送り者
ハ被仰付之上ならてハ不相成義大年寄共方申聞候得者初而承知仕
肝を消し恐入候由大年寄共申出候右之通心得違之義ニ而者候へ其他

役
所へ懸合候事故咎之義ハ明日從是可申付候と申置候

一 龍野御預り所□□村□村非人番引替相頼来候ニ付差替差遣候段非
人頭申出候由大年寄申聞候

一 戸川町広嶋屋佐助義三町目佐和屋出火之砌銀札六匁計紛失ニ付
他參留申付置候処一向不相知候ニ付目明存寄承り候処最早差免候
而も可然旨申候ニ付今日差免候

一 久世手代内藤大右衛門方飛札到来盜賊徳兵衛一件伺濟候間来ル
三日御仕置申渡候間安岡町綿屋万吉ニ町役差添并立合御役人被差
出候様申来御用番一学殿江相伺候上承知之旨及返答候尤立合御役
人被仰付被下候様直ニ申達置候大目附江明日出仕「」可申達候

六月八日 曇 雨

一 夜前九時過大年寄罷出元魚町徳山朴先之養子宗兵衛と申もの今夕
大村屋源右衛門方へ来候由朴也ハ勿論近隣之者共も致用心万一疑
敷義有之候ハ、可召捕手段ニ而目明共も呼出置居候所万一之義仕
出候而如何ニも候間同心組差出呉候様申出依之新治為治豊屋喜
兵衛方へ差出置候処其後得尋出不申夜中別条無之段五時過罷帰リ
届出候

一 御用日例刻登城

一 札元山本三郎左衛門義備前西大寺油屋弥三郎方へ十五日計之逗留
ニ而来ル十一日出立之願書御用番御聞濟ニ付大目附へ差出置御聞
届大年寄へ申渡候

一 久世手代内藤大右衛門方昨日来候書状尚又御用番へ差出大目附江
も相達候然ル所差添御役人山田新三郎被仰付案内ニ来候ニ付十二

日六時出立役宅へ被出候様ニ対置候

一 非人病犬廻り本廻之通五合つ、被下候様仕度旨大目附へ申達候処先格とハ乍申式合半ツ、被下ハ不相当候義ニも有之尤之義事ニ候得者元来ハ是ハ關所銀方被下之義ニ候得者伺ニも及間敷事ニ候得者右之通取計可遣段一ト通り御用番中へ及噂可然旨被申聞候ニ付其旨御用番中へ申上候処尤之義ニ候得とも終日出候義と又ハ一寸出候と之差別も可有之事ニ候得者其段今一応相考申出候様被仰聞候

一 人馬問屋共因州岩井郡納代浦惣七送り出候段不調法之御咎可相伺旨郡代中へ懸合候所郡代中も被申聞候者元来不存義と候得者可咎筋合とハ不存候間御沙駄不被成以來心得違無之様ニ御達置被成可然旨被申聞候ニ付大年寄場合ニ而さつと叱以來心得違無之様ニ申達候様申渡候

一 来ル十三日御用日十五日ニ相成暑中御機嫌伺有之候段大目附中方被申聞類役江及演達

一 久世表江綿屋万吉差添之同心組神田定治申付候様小頭又六「」申達ス

一 病犬之附葉人物孫右衛門方差出村山三立方受取相渡候

一 川端田藏不快引込候段又六方届出依之加人一人大目附中へ申立候処日下勇助来ル

一 夜前申出候徳山朴也先之養子宗兵衛義今日大村屋源右衛門方江来リ依之源右衛門并檜物屋清八目明甚助櫻野屋茂一郎等内々懸合候得共一向張札ハ不仕候由申張候由其趣ニ而差返し候由大年寄申出

承置

一 河原町庄五郎義八出村町作分ニ而主付田畑作込於郡代所先日已来段々吟味有之不調法ニ付作物取上ケ追込七日申付候様郡代所方申立有之候間其段郡代所へ懸合可申渡之旨御用番中於御用場被仰渡郡代所方も申渡文言認相廻り候ニ付明九日五時呼出候様ニ取計申付置

六月九日 雨

一 小頭部屋目附大年寄立合組合差添年寄召連出左之通書役方読渡之書付相渡候

八出分町作田地不主付畑作物 河原町作人

植付其後刈取間敷并穫間敷 庄五郎

扱と度々町作庄屋方申付候所不相用無案内

穫取候不届ニ付作物取上ケ追込申付候 但追込七日

右之通申渡相濟候段御用番并大目附へ手紙ニ而相届候右申渡全文ハ扣帳ニ有之故大意計記置候

一 大年寄届出候者橋本町ニ而去ル四日作人文吉妻と沼屋亀治置去リニ致候妻と致喧嘩火吹竹ニ而亀二妻を疵付候右沼屋妻と申候者元来播州安志小笠原信濃守殿領分播州佐用郡西本郷村勝之助と申もの、姉ニ而凡十ヶ年計も当所江来リ奉公等致三四年已前沼屋亀治妻ニ相成橋本町朝倉屋与十郎借屋ニ夫婦相暮居候所去秋夫亀致出奔同人妻義ハ其俣相残居候処当二月宮原長屋へ引越候処長屋入用之由ニ而明ケ候由去ル二日同町加茂屋要助方へ来リ在所へ可帰と在候間兩三日差置呉候様ニ相頼兼而馴染之義故要助方ニ差置候処去ル四日同町作人文治妻と致喧嘩文治妻方火吹竹ニ而頭を被打

少々疵付候得共格別之義ニ而も無之宮地東庵相頼早速療治相用候

処氣遣成義ニ而者無之旨被申勿論些之義ニ候得者内分ニ而相濟候

様支度取扱懸候所翌五日同人弟勝之助来并縁類之者之由藤十郎と申もの一ノ宮参リニ而来合武蔵屋甚兵衛方ニ致逗留右籐十郎彼是

六ヶ敷申成不相濟不得止事延引届出候段申出候ニ付朝廻リ為治与三兵衛差向作人文吉妻手錠懸ケ組合預ケ申付候沼龜妻疵所見分ニ

者孫八差向候

一吹屋町吹屋次左衛門借屋住作人伊助四国遍路百日計逗留ニ而明十日出立之願書差出承リ届ル同廿七日届ル

一橋本町喧嘩沼龜妻しけ疵所見分一札取并宮地東庵容躰書申聞候通を年寄共書取候書面取孫八差出依之安志役人江掛合書面相認右ハ

十ヶ年も罷出居候事故定而除帳之ものとハ存候得共当人未御入帳之ものと申候間御尋候弥御入帳之ものと候ハ、当座疵吟味御役人

可差越并当人吟味之義ハ全快之上追々可得御意と相認御用番一学殿御宅へ罷越相伺候処後刻紙面ニ而伺之通存寄無之候間宜取計候

様申来大目附江も右之段相達依之明朝立ニ而可差遣候間御飛脚之者被仰付被下候様ニ手紙ニ而申達候

一安岡町綿屋万吉義ル十二日久世へ罷出候様申達候処此節不快ニ罷在随分押而可罷出心底ニ候得共万一追々不相勝得罷出不申節ハ

坂本屋喜兵衛可差出旨申出候由大年寄申出候

一柔姫様御縁談濟御祝配當場へ被下候処右御受書ニ御縁談濟御結納御祝義と認差出自分義不心付其俣差出置候所大目附松岡治部助不審被申聞先例相糺候処頭徳院様御縁談濟と計有之候右頭徳院様御

例を以相認候事と存候旨申達置候

六月十日 雨

一盜賊徳兵衛義久世表ニ而吟味有之候者元来頼候義ニ而者無之候得

共安岡町綿屋万吉方之盗物吟味計之義ニ付御裁許濟候上ハ申立手代江御目録ニ而も被下候様致度ものと存居候処先日一学殿より御

代官所懸合是迄ハ圭角之様ニ而何角存候様ニも難取計趣ニ相見へ候間以来ハいつとなく類役申合熟意之様之振合ニ「ニ」なく候ハ、

御為ニも可相成候間兼而得と相考候様ニ御沙駄有之幸之義今般徳兵衛義ニ付取計ハ何となく心入候趣ニも相見候得者幸之緒口ニ候

得者旁以申立御挨拶取計度存居候処山田新三郎も来り徳兵衛一件之取計ハ向方ニ而も心入候取計も有之哉之様ニ相見へ不得心事先

達而も帰り懸ニ一己之挨拶ニ暇乞旁手代宅へ参候位之義ニ候得者御勘弁も可有之義哉と申聞尚又相考候所一向新三郎致持参候様ニ

取計候得者別而も不目立移も可宜哉ニ存松岡治部助三浦十郎左衛門へ遂内談候処治部助義ハ右等之義ニ者兼而蒙命候義も有之候得共

未主意不申上兼而差含之義も有之候故何れ共難申候得共今般之一件耳ニ付左様御考伺之段ハ御尤ニ存候間御伺之方可然旨被申上

郎左衛門義ハ至極同意之趣何之故障も無之旨申聞候間一学殿へ罷越乍内々右之段申上候処尤之存付と御挨拶ニ而乍併町奉行郡代而

役所ニ而取計方替候様ニ而者如何ニ候間十郎左衛門并治部助と遂熟談候上ニ而申上候様被申聞候ニ付十郎左衛門とハ遂熟談候処同

意之趣ニ付相伺候段申上併治部助とハ致内談候義も難申上ニ付何分兩人江談候上可申上旨申之尚又十郎左衛門罷越尚又右之段申候

所何之存寄も無之同意ニ付治部助へ罷越右之段申述兼而遂御内談候とも難申ニ付尚又罷越候旨申達候所兼而差含候と申存寄ハ手代

大庄屋方下之役之もの、内ニ一人御用頼と申もの式人程拵置而役方ハ是迄之通ニびんと取扱候様ニ致度もの哉と存候得共是以急ニ申上候程者取調も出来不申候間何れとも難申旨挨拶ニ付其

段一学殿へ罷越申上候処左候ハ、治部助へ御直談之上尚又可被仰出何れも申立候段ハ委細御承知被成候段御挨拶ニ引取

一 非人病犬ニ付廻リ被下物之義考被仰付相考候得共被仰出通ニ委敷ハ差別も難付ものニ付以来病犬ニ付罷出候節ハ本廻リ之通五合つ、被下候様仕度一学殿へ申上候所御承知ニ其通ニ取計候様被仰出候ニ付大目附月番も及噂置尚又右之義ハ非番月も治部

助も考込候趣ニ付右渡方今日方可相改ものニ候得共今月分八月末ニ相渡候間当月分右之通ニ渡度旨及噂候処非番月之義故何れ共御差図ハ難申ものニ候得共先月改而組ニ廻リ被仰付候日方五合ニ直し遣可然ものと挨拶ニ付左候ハ、御月番者委細之訳ハ不申達

其通ニ取計可遣と申述置大年寄呼出し非人病犬ニ付廻リハ以来本廻リ之通五合つ、差遣候尤先月十一日被仰出候節方五合ニ直し可遣旨申渡候且又同^後同心組も昼甚致迷惑候ニ付町方立宿ニ申付

呉候様之内願も有之候得共非人共も居候事故何れとも難取計此間ハ私宅へ中帰リいたし支度致出候様ニ為致候段相咄候処治部助も町方立宿為致候も可然被申聞候ニ付以来病犬ニ付廻リ同心組及

時刻候ハ、湯漬可致所望間御定之通差出^別演達仕候様申付組中江も以来空腹ニ相成候ハ、年寄宅ニ湯漬可致所望尤中ケ間申合

町々平等ニ立宿致候様ニ申付候但^{アツ}貪町ハ可除事也

一 茅町木屋幸八役介みね并^井悴茂吉義西北条郡上横野村治兵衛妻子ニ差遣度人別除願下方引合相濟候段申出承り届ル

一 新職人町作人権七借屋住作人浅吉母とめ義四国遍路百日計之逗留ニ来ル十二日出立之願承り届ル

一 新職人町塗師孫三郎借屋住村上玄宅義娘召連先月十七日罷出不罷帰所々相尋候得共行衛不相知候段届書指出例之通百日尋申付ル離帳之節可及御沙^{アツ}駄候^{同廿日罷帰候}

一 三丁目若本屋十兵衛義先達而居「」払ニ相成候所右妻義借屋明ケ不申候ニ付今朝受人江引渡候段大年寄届出候

一 久世へ来ル十三日綿屋万吉差出候ニ付同心組差添^遣十二日出立ニ付明十一日より奉公引候ニ付加人老人被仰付被下候様大目附江申立候処荒木其助来ル

六月十一日 雨

一 大目附松岡治部助方対談之義有之候間唯今之内参候様ニ三奉行連名ニ申来罷越候処治部助申聞候者是迄御代官所と之懸合振圭角之趣ニ至^而六ヶ敷差支多ニ付以来ハ致熟談候様ニ被成可然哉右

取計等も如何致候ハ、可然哉三役熟談之上存寄申上候様被申聞候早而治部助方右門へ申聞候者昨日被申立候久世手代江御目録被下候義御手始ニ相成候事故此方之御形御極被成候上ニ而之事ニ候間

先今般ハ不被下候旨被仰出別ニ一学殿方御達ハ無之候間左様ニ可相心得旨被申聞候右ニ付右門御答申候者被仰出候趣ハ承知絶^而存寄申上候と申^而無之候得共以来御手被入候事ハ不被成と申御

含^ニ候得^者今般も不被下候方可然哉^ニ候得共是迄御手入無之所以
来御手入可被成哉之御含有之義^ニ付申上候事^ニ而以後御用頼出来
候共今般之被下御邪魔^ニ相成候義ハ決^ニ而無之今般之期を外し追^ニ
被下候ハ、誠^ニ世話^ニ申死^ニ金を御遣被成候と申道理^ニ相当り可
申哉と申候処松岡返答^ニ追^ニ而被下候筋^ニ相成候得^者如何様共品之
付方ハ可有之哉と被申聞候

一久世^江差遣候町役ハ坪屋与八郎申付候段大年寄届出候

一安岡町綿屋万吉明朝久世表へ押^ニ而罷立可申処昼後方別^ニ而相勝不申
此分^ニ而^者明朝出立難仕御座候^ニ付親類坂本屋喜兵衛ヲ代人^ニ差
遣度届書差出承り届ル尤医師容鉢書も差出候右之段御用番^并大目
附へ手紙^ニ而相届候

一病犬之触先日町方へ相触置候処何れも不及貪着趣^ニ廻り之組之者
方申出候間心得違之事^ニ候以来若キものハ見及聞及次第早々駆付
打殺候様^ニ可致旨又々今日再触差出候

一橋本町作人文吉妻手錠封印損候旨届出候間夜廻之組之者へ申付候

六月十二日 雨

一左之面々今朝久世表^江差出候尤綿屋万吉不快^ニ付代人承り届右届
書^并容鉢書写書状^ニ相添山^一「三郎へ相渡遣入但今六時呼出し小
頭部や目附大年寄立合久世表へ差出候段申渡山田新三郎へ相渡候

安岡町綿屋万吉煩代

同町親類

坂本屋喜兵衛

同町年寄

坪屋与八郎

同心組

神田定治

町奉行下役御徒目附

山田新三郎

右出立仕候段御用番^并大目附へ手紙^ニ而相届候

六月十三日 大雨

一播州安志小笠原豊^松○丸殿役人^江橋本町女喧嘩一件未入帳之もの哉
と尋遣候所小野文兵衛と申もの方返書差越遠方之義故呼出相糺候
上自是可否可申越旨申来右返書御用番中へ差出候

一常盤屋こま箱訴之趣極内々藤本十兵衛へ移合候処出訴之諸道具昨
日迄^ニ相渡濟候段申来候追^而大目附中^江者可及噂事

六月十四日 雨

一久世表^江差出候町人共今九半時前山田新三郎召連罷帰り左之通御
裁許有之濟口請証文写持帰り御用番中^江差出大目附^江も相達候

死罪

無宿盜賊

徳兵衛

入墨之上

帳外

敲

定吉

過料銭

山城村百性

三貫文

七郎兵衛

同

同村

五貫文ツ、

庄屋

同

同村

三貫文ツ、

年寄

預り候品

中谷村上分百性

御取上ケ

急度御叱り

喜右衛門

山城村百性

喜平治

同

菊右衛門

調候品取上ケ

入村百姓直之助下代

代銀損失

嘉藤治

此方様御領分之もの其外御吟味ニ付御呼出被成候もの共者不被及御咎之御沙駄旨被仰渡御取上被置候品者被盜主江被成御渡候

重敲可被仰付処非人之 非人番

義ニ付相当之仕置申付候様

源五郎

被仰渡穢多頭江御引渡ニ相成候

一金毘羅參詣旅人当三月貳百三拾六人有之頭錢取候段旅籠屋頭友治方書付差出

一金毘羅參詣旅人当六月貳百拾八人有之頭錢取候段右同断書附差出一牢舍人文藏宜祥喜兵衛病氣ニ付医師願出大年寄へ申付候処中村易

安申出候者文藏義者持病之疾ニ而背痛致候得とも葉スニも及間敷宜祥喜兵衛八時「」当り余程熱氣下痢も有之可葉旨申出候間其通申付郡代所江も申達候

一新職人町岩倉屋伊兵衛娘義御領分東南条郡林田村鍛冶屋喜八嫁ニ差遣度人別除願下方引合相濟候段大年寄申出承り届

一西今町南側ニ而檜物屋八郎兵衛家屋敷表口三間裏行十五間但三歩三厘役東隣ハ公文屋清左衛門西隣ハ永田屋喜七右家屋敷質物ニ書

入銀札三百目来已二月切一ヶ月巻歩半利足ニ而永延屋彦右衛門取

次ニ而借用仕度願承り届同廿一日本証文出付四月受迄直ニ元払候

一西今町南側ニ而鳥羽屋源重郎家屋敷表口三間裏行拾五間但半役也

東隣ハ吉原屋庄吉西隣ハ豊岡与左衛門也右之家五年已前子十月丑七月切ニ巻貫目之質物ニ書入坪屋音四郎取次ニ而借用仕候処元利相濟受返し候届書差出承り届

一材木町万屋与三兵衛家守清兵衛借屋住勇八夫婦悴久米吉右家内三

人先月十九日罷出不罷帰所々相尋候得共行衛不相知候ニ付届書差出百日尋申付ル追而除帳之砌可及御沙駄事

一紺屋町南側万性院所持之家屋敷表口三間裏行十七間但六歩役也

東隣ハ大工佐助西隣ハ作人浅右衛門也右家屋代銀札貳百五拾匁ニ相極町内鳥屋坂之丞へ売渡度願書承り届同廿一日元券状出ル

一徳守宮警固部屋大破ニ付繕中廊下を囲警固部屋ニ致置候段大目附

方申来小頭江申付候 六月十五日 雨 快晴

一御用日并暑中御機嫌伺ニ付五ツ半時登城七間廊下ニおゐて御小性頭謁例之通御奏者番々三奉行迄一同罷出大守様益御機嫌克被遊御

座恐悦奉存候何れも暑中御機嫌伺申上候段申上之末席方引取其外江者暑中之不及挨拶

一夜前徳守警固百藏為治無別条引取候段今朝届出候

一上横野太郎兵衛土蔵へ先月廿一日盜賊這入着類七品九拾六匁計之もの盜賊盜取候触流取計候様大目附中被申聞例之通触流取計本書

八大目附へ差戻候町方無之旨同廿九日申出候

一久世表へ盜賊徳兵衛御裁許挨拶之案文相伺候処大目附中方少々御
添削被仰出差遣候様ニ被仰出候処松岡方御達之趣ニ付一兩日見合
可差遣旨ニ談置候

一右徳兵衛御裁許書并安志方之返書御用番中御下ケ被成直ニ大目附
中へ差出置

一來ル十七日観音ニ付宮脇町関貫四時迄開置立番付候義例歳之通御
用番大目附へ相届候

一久世へ差遣候同心組罷帰候ニ付右代り加人老人明日より差戻候段
大目附へ相届候

一内山下へ病犬追込候節不及貧者ものも相見へ被仰出不行届趣ニ付
其段大目附へ相断候

一久世御代官早川殿江以来懸合同之義思召被仰出三役得と申談存寄
認差出候様ニ御用番中并松岡治部助より被申聞伊左衛門彦藏右門

十郎左衛門申談伊左衛門下書相認十郎左衛門清書ニ而伊左衛門十
郎左衛門同道松岡宅へ罷越差出候様ニ申談置候

一安岡町岡崎屋善吉後家屋守茅町作人太助役介平左衛門夫婦悴藤吉
娘志も右家内四人二月上旬罷出其節相届候処百日尋被仰付相尋候

得共行衛不相知最早百日余ニ相成候ニ付除帳願差出御用番御聞濟
ニ付右願書大目附へ出置御聞届申達候

一桶屋町吉屋佐七借屋住人岸右衛門妻双方得心之上離縁仕親元肥
前国長崎（長崎）元しつくい町たはこ屋勝次郎方へ差戻度人別除願右同断

取計濟
一元魚町村元屋太四郎借屋住治兵衛悴要吉義兼而不所存ものニ候処

先月上旬罷出不罷帰候ニ付親類組合申談義絶勘当仕度願右同断取

計濟同廿九日本証文差出

一堀田相模守殿領分当国勝南郡福力村金治郎悴勤吉義美濃職人町草

津屋唐五郎屋守財布屋平七借屋住広嶋屋佐助養子ニ引受度人別人
願右同断取計濟同日住宅証文差出

一堀田相模守殿領分勝南郡勝間田村百姓宗兵衛弟彦兵衛一人材木町
藏敷屋孫三郎引受度人別人願右同断取計濟

一材木町板元屋定吉弟治兵衛義八ヶ年以前西歳町内伊予屋利右衛門
後家方へ養子ニ遣置候処備前和氣郡香々戸村百姓勘九郎方而細

工仕度奉願罷越居候処先方方不斗罷出御届申上候処百日尋被仰付
候得共行衛不相知除帳奉願候処当時安芸国四日市と申所ニ罷在先

非を悔ひ罷帰り老母介抱仕度相歎候ニ付帰住御免之歎書右同断取
計濟

一二階町量屋義助塀覆損候ニ付御堀江足代下し願書大目附へ差出聞
濟ニ付御作事へ懸合候様ニ申付候

一久世へ差出候安岡町綿屋万吉被盜もの九品受取候受書久世江差出
候写差出候

一東新町三原屋定七下女八ヶ月而昨晚男子死躰流産例之通大年寄
斎藤孫右衛門遂見分候処怪敷義無之旨例之通届書并一札容躰書差

出承り置
一三町目北側而浜野屋重郎兵衛家屋敷表口六間半裏行拾七間但一

軒役也西隣ハ福永屋助右衛門東隣ハ小田原屋幸助右家屋敷代銀三
貫匁ニ相極町内南屋亀藏へ売渡度願書差出承り届ル翌十六日宛券状差出

一大目附中左之通達有之候由近藤伊左衛門方演説有之

大目附当役^江大目附格以下御用文通ヒサマニ

相極候間其旨寄々^江及演達候

一河原町庄五郎追込明朝差免候様ニ大年寄へ申渡ス

一三町目若本屋重兵衛義先達^而居町弘申付妻義ハ御構無之といへ共

妻を御構場所ニ可差置筋^而無之候間為引弘候様ニ申渡置大年寄

共方度々申付候得共不相用致住居候旨申出候ニ付番文藏数右衛

門差向受人親類へ為引取家主五人組受人親類共も背命不届ニ付禁

足半部相慎候様ニ出番方申渡候

六月十六日 快晴 少雨

一河原町庄五郎追込差免候段大年寄届出依之御用番^并大目附中^江同

人追込昨日迄^而七日ニ相成候間今朝差免候段手紙^而相届郡代

所^江も及通用候

六月十七日 快晴 白雨

一南新座臭橋以前之作道之所植継為致度大年寄申出臭橋苗摘込致候

ものニ相渡候様高石垣番人ニ可申付旨小頭又六ニ申渡

一例歳之通宗門帳判取来ル廿五六日於町会所取計可申^并当年ハ頭銭

五文つ、取集候段大年寄申出承り置且又例歳宗門帳判取之節前文

不読聞候由及承候ニ付当年方ハ前書之趣銘々^江為読聞候上印形取

候様ニ申付ル

一河原町作人庄五郎作り候麦年寄方ニ預り置候分代物ニ致上納候様

ニ郡代所方被申聞右代物式拾壹匁壹分式厘相納候旨河原町庄五郎

家主五人組書付写大年寄差出候

一三町目若本屋十兵衛親類組合受人家主禁足申付置候処禁足差免急

度叱可申付旨大年寄へ申達候尤明十六日申渡候様申達ス

六月十八日 快晴 少白雨

一御用日登城

一今晚七時前比目明兩人罷出御家老組小頭岸本善十郎拜領屋敷ニ居

候ものあはれ刃物を以親ニ手向候由ニ付参呉候様頼来候如何可仕

哉と伺出候ニ付勝手次第参候様申付候処昼後罷出右あはれものハ

致出奔候旨申出候

一夜前観音ニ付例歳之通徳守宮へ佐十郎嘉七罷出候処無別条旨今朝

届出候

一元三町目若本屋重兵衛妻借屋明渡候様申付置候処立帰り致住居不

埒ニ付右之もの共今朝大年寄於宅叱申渡候様昨日申付置候処申渡

相届候段申出承り置

若本屋十兵衛妻義ハ差構

雖無之十兵衛御構場所ニ

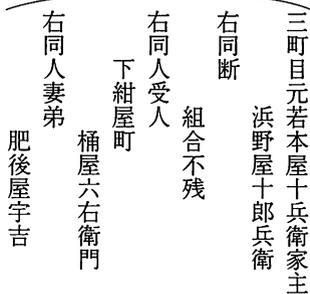
妻を可置筋ニ無之候間

借屋明ヶさせ候様申付置候処

無其義依之右妻義受人ニ

引渡候処尚又立帰リ為致

住居候付急度叱申付候



一雲州大原郡大東村文五郎義新魚町村本屋太四郎借屋住又五郎引受

度人別人願御用番中御聞濟ニ付右願書大目附へ差出置御聞届申渡

候 同廿五日住宅証文差出

一因州法美郡吉方村安兵衛娘義草津屋唐五郎家守美濃職人町財布屋

平七借屋住備前屋藤吉妻ニ引受度人別人願右同断取計濟同廿三日住宅証文差出

一牢舎人忠藏療治二廻リ相濟候処快宜祥喜兵衛も五日ニ相成候得共

快右三人共休葉被仰付候而も可然旨牢番共申出候大年寄方も右同様申出候ニ付休葉申付ル

一松平右京大夫様奥方様御死去ニ付去ル二日方四日迄御台様御忌中ニ付従今日来ル廿日迄三日之内鳴物高声相慎候様被仰出候尤普請

武芸ハ不苦旨大目附廻状到来書役へ申付町方并組中へ差出候

一川端円蔵明十九日方出勤届出候付右加人明日方差戻候段大目附へ手紙ニ而相届日下勇助差帰候様可申付旨又六へ申付ル

六月十九日 快晴

一播州安志小笠原豊松丸殿内小野文兵衛方飛札到来此間申遣候橋本町沼屋龜治妻しけ義未向方之入帳ニものニ候得共年久敷爰元へ来居沼屋妻ニ相成候事ニ候得者定而爰元之入帳ニも可有御座候間今般除帳申付候尤右ニ付以来弟勝之助并村役人共出入ケ間敷義不申出候様急度申付候間勝手次第ニ取計可申兼而除帳之義可申出不埒之段ハ急度答方可申付旨申来御用番中へ致持参入御覽候上御紙面之趣入御念義致承知候段及返書右人別人之義相札候様大年寄へ申付候尤翌廿日手紙ニ而大目附へ相届候

六月廿日 快晴

一新職人町塗師孫三郎借屋住村上亥宅義出奔之旨先日届出百日尋申付置候処夜前罷歸リ候処姫路へ罷越風渡病氣差起リ延引仕候段申候趣申出候ニ付無届罷出久々不罷歸不埒至極之段大年寄宅ニ而叱置候様大年寄へ申付候

一中之町備前屋幸藏義大庭郡鯉村源兵衛方へ当辰ノ六月方来ル午ノ十二月迄三ヶ年之間奉公ニ罷越度家役之義悴藏治相勤候段願書差出承り届ル

一佐藤国四郎長屋住市平夫婦二人細工町作人幸助引受度人別人願承り届ル

六月廿一日 快晴

一牢舎人若松屋義助伊勢屋長右衛門病氣申出吉武修格申付候処時氣当リニ持病積氣候旨申出療治申付ル

六月廿二日 快晴

一小頭又六不快ニ付部屋目附新治老人立会ニ而左之通申渡

旧年山城村捕もの、節格別致出精 江原文藏

殊ニ刃物等致所持候処怪我も無之

外聞と申致大慶候依之賞詞申渡候印迄ニ

式拾正差遣候

六月廿三日 快晴

一御用日登城申上候御用向無之

一小笠原豊松丸殿内小野文兵衛方先日來候書面又々御用番へ差出候処即刻御下ケ被成大目附へ差出候所是又即刻被相戻候

一東新町善太郎林田上之町与市と喧嘩内済願出郡代所方何有之御聞濟之由郡代所方通用有之依之善太郎義手錠差免可申段御用番并大目附へ相届置左之通大年寄宅ニ而申渡出番為治差向候

其方義今般之喧嘩一件内済

願書御聞届ニ付手錠差免候

然ル所元来不行跡之処方右躰之及始末候間

東新町

善太郎

以来急度相慎可申候

町内善太郎義當時^ニ而^者住所無之候由 同町年寄

右躰之ものハ兼^而筋立可置処 善太郎組合^江

無其義住所無之者を組合ニ結置不埒之事^ニ候
以来急度筋立可申候

一出羽守様八月廿八日九月二三日右四日之内御発駕^ニ而^者九月二日

三日五日六日四日之内爰元御通行之旨先触来候由郡代所^方通用有之

一御蔵米七拾式匁町米六拾八匁

一郡代所^方明廿八日牢舍人善之丞忠蔵遂吟味候間五時呼出度^ニ付立

合出呉候様申来其段小頭へ申付ル

一牢舍人安岡町佐助新魚町茂市可遂吟味候^ニ付組合年寄五時罷出候様大年寄へ申達

一神田定治義仲ケ間之者共難相番仕旨惣仲ケ間^方弁書差出候

一当役^者類役^ニ引離れ場合不相応之旧格も有之候処當時^ニ而^者御存

知も無之趣^ニ相見へ既昨年も八朔^ニ蒙御不審候間左之通旧格相認大目附佐々木右近^江差出候尤別^ニ扣も有之候得共兎角別帳ハ致紛

失安もの^ニ付為念爰^ニも記置候

町奉行役先格

一町奉行役^者如何様之訳^ニ而^者之事^ニ御座候哉先前^方場合不相応之御取扱^ニ而^者御座之間御目見御触書御徒目附持參御役人並御擬作之書役対之桃灯格外之書法若堂手傘八朔麻上下着召連候義^者御用所並之振合と申伝仕来候其外^ニも出役之砌若堂三四人ツ、召連^并御具足御祝頂戴も類役と引離れ御奏者番中大目附中と一列^ニ頂戴仕大般若濟之節も右同断一同^ニ御用所^江罷出来り^并先前

^者病氣引込之節も類役^江仮役^者不被仰付大目附^ニ而^者御取計御座候事と相見へ旧記^ニ左之通御座候

一御座之間お目見申上候義^者

先前方後藤守助役中寛政二戌年九月十五日迄先前^方之通^ニ被仰付候処新御札式被仰出候^ニ付同月十月朔日^方於官嶋之間類役一同^ニ御目見被仰付候

一御触書御徒目附持參之義^者

先前方井上弥三兵衛郡代本役町奉行兼帯中宝曆七年三月廿八日迄ハ御徒目附持參仕候段日記^ニ相認御座候処其後御徒目附持參相止候訳記無御座當時^者並之通^ニ御座候

一御役人並御擬作之書役^者

今以先前之通御渡被下置候

一対之桃灯相用候義^者

先前方出役之節^者何れも相用來候段書認御座候^而既天明七年五月十一日三浦志摩守殿御止宿之節も仮役松岡治部助も相用私義当役被仰付候節も右故俄^ニ用意仕當時^ニ而^者も不絶相用申候

一正徳三^{癸巳}年書翰扣

一筆啓上仕候殿様御道中倍御機嫌能去ル四日其御地^江被為遊御着座翌五日為上使土屋相模守殿御出被成同十二日御參勤之御礼段々御首尾好相濟申之由奉承知恐悦至極奉存候次貴公様弥御勇健御供御勤仕被成之旨珍重之御儀^ニ奉存候右御歛為可申上懸愚札候恐惶謹言 神谷庄左衛門 石丸仙右衛門

四月廿五日

渥 函書様

参人々御中

猶以爰元御留守弥御別条無御座候尊意安可被思召候以上一筆啓上仕候殿様右同断次御手前様弥御堅固御勤被成之旨珍

重之御儀奉存候右御歛為可申上如此御座候恐惶謹言

四月廿五日

兩人

大 將監様

人々御中

猶以爰元御留主御別条無御座候貴意安可被思召候以上

一 前書右同断

以御手前様弥御堅固御勤仕被成之旨珍重之御義奉存候右御歛為可申上如此御座候以上

館 喜左衛門様

人々御中

一 次貴様弥御堅固御供

海老原孫助様

一 猶又各様弥

三原金太夫様

安井喜多右衛門様

一 猶又貴様弥

蟹江登弥太様

一 同断

藤本十兵衛様

一筆啓上仕候強甚暑之節御座候其御地殿様倍御機嫌能被遊御座恐悅至極奉存候猶以土用中奉窺御機嫌度貴様迄懸愚札候恐惶謹言

閏五月廿九日

神谷庄左衛門

石丸仙右衛門

海老原孫助様

一筆啓上仕候強甚暑之節御座候其御地殿様益御機嫌克被遊御座恐悅至極奉存候次貴公様弥御勇健被成御座珍重之御儀奉存候爰元御留主御別条無御座候可尊意安候土用中為御見廻懸愚候恐惶謹言

閏五月廿九日

神谷庄左衛門

渥 図書様

（此以後、皆「様」之字認御座候）

石丸仙右衛門

參人々御中

一 次御手前様弥御堅固被成御座珍重之御儀ニ奉存候爰元御留守御別条無御座候可貴意安候土用中為御見廻如此御座候恐惶謹言

大 將監様

人々御中

一 右同断爰元御留守之文言除候

館 喜左衛門様

人々御中

一 次貴様弥御堅固御勤仕被成珍重奉存候爰元御留守御別条無御座候可貴意安候土用中為御見廻如此御座候恐惶謹言

海老原孫助様

一 猶又各様弥御堅固御勤仕被成候珍重奉存候土用中為御見廻如此御座候恐惶謹言

安井喜多右衛門様

三原金太夫様

藤本十兵衛様

蟹江登弥太様

広瀬半助様

人々御中

尚々十兵衛殿登弥太殿平助殿爰元御留守御別事無御座候可
御心易候已上

右等々懸書扣享保四年以後者不相見候

一若堂手傘相用候事

一八朔麻上下着用召連候事

右両様者未記録ニ見当り不申候得共元文中江口勘太夫時
分方当役所江度々出入相勤罷在候川端又六と申組之者若堂手
傘八朔麻上下着用召連候儀者当役之先格と申義慥ニ見覚聞覚罷
在且又三船孫八と申組之者并上弥三兵衛大沢三平八朔之供
麻上下着用仕并手傘ニ現ニ供相勤慥ニ相覚罷在永井甚太夫
役中ニ者同人義者供ハ不仕候得共右同様ニ而仲ケ間之者供相
勤候を駢と見覚罷在候旨申候
右之通仕来先格ニ付去歲八朔ニ右門義上下着用召連候処組之者
衆覚を取用先格之旨申立候段其心得違之旨蒙御察度奉恐入候
一出役之節若堂三四人つ、召連候先格左之通ニ御座候

一正徳六丙申年四月

遊行上人来着ニ付出役

神谷庄左衛門石丸仙右衛門四人つ、召連申候

一享保廿乙卯年十月十九日

式部少輔様御止宿ニ付出候

馬場縫殿右衛門四人召連申候

一文元四己未年四月二日

御役初町見分之節

江口勘太夫四人召連申候

一延亨四丁卯年九月

遊行上人来着ニ付出役

鈴木喜右衛門四人召連申候

一宝曆七丁丑年十月十三日

出羽守様御止宿ニ付出役

井上弥三兵衛四人召連申候

右者四人若堂召連候例

一享保十七壬子年九月十九日

雲州江之御目附衆御通行ニ付出役

馬場縫殿右衛門三人召連申候

一元文二丁巳年二月五日

万人講ニ付出役

右同人三人召連申候

一延亨三丙寅年三月十八日

御巡見使ニ付出役

市村番右衛門三人召連申候

一寛延二己巳年七月十四日

町見分之節

太田定右衛門三人召連申候

一寛政元己酉年三月

御巡見使ニ付出役

後藤守助三人召連傘為持申候

一同年六月五日

公料御巡見使御止宿ニ付出役

後藤守助三人召連申候

右者若堂三人召連候例

右之外

出羽守様 上野介様 御通行并御帰城等之節御註進使等も

入候事故哉左之面々何れも若堂三四人つゝ召連申候

村上左仲

江口勘太夫

市村番右衛門

太田定右衛門

井上弥三兵衛

村田孫兵衛

大沢三平

平井半平

馬場縫殿右衛門

山田与市

鈴木喜右衛門

栗田辰右衛門

上原彦市

永井甚太夫

山岡与左衛門

後藤守助

一御具足御祝頂戴

先前方左之通ニ相記御座候

芥子之間北側

同 南側

右通ひ小従人組被相勤

宇治橋之間西側 御奏者番大目附町奉行

右通ひ坊主相勤

右頂戴相濟御奏者番以下少進出御祝義頂戴難有之旨御年寄

中ニ御礼申述早而御家老以下順々御退座夫方御祝義頂戴相

始ル

先前方寛政二年迄右之通ニ御座候段江口勘太夫時分方之事

留も有之候処御新礼ニ付寛政三年方有役大目附格以上宇治

橋之間ニ頂戴仕候様被仰出候

一大般若詰之次第

先前方大般若御執行ニ付早朝登城宇治橋之間江相詰転説相濟

御拝礼被遊以後御家老御年寄御奏者大目附町奉行御使番寺社

取次中奥目附順々ニ拝相濟早而御奏者番大目附町奉行一所ニ御用所江罷出無滞相濟恐悦之段申述候御札供物を小勘者方宅相廻外ニ御札十一枚相廻り書役并同心共へ遣ス

先前方明和六年正月迄右之通ニ御座候段江口勘太夫時分方

之書留も御座候処同年正月永井甚太夫在役中御奏者大目

附町奉行一所ニ御用所江罷出候処一列ニ罷出間敷義と御

用所思召之由柴崎甚右衛門内々被申聞先役已来之日記明白

ニ相見へ候ニ付先格之旨日記差出候処其後太田舍人方役筋

旧記ニ有之義ニ候得者古格ハ左様と相見へ候然共近年其格

相止候と相見へ御用所御覚無之旨ニ付以後者矢張別段ニ罷

出候様ニと被申聞其後同年五月方ハ御奏者番大目附中御用

所江被罷出以後町奉行罷出無滞相濟恐悦之段申述候事其後

寛政二戌年五月迄右之通ニ御座候処新御礼式被仰出候ニ付

同年九月方大般若若詰不罷出候

宝曆九年佐々木被召抱大勘者等之兼帯ニ被仰付其節之記

録詳ニ無御座其御旧格取失ひ中絶仕候事と相見へ右等之

義も御用所御覚無御座旨被仰出候哉ニも奉存候

一当役病氣引込之節大目附中ニ御取計之義

元元元丙辰年五月十九日金銀錢通用之義御触書出候其節左之

通相記御座候

右御触書大目附中方大年寄共ニ被相渡候我等引込罷在候ニ

付小頭忠助大年寄共ニ相添成沢渡宅へ罷出ル

右之通当役旧記ニ有之申伝候義ニ御座候得共如何様之訳ニ而と

申義ニ一向相知不申候右等之義私ニおゐて絶而取師仕度と申心

底ニ無御座候得共先役以来之御格を私ニ崩候義も難仕後役

江対し候而も如何ニも奉存併猶又蒙御不審候様之義御座候而者

重々恐入候義ニ奉存候間此段申上候尤此余ニも可申上ケ条可有

御座程も難計哉ニも奉存候得共先是迄見当り申候処大鉢右之通

御座候以上

寛政八^丙辰年六月

町奉行役

増尾右門

一 病犬ニ付非人廻り日々差出候処此間ハ病犬も相止候趣ニ付相止候
も可然之旨大目附月番佐々木右近へ申述候御用番中へ伺之上
右之趣ニも候ハ、先相止以後沙駄^{（ツツ）}も有之候ハ、早々差出可申尤申
立次第御使組加人も可相廻之旨被申聞依之今朝廻り迄ニ而昼廻
り方相止候其段小頭并大年寄へ申達候

六月廿四日 快晴

一 左之もの共五ツ時呼出小頭又六不快ニ付新治ニ小頭代申付部屋目
附孫八書役新左衛門出番百藏為治立合ニ而遂吟味候迄左之通申付
候尤組合年寄差添出候

安岡町綿屋万吉方盜賊山城村

新魚町豆腐屋茂市

徳兵衛吟味手懸之ものニ付

安岡町和田屋佐助

旧臈牢番預ケ申付置候処

右盜賊徳兵衛御裁許相濟久世表ニ而御仕置ニ相成事濟候故呼出
相糺候処盜賊筋携り無之ニ付牢番預ケ差免し帰町申付候

右兩人共無願致他參候段ハ大年寄宅ニ而相糺急度叱申付候様大年
寄へ申渡候右之通取計相濟候段御用番并大目附へ手紙ニ而相届候
一 郡代所方牢舍人善之丞忠藏吟味ニ付出牢申来出番百藏為治方取計
一 神田定治病氣引込候段小頭代新治方届出候

一元魚町玉嶋屋善助妻六ヶ月ニ而去ル廿一日女子出産同日産婦死去
出生之女子翌廿二日致死去母子共死去之者ハ大年寄宅へ当人組合
隣家年寄呼出相糺候先格之由ニ而右之通ニ取計夫々一札取差出候

一 橋本町沼屋龜治置去リ之妻しけ義人別之義相糺候処ニ階町方橋本
町へ相移候処両町共ニ人別ニ不入差置候由届書差出

一 落切手届出候右昨廿三日二階町御門之内ニ而米切手式斗式升五合
辰六月廿二日割場と有之切手一枚東新町隅屋甚右衛門馬形〇拾^{庄吉}候
由届書差出先例相糺候処天明七未六月廿四日細工町和助拾ひ大目
附へ相届懸合之上御定之通四歩之割合取相渡候様有之依之右之段
大目附計へ相届候

六月廿五日 快晴

一 撰州大坂塩町四町目教善と申もの日本廻国罷出候処雲州意宇郡東
津田村ニ而相煩歩行難相成ニ付願出同所方送り出し宮尾村方院庄
村へ送り來候旨申出寺往来手形も所持候ニ付送り遣候様申付候旨
郡代所方通用有之送り遣候様大年寄へ申付候

一 大目附中方廻状到來落切手有之候間心当リ之者ハ來ル廿八日迄ニ
可申出旨申來惣町并組中へ廻状差出

一 今八時方小頭代新治部屋目附孫八出番佐十郎文蔵召連牢屋へ罷越
原田屋嘉兵衛贖札一件遂吟味候尤穢多人足申付置水賣木馬揃置候
処不及牢問嘉兵衛老^人ニ而贖札いたし若松屋義助と申談候ハ偽之
旨及白状候ニ付左之通申付候

吟味中入牢申付置候処

京町若松屋義助

贖札携り無之ニ付入牢

同町原田屋嘉兵衛俸

差免帰町申付候

〔一四郎〕

吟味中他參留申付置候処

銀札板摺共

右一件吟味相濟候ニ付他參留

七人

差免候

右之段取計候旨御用番^并大目附へ手紙^ニ而相届候且大年寄^江も其段申達^并板摺共七人他参差免候様ニ申達候且又銀札場奉行江口勝助へも右之段及演達候

一此間町方^ニ而夜分あはれ候もの有之行灯杯打^一「リ候もの有之由ニ相聞候間左様之もの有之候ハ、召捕置申出候様演達取計候ハ、可相慎旨大年寄申出候ニ付其旨宜取計候様申付候

六月廿六日 快晴

一奈良今井町岡嶋忠兵衛忰庄右衛門一人例年之通筆売来候段京町美濃屋平五郎宿切手差出^{八月五日揚ル}

六月廿七日 快晴

一牢舍人伊勢屋長右衛門積気全快候由大年寄^并牢番共方も申出候付休葉申付候

一牢屋へ食持参之もの掟ハ門外ニ差置可申候所左様ハ難取計義ニ付先前方番所前へ致持参来候事^ニ候得共左様^ニ而者惣牢見^江候間以來^者門之屋根あまたれ落方内へ^江者入申間敷^一「取渡之節^者北之窓方見改候様^ニ一昨廿五日於牢屋直^ニ牢番式人^江申付候

一播州今市綿屋嘉市郎忰徳四郎^并手代伊兵衛嘉兵衛三人例年之通呉服物売^ニ来候段二階町境屋伊右衛門宿切手出

一備前岡山小畑町嵐屋甚八忰清兵衛一人例年之通元結売来候段右同人宿切手差出

一三丁目まさこ屋次助借屋住長門屋宗兵衛夫婦母^并娘二人右家内五人為渡世堀田相模守殿領分勝南郡福力村武七方へ^一「六月方来ル午之六月迄三ヶ年之間出職仕度願^一「大年寄差出承り届ル^{八月十三日願下ヶ差出候}

一御領分久米南条郡暮田村助六娘七義二階町丸尾屋長兵衛忰幸藏妻ニ引受度人別人願下方引合相濟候段大年寄申出承り届ル

一牢舍人新吉庄助病氣ニ付医師願出大年寄へ申付候処吉祐祐三診察候処余程熱氣有之候ニ付可薬事之由申出則申付候尤郡代所^江も及通用

六月廿八日 快晴

一御用日登城

一御代官野村権九郎殿支配所当国吉野郡小原村茂右衛門忰義兵衛夫婦二人佐和屋孫四郎家守戸川町作人茂七借屋住喜作役介ニ引受度人別人願御用番御聞濟ニ付大目附へ差出置御聞届申達候^{七月三日住宅証文差出}

一橋様御領分播州多賀郡別所村百性庄右衛門忰甚兵衛老人上紺屋町作人幸助引受度人別人願右同断取計濟^{七月十二日住宅証文差出}

一早川八郎左衛門殿支配所当国大庭郡久世村藏屋林兵衛娘波義京町大村屋源右衛門妻ニ引受度人別人願右同断取計濟^{九月四日住宅証文差出}

一馬持共廿五人例年之通大豆老悖つ、拝借仕来ル^一「上納可仕願書勘定奉行へ懸合候上御用番御聞濟ニ付大目附^江差出置御聞届申達候

一牢屋足輕番所東向^ニ而北^ニ口無之牢食持来候節番所前へ持来候得^者惣牢見通し^ニ相成不^レニ有之候間右番所北^ニ一間口をあケ二枚

戸を立其前^ニ下座敷之様成板敷付^并番所角方北東へ老間半計之袖堀を付門内へ這入候^而も惣牢を不見^一「右番所北之口板敷^ニ而牢食為受取候様仕度旨絵^一「面を^一「大目附へ申立候所元来食持八門内へ不入御定之^一」の^ニ候得^一「番所前迄持来候ハ以前方知^而不知

願^ニ候得^者左様^ニ被申立候^ハ御法^ニも背候様^ニ而如何^ニ付何そ勝

手あしき故障を申立勘定奉行へ直懸合^ニ致候様被申聞其段近藤伊

左衛門へ懸合候所承知^ニ而済

一上横野村孫八方へ当月十五日盜賊入込五品盜取代銀六拾八匁位之

由右触流し取計候様大目附被申聞写取町方へ差出本書八大目附へ

差戻候^{七月九日無之段申出候}

一落切手之義惣町^并組中高石垣番迄相触候処落人無^一大年寄小

頭申出其段大目附へ相届候尤小性町住秋田宇八落候沙駄^{（ツツ）}候右之

段相届候所右落切手相印無之候間承り可申出旨^并割合之義申聞候

様大目附被申聞大年寄へ申遣候所六之印之切手^ニ而候由申越其段

申達且又右割合之御定拾^ヒ候ものへ大年寄場合^ニ而四分一受取差

遣し御定法之旨大目附へ申達候

一久世表方当国絵図面之義山田新三郎承り来候間右御返答^ニ明日立

^ニ而山田新三郎被差遣候間先日伺済候内藤大右衛門へ之再報差遣

候様大目附松岡治部助被申聞別返書相認山田新三郎へ頼遣候

一戸川町岩見屋孫兵衛倅清吉義御領分東南候郡太田村五右衛門養子

^ニ差遣度願下方引合相済候段大年寄申出承り届ル

一堺町^ニ而今夕百万遍致執行候段大年寄申出夜廻りへ申達ス

一東新町隅屋甚右衛門馬形庄吉拾切手ハ御手廻秋田宇八落候^ニ付先

格之通取計候様大年寄方申来依之東新町年寄御中間小頭方へ致持

参相渡四歩一之割合受取候様^ニ大年寄へ申付候

一郡代中方例歳之通蓮之葉入札来月三日迄^ニ御代官青木源太左衛門

方へ差出候様申来其旨大年寄へ申達候

六月廿九日 快晴

一番賃銀相渡候

一今夕三丁目坪井町例年之通挑灯差出候段大年寄届出承置

一牟凌申付昼廻り新治文蔵差出候所無別条旨届出候

一目明孫兵衛内々申出候^者備中足守木下淡路守殿内郡奉行三木友

治と申もの爰元へ来肥後屋^ニ落着孫兵衛へ懸合候^者旧年備中足守

在宅之家中へ押込同前^ニ入込盜取候豊八と申もの去十二月朔日御

作事杖付磯右衛門方へ来直^ニ同人養子^ニ相成居候所致離縁夫方光

嚴寺へ奉公致居候由右之段聞合^ニ召捕^ニ参候由何卒内分^ニ御渡被

下候様仕度旨申候^ニ付植月元右衛門^ニ懸合候処光嚴寺召仕と申候

^者不宜日雇^ニ而候間追出可申候間途中^ニ而召捕候様^ニ申聞召捕

置候間右之通^ニ向方途中取之かたち^ニ而内分^ニ而引渡可申哉之旨

目孫兵衛伺出其通取計候様申付候尤右盜物も致所持居候由取集遣

候積^ニ而^有之候由申聞候

一小頭川端又六不快引込之段部屋目附新治方相届ル

一佐久間兵右衛門殿下屋敷數牢屋へ追懸り候^ニ付為切取候様^ニ去ル

廿七日当番百蔵差遣執權へ申達候

七月 大

月番

御家老 安藤丹後殿

御年寄 小須賀一学殿

大目附 伊達与吉郎

大年寄 玉置源五兵衛

七月朔^{甲辰}日 快晴

一 備中足守木下淡路守殿方召捕ニ來候盜賊豊八義昨日申出通途中捕之姿ニいたし荷物迄不殘引渡一札取置相渡今朝出立仕相濟候段目明孫兵衛届出候

一 上紺屋町百万遍執行届出夜廻リへ申付候

一 御蔵米七拾匁五分町米六拾六匁五分

一 橋本町女喧嘩一件明日可遂吟味右手配夫々江申達ス依之同心組不足之旨新治申出当日切兩人被相渡候様大目附伊達与吉郎へ手紙ニ而申達候処荒木其助鈴木忠太來

七月二日 快晴

一 立合例之通小頭代新治部屋目附孫八書役新左衛門出番佐十郎為治大年寄源五兵衛ニ而八ツ時方橋本町女喧嘩一件沼亀妻文吉妻呼出し遂吟味候処喧嘩ハ鎖細之義ニ而訊立候得共沼亀妻しけ義妻ニ而無之下女と申張候付口書不相極彼是偽候間手錠申付差戻ス尚又追^而呼出し可相糺事

七月三日 曇 風

一 御用日登城

一 賈札師京町原田屋嘉兵衛口書御用番中へ差出先例之通此俵入^ニ而差置追^而四五年之内御赦之節追払可奉伺旨伺書差扣差出候処御用番中御受取被置候

一 境町和泉屋三郎助^{札元玉置即左衛門次男也別家致ス}義去歲勝山領分鹿田村差左衛門方

買受候造酒株を以当冬方造酒仕度右造方上方筋方酒師下働呼寄他国酒同様ニ上酒仕度左候ハ、入用等余分ニ相懸リ候間現銀切升売仕卷合或卷合五勺ト申様ニ売リ式分三分五文八文と値ニ応し売候義ハ及断度此段御許容被下候ハ、左之通見世ニ懸札支度旨

一 酒小壳卸売共現銀少も掛不仕候

一切升壳卷合哉卷合五勺夫方右ニ准し升壳仕候

一 五錢七錢式分三分値ニ応壳渡候御断申上候

一夜四ツ切壳場仕廻四ツ過候^而御断申候

右之趣奉蒙御許容商売仕候此段御断申上候以上

辰六月

右願書御用番中へ差出候所御受取被置候

一 林田町か、ミ屋六之助借屋住平七義去ル二月百日逗留相願西国罷出候処今以不罷帰候ニ付又々百日之日延願差出承り届

一 新魚町三室屋茂七妻兼^而輕行不順之処妊娠ニ相成月取間違之届書大年寄方差出承り置出産之上先例之通叱申付候様申達置

一 西今町直屋条之助所持之他国受酒株去ル亥六月相願西新町久米屋

清助借受商売仕候処限月來候付尚又当六月方來ル戌六月迄借受商

売仕度願書承り届ル

一 南新^{（之）}參町臭橋摘込相濟候段大年寄届出ル植繼ハ追^而可仕由申出候

一 林田町大工藤右衛門義大円寺方先銀受取不埒之段先達^而内分^ニ而

申付置候所尚又不埒之段大円寺方申出候段寺社取次後藤郷助方書

付被相廻急度筋立候様可申付旨大年寄へ申付ル

一 勘定奉行上原彦藏方札元御咎ハ遠慮歎追込歎被相尋遂吟味候所宜

曆三酉十一月九日^二者大年寄三人町年寄迄遠慮と有之明和六丑八月十六日^二者斎藤孫右衛門追込被仰付候其外差扣も伺出被仰付候義有之又慎伺出慎被仰付候と申方も有之免之節ハ差扣御免と奉書を以申達有之左候得^者差扣ハ伺出伺之通被仰付候例有之御答ハ追込と可申付近例^二付其段申達候

一牢屋番所普請此間伺置候所昨日^日取付候由^二候得共其旨不届候^二付以来初終り届出候様牢番へ達置候様小頭代新治へ申付置候

七月四日 雨

一橋本町女喧嘩一件明五日九ツ半時呼出候手配例之通申付^并右^二付組不足^二付明日当日切^二式人加人大目附へ申達候処可児政助中山民治来ル

七月五日 少雨 晴

一札元妹尾平兵衛先日血忌引込届有之候処今日出勤届罷出候

一橋本町喧嘩一件沼亀妻文吉妻九半時^日呼出し立合例之通^二遂吟味口書取之出番佐十郎文藏

一町方惣割帳面差出辻高 式貫七百拾八匁七分壹厘

右之内 人馬問屋入用 式^目百四拾壹匁九分貳厘^{並紙訂正}

一関備前守殿止宿入用 七拾六匁八分三厘

一井問屋小手形も差出遂一見差戻候

一例歳之通寺院宗判取市中寺院之分来ル十八日^日廿日迄郷中寺院之分廿一日^日廿三日迄町会所^二而宗判取候書付両通大年寄差出明後日寺社取次^江可相渡事

七月六日 快晴 白雨

一御藏米七拾匁町米六拾六匁

一関貫番賃銀大年寄差出候

一新魚町姫路屋広藏妻去十月^日妊娠^二相成当正月届出候処去ル六日男子死躰出産例之通大年寄孫右衛門組合年寄両隣打寄遂吟味候処無相違旨一札^并容躰書差出候

七月七日 快晴

一当日祝義組之者不残罷出致対面候例之通之振合^二而神酒差出候但自分義今日^者不遂出仕候

一寺社取次後藤郷助^日寺院宗判取之書付今日序有之候間差出候様申来拙使差遣ス

一御領分東北条郡^日村穢多和吉持牛板売^二出東新町松屋吉兵衛前^二而急病差起リ林田村又四郎と申馬医呼寄せ療治仕候処養生不相叶病死之旨届出例之通一札取置取捨可申付旨申候処一札取差出候^二付取捨申付候

一安岡町坪屋与八郎所持之自国受酒株^{西新町坪屋伊三郎}去ル寅四月借受商売仕候処限月来候付猶又当辰七月^日来ル未六月迄三ヶ年之間借受商売仕度追願書差出承り届ル^{十二月取戻外へ}

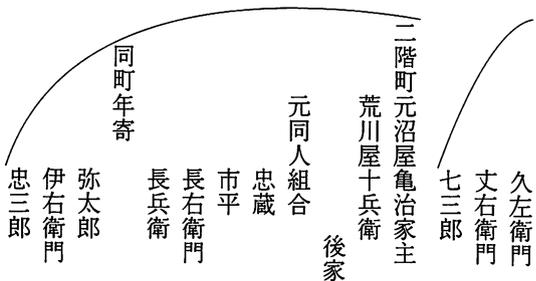
一橋本町朝倉屋与十郎借屋住長藏義去ル四月十六日^日西在^江商売^二罷越今以不罷帰出奔之躰^二相見へ候段届出百日尋申付候追^而離帳之節可及御沙^{マツ}駄候

一三丁目真砂屋治助借屋住長門屋宗兵衛悴新吉義去ル卯之十一月伊達与兵衛殿出入奉公仕候処此度無滞暇出候^二付町内人別^二差加候様^二仕度願差出承り届ル

七月八日 快晴

右同断ニ付禁足申付候
但日数三日

沼屋龜治妻義他所人別之所
先達ニ差置不埒ニ付叱申付候
但大年寄於宅取計之



右之段取計相濟候条御用番并大目附へ手紙ニ而相届候
 一 二階町文助船頭町平七喧嘩之旨平七打擲ニ逢候段届出依之平七疵吟味ニ孫八差向文助手錠預ケ申付候ニ付文藏為治差向依之加人一人大目附へ申立候処荒木其助来夜廻り申付候右喧嘩ハ誠鎖細之義ニ而可致内濟趣ニ付未相届追而様子次第可届事

一 御藏米六拾七匁町米六拾三匁
 一 牢舎扶持先月仕切算様仕候処内貸受取過有之牢番方先月七俵返納致候由右算様余り式斗七升七合五勺上原彦藏方被差戻牢番共へ差返候様申付小頭代新治へ相渡候当時内貸九俵受取居候并内貸古証文被差戻印形消小頭へ差戻候

七月十日 快晴

一 伊達与兵衛殿今日被致帰着候
七月十一日 快晴

一 御堀掃除料式百八拾九匁分四厘齋藤孫右衛門方差出し御作事奉行西村治大夫江為持遣候

一 新魚町姫路屋惠三郎義大峰参詣十五日計之逗留ニ而来ル十五日出立之願書大年寄差出承り届ル同廿九日届ル

一 二階町三保屋十右衛門家守松本屋喜助借屋住杵築屋吉十郎妻ニ御使組并汲庄平娘貰受妻ニ仕度人別人願承り届ル

一 伏見町錦屋藤吉妹義林田上之町瓦屋新吾妻ニ差遣度人別除願大年寄差出承り届ル
七月十二日 快晴

一 橋本町元沼屋龜治家主組合追込并年寄禁足昨日迄ニ而三日相成候付大年寄於宅今朝差免候其段御用番并大目附中へ手紙ニ而相届候

一 関貫番賃銀例年之通当月分相渡候
一 御藏米六拾五匁町米六拾叁匁

一 牢舎人新吉庄助療治ニ廻り相濟候処未全快不仕候旨吉武祐三容鉢書差出代り医申付候様ニ申達ス

一 郡代所方元雲州神門郡神西村出生当時無宿盜賊忠藏召捕遂吟味候処川部村八十八方ニ而盜取候脇差中之町塗師屋定五郎へ修覆ニ差置并太田村庄屋九郎左衛門方ニ而盜取候煙草六繩勝間田町上田屋

三之丞方へ売并川部村金七方ニ而盜取候綿入二ツ西新町備前屋与吉へ質ニ置くり綿も同人江売候由申口ニ付相糺呉候様ニ申口書相廻り大年寄方ニ而益後早々相糺申出候様申付置

一 御藏米六拾七匁町米六拾三匁
一 牢舎扶持先月仕切算様仕候処内貸受取過有之牢番方先月七俵返納致候由右算様余り式斗七升七合五勺上原彦藏方被差戻牢番共へ差返候様申付小頭代新治へ相渡候当時内貸九俵受取居候并内貸古証文被差戻印形消小頭へ差戻候

一 牢屋番所普請今日切^ニ 出来候段牢番届出候

七月十三日 曇 夜雨

一 二階町文助船頭町平七喧嘩内濟仕候付双方願下之願書差出承り届出番為治差向文助手錠差免候

一 東南条郡林田村鍛冶屋小兵衛娘義中之町福寿屋要助引受度人別入願下方引合相濟候段申出承り届

七月十四日 少雨

一 橋本町元沼屋龜治妻しけ義追込昨日迄^ニ 五日^ニ 相成候^ニ 付差免候段家主朝倉屋与十郎へ今朝申渡候段御用番^并 大目附へ手紙^ニ 相届候

一 元魚町紙屋多兵衛倅多吉義大峰參詣廿日之逗留^ニ 而 来ル十五日出立願大年寄承届差出^{同廿八日帰ル}

一 戸川町紙屋平助義大峰參詣願右同断^{同廿九日帰ル}

一 例歳之通七半時出宅町廻り供人佐十郎嘉七銘々弓張桃灯持之高桃灯二張持夫割場中間右代^ニ 牢屋下番中間非番忝人割場へ差出馬両口草履取手人箱桃灯兼持之槍持挟箱合羽籠右三人割場中間無別条相濟帰り懸御用番一学殿へ相届大目附へ^者 馬脇方使口上^ニ 而 相届帰宅五ツ半時過

七月十五日 快晴

一 盆中自拝泰安寺へ參詣仕候
一 牢舎人善之丞長右衛門弥市病氣医師願出例之通大年寄へ申達候

七月十六日 曇 白雨

一 橋本町作人文吉妻追込昨日迄^ニ 而 七日^ニ 相成候付今朝差免候段御

用番^并 大目附へ手紙^ニ 而 相届候

一 茅町裏川土手^ニ 旅僧一人行倒煩居候段大年寄申出候^ニ 付大目附中へ為知申遣候処近町へ引取食事療用等宜取計可申見分之義ハ明日可相達旨申来候^ニ 付外へ被相移候様之病人^ニ 候ハ、旅籠屋へ引取医師可申付左様も難取計趣^ニ 候ハ、其所^ニ むしろ張いたし療養食喰等相相候様可取計之旨大年寄へ申付候右先例ハ明和三戌年九月九日有之出入日雇医師等ハ町奉行方申付右入用ハ欠所銀之内方御扱^ニ 相成候事也

七月十七日 曇

一 茅町裏土手行倒旅僧夜前西今町旅籠屋福見屋吉助方へ引取医師渡部玄端針医河本林幸申付候段大年寄申出候

一 大目附伊達与吉郎方茅町裏土手行倒旅僧為見分御徒目附下目附差出候段申来其段大年寄へ申達立合見分と申^ニ 而 無之候得共町分へ引受候事^ニ 候間年寄共取計を見詰御徒目附へ挨拶旁部屋目附三船孫八差出諸事見計宜及差図候様申付差出候処御徒目附河村市兵衛下目附池上利兵衛罷越茅町年寄西今町年寄立合医師河本琳幸渡部玄端立合遂見分玄端方容鉢書差出茅町年寄方も夜間方見受候様子を口上書^ニ 致御徒目附へ差出候右両通御徒目附持帰り候由尤旅僧行倒と申出候得共願人坊主同様之もの^ニ 而 袋^ニ 米錢少々入有之迄^ニ 而 未言舌も分り不申書物も一向無之何れ之もの共一向相分り不申と^而 孫八申聞候
一 昨日申付候牢舎人善之丞長右衛門弥市三人共可療症之旨跡見春鷗容鉢書差出治療申付候

一郡代所方去ル十二月申來候盜賊忠藏盜物中之町塗師定五郎西新町
備前屋与吉林田町上田屋三之丞遂吟味口書取差出候処質物并脇差
ハ有之候得共繩付たはこ調候義ハ無之旨三之丞申口其八何も有
之右川部村金七方盜物ハ触流しも有之候処不申出備前屋与吉甚不
埒之事ニ候此段追而急度可申付事右口書三通郡代所へ相廻候

一大目附伊達与吉郎方茅町裏川土手ニ行倒居候旅僧今朝見分相濟候
ニ付引渡候間尚療用等心付宜取計可申之旨申來候

一牢舍人助太夫宜祥病氣申出大年寄へ申達候

七月十八日 曇

一御用日登城

一西今町小坂屋長七居宅前ニ鼠小紋単物紋丸之内ニ釵かたはミ之由
右拾候由届書差出御用番中へ例之通張紙可申付旨相伺候処宜取計
候様御差図ニ付其段大目附へ相達右届書差出置張紙取計候様大年
寄へ申付候

一塚町和泉屋三之助酒切升壳願書認かへ大目附へ差出

一桶屋町嵯峨屋宇兵衛借屋住甚助御中間奉公仕候付人別除願御中間

頭内山洞太夫へ懸合之上承り届候段大年寄へ申渡候

一新魚町三定屋茂七義割場中間ニ罷出度右同断願右同様取計濟右同
人義月取間違之届有之七夜過候付例之通御叱今日申渡候段大年寄
申出候

一牢舍人助太夫宜祥中村易安へ為見候処助太夫義ハ脚氣腹滿六ヶ敷

趣宜祥ハ中暑之旨申出候段大年寄申出即刻療治申付候右之段并弥

市國庄助善之丞服薬之義郡代所へ申遣候

一牢屋番所住居替之義西村治太夫へ申遣候

一小頭川端又六病氣引込候処目代仕度旨新治方承り届候

一美濃職人町ニ而今夕百万遍執行候段届出夜廻リ之者へ申達候

一茅町裏川土手ニ去ル十六日行倒居候旅僧於町方種々療養相用候得

共始終言語不相分今七半時落命仕候段大年寄届出右之通中暑ニ而

言語不相分往来等も所持不仕其外書物一向所持不仕何方之ものと

も相分り不申旅僧と八届出候得共古ころも一ツ有之候迄ニ而袋ニ

米錢少々有之候迄之事ニ而野伏同様之義ニ付□□□へ取埋可申付

存候得共旅僧と届出候義故旅籠屋へ引受申付手違之様ニ相成候得

共今更非人ニ取捨申付候ニ而旅籠屋へ対しニ而如何ニ付矢張旅僧

之取計ニ而町分ニ而取計可然大年寄へ申合置右落命ニ付川向へ惣

墓へ取埋可申付哉と大目附へ申遣候承知之旨口上ニ而申來候ニ

付御用番中江も手紙ニ而相届置取埋申付候様大年「」申付候

一東新町野村屋忠助悴忠治と申もの御中間奉公ニ出居候処今般無滞

御暇出候由御中間頭内山洞太夫方通用有之

七月十九日 曇 夜少雨

一行倒旅僧取埋夜前相濟候段今朝届出承り置

一中之町ニ而今夕百万遍執行仕候段届出夜廻り組へ申達ス

一牢舍人助太夫容鉢書中村易安差出郡代所へ相廻候

一神田定治義近來病身ニ而御奉公難相勤候ニ付番代願差出度旨先達

ニ而内意申出候ニ付勝手次第願書差出候様昨日申達候処今日右願書

差出候

一新職人町塗師孫三郎義撰州能勢妙見ニ參詣廿四五日之逗留ニ而明

廿日出立之願大年寄聞届差出八月十一日届

一組中例歳之通宗旨証文差出候

七月廿日 晴 少白雨

一福渡町今日百万遍執行届出夜廻り組へ申達候

七月廿一日 快晴

一三船孫八痢疾相煩引込候段届出依之加人老人大目附中へ申立候所
牧周右衛門来

七月廿二日 快晴

一 小頭川端又六義先月中旬頃方不快度々断候処廿八日方引込相届候
得共仲々間弘底之義故折々新治小頭代申付其俣而濟置候得共御
用多而候処尚又孫八引込間も合兼候而付左之通申付ル

小頭又六引込中小頭仮役申付候

三船新治

(部屋目附孫八引込中部屋目附

石名佐十郎

仮役申付候

右之通申渡候而付加人老人大目附へ申立候所未沢折治来

一左之通申渡候様小頭代新治へ申渡

神田定治義病氣而付番代願差出無余義趣而付願通承り届候勝手
次第番代人可相願候

一牢屋番所今般取繕相濟下番上番住居替致候処竈付「」出来不申旨
牢番人願出候而付上原彦藏へ申達候処承知而相濟候

一御藏米六拾六匁町米六拾式匁

一牢舍扶持内貸証文差出奥印取計之但来月へ三斗壹升五合残ル

一二階町豊屋喜左衛門家守新吉借屋住片山多源治義今般山田主膳殿

江奉公而罷出候付人別除願書差出承り届ル

一東新町田原屋新左衛門役介茂市并娘右二人此度御領分林田村鍛冶
文助方へ差出度人別除願下方引合相濟候段申出承り届

七月廿三日 曇

一御用日登城

一新魚町大坂屋吉兵衛義天明三卯年五月十八日博奕吟味而付致出奔
今以永尋而有之右類之もの不残先達而除帳申付候処右吉兵衛義調
落而付是又除帳可申付旨相伺候御用所御聞濟而付大目附へも申
達置大年寄齋藤孫右衛門へ申渡候

一材木町万屋与三兵衛家守清兵衛借屋住たはこ屋喜右衛門一人因州
高草郡加路村安左衛門方へ引越度人別除願御用番中御聞濟而付右
願書大目附へ差出置御聞届之旨大年寄孫右衛門へ申渡候

一去ル十二日橋本町沼屋龜治家主組合年寄追込禁足差免届御用番并

大目附へ相届候所大目附へ之届手紙而年「」之禁足之文字認落

伊達与吉郎方察度有之不調法之旨申述候御用番中へ御届濟候事
故其俣而致置可然挨拶而付任其意置候

一旅籠屋頭笹屋友治夜前病死之旨大年寄届出候

一牢舍人宜祥病氣差重り昨日方絶食之旨牢番申出郡代所へ及通用

一牢舍人長右衛門病氣六ヶ敷相成候段跡見春鷗容鉢書差出

七月廿四日 快晴

七月廿五日 快晴

一牢舍人宜祥療治中村易安不快而付吉武修格而申付候段容鉢書差出

郡代所へ相廻候

一元魚町而百万遍申出夜廻りへ申達候

七月廿六日 快晴

一 牢舎人新吉庄助全快ニ付休葉牢番申出候

一 牢舎人助太夫醫師中村易安引込候付代リ医牢番共願出候付大年寄

へ申達候吉武祐三へ申付容躰書差出郡代所ニ相廻候

一 茅町百万遍執行届出廻之組者へ申達候

七月廿七日 快晴

一 旅籠屋頭笹屋友治病死ニ付跡役山北屋伊兵衛へ可申付候旨大年寄
伺出其通及差図

一 三船孫八義明日方出勤届出候付牧周右衛門明日返候様小頭へ申付

七月廿八日 曇 夜少雨

一 御用日登城申上御用向無之

一 三船孫八出勤ニ付加人御使組老々今日方差戻候段大目附へ相届候
但牧周右衛門帰し候

一 林田町大工藤右衛門義大円寺へ作料不埒之義急ニ筋立候様申付置
候所盆前式拾匁相戻以後盆暮式拾匁、相払可申旨大円寺へ懸合
納得ニ而相濟候段申出大円寺方差出候書付相戻候付其旨寺社取次
細江武助へ懸合訴状差戻候

一 柔姫様御縁談濟配当場へ御祝被下御受書ニ御縁談御結納濟御祝義
と相認差出右ハ顯徳院様御縁談濟候例ニ随ひ差出候事ニ而未御結
納ハ不被為濟候処相認候も如何之ものニ候得共何れ御結納御祝義
ハ不被下候事故其候ニ致置候様ニ松岡治部助被申聞尤御日記ニ
御縁談濟と計被記置候間其旨ニ記置候様ニ被申聞候

一 御蔵元能野屋文五郎義不調法有之御船奉行方申立有之候間御船奉

行へ申談吡取計候様大目附中被申聞御船奉行村山平学方左之通
之趣書付相廻り少々致添削大年寄宅ニおゐて小頭部屋目附差出左
之通申渡

其方義先達ニ馬船損候を打捨置

去歳八月洪水ニ付郡代所より

借り度旨申来候処指懸り間ニ合

不申候段申出依之高瀬船借り間を合候様

御船奉行中方被申付去歳之所ニ先相濟候

然ル所右一件御船奉行中方被遂吟味候処四五ヶ年

已成ニ相成御繕不被仰付証拠も無之趣申出候由

左様之義ニも候ハ、再忖可申出処無其義打捨置

御用欠ニ相成不埒之事ニ候依之追込申付候相慎

可罷在候 但追込三日

右取計相濟候段御用番并大目附へ手紙ニ而相届候

一 病犬出来候趣ニ相聞昼廻百藏折治兩人ニ非人四人申付差出候処得
不打殺及暮罷帰候ニ付明朝非人八人差出候様ニ申付依之加人兩人

明日一日切ニ御渡候様ニ大目附へ手紙ニ申達候中村榮治下田吉右
衛門来

一 四時比出火西新町伊木屋源右衛門裏八出分地子居納屋焼失致出馬
候処即刻鎮火九時過帰宅帰懸御用番へ相届大目附へ馬脇方組使差

遣候尤大目附伊達与吉郎郡代三浦十郎左衛門も出馬也

七月廿九日 晴

一部屋目附孫八昨日方出勤ニ付佐十郎義部屋目附仮役差免候様小頭

代新治へ申渡

御蔵元能野屋文五郎義不調法有之御船奉行方申立有之候間御船奉

代新治へ申渡

一郡代所方牢舎人忠藏常藏呼出申来牢屋立合孫八〇差出候
一子ノ刻過八子出火之旨ニ付致支度候処御持組牛小屋焼失即刻致鎮
火候ニ付不致出馬候

七月晦日 快晴

一西新町伊木屋源右衛門裏八出分地子居地式間ニ四間之草屋物置一
ヶ所一昨廿八日夜焼失兼而心懸之義ハ無之候得共内方燃出候趣ニ
而者 全手あやまりニ可有之恐入候旨届書差出候ニ付先例之通追込
三日可申付哉と手紙ニ而御用番中へ相伺候処無程伺之通宜取計候
様手紙ニ而申来依之大年寄宅へ小頭部屋目附差出左之通申付

去ル廿八日之夕其方裏

西新町

伊木屋源右衛門

物置致焼失不念之至ニ候

依之追込申付候相慎可罷在候 但追込三日

右取計相濟候段御用番并大目附へ手紙ニ而相届候右届書御用番中
方御差戻ニ付直ニ大目附へ差出候

一郡代所方盜賊忠藏再糺口書相廻り大年寄へ尚又糺申付候

一下三軒屋むくの木大枝虫入方夜前折落候旨三軒屋番作治届出其段

大目附へ手紙ニ而相届候

一牢舎人長右衛門療治二廻り相濟代之医并善之丞弥市二廻り相濟快
休業并周藏腫物ニ付医師牢番方願出大年寄へ申達ス

一東新町肥後屋長助義年寄役三拾壹年相勤候処近来病身ニ相成難相
勤役免願書差出無余義趣ニ付願之通被仰付跡役倅長治へ被仰付可
然旨大年寄申出候ニ付伺之通宜取計可申并数年来無滞相勤候事故

其段格別ニ賞詞申渡候様申達候

一二階町茂渡市之助家守伊助借屋住佐久屋藤助弟茂兵衛義去ル六月

二日不斗罷出不罷帰相尋候得共行衛相知レ不申候段届書差出例之
通百日尋申付候追而離帳之節可及御沙駄候

八月 小

月番

御家老 安藤丹後殿

御年寄 伊達与兵衛殿

大目附 太田舎人

大年寄 齊藤孫右衛門

八月朔甲戌旦 曇

一五時揃ニ付六半時例年之通惣登城於七間廊下御小性代謁御奏者番
方三奉行迄一同罷出上席御奏者番方御祝義申上末席方引取早而三
奉行一同御用席へ罷出当日御祝義申上之末席方引取引懸ケニ大目
附へ自分及挨拶早而御用所御退出之後下城

昨年八朔方檜之間江御祝義申上候様伊達与吉郎方演説有之罷
出候処今年ハ与吉郎方廻勤有之候節ハ檜之間衆へ申上候得共
今日ハ廻勤無之故檜之間衆へ申上ルニ不及候旨被申聞依之不
罷出候事

一御藏元熊野屋文五郎追込昨日迄ニ而三日ニ相成候間今朝差免候段
御用番并大目附へ罷出相届御船奉行村山平学へも及通用

一早魃ニ付はしやき絶此間林田八子当夕出火も有之候事故付火之程
も難計候ニ付しめり有之迄為用心町方拾壹町廻り非人加廻り二組

可申付旨相伺候処其旨申付候様御用番中御差図ニ付大目附へも申
達置其旨大年寄へ申付候

一 田町刃病犬沙駄^{（つと）}有之ニ付非人七八人差出候様大年寄へ申付ル但今
日八組ハ不差出候尤妙願寺前ニ而子共打寄殺候由夜ニ入届出候

一 牢舎人周藏腫物瘡疽と相見へ候由原田春桂容鉢書差出郡代所へ相
廻候

八月二日 快晴

一 町方宗門改帳例年之通大年寄差出

一 無宿盜賊忠藏盜もの町方ニ有之旨口書相廻リ遂吟味候処中之町塗
師定五郎勝間田町上田屋三之丞西新町備前屋与吉方ニ在之ニ無相
違旨ニ付盜物差出候様大年寄へ申付置右三人吟味書郡代所ニ相廻
候

一 山北村長蔵於牢内食持来候父藤兵衛と致直談候義今日新治孫八新
左衛門三人牢屋へ差出牢番利兵衛下番宇平^并三月廿四日当番之穢
多^并相牢之者不殘為相札候処父子致直談候義^著決^而無之旨何れも
申之候ニ付不殘口書致印形差出明日郡代所へ可相廻事

一 西新町土手石垣普請願大目附太田舎人宅へ罷越委細ニ申達置候処
承知ニ候

一 安岡町茅町裏北土手ひきへ水越難義ニ付十四五間之間土俵壹俵丈
ケ土上ケ度兩町方人夫差出度願是又右同様申達置

八月三日 快晴 夜雨

一 御用日登城

一 西新町伊木屋源右衛門火元御咎昨日迄^ニ而三日ニ相成候間今朝差

免候段登城之上御用番^并大目附へ相届候

一 此間引続病犬有之趣ニ付大目附へ申談候処又々組差出候様被申聞
依之加人兩人申立候所加藤登八下山忠士来非人兩人共付昼廻リ^ニ
而差出候尤病犬有之節ハ非人加人途中方申遣候様ニ申付差出候

一 御代官早川八郎左衛門殿支配所当国大庭郡三崎村恵助姉義西今町
^{七月改入}
古金屋伊兵衛引受度人別入願御用番御聞濟ニ付大目附へ差出置御
聞届申達候^{同廿八日住宅罷文出ル}

一 土井大炊頭殿領分当国久米南条郡下弓削村民右衛門倅栄藏義當一
^{七月改入}
月小性町瓜生原屋家守喜平次借屋住作人源藏養子ニ引受候処離縁
仕度人別除願右同断取計濟

一 茅町栗屋伝吉船車三白と先達^而相願濟候所三白^ニ而者急^ニ而不宜
候候五柄白ニ仕度追願差出右願書御用所へ致持参口達^ニ而申上濟
大目附へも右同断^ニ而相濟御聞濟申達候

一 伊勢屋長右衛門妻痢疫^ニ而以之外不相勝大病之処家内不殘病人^ニ
而看病人無之ニ付同人親山本三郎左衛門方へ引受看病仕度尤娘召
連罷越度旨大年寄方申出承り届勝手次第取計候様ニ及差図

一 新魚町北側^ニ而三定屋庄吉家屋敷表口三間裏行十二間但本役也東
隣ハ弓削屋太助西隣ハ油屋齊治右家屋敷代銀札式百五拾匁ニ相極
同町紺屋十藏へ売渡度願大年寄差出承り届^{同五日宛券状差出}

一 川口藤左衛門倅太吉義撰州有馬へ廿五六日之入湯^ニ而来ル五日出
立之願書差出承り届ル^{同廿六日届ル}

一 三町目福永屋幸藏義撰州有馬へ入湯願右同断差出し承り届ル<sup>同廿七
日届ル</sup>

八月四日 風

一 町方宗旨改帳例年之通奥書取計并案詞共改所へ手紙添差出候但

天台宗 千五拾三人 真言宗 貳千貳百拾六人

禪宗 四百貳拾六人 浄土宗 七百拾九人

浄土真宗 四百三拾九人 日蓮宗 貳千貳百七拾人

合七千貳百貳拾三人内男三千七百五拾六人 去卯年より

女三千三百六拾七人 貳拾人相増

一 牢舎人助太夫病氣差重り候段牢番方届出郡代所江及通用

一新魚町百万遍執行申出夜廻りへ申達ス

八月五日 曇 夜少雨

一 牢舎人助太夫致落命候段四時比牢番義右衛門届出即刻郡代所へ申

達候処後刻三浦十郎左衛門被来取捨候義相伺候処右死骸親類へ被

下候様伺候処御聞濟無之依之兼田へ取捨ニ相極候旨被申聞無程大

目附方右助太夫死骸見分御徒目附下目附差出候間先格之通取計可

申尤立合見分相濟ニ者 先例之通取捨申付候様申来七時過郡代所方

右死骸出牢手形相廻り当役手形ニ認かへ小頭代新治部屋目附孫八

差出候御徒目附河村市兵衛下目附本沢茂士郡代下代木村金治罷

出立合透見分候処何之別条も無之ニ付取捨取計相濟候段新治孫八

届出其段御用番并大目附江手紙ニ而相届候

一 戊刻過二丁目横町ニ而福渡町竹雄屋猶兵衛夫婦右相手二丁目元綿

屋藤吉養子惣兵衛致喧嘩余程之手疵蒙り外ニ携候もの福渡町嘉七

并古川屋宗助并雲州もの恵十郎と申もの相加り其内嘉七義者少々

手疵負候由折節江原文蔵町方ニ居合駆付其趣文蔵方届越出番孫八

佐十郎差向候其後夜廻り嘉七為治も行合何れも打寄取捌候趣

八月六日 雨

一 夜前之二丁目喧嘩追々組差出候処今朝ニ至候而も老人も罷帰候

之様子も不申出候間当番差遣候所嘉七老罷帰り手負人ハ吟味も

不相成喧嘩之始末相分り兼候所雲州者恵十郎と申もの申候者外ニ

兩人程携り候ものも有之哉之趣申何れニも刃物所持之者老人も不

相見実躰一本有之候迄之由申出不詰候事共ニ而睨々届ケも難仕趣

ニ付御用番与兵衛殿御宅へ罷越右喧嘩之大意御届申上何分遂吟味

追而可申上旨申上置大目附江も罷越右同様相届置右ニ付組致不足

候間当日切兩人加人被仰付被下候様申達候所日下勇助山本并助来

一 右喧嘩疵見分一札右之通三船孫八指出候

元二丁目綿屋藤吉養子

一 左ふし疵長サ六寸深サ七步

一 背之疵長サ壹尺深五步

一 左之肩かすり疵

一 咽かすり疵

一 右之うで式寸計り深三歩

ハ五ヶ所

右惣兵衛義ハ出生土岐山城守殿領分福本村字七悴ニ而十九年已

前養子ニ来去卯五月致離縁候処又々内々ニ而養父綿屋藤吉方へ

引戻し下人之躰ニ而内分ニ而差置候由右喧嘩之場所方親類鍛冶

町中田屋甚兵衛方へ逃込候由依而當時甚兵衛方ニ而久原三省療

治也右ニ付二丁目綿屋藤吉組合へ預ケ置候方へ引取候

福渡町 一頭中百会方左之質へ式寸計深疵也 竹雄屋直兵衛

一 右之小指切薄皮少懸ル

ハ式ヶ所

一右之「」疵口卷寸八歩計
一胸左肘背三ヶ所鉄刀ニ而打疵
右同人妻

右直兵衛夫婦二丁目綿屋藤吉方へ逃込候所跡見春鷗療治後早々
福渡町へ帰ル

福渡町

一左ノ顔「」ニ鼻筋鉄刀ニ而
嘉七

打疵

一右之肘かすり疵一ヶ所

一右之通外ニ助太刀之ものも有之哉之趣ニ付左之者共呼出し小頭部

屋目附大年寄書役立会出番佐十郎文蔵嘉七ニ而遂吟味候

新類西今町今田屋伊助
帳外古川屋

他参ニ付代人中野屋太郎兵衛并組合へ
宗助

吟味中預ケ申付ル

古川屋宗助呼寄セ候者
雲州もの

ニ付右親類代人太郎兵衛一人江
惠十郎

預ル但手錠申付置尤町内組合ハ不構先格也

吟味中手錠懸ケ
福渡町

組合預ケ
嘉七

右遂吟味候処暗夜之義一向不見分切候ものも誰と申事并刃物等も

不見由申之先ハ当人之物兵衛直兵衛不遂吟味候而者不相分趣ニ付

右見分一札并右之もの預ケ等申付候義翌七日御用番并大目附へ手

紙ニ而相届候

一惣兵衛所持之旨鉄刀一本惠十郎差出遂吟味候処去ル四日上紺

屋町潮屋太吉方惣兵衛へ売渡し未代物取不申候由書付差出候

一刺刀卷「」喧嘩場溝る出候由差出惠十郎申口ニ而者直兵衛妻
持出惣兵衛を切候ニ相違無之候旨申候又翌朝二丁目綿屋藤吉方一紙
有之候由差出候

一石州銀山領色知郡九日市片山村平四郎と申もの京都本願寺参詣帰
路飾西駅方病氣付治療差加候病人願ニ付同所方送り出川部村へ
送り来候ニ付送り遣候様申付候旨郡代所方通用有之候ニ付大年寄
へ申付候

八月七日 雨

一町方宗門改帳致附紙宗旨奉行方被差戻大年寄へ改差出候様申達相
渡

一下紺屋町長江長庵義勢州山田永田孫四郎方へ百三十日之逗留ニ而
来ル九日出立之願大年寄差出承り届ル十二月廿四日届ル

一茅町川土手行倒旅僧西今町福見屋吉兵衛方へ引取候取捨迄之入用
都合式拾三匁六分五厘証文差出奥印取計但闕所銀取計也

一盜賊忠藏盜物町方ニ有之候分不殘取上ケ郡代所へ相廻し候尤別帳
扣有之

一稻荷山風折むくの木取片（マ）着相済候段中村作治届出候

八月八日 晴

一御用日登城

一三浦志摩守殿領分真嶋郡田原大竹村百性新兵衛倅弥助夫婦二人伏

見町徳島屋忠七引受度人別人願御用番御聞濟ニ付右願書大目附へ

差出置御聞届申達候同廿日住宅証文出

一西今町小坂屋長七居宅前ニ先月十三日落有之候古単物一ツ張札取

計置候所□□穢多和三郎と申もの落候由相違無之趣ニ付相渡度届

書差出右届書御用所へ持出口達ニ而申上御聞濟ニ付大目附江も右

同様口達^ニ申達置先格之通^ニ取計相渡候様大年寄へ申達候

一茅町裏川土手大目附構場所行倒旅僧取計入用闕所銀弘之先例^ニ付証文差出置勘定奉行へ明和三年被仰出候先格日記写差出右之通之義^ニ先格有之欠所銀弘一々拙者方大目附へ達候義ハ無之旨申達候所夫^者不及候旨近藤伊佐衛門上原彦藏被申聞相濟以來右之格也

一真虫御薬用切候段玉置源五兵衛申出村山三立方受取相渡

一元魚町伊勢屋長右衛門妻大病^ニ付里方山本三郎左衛門方へ引取養生仕候処養生不相叶死去仕候段大年寄方届出尤三郎左衛門宅より

葬度旨伺出勝手次第申達候処明九日夕ひそかに葬火^{下上}仕候段届出

承り置同人義死去^ニ付左之者共忌中引込大年寄方届出御用番^并大

目附へ手紙^ニ而相届候

妹^ニ付半減十日

叔母^ニ付右同断

右同断

右同断定式廿日

従弟^ニ付三日

茂渡藤右衛門

同 兵吉

妹尾平兵衛

山本三郎左衛門

山本三右衛門

一牢舍人宜祥「[」]廻り相濟未相勝旨吉武祐三届出候趣大年寄申出代り医申付候所悴修格へ可申付旨申出候

八月九日 晴

一下紺屋町大工伊助義三ヶ年己前寅八月京都西六条仏具屋町大工源兵衛方^江三ヶ年之奉公願^ニ而罷越候処一昨日罷帰候段届出候

一左之通大目附廻状到来

七月十一日姫君様御誕生被遊綾姫様と奉称御台様御養被仰出

候右御名^ニ差合候名相改可申候

右廻状写取書役^ニ申付組中^并惣町へ相触候

一病犬^ニ付廻之義昨日大目附へ談置候処弥昨今沙駄無之^{（^{ウツ}）}付病犬之廻り相止加人式人^{登八}明日日方差戻候段大目附へ相届小頭^江も申達候

一銀札場奉行江口清助被參錦織之者價札拾匁持斎藤孫右衛門方へ買物^ニ来押置候処折能錦織之庄屋通り懸り彼是及応対居候先今夕之所ハ内分^ニ而目明相頼遣右様子^ニ随ひ相届可申其上^ニ而組差出候様^ニ被申聞依之孫八嘉七へ内意申達候様新治へ申付ル

一加人御使組末沢折治不快引込^ニ付引替中村栄治来

八月十日 曇 雨

一美濃職人町団屋金七義四国遍路百日計之逗留^ニ而明十一日出立之願大年寄差出し承り届ル

一坪井町北側^ニ而「[」]喜助所持之家屋敷表口六間半裏行町並拾七

間但巷軒半役東隣ハ山際屋平六西^者南北通筋也右家屋敷代銀三貫目^ニ相極西今町坪屋藤十郎へ売渡願承り届^{同十一日宛状差出}

一宗門改帳認直差出改所へ手紙添差出

一左之通大目付廻状到来

於江戸表美作守様御病氣之処御養生不被成御叶去月廿七日御死去^ニ付今十日方明後十二日迄三日之内諸事相慎候様被仰出候

右廻状写取書役^江申付惣町^并組中へ差出候

一御蔵米六拾七匁町米六拾三匁

八月十一日 大風雨

一 錦織村之もの齋藤孫右衛門方へ○贖札致持參候付銀札場奉行江口

清助方内談ニ而申談之上目明孫兵衛差添遣候処今日孫兵衛方飛脚

差越上打穴村帳外義兵衛と申もの板行拵候由右義兵衛召捕候処外

ニ光明坊と申寺院小僧共も組し居候由申越又々江口清助被參遂内

談目明甚助被差遣候様ニ及挨拶即刻申付遣又右之段清助方被相届

依之大目附中呼ニ来罷越候処右之段御用番中へ申達候所又々向

方方組差越候様申来候ハ、可差遣併每度之義ニ付随分穩ニ取計内

済相願候ハ、聞届候様可取計之旨御申候間其旨指含宜取計候様

被申聞候

八月十二日 少雨 晴

一 院庄川六半時渡船留り兼田川五ツ半時渡船留郡代所より申来大年

寄へ申達 諸通行（申入）

一 贖札吟味ニ錦織村江差出候目明仮役平助罷歸り板行類不残并贖札

三拾三匁外ニ銀札紙并察山寺一札取罷歸り小頭代新治方差出孫兵

衛義者板行彫義兵衛を召連今晚方ニ者可罷歸旨申出右板行類不残

江口清助へ為持遣候

一 兼田川渡船始候段八半時郡代所方申来大年寄へ申達候

一出九太夫長屋住雲七同人母同妹右三人小性町桶屋甚兵衛借屋住鈴

鹿屋伊助引受度願承り届

一 吹屋町南側ニ而瓜生原屋七郎左衛門家屋敷表口拾貳間裏行拾貳間

但二軒役也西隣者吹屋八左衛門納屋東隣者吹屋与十郎尤裏ニ土蔵

一ヶ所職場一ヶ所納屋一ヶ所以上三ヶ所并建物不残差添三谷屋与

三左衛門取次ニ而老貫八百目ニ質物ニ書入当辰七月方来巳六月切

ニ式割之利足ニ而借用仕度願差出承り届同廿日本紙及差出

一 豊屋喜左衛門義京都高倉通三条下ル町墨屋善七方へ廿五日計之逗

留ニ而明後十四日出立仕度願書大年寄差出承り届九月八日

一 頭徳院様来ル廿六日御三回御忌之砌大年寄札元昨年之通拝礼仕度

段口達ニ而大年寄方願出候

八月十三日 晴

一 御用日登城申達候御用向無之

一大目附太田舍人方贖札一件御用番方察山寺内済一札取来候上ハ余

類之者可食着筋無之候間板行彫義兵衛召連来候ハ、直ニ差歸し可

申今般之義ハ銀札場奉行取計ニ而始終相済町奉行承り候様之事ニ

而者むつかしニ相成候間其旨差含取計候様ニ被申聞候ニ付目明共

未罷歸候得者如何様之義かハ不相知候得共色々致出精召捕罷歸候

無宿者直ニ差戻候而者以後之御メリニも不宜候而無宿者之義ニ候

得者先暫ハ御留置候様被成度旨存寄申達候処後刻又々舍人方御存

寄之趣御用番中申達候処以之外之御存寄ニ而夫ハ町奉行不筋千万

之存寄本人内済候上余類之者差押置候と申ハ無謂事ニ候左様之不

筋之存寄ハ不承届候間其段申達候様ニと与兵衛殿被仰候間其旨相

心得候様被申聞候依之今般之義私引受候義ニ而も無之候得共吟味

等ハ被仰付候事故以後之御メリニ不宣義故乍恐意御咄申候迄之

義ニ御座候左様義ニも御座候ハ、一向食着仕間敷依之而者召連来

候共私方ハ御届ハ不申達候旨及挨拶候

一 院庄川渡船相始候段四半時申来大年寄へ申達候

一 贖札板行彫無宿義兵衛義九ツ過比目明孫兵衛甚助召連来并小僧方

内濟誤一札取来り候ニ付今般之義ハ銀札場奉行方相頼召捕ニ遣候
義ニ候得者江口清助方へ召連參可受差図旨申達候

一 二階町三保屋十右衛門家守喜助借屋住河本屋忠吉倅久米藏義今般
植山久米藏と相改松岡治部助江奉公仕候間人別除願差出承り届

一 三丁目真砂屋治助借屋住長門屋宗兵衛家内五人堀田相模守殿領分
当国勝南郡福力村へ出職仕度願当六月差出承り届候処家内病人有
之候ニ付延引仕度願下ケ差出承り届ル

一 高石垣関貫村并横関貫損候付修覆可仕旨大年寄伺出宜取計候様ニ
及差図

八月十四日 雨

一 一ノ宮牛馬寄ニ付例歳之通町触差出

一 錢通用百貳文

一 神田定治番代元勝部村出生当時大橋十太夫殿家来松田栄治と申も
の番代ニ願度旨申出依之大杉流棒表并取方為致透見致候尤相手ハ
同門之者召連来候是迄目見前ケ様ニ業振致透見候例無之事ニ候得
共為勵今般方右之通ニ取計候

一 牢舎人長右衛門療治二廻リニ相成候段牢番共方届出例之通取計候
様大年寄へ申付候翌十五日容鉢書差出猶又療治申付ル

一 二丁目喧嘩一件之者共何れも組合預ケ候処少人数ニ而統兼候間町
内番ニ仕度旨大年寄申出勝手次第取計候様申付ル

一 当夏於牢屋贖札吟味之節酒代八匁四分小頭代新治へ渡ス

八月十五日 晴

一 細工町大工棟梁幸助義大坂濃人橋老丁目伊勢屋善兵衛方へ三十日

計之逗留ニ而明十六日出立願大年寄承届差出九月四日届ル

八月十六日 雨

一 同心加人御使組中村栄治不快引込ニ付中山民治来候

八月十七日 雨

一 小頭川端又六老病ニ付久々引籠依之役免并番代内意并書を以申出
ニ付今暫致褒養押相勤候様ニ申達候

一 牢舎人周藏療治二廻り相濟并弥市痢疾之由医師願出先例之通取計
候様大年寄へ申付候

一 京町田原屋伊兵衛義播州姫路京口老丁目とまみ屋平兵衛方へ
三十六日之逗留ニ而明十八日出立願大年寄承届差出十月廿六日届

八月十八日 曇 雨

一 御用日登城

一 大久保加賀守殿領分当国久米北条郡山手公文南村百性三平倅宇平
義戸川町岩見屋孫兵衛引受度人別人願御用番御聞濟ニ付大目附中
へ差出置御聞届申達候九月三日住宅証文差出

一 中之町作人佐太郎妻当五月双子出産無恙生立候付産養八木三俵被
下候様ニ并書を以御用番中へ申上候処即刻御聞濟ニ付大目附江も
申達勘定奉行江も及対談置候小勤者方相廻次第大年寄へ可相渡事
但天明三卯年八月船頭町米屋佐七へ被下候先例有之但証文ニ而受
取候様勘定奉行方申来ル

一 稻荷山下草今日方始候段三軒屋番藤助届出候

一 大目附廻状到来来ル廿六日頭徳院様三回御忌ニ付於泰安寺一夜別
事被仰付候依之町方へ諸事相慎廿五日方廿六日迄町々自身番相勤

候様触達候^并組中牢屋三軒屋高石垣番^江も触達候

一 牢舎人周藏療治二廻り相濟候処^{（ツマ）}癩出候由原田春桂容鉢書差出^并弥市病氣申出痢疾之由跡見春鷗容鉢書差出兩人共療治申付容鉢書郡代所へ相廻候

八月十九日 晴

八月廿日 晴

一 福渡町竹雄屋猶兵衛夫婦^并同町嘉七右三人共喧嘩疵所平愈仕候段届出昼廻り孫八嘉七差向猶兵衛^ニ手錠申付候右之段御用番^并大目附へ手紙^ニ而相届候

一 小頭川端又六病氣快気仕今日方出勤候^ニ付三船新治仮役差免候様又六へ申付ル

一 海老原定吉長屋住丈右衛門一人美濃職人町家守綿屋万助借屋住作人定右衛門引受度人別人願承り届ル

一 鍛冶町船頭町於出火場毎度致喧嘩候^ニ付已来急度相慎候様^ニ叱可申付旨先日大年寄へ申付候処其砌申渡相濟候由

八月廿一日 曇

一 播州網干新在家村加賀屋善七手代善兵衛一人例年之通小間物売来候段勝間田町山形屋喜兵衛宿切手差出

一 播州加藤郡三木町徳屋平兵衛一人例年之通紺屋形売来候段勝間田町山形屋喜兵衛宿切手差出

八月廿二日 雨

一 出羽守様来ル廿八日比松江御発駕之風聞有之^ニ付御道見分小頭又六六年寄源五兵衛差出候処所々破損有之申付候段届出候^并宮川大

橋欄干徳守宮西之壁損候段申出明日夫々^江可及沙駄候^{（ツマ）}

一 牢舎人宜祥快候^ニ付休業可然旨牢番^并大年寄も申出其通及指圖一郡代所方竹田村長と申女狂氣^ニ付借牢伺濟^ニ付立合申来新治差向入牢取計候

一 稻荷山草苅今日迄^ニ而相濟候段三軒屋番届出候

一 牢舎扶持内貸四俵之証文差出奥書取計但当月之余り来月へ老俵持越^ニ相成候積

八月廿三日 少雨

御用日登城

一 松平上総介殿領分備中下道郡富原村与七悴利七夫婦二人新職人町白銀屋岩治引受度人別人願書御用番御聞濟^ニ付大目附^江差出置御聞届申達候^{（同廿七日住宅証文差出）}

一 齋藤孫右衛門養子山三郎義家風^ニ入不申候^ニ付離縁仕直屋市郎左衛門方^江差戻度願書右同断取計濟

一 頭徳院御三回御忌^ニ付御布施頂戴仕度旨配當場願出右同断取計濟尤勘定奉行へも及通用置候

一 右同断^ニ付大年寄札元御拝仕度段願出口上^ニ而御用番中へ申上候処即刻御聞届相濟尤御向座一学殿兼^而御拝御免之者^ニ候得^者其人一代ハ度々不及願出^ニ筋町奉行方御拝申付ルと欺又ハ御拝^ニ差出候段拙者方相届候筋^ニ而可燃尤代替り初^而之ものハ願出候筋^ニ而可有之旨被仰聞候^ニ付左候ハ、以来ハ右之通^ニ取計可申旨申上候処御用番与兵衛殿如何様^ニも絶^而之義^ニ者無之候間宜取計可申旨被申聞候^ニ付其旨大目附舎人^江申達以來ハ右之心得^ニ而御拝^ニ差

出候段可及御沙駄^(マ)旨申置御聞届大年寄へ申渡候

一 早魃^(マ)付町方拾壹丁廻り申付置候所此節湿り行届候趣ニ付最早為相止候旨御用番^并大目附へ申達置今夕方相止候様大年寄へ申達候
一出羽守様御通行御沙駄^(マ)付御道見分差出候所宮川大橋欄干損候旨申出候段大目附中へ為知申達候

一 右同断ニ付徳守宮西之壁及大破候ニ付繕被申付候様ニ寺社取次細江武助へ為知申達候

一 京町米子屋幸三郎弟常八御領分西々条郡古川村伊助倅松右衛門養子ニ差遣度下方引合相濟候段申出承り届候

一 神田定治義大橋十太夫殿ニ相勤居候松田栄治と申もの番代ニ仕度願書小頭を以差出即刻願之通聞届候旨申達候所左候ハ、明日目見江差出可申旨申候尤右等之槍之間以上之家来ハ小頭を以執権へ為懸合候先格之処今般ハ大橋殿執権長谷川利右衛門又六宅へ罷越御懸合不及候段申候由申候旨又六申出候ニ付其俣承り届候

八月廿四日 朝白雨

一 神田定治番代栄治目見小頭部屋目附三人詰合ニ而三本入扇子差出し初^而謁ス三方熨斗当番出之初^而目出度と及挨拶引取但自分義袴計着用尤三日見習相勤四日目方本番相勤候事先格也
一 病犬出来候ニ付非人共差出候段大年寄方届出候即刻打殺候段申出候

一 寺社奉行伊達与吉郎方呼ニ来罷越候処被申聞候者太田村松尾山興善寺姪犯之不埒有之候処今般寺社騒動ニ托メ致退院候旨書置致一昨廿二日致出奔候段届出候間窃ニ召捕可申此段御用番中方被仰出

候尤同心組差向候ニも及間敷出家之義ニ候得^者格別之義も有之間敷候間目明非人差出可然此段ハ考次第^而宜取計可申旨被申聞候

ニ付被仰出候趣奉得其意候何れ目明考付次第^而非人ニも平人ニも三四人計差出可申出家之義ニ候得^者繩も懸ケかたきものニ候得^者先ハ其俣^而召捕可帰其段出来兼候ハ、前付ニ致可罷帰旨可申付段及返答即刻目明孫兵衛呼出又六を以右之通申付尚又直ニも申付候処孫兵衛存寄^者非人ハ目立^而難遣候間同役甚助と又一人非人同様之細引召連先三人可罷出尤入用先六拾匁計相渡候様申出其旨宜取計候様申付候右ニ付目明仮役桶屋町吉田屋平助可申付旨小頭方伺出其通申付ル

一 茅町川土手ニ先月行倒旅僧つた袋之内ニ錢三四百文致所持居候右鳥目如何可取計哉と大年寄伺出候付先月之月番伊達与吉郎へ右之段申達印之石^而も拵候歟又ハ夫丈之供養為致候様ニ申付可然哉と申達候所如何様ニも宜取計候様ニ被申聞候ニ付其旨大年寄へ申達候

八月廿五日 曇

一 中之町作人佐太郎双子出生ニ付産養八木三俵被下拙者証文勘定所へ差出置候処裏印致来り候ニ付御藏へ手紙添差出候処三俵切手来候ニ付大年寄へ相渡先格之通被下取計候様ニ申渡候所今日相渡候由何れも御礼罷出候

一 尾州和田郡嶋崎之内寺元村高橋伊豆例年之通上下式人来候段二丁目尾高屋万吉宿切手差出尤昨年迄ハ元魚町豊嶋屋宿致し候由候一御藏米六拾五匁町米六拾五匁

一 顯徳院様御法事ニ付西大番橋固（マ）白旗町正九時方文蔵百蔵差出候処無別条七ツ半過引取

八月廿六日 快晴

一 顯徳院様御法事ニ付西大番所橋固新治嘉七六時差出候所御法事無滞相濟四半時引取且又大年寄札元当病有之御拜ニ罷出者左之通

大年寄 玉置源五兵衛

札元 武田七郎兵衛 茂渡庄右衛門 川口藤左衛門

玉置卯左衛門 山本三右衛門 妹尾平兵衛

三船八郎右衛門 茂渡兵吉 玉置忠四郎

一 左之通先触到来之由大年寄方写差出

馬式正

右者論所地改手代市川丈助夏目代八美作備中国江差遣間往返并彼地御用中共書面之馬差出賃錢請取之無滞可継送者也

辰八月 甲斐

肥前 曲測甲斐守殿
根岸肥前守殿也

右宿々

問屋

年寄

名主

覚

御証文

一馬 式正

右者就御用明七日九ツ時出立作州大庭郡村々江相越「」別紙御証文写之通相心得宿々ニおゐて書面之馬差出賃錢請取之無滞繼立渡船止宿川場等無差支様取計此先触早々継送り作州久世村方左之村々之内江可被相届候以上

論所地改手代

夏目大八

市川丈助

八月六日

東海道通り

品川宿方

作州大庭郡 大庭村 平松村

同国真嶋郡

富尾村 中村迄

右宿々

村々

問屋 中

年寄

名主

一 論所地改為御用夏目代八様市川丈助様明七日昼九時江戸表御出立被成候ニ付曲測甲斐守様根岸肥前守様宿繼御証文御写一通御添書共綴合御用書付一通白木箱ニ入被遣候間則差越申候先々無滞様相届馬急度令用意相待可被申候以上

大伝馬町

年番御伝馬所 判

寛政八辰年八月六日

從品川作州真嶋郡中村迄

問屋 衆中

名主

右ニ付先例相調候処寛政三辛年六月十四日論所地改手代河野大次郎市川丈助被相通候節保頭先払計ニ而外ニ取計方無之尤今般八爰元止宿之由ニ候段申出候得共右手代止宿之例ハ未見当候得共外ニ取計方無之事故右先例之通保頭先払而已差出可申旨御用番并大目附へ手紙ニ申達右先触写御用番中へ差出候且又其趣宜取計候

様大年寄へ申付候所止宿先格ハ相寛不申候得共宿亭主出迎町年寄見廻通り筋見苦敷無之程ニ者可申付旨申出候付宜取計候様尚又申達候尤明廿七日之夕爰元止宿之旨ニ候猶又後刻紙屋助右衛門へ宿申付候段大年寄申出承り置

一出羽守様御通行御延引ニ相成候由風聞有之趣玉置源五兵衛申出候一 小頭又六出勤仕候得 著 加入御使組中山民治可差戻候所此節御用多

ニ付差留置候所明廿七日方差戻候様部屋目附へ申付其段大目附へ手紙ニ而相届候

八月二十七日 快晴

一出羽守様御不快ニ付当月廿八日御発駕暫御延引被成候段御先触院庄御茶屋へ来候段郡代所方通用有之問屋江も飛脚之者立寄右之段申候由大年寄方も申出候

一 小性町東側ニ而小菊屋藤藏家屋敷表口三間裏行拾五間巷尺但七歩

五厘役南隣ハ作人すき北 著 京町境也右家屋敷代銀三百五拾匁ニ相

極京町取鳥屋又兵衛へ売渡度願書大年寄差出承り届ル八月二日発券状出

一 播州加古川方ねちわく細工手伝ニ九郎兵衛長治と申もの式人例年

之通呼寄逗留為仕度大年寄差出承り届十二月廿六日

一 太田村興善寺尋ニ差出候目明孫兵衛甚助方郡代下代と連名ニ又

六へ書状差越西川寺院ニ居候趣ニ候得共当所大円寺觀音寺方書状

不遣候而 著 渡兼候趣申越候段右書状本書ハ郡代所へ相廻写差出寺

院之義役筋不及思慮義故其伊達与吉郎へ差出候所考之上可被申

聞由挨拶有之候

一 三丁目綿屋惣兵衛喧嘩疵所致平愈候段大年寄方届出候ニ付夜廻方

手錠申付候

一 太田村興善寺老母有之右母を西川江送り遣候節付添参候もの元魚町山田屋和助と申もの、由左ノ十郎申出候間内々遂吟味候様申付候処弁書取差出候処興善寺義ハ一向不存候得共右母ハ去ル廿二日西川へ召連参候由申候右口書明朝与吉郎へ可相渡事

八月廿八日 晴 曇

一 御用日登城

一 脇坂淡路守殿御預り所当国久米南条郡大戸村百性与三兵衛悻長菊夫婦式人安岡町岡崎屋伊兵衛引受度人別人願御用番御聞濟ニ付大目附へ差出置御聞届申達候九月十三日住宅証文差出ス

一 東新町種屋伊助わくなけ尻馬ヶ瀬ニ而小船車四柄白仕白米下直ニ

商売仕度願右願書を以先日郡代所へ懸合置候所在中故障無之旨被

申聞候付今日御用番中へ差出候所即刻御聞届ニ付右同断取許濟

一 頭徳院様御法事御布施被下右御受書取配當場差出例之通御用所へ

持参口達ニ而申上濟大目附へ相渡候

一 太田村興善寺老母供いたし西川へ参候元魚町山田屋和助口書伊達

与吉郎へ差出候所和助義先他参留申付置候様被申聞其段御城方手

紙ニ而大年寄へ申達候

一 二丁目綿屋惣兵衛喧嘩疵平愈申出候ニ付手錠申付候段御用所并大

目附へ口達ニ而相届候

一 伊達与吉郎方夜前申達置候太田村興善寺義西川領ニ忍居候趣ニ付

拙者方西川役人江相渡候様ニ飛脚差遣候様ニ可取計旨被申聞右文

通下案認差出候所添削有之尋ニ遣候間相渡候様ニと御直有之候ニ

付召捕^ニ而^レ有^レ之候ハ、役筋^方可懸合義^ニ候得共尋^ト申遣尚又村方
檀中之者罷越居候者^ハ被相渡候様申遣候義^ニ候得^者郡代所^方可懸
合相当之義^ト存寄申述候得^者承引無^レ之最早伺濟之事故矢張当役^方
懸合候様^ニ被申聞候付御飛脚之者被相渡候様月番大目附^ハ相届置
其旨西川役人平沢助八富田与次左衛門^ハ書状相認御飛脚河野伊右
衛門^ハ七ツ前時相渡候且又又六作助^方目明^并檀中之者^ハ返書右飛
脚之者^ニ可差遣所取落候^ニ付目明^并役平助^ハ申付差遣候様^ニ申付
ル

一 福渡町阿賀屋助五郎借屋住太助夫婦^并娘悻庄之助同民之助右五人
宗永寺長屋^ハ引越度人別除願書先月差出寺社取次細江武助^ハ懸合
置候所今日通用相濟^ニ付聞届申達候

一 論所地改役人今夕当宿止宿之旨勝間田聞合之者罷帰^リ且又村々^ニ
而^レ村境^ハ迎^ニ出候様^ニ申送り状東新町^方元魚町迄^ト送り^ニ到来候
旨大年寄^方申出先例無^レ之義^ニ付一ト通り大目附^ハ申達右送状^ハ東新
町^方新田村^ハ継文送町分^ハ保頭先弘致候得^者可相濟旨申達候所其
通^ニ而^レ宜候間其旨^ニ取計候様太田舍人被申聞其段大年寄^ハ申達候
一 備中国加藤郡惣社^{白書也}町作屋善兵衛一人例年之通切尺長刻たはこ紙類
御壳^ニ来候段境町西川屋善助宿切手出

一番質銀大年寄^方差出候

一 来月月番孫左衛門可相勤等之処未相勝候^ニ付源五兵衛相勤候旨届
出候

八月二十九日 晴

一番質銀例月之通相渡候

一 牢舍人伊勢屋長右衛門病快^ニ付休薬可仕段大年寄^并牢番^方届出候
一 筑前遠賀郡栢原浦小平次手代宗兵衛忠右衛門式人例年之通茶碗類
御壳^ニ来候段京都田戸屋宗十郎宿切手出

一 西川平沢助八富田与次左衛門^ハ昨日差遣候飛脚今八時比罷帰^リ千
年寺相糺候処興善寺法縁^ハ有^レ之候得共千年寺^ハへ不来候旨申出候
段返書来伊達与吉郎^ハ差出候且又目明孫兵衛甚助^方も又六^ハ書状
差越世話人も調違不埒明旨申越右書状も与吉郎^ハ差出候

一 右^ニ付興善寺母供いたし西川^ハ参候人足元魚町山田屋和助呼出相
糺興善寺供いたし西川^ハ参候趣及白状候^ハ、右口書西川役人^ハ差
遣可然存立合例之通^ニ而^レ呼出相糺候処詞之転々多^ニ者候得とも不
及白状候故左之通申付置候尤中渕賀渡船^ハ興善寺母子致同船候趣
目明孫兵衛^方申越候^ニ付右之段今夕中^ニ被相糺候様郡代所^ハ手
紙^ニ而^レ申遣置候弥左様之趣^ニ相違も無^レ之候^ハ、明日和助義牢問可
致支度^ニ申付置候

吟味中手錠組合預ケ申付候

但先今夕之処^ハ後手錠^ニ申付差帰候^{翌後手錠}

興善寺^方被相頼和助相雇遣候由

付呼出し遂吟味候処其段^ハ相違も無^レ之候得共

差^而手懸^リ之義も無^レ之^ニ付其俣差戻候

右山田屋和助吟味中手錠組合預ケ申付候段御用番^并大目附^ハ手紙

相届候尤与吉郎^ハも委細手紙^ニ而^レ申遣候

右吟味最中与吉郎^方呼来罷越候処孫兵衛甚助^方へ飛脚差遣内分^ニ
而^レ絶^而渡候様今一応可懸合旨申遣候様御用番御差図之旨被申聞候
得共最早左様^ハ難取計筋^ニ付山田屋和助吟味詰^リ右口書を以又々

拙者方懸合候様ニ致度旨存寄申達候処其旨御用番中へ被相伺候候
拙者存寄之通宜取計候様御差図有之候旨被申聞候

一論所地改手代今夕致止宿候段大年寄方届出承り置

一二丁目喧嘩一件内濟難相整及破談候段大年寄方申出候近日可遂吟
味事

一札元山本三郎左衛門義一ノ宮牛馬寄罷出無滞引取候段届出候

九月 大
月番

御家老 安藤丹後殿

御年寄 小須賀一学殿

大目附 佐々木右近

大年寄 玉置源五兵衛

九月朔^甲 戌日 快晴

一郡代所方院庄川渡守遂吟味口書相廻り候処弥興善寺義母同道ニ
者不致渡船趣ニ相見へ依之山田屋和助義牢問も難致ニ付其旨伊達
与吉郎へ以参申達後手錠差免並之通之手錠ニ昼廻之組方申付候尤
渡守口書今少不審之所も有之ニ付尚又再糺被致候様ニ郡代所へ申
遺置候

一論所地改手代今朝無滞出立之旨大年寄届出御用番并大目附へ手紙
ニ相届候尤一僕ニ來候由都合上下四人ニ候旨申出候

一西川へ差遣置候目明共格別之懸合口も無候ハ、罷帰候様可申遣旨
伊達与吉郎被申聞候付又六方申遣候様ニ申付候尤案紙認遣態ニ飛
脚遣候様ニ申付ル

一目明孫兵衛甚助西川方帰り道ニ又六方差遣候飛脚之者ニ逢候由
兩人共暮時分罷帰リ最早千年寺円城寺ニ居不申候由取計方一々
承り届居候処郡代所方院庄渡守之口書又々相廻候処山田屋和助口
上之通興善寺母と和助兩人罷通り興善寺ハ一所ニ不致渡船候由
ニ付伊達与吉郎方へ罷越西川ニ目明兩人之取計之趣一々申達并
和助申口之通興善寺母子一所ニ渡船ハ不致候旨渡守方申出候上ハ
最早山田屋和助義可相糺手懸も無之候間思召も無御座候ハ、差免
候も可然并興善寺出奔之手伝致候ものも定町方ニ可有之ニ
付此上遂監察可致吟味哉と申達候所何分明日御用番中へ相伺自是
可申達旨挨拶ニ候

九月二日 快晴

一御藏米六拾三匁町米五拾九匁

一伊達与吉郎方元魚町山田屋和助手錠組合預ケ差免他参留申付候様
申來候ニ付立合例之通ニ九時呼出左之通申付ル

院庄渡守再応遂吟味候処

元魚町

興善寺義母同道ニ不致渡船旨

山田屋和助

申出候ニ付手錠組合預ケ差免他参留申付候

右取計相濟候段御用番并大目附月番伊達与吉郎へ手紙ニ相届
候

九月三日 曇

一御用日登城申達候御用向無之

一 元魚町土橋破損書大年寄差出大目附へ差出候
一 御年貢米町在_ニおゐて切手替御停止之触大目附_方相渡書役_江申付
認かへ町方へ差出候

一 大目附伊達与吉郎_方太田村興善寺尋被相止候間元魚町山田屋和助
他参留差免候様被申聞左之通大年寄へ申達候

他参留

差免候

元魚町

山田屋和助

右取計相濟候段御用番_并大目附へ手紙_ニ而相届候

一 美濃職人町草津屋唐五郎家守財布屋平七借屋住作人藤吉妻当六月
因州法美郡吉高村_方引受候処右妻義下地_方御近領_ニ致奉公相馴染
候_ニ付当正月_方懐妊_ニ相成居届延引之断書差出承り届ル

一 為替米取候義例歳之通御停止之大目附廻状到来写取組中牟屋三軒
屋高石垣番迄相触候様小頭へ申付ル

一 惠高院様来ル十一日御一周忌被為当候段為御知大目附廻状到来写取
町中組中牟屋三軒屋高石垣番迄為触知候尤惠高院様御一周忌為御
知耳之御触先例相調候処改生院様之節も町方為知申達候義_(林州)
又ハ認落_ニ而も有之哉不相見へ_(抹也)候得共為御知有之例_ニ随
ひ町方へも相触候

一 近々御用所武芸一覽有之候間前々之通可罷出旨大目附廻状到来
一 牢舎人周藏療治二廻り相濟候得共未耽と不仕候_ニ付療治被仰付被
下候様双方_方申出大年寄へ申付候所尚又春桂へ可申付旨申出候_而
一 牢舎人弥市療治二廻り相濟快氣之趣_ニ相見へ候間休葉被仰付候_而
も可然旨牢番申出其通申付ル

一 大目附佐々木右近_方手紙_ニ而_而当国宮尾村院庄村地所出入内濟先達

而_而有之候処今度龍野役人田中茂七と申者右一件_ニ付懸り御役_江対
談致度旨郡代所へ申越候_ニ付右応对人明朝_ニも被差出候間宿之義
齋藤孫右衛門か玉置源五兵衛か_江宜申付候様申来其段大年寄へ申
付候処源五兵衛御宿可仕旨申出候_ニ付其段右近へ手紙_ニ而_而申達候
一同心組石名佐十郎義萩野嘉七南隣組屋敷地借り受致普請候由小頭
方届出候尤内々ハ御作事奉行へ懸合遣候

九月四日 晴

一 元魚町伊勢屋長右衛門家財致封印置候処家内夜着無之難儀之旨歎
出候_ニ付昼廻り孫八文藏_方出し遣候様申付取計濟

一 龍野役人田中茂七対談宿無滞相濟候段玉置源五兵衛届出候右懸合
役人ハ三浦伴左衛門罷出候由尤中渕賀境論内濟一件双方役人奥書
之相談_ニ来候由也

九月五日 曇

一 拙者義今日野辺へ罷出候付三浦十郎左衛門を頼置候

一 御藏米六拾匁町米五拾六匁

一 郡代所_方越前国今立郡春山村甚之丞と申もの漆椽_ニ罷出村々相廻
り候処伯州日野郡古市村_ニ而_而相煩同所_ニ而_而色々療治差加候得共快
氣不仕病人任願同所_方送り来往来手形致所持候_ニ付送り遣候様申
付候段通用有之候_ニ付送り候様_ニ大年寄へ申付候

一 龍野役人関口作兵衛三沢清太夫_方飛札到来無宿幸助一件御下知_ニ
付来ル十一日申渡候間安岡町菱屋後家_并懸合之もの共左之面々来
ル十日迄_ニ可差出候様申来

安岡町菱屋太助後家かね

町役人
西今町菱屋太助弟次兵衛

戸川町目明

町役人
孫兵衛
町役人

右之通申来候ニ付承知之旨返書可取計旨并差添御役人被仰付候様御用番へ手紙ニ相伺候処相答之返書取計右懸合之もの共罷出候様可申付差添御役人者自是可申付旨申来候付返書差出右之もの共来ル九日出立罷出候様可申付旨大年寄へ申達候右来書即刻御差戻被成候ニ付翌六日大目附へ差出候

九月六日 曇

一 龍野へ被差出候町人差添山田新三郎被仰付候旨案内有之候

一 大目附佐々木右近方呼来罷越候処昨夜京町御門之鍬盜取佐久間兵右衛門殿横町ニ鍬ふちを打めき鍬計取候由右鍬者金之処も作之字彫有之候間潜吟味可申付旨被申聞依之小頭代孫八呼出右之段目明共へ申付候様ニ申達候

九月七日 雨

一 一方村芳右衛門娘中義元魚町福津屋三吉妻引受度人別入願大年寄差出承り届ル

一元魚町藤野屋多吉借屋住人茂七一人林田村弥市方へ引越度願下方引合相濟候旨大年寄申出承り届

一 御領分東南条郡古林田村鍛冶七右衛門孫女かね義西今町玉屋吉右衛門引受度人別入願下方引合相濟候段大年寄申出承り届

一部屋目附新治小頭兼帯立合ニ呼出左之通申付候

来ル十一日安岡町菱屋太助後家
萩野嘉七
龍野へ差出候付差添申付候

右ニ付同心組加入老人明日方御渡被下候様ニ手紙ニ大目附へ申達候

一 山田新三郎龍野へ差添参候ニ付槍持之義一学殿へ申達候処尤之由明日可申達旨被仰聞候

一 宮川大橋車引候義玉置源五兵衛心付候趣御作事奉行西村治太夫へ去ル三日申談候処引通り候も苦ケる間敷旨挨拶ニ候

九月八日 雨

御用日登城

一 二階町境屋伊右衛門元役介吉兵衛義勝手ニ付先年新魚町加登屋源三郎借屋借受引越居候処十四ヶ年已前天明三年卯五月出奔仕当時大庭郡久世村ニ罷在先非を悔相歎候ニ付何卒徘徊御免被成下候様知音之者を以相歎越候ニ付何卒御免被下候様二階町境屋伊右衛門歎書差出御用番御聞濟ニ付大目附へ差出置御聞届申達候

一 大久保加賀守殿領分当国久米北条郡油木下村兵助娘并同人倅左吉右母子二人二階町鳥屋金藏妻子ニ引受度人別入願右同断取計済同廿三日住宅証文差出

一 二町目喧嘩内濟願書差出候ニ付右取計伺書差添御用番中へ差出置候

一 造酒之義已前之通公儀方御免之御触昨有之候処与兵衛殿思召ニ付昨年者凶作ニ付御領分中ハ先是迄之通三步二作リ可申時節見計御触通ニ差免可申旨被仰出其旨申達置候処今年者豊作ニ候間差免可然旨郡代所へ懸合之上御用番中へ相伺候処何之通差免可申旨被

御出候ニ付右之段大目附へ相違置三步ニ作御免之触差出候

一与兵衛殿御勝手懸リ御免被成当分松岡治部助へ御勝手懸リ被仰付候由

一大田村興善寺一件ニ付渡守口書両通郡代所へ差戻候

一同心組加入御使組荒木其助来

一大隈宮祭礼宵祭ニ付林田六町焼灯差出候段大年寄申出承り置

九月九日 快晴

一龍野へ差出候町人共今六時呼出し立合例之通ニ而龍野表へ差出候付山田新三郎へ引渡候段申渡左之ものと山田新三郎召連致出立候

安岡町菱屋太助後家

右町年寄

扇屋栄治

西今町菱屋治兵衛

右町年寄

湯田屋太郎左衛門

戸川町目明

孫兵衛

右町年寄煩代

藤野屋多吉

同心組

萩野嘉七

御徒目附

山田新三郎

右之もの共出立候段御用番[#]大目附へ手紙ニ而相届ル

一重陽ニ付組共例之通目見罷出例之通調神酒差出之

一大隈宮祭礼ニ付先格之通警固新治文蔵為治栄次四人差出候処夜ニ

入無別条段届出候

一大目附佐々木右近方手紙ニ而昨夜田町御門之鍬盜取候ニ付先比申

達候趣差含遂監察候様申来小頭又六へ申付目明へ申付候様申達候

九月十日 曇

九月十一日 雨

九月十二日 快晴

一尾州高橋伊豆義去ル卯歳迄元魚町豊嶋屋伝吉宿仕候処御用宿相止候ニ付以後八二丁目尾高屋善七宿仕度旨届書差出承り置^{十月十二日}

一元魚町福津屋三吉義一方村芳右衛門娘中先日引受候処下地馴染ニ

付当五月方懐妊仕居候段届書差出

一二階町山本屋周右衛門所持自国請酒株当辰正月方元魚町福津屋三

吉へ貸置候所限月来候ニ付取返し尚又右株東新町鍋屋平蔵へ来已

九月迄貸申度願書差出承り居ル^{牛六月十八日取戻ス}

一三軒屋中尾藤助忤義御使組松尾八十七養子ニ差遣置候所今般致離

縁差戻候付役介ニ致置候段又六方届出候

一桶屋町桶屋善兵衛借屋住人長治と申もの永々相煩大難決仕候ニ

付工面もの、内老俵半差遣度大年寄伺出其通宜取計候様及差図

一牢舍人忠蔵義呼出候旨郡代所方申来出番文蔵立合差出候所忠蔵義

昨日方致腹痛請答も難出来趣ニ付得不罷出候段文蔵罷帰リ相届右

ニ付致延引候段郡代所方も申来牢番方医師願出大年寄へ申付候

九月十三日 快晴

一御用日登城

一今日月番御呼出有之候由三奉行一同於御用所大目附出席左之通御書附を以御用番一学殿方被仰出早而於御席大目附方支配之者へも可相達候旨申聞候何連も奉畏候段御受申上引取

御家中之面々勝手向積年之難洪ニ付御手当等も被下置度候得共何及存知之通近年打統御物入等多御取計も難被成候依之為取統取計方之義御勝手方江別紙之通被仰付候間随分令難取統御奉公可被相勤候

一先達而御貸付有之候式步通り并壹步通り共利分御用捨被成元銀十ヶ年賦被仰付候

一今般壹步通り御貸被下来歳方壹割半年賦返納被仰付候

一是迄御藏奉行口入并奥書等之借物一統当月元分銀主へ返済被仰付依之右元銀御貸渡被下来歳方式割半年賦返納被仰付候

一此以後御藏奉行口入之借物壹ヶ年壹割之利足而貸渡候様被仰付候

一先年方難洪願之面々は迄追々御取替米上納之儀ハ追而御評儀之上可被仰出候間当時上納者御用捨被成下候

一勝手向難洪之面々江当春御勝手方方取替置候借物は又上納之義右同断

一此以後勝手向無余儀筋ニ而及極難候面々も有之候得者十ヶ年之間家内人別扶持御渡可被下候尤格別人別多ニも無之四五ヶ年ニ而借物指引相濟候者ハ其段申出候得者物成御渡可被下候且又左之趣取計被下候

一是迄極難之面々三ヶ年之年数ニ而ハ訳立兼其上再応之面々ハ大躰十ヶ年近相成候左候時者男子女子有之銘々年比ニも相成候而無拋養子嫁取等相願候義ハ夫々前に支配頭可申出事

一死失等者是迄之通被下可有之事

九月

右御書付引取致拜見大目附中江者三奉行一同御礼申上御用所江も御礼可申上哉と相尋候所夫ニ者不及旨大目附被申聞候右御書付支配組中へ差出候

一札元妹尾平兵衛義京都二条与力加藤三郎右衛門方へ廿日計之逗留

ニ而明十日出立仕度願書差出勘定奉行へ引合之上御用所へ申上候

処御用番御聞濟ニ付右願書大目附へ差出置御聞届之趣大年寄へ申達候十月十四日掃り承り置

一町方御条目古代之趣故当時不入用之義有之候付致添削以來相極度

一学殿へ差出相伺置候午三月十八日矢張下地之通

一仏事禁酒之義先年御家中計有之當時右之趣相守り町方も禁酒被仰

付被下候様仕度昨年方大年寄申出郡代所へ懸合置候所今以調不行届返答も無之尚又此間大年寄共方催促申出并今般御条目相改候付

其段御用番一学殿へ相伺候処今暫見合候様被仰出候

一二丁目喧嘩内濟承り届左之通可申付旨尚又今日相伺候何之通被仰出小頭又六部屋日附新治出番左十郎差出し大年寄宅ニおゐて左

之通取計

内濟承り届候付

二丁目

手錠差免候

喧嘩一件之もの共呼出候

先達而致離縁候養子

二丁目綿屋藤吉

物兵衛儀内々ニ而引戻し家来ニ致差置不埒之ニ候依之追込申付候但日数三日

右同断ニ付急度叱

一人組合

〔同町年寄

古川屋宗助義親類とハ

西今町

乍申内々ニ而帳外もの差置

今田屋伊助

其上宗助義雲州もの引付内々ニ而差置

重々不埒之至ニ候依之追込申付候但日数三日

早而雲州もの惠十郎義早々立去り可申付候

并宗助義も差出可申候

右同断ニ付急度叱

右組合年寄

右取計相済候段御用番并大目附へ手紙ニ而相届候

一龍野表へ差出候町人共山田新三郎召連罷帰無滞相済左之通御裁許

書写并作兵衛清大夫返書差越候

作州中北上村ニ而捕候無宿幸助盗いたし候一件夫々領主家来為

立会吟味詰被申聞候処全承知候戸田采女正殿依御差図御仕置之

儀左ニ申達候

松平仙千代領分作州津山安岡町

菱屋太助後家かね

右之者義盜物之由ハ不存候得共中北下村丹藏と申偽り参候者方

質ニ取候依類ハ中村上村幸吉方紛失之品ニ候処出所も不相糺殊

証人無之身元も不存もの方質ニ取置候之段不埒ニ候得共右者夫

太助存生之内取計候義ニ付右品取上咎之不及沙駄（つぐ）

一無宿幸助義先達而盗いたし候科ニよつて入墨重敲ニ相成其後も

盗不相止修驗宝仙宅入口之戸建寄有之ヲ引明内へ入衣類蒲団等

盜取候段不届ニ付存生ニ候得者死罪可申付ものニ候段一件之も

のへ可申聞

一穢多長松長之助義盜もの之由ハ不存候共無宿幸助持参候衣類蒲

団等者修驗宝仙方ニ而幸助盜取候品之処得与出所も不相糺貫受

候段不埒ニ付右品取上兩人共急度叱置可申者ニ候得共穢多之義

ニ付右准相当之咎可申付旨申渡穢多頭へ引渡可申処長松長之助

とも病死いたす問咎之趣穢多頭へ申渡一件之もの共へも可申聞

一右之外吟味ニ付呼出候者共ハ一同咎之不及沙駄（つぐ）

右之通三浦志摩守内藤山城守大久保出羽守松平仙千代家来為立

会申渡取上候盜物之夫々被盜主へ相渡一同証文取之可被差出候

御仕置除日書付別紙相達候以上

辰八月廿日

曲淵甲斐守印

脇坂淡路守殿

御預り所役人

右御裁許書写并返書御用番中へ差出右一件無滞相済何れも引取候

段手紙ニ而相届大目附へも相届候

一玉置源五兵衛伴六郎左衛門義京都烏丸通り六角下ル二文字屋九兵

衛方へ三十日計之逗留ニ而明十四日出立之願書差出承届ル（十月十日）

一徳守宮祭礼ニ付例年之通小頭方蠟燭五挺受取手形差出大目附中上

印取立会目附へ相渡候

一牢舍人盜賊忠藏療治中村易安へ申付候段大年寄申出ル

九月十四日 曇

一左之通先触到来写大年寄方差出

覚

御証文

一馬 式定

右者就御用明十一日四ツ半時大坂出立作州西々条郡下原村宗枝

村両村之内江罷越候間別紙御証文写之通心得書面之馬無遅滞差

出賃錢請取之繼立止宿渡船川越等之場所差支無之様取計此触

早々継送り前書両村之内江可被相届候以上

論所地改手代

九月十日

村上次郎右衛門
佐藤平八郎

神崎より 十一日泊西宮 十二日泊明石 十三日泊姫路

十四日泊三ヶ月 十五日泊勝間田

作州西々条郡 大原村 宗枝村迄

右宿々村々問屋手寄名主中

別紙ニ

馬式疋

右者論所地改手代佐藤平八郎村上次郎右衛門備前備中美作国へ
差遣候間道中往返并ニ彼地御用中共書面之馬差出シ賃錢請取之
無滞可継送もの也

甲斐

肥前

右宿々村々問屋年寄名主

先例ハ本書之通ニ候得共寛政四子九月御朱印先触ニ者
同心組先弘御証文先触ニ者同心組見江隠れ跡を押行候
様ニ伺濟ニ付森原村山論之先格ハ難用筈也以後心得之
為記置候

別ニ封之俣

書付 佐藤平八郎

御用 村上次郎右衛門

作州西々条郡大原村宗枝村

右先触亥刻差出候付翌十五日御用番中へ手紙ニ而差出し大目附

江も其段手紙ニ而申達尤先例相調候処寛延四年八月十七日御

領分上森原村山論改役人中村丈右衛門野村喜三八被罷越其節町分
掃除申付町々保頭老人先弘申付候ニ付其段一学殿へ罷越相伺候処
宜取計候様被申聞大目附右近江も於同御宅其段申達置其旨大年寄

へ申付候

九月十五日 快晴

一生野御代官今夕櫛村止宿ニ而明十六日御領分野村へ被移高野筋夫

方御城下通行備中へ被相越候段郡代所方通用有之先格之通御先弘

兩人差出候様小頭又六へ申付ル尤大年寄江も申達候

一龍野へ差遣候同心組罷帰候ニ付加入御使組荒木其助今日より差戻

候段手紙ニ而大目附へ申達候

一宗道大明神宵祭ニ付例年之通鍛冶町挑灯差出候段大年寄方申出承

り置

一御奏者番伊達与吉郎方明十六日幾野御代官通行之砌東大番所ニ而

御使者被差出候間右御使者立宿可申付旨申来大年寄へ申付候然ル

所飯塚兵八被参案内有之立宿名面被相尋右宿方御案内可申旨可申

付段及挨拶尚又大年寄へ申達候福中屋太助へ申付候

一但州生野御代官稲垣藤四郎殿先触写左之通差出

覚

一人足 拾六人

内四人 乗物沓挺 式人具足 三人長持沓棹

老人合羽駕籠^{老荷} 老人竹馬沓荷 四人分持

老人步竿持 一本馬 式疋

右者稲垣藤四郎義当田方検見就御用明十六日朝六ツ時櫛村出立
備中国阿賀郡山奥村江被相越候条書面之人馬御定之賃錢請取之
無遅滞差出可被継立候尤渡船川越之場所前宿方及通達差支無之
様可被取計候此先触早々順達於留村可被相返候以上

九月十五日

稻垣藤四郎手代

矢代為右衛門

中沢良右衛門

津山 泊り坪井 久世 勝山 小坂部 山奥

右宿々問屋年寄

右先觸及深更差出候ニ付翌十六日御用番へ手紙ニ差出大目附江
も右之段手紙ニ申達候

九月十六日 曇 雨

一二丁目綿屋藤吉西今町今田屋伊助追込昨日迄ニ三日ニ相成候間
今朝大年寄於宅追込差免候段申渡候段届出其段御用番并大目附中
へ手紙ニ申達候

一論所地改御役人問屋へ来自分共義御用ニ罷通候何方ニ御馳
走道案内等も有之候処殊ニ当所之御用ニ罷通候所案内之ものも
無之烏散成もの杖を突見てハ這入ノ致候而已ニ甚御龜抹成義
ニ候致如何候事哉返答可承坏と申趣ニ付大年寄差函ニ問屋一人
筋違橋迄見送り候様ニ申付遣候段大年寄申出候ニ付何れノ之町
ニ保頭先を不払候哉急ニ相札申出候様ニ申付候御代官稻垣藤
四郎殿先弘三船孫八江原文蔵無滞通行相濟例之通直挨拶も有之尚
又駕籠脇方も挨拶も有之候段届出右兩人申候者藤四郎殿長持と論
所改役人と一所ニ相成遠見之者御見へ被成候段申候ニ付罷出候所
藤四郎殿御長持ハ有之候得共道具も不見へ不審ニ付相尋候所論所
改役人と申候故いか様小半町計も先を払候得共論所御役人故直ニ
引退引続稻垣藤四郎殿御先弘相勤申候由申間候定ニケ様成義方六
ケ敷申候哉と存候所無程問屋罷歸リ西寺町迄参候所近比入念之義

是方ハ馬を先へ立差遣候故案内も不入殊ニ案内之者も見へ候間平

ニ引取候様挨拶ニ付引取罷歸候由問屋目附喜左衛門方申出左候得者

保頭先弘不致町も有之候哉右札申出候上可申達相待居候所無程源

五兵衛罷出東新町西新町保頭ハ留主ニ急ニ相知不申候得共其外

ハ相札候所勝間田町保頭林田町へ送り届先ハ払来候へ共是ニ而者

無之哉之旨申候ニ付林田町保頭先を不払右ニ准継送り無之故橋本

町保頭も先を不払材木町伏見町遠見之者差出置候所藤四郎殿同

勢と見まかい不罷歸殊ニ先町方継送リも無之故右二町保頭不先弘

其余町ハ不残先弘相勤候由申出依之御用番一学殿御宅へ罷越右之

段委細ニ申達右之趣ニ付捨置候義も難致然共御役人御挨拶ニ而者

至ニ重く札候間先内分ニ問屋差遣幾重ニ断仕候様ニ仕可然之

旨相伺候所其通宜取計候様御差函ニ付其段源五兵衛へ得と申合候

右ニ付孫八文蔵も小頭を以差扣伺出先其俵承リ置候御用番中方も

町年寄保頭甚不念之段被申問候ニ付其段御咎之義ハ相札候上追

可相伺旨并組之者之義も追而可伺旨申達置候

一御代官稻垣藤四郎殿并論所地改役人村上次郎右衛門佐藤平八郎町

分通行相濟候段手紙ニ大目附へ相届并論所地改御役人先弘間違

之義伺候上問屋方及断候様ニ申付置候委細之義者帳面可申達候旨

端書ニ申達置候

九月十七日 雨

一論所地改役人断ニ参候人馬問屋佐右衛門夜前罷歸候由今朝大年
寄方申出候者佐右衛門義下原村へ罷越御歎之義ニ罷越候間御逢
被下候様申込候無程兩人共罷出逢候今昼御通行之砌町々御先

私被仰付有之候処間違心得違之義も有之御先私罷出町も有之甚
以恐入候義右町々役人共早速問屋場迄追々御断罷出候処最早御
立被成不能其義甚恐入罷在万一御沙駄被下候様之義相成候而
右町々甚難義仕候間何卒私方御断申上内分而御聞濟被下候様相

論所地改

相成候間以來ハ御役人者不及日雇之者而も睨と案内之者被差
出候様ニ致度此段ハ其元心得之為咄置候由被申聞候趣申出此段も
一学殿へ具ニ申達愚意者以來御領分之論所改ニ候得者同心組先
八東西共ニ附添參候様被仰付候而も可然哉之旨相伺候処何れ御普
代家とハ違候事故夫ニも及間敷以來無間違保頭先私候而可然旨御

願候ニ付罷越候段種々弁を尽申述候所全躰穩成躰而遠方入念太
義之事ニ候今昼も可申達所茂無之事故其元へ申達候得共絶而可申

ニ而も無之此方而者夫切ニ致シ可差置存寄ニ有之候間願之趣承

リ届候間其町々之もの共致安堵候様ニ可申達旨返答有之候ニ付左
右衛門義厚札申述左候ハ、私一己切而役頭江も申聞間敷旨申候

所決而不及沙駄候間其方切ニ取計候様被申聞候旨大年寄申出右ニ

付林田町橋本町材木町伏見町右四町保頭追込年寄叱并組之者も以
來入念候様可申付伺書相認猶又下札ニ致し内分而相濟候義表立

咎申付候而も如何ニも有之候間一向今般者不存分而相濟大年寄
場合ニ以來之処急度可申付置哉と兩様ニ相伺候処附札之通私場

合切而以來急度申付置可然旨御用番一学殿御差圖ニ付乍序大目
附右近江も罷越右之段相咄置大年寄へ其旨申付以來右様之節八年

寄一人罷出居若又保頭間ニ不合節ハ前町之保頭代リ之有之迄先私
相勤候様可申付旨申達候同心組孫八文藏江も不及其義候間以來別

而入念候様ニ可申付旨小頭又六へ申付候

一右論所役人別ニ問屋佐右衛門へ被相咄候由ニ拙者共御証文先触
ニ罷通候得者何方ニも御案内有之既姫路踏ニも御先私足輕

出候爰元ニも御足輕先を私懸候処名面承リ引取候如何之事哉と
存候何れも不案内之ものニ候得者道案内無之而御用之差支ニも

差図ニ候右之始末も大目附右近江も咄置候

一院庄川兼田川渡船留候段九ツ前時郡代所方申來大年寄へ申達

一生野御代官稻垣藤四郎殿手代中沢良右衛門方口留番所ニ入用ニ付
十月中ノ錢相場書取ニ可差越候間認置呉候様申來承知之旨及返書

候

一錢六拾九箇川下裏印銀札場奉行方申來取計候

一二階町河本屋忠吉所持之他国受酒株元魚町福津や三吉へ貸置候処
未限月來不申候得共双方勝手ニ付取戻申度願書差出承り届ル

一安岡町古川屋太兵衛借屋住車屋利助夫婦并悴五三郎夫婦并悴元吉
以上家内五人久米北条郡錦織村伝左衛門方へ差遣置候所此度罷歸

候段届書差出承り置

一安岡町古川屋太兵衛借屋住車屋利助家内五人此度御領分久米南条
郡中嶋村安兵衛方へ引越度人別除願下方引合相濟候段申出承り届

候

一東新町北側ニ種屋伊助所持之家屋敷表口三間裏行拾七間但五歩
役東隣ハ高原屋甚七西隣ハ則種屋伊助居宅右家屋敷同人家内妹算

惠三郎へ讓渡度願書差出承り届ル

十月五日讀証文差出

一 東新町美濃屋利兵衛親庄助同人弟武兵衛同人妹右三人此度林田村

源藏方へ引越度願下方引合相濟候段承り届ル

一 牢舎人周藏代リ医願出大年寄へ申達候

九月十八日 快晴

一 御用日登城

一 大久保加賀守殿領分当国久米北条郡下打穴野中村忠藏妹義二階町

嶋屋藤吉借屋住新屋宗八養女ニ引受度人別入願御用番御聞濟ニ付

大目附へ差出置御聞届申達候 同廿三日住宅証文差出

一 院庄川兼田川渡船相始候段四時郡代所方申来大年寄へ申達候

一 德守宮祭礼ニ付町々挑灯例歳之通差出候段大年寄申出承り置 并廿

三日廿五日秋葉関守祭礼ニ付西今町例歳之通挑灯差出候段申出承

り置

一 右同断ニ付例歳之通八町関貫開立番付置候段大年寄届出御用番 并

大目附へ手紙ニ 而 相届候

一 德守宮祭礼宵祭ニ付警固又六新治孫八嘉七栄治罷出候段小頭申出

候尤御徒目附河村市兵衛下目附土井弥十郎出役

一 顯徳院様御三回御忌ニ付御咎之もの寺院方歎書出例之通考付差出

候様大目附方被申渡候

一 播州網干塩屋伊兵衛一人例歳之通塩物荒物卸売ニ来候段中之町津

多屋兵助宿切手差出 翌正月廿二日燭

一 播州網干余陸屋忠七一人例歳之通八百屋物卸売ニ来候段右同人宿

切手差出右同断 翌三月十二日燭ル

一 播州網干平松屋惣九一人例歳之通小間物晒蠟壳ニ来候段中之町小

屋屋与三右衛門宿切手差出右同断

一 播州網干余陸屋武兵衛一人例歳之通八百屋物纏節壳ニ来候段右同

人宿切手差出右同断

一 信州木曾(マヅ)嶺磨郡敷原宿古屋善吉一人例歳之通木櫛卸売来候段右同

人宿切手差出候 十二月三日燭ル

一 播州網干丸尾屋六三一人例歳候通荒物塩物壳ニ来候段右同人宿切

手差出

一 論所地改役人先触写御用番中被相戻直ニ大目附へ差出候

九月十九日 旱天少雨 快晴

一 郡代所方昨日二階町新吉借屋住忠助と申もの杉山御留山ニ 而 茸盜

取候ニ付右組頭河内屋安兵衛へ預ケ置候段届書相廻り早々吟味可

遂所今日 著 德守宮祭礼ニ付警固差出無人ニ付右忠助義急度組合預

ケ申付可置旨大年寄へ申付候

一 德守宮祭礼ニ付警固又六孫八佐十郎百藏栄治差出候所無別条引取

候段届出御用番 并 大目附へ手紙ニ 而 相届候尤御徒目附山田新三郎

下目附安井友治但例歳之通弁当差遣候

九月廿日 曇

一 昨日郡代所方申来候豊屋喜左衛門家守二階町新吉借屋住忠助呼出

立合例之通 而 遂吟味候所杉山御留山と申義ハ不存薪取ニ木之枝

拾ニ参候所松茸有之廿四本計取候由申之口書印形取候

九月廿一日 快晴

九月廿二日 曇

一 いなはやおれんと申もの国元へ罷帰リ候由大坂正山寺寺手形持途

中病氣之由林田町を送り來候由大年寄伺出候處未郡代所方通用も無之殊ニ何方之送り手形も無之事故送り返し候様ニ申付置郡代所^江其趣及通用

一御藏米^新六拾壹匁町米五拾七匁

一京都烏丸通六角下ル町二文字屋九兵衛手代宗兵衛吉人例年之通來候段京町海老屋長右衛門宿切手差出^{翌二月九日拂ル}

九月廿三日 曇

一御用日例刻出仕今日ハ一學殿御吉人御出仕也

一備前邑久郡五明村百性德兵衛弟藤九郎義茅町越屋元治養子ニ引受度人別人願御用番御聞濟ニ付大目附へ差出置御聞届大年寄へ申達候

一河原町岡野屋伝右衛門後家借屋住源八後家義老年ニ罷成渡世出來

兼候ニ付親類備前國磐梨郡田原下村六三郎方へ引越度人別除願右

同断取付濟

一松平上総介殿領分備前國児嶋郡水口村友右衛門悴音吉義西今町児

嶋屋孫三郎役介ニ引受度人別人願右同断濟^{十月六日住宅 証文差出}

一伯州倉吉西町丹後屋世平悴藤右衛門夫婦二人西今町古金屋伊兵衛

役介ニ引受度人別人願右同断取付濟^{十月六日住宅 証文差出}

一桶屋町内海泰洲借屋住和氣屋十兵衛^并悴長之助右二人当五月出奔

仕百日尋申候所行衛不相知最早百日余ニ罷成候間人別除願差出右

同断取付濟

一新魚町御藏元姫路屋惠三郎義重病ニ取結罷在御廻米御用差懸り候間実弟角屋利左衛門引寄病氣全快迄後見為仕度願書差出勘定奉行

上原彦藏へ及対談候処右之通^ニ而御用向差支無之旨ニ付其段御用

所へ申達勘定奉行^江も及相談候処差支無之父彦兵衛も数年病氣之所内分^ニ而悴相勤濟居候義も有之候間承り届置候段及御噂申候旨御用番^江相届大目附へも右同様相届候尤願書不持出候

一杉山松茸盗人二階町忠助御裁許伺差出置候

一桶屋町広瀬屋長八悴庄藏義松山才三郎と相改古市主殿^江出入奉公為仕度人別除願大年寄差出承り届ル

一西新町奈良屋源兵衛後家娘とよ義東南条郡大田村勘兵衛嫁ニ差遣度人別除願下方引合相濟候段申出承り届

一伏見町大坂屋善吉義去ル六月七日四國遍路家内四人罷出候處未罷歸候ニ付三十日之追願書差出承り届

一二階町河本屋忠吉所持之他國諸酒株当辰九月^ハ午九月迄三ヶ年之間新魚町灘屋弥太郎借受商売仕度願承り届ル

九月廿四日 快晴

一坪井役人草野六左衛門瀧口儀右衛門方飛脚差越六左衛門義致交代來秋迄義右衛門相詰候案内申來及相答

一天神宮宵祭ニ付河原町挑灯差出候段大年寄^ハ届出承置

九月廿五日 快晴

一自分義今日三浦十郎左衛門相頼置野辺へ罷出候

一撰州大坂嶋之内大宝町万屋善次郎一人例年之通革足袋すいのう金ともし壳ニ罷越候段勝間田町山形屋喜兵衛宿切手差出

一播州加藤郡三木町形屋与兵衛手代藤兵衛吉人例年之通紺屋形壳ニ來候段勝間町山形屋喜兵衛宿切手差出

九月廿六日 快晴

一 牢舎人^忠藏病氣平愈休藥仕候段牢番^并大年寄^方届出候

一出雲大社中官西村神太夫上下四人例年之通來候段西新町山家屋利

右衛門宿切手差出

一二階町三保屋十右衛門家守松本屋喜助借屋住杵築屋吉十郎妻当四

月懷妊相届候段去ル廿四日男子出産出生候処八ヶ月計之小兒^ニ相

見へ月取間違之段届書差出例之通御叱宜取計候様及差圖

一 高石垣番賃大年寄^方差出候

九月廿七日 早朝少雨 曇

九月廿八日 雨

一 御用日出仕今日ハ申達候御用向無之

一 杉山松茸盜取候忠助御裁許伺置候処思召被仰出大目附中より被相

戻候

九月廿九日 雨

九月晦日 時雨

一番賃銀例月之通相渡ス

一 杉山松茸盜人二階町忠助御裁許手錠追込十日と認かへ大目附佐々

木右近へ差出尤例書も差添出置候

一 物頭風廻り之節町方牛馬兩側^ニ擊有之往來難成^ニ付片側擊^ニハ相

成申間數哉之旨伊藤主水^方内談有之其趣大年寄源五兵衛へ考申達

候所町方年寄共へ内々「」相談候所平日片側擊と相定候義ハ難相

成候得共風廻り之当日計廻り相濟候迄片側^ニ擊候様^ニ者随分可相

成右^ニ付牛馬不引込相濟候得^者却^而勝手^ニも相成候段申出候^ニ付

以來其通申付候様大年寄へ申渡伊藤主水^江も以來右之通可申付候
間風廻り度々為御知有之候様^ニ懸合置候事

一 林田町三升屋勘吉借屋住作人多助義心願^ニ付甲州身延山へ百五十

日之逗留^ニ而十月朔日出立仕度願書差出承り届ル

一 福渡町南側^ニ而小文字屋忠左衛門家屋敷表口式間裏行拾七間但半

役也西隣ハ疊屋甚助東隣ハ同居人住宅右家屋敷代銀札百貳拾匁^ニ相

極橋本町松田屋佐助へ売渡度願書差出承り届^{十月五日先券状差出}

一 福渡町南側^ニ而板屋幸助家屋敷表口四間裏行拾七間但壹軒役也西

隣ハ作人岩之助東隣ハ但馬屋忠左衛門也右家屋敷川口多吉取次^ニ

而五百匁之質入^ニ仕度願書差出承り届尤即日本証文差出候

一 大目附廻状到來於江戸表松平山城守様御隠居澄月様御病氣之処去

ル十七日御死去被成候^ニ付今晦日^方明後二日迄三日之内相慎可申

旨御觸書到來写取町方^并組中へ差出候

十月 小

月番

御家老 安藤丹後殿

御年寄 小須賀一学殿

大目附 松岡治部助

大年寄 藏合孫左衛門

十月朔^己 西旦 快晴

一 牢舎人周藏療治二廻り相濟代之醫師牢番方願出候ニ付其段大年寄
へ申付^候処尚又原田春桂へ申付候段申出ル

十月二日 曇

一 大神楽岡田忠太夫義例歳之通橋本町武藏屋甚藏方へ罷越御城下打
廻り候段大年寄届出大目附へ手紙ニ而相届候

一 牢舎扶持五俵之内貸証文差出奥印書取計之尤三斗当月へ持越ニ相
成候但仕切証文も差出候

一 御藏奉行中の方来ル十二日御藏米渡候廻状到来小頭^江申達ス

一 前訓講釈五日方相始候段大年寄申出候

十月三日 快晴

一 御用日登城申達候御用向無之

一 御近領へ相廻候相場書挾板書付御作事奉行へ相廻し青繩兩紙差札
書付大目附上印取大納戸へ相渡受取

一 大目附佐々木右近方此間差出置候ニ階町忠助御裁許伺書後ニ差出
候手錠追込十日之伺書之通ニ而可然間御用番^江差出候様ニ被申聞
被差戻候^{（本物）}ニ付直ニ御用番中へ差出候処後刻大目附方過料追込相

當之ものと御用番中被仰出員数日数等ハ対談之上宜取計候様被仰
出候旨被申聞依之松岡治部助と遂熟談過料五百文追込十日と相極
後刻取計之上可相届旨申置小頭部屋目附差出大年寄宅ニおゐて左

之通申付ル

一 二階町豊屋喜左衛門家守新吉借屋住
杉山御留場ニ而松茸取候ニ付
過料五百文為差出追込申付候 但日数^五十日
右申渡相濟候段御用番^并大目附へ手紙ニ而相届ル

忠助

一 西今町北側^ニ而角屋吉兵衛家屋敷表口三間裏行拾五間但五步役

西隣ハ浅嶋屋茂兵衛東ハ橋詰也右之家屋敷静虎屋利兵衛取次^ニ而

五百匁之質物ニ書入来巳ノ九月切^ニ而一ヶ月老歩半利足^ニ而借り

受度願書大年寄差出承り届ル^{同十六日本証文差出米正月調戻七相濟}

一 御代官近藤宗^{（左）}左衛門斎藤隼太町作年貢催促人差出候間不埒之
ものも有之候得^者手錠打候段断例年之通手紙来及相答

十月四日 曇

一 御登米今日初積出候段姫路屋利左衛門届出候

一 造酒滅石御免被成候間酒榎封印解相渡候様小頭部屋目附差出今明
日両日ニ取計候

十月五日 晴

一 二階町きつき屋吉十郎妻出産月取間違之御叱申渡候段大年寄届出
候

一 杉山松茸盗人二階町忠助追込五日^ニ而定候間六日目差免可申最早
御用番中へ伺候^者不及候旨松岡治部助方手紙^ニ而申来候

一 酒榎封印解相渡候段小頭又六部屋目附孫八届出候

十月六日 快晴

一 左之もの共坪井町ちきり屋勘兵衛取持之南新座町畑ニ作り候ねふ
かを盗取目明遂吟味候処及白状候由目明孫兵衛申出候段小頭又六
申出候ニ付番文藏新治差向組合預ケ申付置候

おとし宿

盗取候もの 新職人町髪結藤吉
船頭町田原屋伊那藏

同 二階町髪結 七兵衛
同 福渡町大坂屋久兵衛

十月七日 曇 時雨

一 坪井町南側^ニ 而 河原屋治助家屋敷表口四間裏行拾七間但老軒役也
東隣ハ小嶋屋和兵衛西隣ハ浜屋源右衛門右家屋敷數町高嶋屋鶴治
取次^ニ 而 質物^ニ 書入当九月方来已之十月迄一ヶ月壹歩半之利足^ニ

而 銀札五百匁借用仕度願書差出承り届ル^{同九日本証文差出}

一 中之町藁屋藤吉借屋住市場屋新八願書差出親類藤助と申もの勝北
郡沢村^ニ 而 病氣付候間当分引受養生為仕度願書承り届ル

一 目明孫兵衛義龍野役所へ差出候入用六拾五匁五分八厘八毛受取証
文小手形添差出奥印書取計之

十月八日 曇

一 御用日登城三浦十郎左衛門当病断申来大目附へ相届ケ^并 御用向相
弁候

一 備前津高郡品田村百性唐吉姉義上紺屋町桶屋佐七妻^ニ 引受度人別
入願御用番中御聞濟^ニ 付大目附へ差出置御聞届申達候<sup>同十七日住宅
証文差出</sup>

一 材木町万屋与惣兵衛家守清兵衛借屋住勇八夫婦悴久米吉右家内三
人当五月不斗罷出不罷帰百日尋被仰付相尋候得共今以行衛相知不
申最早百日余^ニ 相成候間人別差除度願書差出右同断取計濟

一 二階町忠助追込昨日迄^ニ 而 五日^ニ 相成候間今朝差免其段御用番^并
大目附へ出仕之上相届候

十月九日 快晴

十月十日 快晴

一 大神楽岡田忠太夫義昨日罷帰候段大年寄方届出大目附へ手紙^ニ 而
相届候

一 前訓講尺今日迄^ニ 而 相濟候旨豊屋喜左衛門出席帳持參相届候

一 奈良今井町岡嶋忠兵衛悴庄右衛門一人例年之通筆^并 刀脇差新鞘完
来候段京町美濃屋平五郎宿切手差出^{翌二月九日届ル}

十月十一日 快晴

一 御蔵米六拾四匁五分町米六拾匁五分

十月十二日 快晴

一 二階町作人忠助過料錢五百文大年寄差出候

一 備前邑久郡牛窓大工惣右衛門佐吉右二人当十二月迄差置度願書界
町伊右衛門差出候段大年寄差出し承り届ル^{同十二月廿八日届ル}

一 京町田原屋伊兵衛義三十六日計之逗留^ニ 而 姫路表へ八月十八日罷
越候処用事不相濟候^ニ 付今廿日計逗留之追願差出承り届候

一 戸川町吉田屋伝藏娘義八ヶ年以前林田村伊助嫁^ニ 差遣候所今度離
縁仕罷帰り候^ニ 付人別入願書下方引合相濟候段大年寄申出承り届

十月十三日 曇 雨

一 御用日登城

一 坪井町河原屋治助弟常太郎義撰州大坂淀屋橋南詰綿屋義兵衛養子
^ニ 差出度人別除願御用番御聞濟^ニ 付大目附へ差出置御聞届申達候

一 二階町三保屋十右衛門家守喜助借屋住嶋本屋乙治義来春晴天十五
日南京操芝居興行仕度今年方懸合置候得^者 勝手宜候^ニ 付願書差出

候段大年寄方差出候^ニ 付兼^而 郡代寺取次と談置候歌舞妓芝居ハ多
博奕相好至^而 風義不宜婦人女子之風義も乱候^ニ 付三四度之内操^并
地祭芝居^ニ 限り申付度旨弁書添御用番中へ差出置候

一 中之町作人左太郎義子共三人之所尚又当五月双子致出生「八木

三俵被下置候得共甚困窮者之処致双子養育奇特之義ニ付三歳位迄
老人扶持位も被下候様仕度弁書先例無之ニ付大目附へ遂内談御用
番中へ於別席差出置候

一馬持共宿馬養生場之わく鍛冶場ニ致度旨先日願書差出大目附へ遂
内談候処格別存寄と申程之義ニ而者無之候得共異成もの、様ニ被
申聞人家内或ハ問屋場裏杯ニ建候ハ、沙駄(マツ)なしニ可相濟哉之差含
ニ相聞候付其段大年寄へ申達候右ニ付穿鑿候得者鍛冶場川戸御藏
南之方河原ハ町奉行持之地面ニ而既町役等相勤居候由絵図面ニも
有之尚又先々方町作廻々致来候地面絵図大年寄差出郡代所江も其
旨懸合置以後支配境相札置可申旨懸合置候

一公儀御触兩通大目附中方到来大意左之通

朱并朱墨仲買被仰付候御触

銅山稼之者共銅出場の御定御触

右兩通写取町方へ差出本書ハ郡代所へ順達ス

一二階町忠助杉山ニ而松茸取候口書今一応差出候様大目附治部助方

申来差出候

一右同人松茸盗取入候打違郡代所方昨日相廻リ大年寄へ相渡候

一妙願寺地内借屋住その同人娘さよ右二人戸川町赤崎屋文四郎引受

度人別人願差出寺社取次細江武助へ懸合之上承り届ル

一盜賊喜兵衛義御裁許先達而相伺候処御存知寄ニ不相叶刑ニ極居候
得共今般一統御赦之御含も有之候得者被一人御赦を漏候も如何ニ

付御赦之義相同度松岡治部助へ遂内談候処其旨一学殿へ申達候処

一統御赦之時分其旨相伺可然旨被申聞候由被申聞候

一去ル六日記置候坪井町ちきりやねふか盜候もの共組合預ケ申付置
候処内濟仕候ニ付願下ケ申出候間被差免被下候様大年寄絶而申出
候ニ付左候ハ、大年寄場合ニ而如何様とも宜以後之メリニ相成候
様取計可申旨申達候処左候ハ、明朝預ケ差免可申旨申出承り届ル

十月十四日 曇 少雨

十月十五日 曇

一御藏米六拾五匁五分町米六拾匁五分

一此間南新座町畑荒之義ニ付近辺之畑ニ不当様ニ大年寄場合ニ而演
達仕度旨大年寄申出宜取計候様ニ申達候

一上紺屋町西横町東側ニ而坪井町小倉屋喜助持家表口三間裏行六間

但半役北隣ハ船頭町今津屋平藏持家南隣ハ西今町坪屋藤十郎持家
也右家屋敷代銀札百五拾匁ニ相極坪井町北浜屋佐七郎へ売渡候願

書承り届ル同廿日光券
扶差出

一新魚町姫路屋富治借屋家守三沢屋松助義三ヶ年之間備前佐伯紙屋
万兵衛引受ニ而同所ニ出職仕度願差出承り届ル

十月十六日 雨

一郡代所方西一ノ宮村兵治金兵衛甚七惣八右四人入牢申来手形差遣
出番佐十郎立合差出

一牢舍人例年之通御仕着願出六人分相調小頭方相渡候右代六ツニ而

七拾九匁五分也

一久世御代官早川八郎左衛門殿手代貝塚五郎藏内藤大右衛門方例歳
之通来月初旬米相場書取ニ可差越并昨十五日一日之米三段相場此

人ニ差越呉候様頼来飛脚之者為待置相場所大年寄へ申付候処無程

出来差出奥印書取計之先格之通及返書但上米六拾壹匁五分中米五拾八匁五分下米五拾五匁五分也

十月十七日 雨

一 林田町高間屋和助と申者押入上村与作と申者方御藏_ニ而_レ不納正米壹俵買取候_ニ付右正米不取散候様_ニ申付候様_ニ郡代三浦十郎左衛門方申来候_ニ付右高間屋和助呼出一卜通り相札口書取置組合預ケ申付右米不取散候様_ニ可申付旨大年寄へ申付ル

一 牢舍人周藏義未全快と申程_ニも無之候得共余程快気_ニ付最早休薬可然旨原田春桂_并牢番方申出其通申付ル

一 御藏米六拾七匁町米六拾三匁

一 札元山本三郎左衛門母方之叔母播州佐用郡公保村広瀬常右衛門妻死去仕候_ニ付定式之通十日之忌服引込候段大年寄方届出御用番_并大目附へ手紙_ニ而_レ相届候

一 林田町高間屋和助呼出相札候処和助_ニ而_レ者無之同人倅茂吉_ニ而_レ候

付茂吉呼出相札候処其趣相違無之尤御藏_ニ而_レ不納米故壳払候様御役人申被仰付候由米主与作申聞候付相調候由申之口書印形取大年寄差出候明日郡代所へ可相廻事

十月十八日 快晴

一 御用日登城

一 稲垣藤四郎殿支配所当国吉野郡田殿村惣十郎弟弥吉老人中之町川口屋与市郎借屋住人甚六引受度人別人願御用番御聞濟_ニ付大目附へ差出置御聞届之旨大年寄へ申達候同廿七日住宅証文差出

一 玉置源五兵衛義御堀端壁修覆_ニ付御堀へ足代下し度願書大目附へ

差出御聞濟之段申達候

一 馬持共二季之養生わく之義問屋場裏_ニ拵候_而可然旨申達置候所夫

_ニ而_レ随分故障無御座旨申出候付其旨内々大目附へ及噂置問屋場裏_ニ拵候様_ニ大年寄_江今日申達候

一 林田町高間屋茂吉口書郡代所へ相廻候

一 御領分林田上之町喜兵衛借屋_ニ居候惣治老人東新町種屋伊助引受度人別人願下方引合相濟候段大年寄申出承り届ル

一 御藏米六拾八匁町米六拾四匁

十月十九日 快晴

一番賃銀内貸証文差出残銀百四拾壹匁六分広治持参受取

十月廿日 曇

一 御藏米六拾九匁町米六拾五匁

一 三町目佐和屋孫四郎義病身_ニ付質屋頭_并酒改役御免相願差留置候所弥病身_ニ而_レ難相勤候_ニ付兩役免願書差出実ハ不勝手_ニ相成今般無人_ニ相成勤りかたく無余義趣之旨_ニ付跡役ハ西今町坪屋藤十郎へ申付候_而可然之旨大年寄申出候付其旨承り届ケ則今日申付候

一 美濃職人町年寄役鍛冶町年寄兩人_ニ而_レ兼帯相勤居候所元来一人年寄候所兩人_ニ而_レ者費も有之殊_ニ市郎右衛門義不受_ニ付宗兵衛一人_ニ致呉候様申出候得共市郎右衛門老人差免候義も難致候間兩人共兼帯差免元魚町年寄藤野屋多吉へ兼帯申付度候旨大年寄伺出候_ニ付其旨承り届ケ宜取計候様_ニ申付ル

一 三町目平野屋広藏義元来佐和屋孫四郎所持之造酒株寛政四年方酉年迄十ヶ年之間平野屋広藏借り受商売仕候処双方勝手_ニ付当辰歳

方来ル丑歳迄十ヶ年之間福永屋幸藏引受商売為仕度尤名前之義
矢張平野屋広藏と可仕旨願書差出し承届候尤右佐和屋孫四郎造酒
株を矢張平野屋広藏と致候義ハ如何之訳哉と相尋候所先年公儀へ
御届有之候節平野屋借り受居則平野屋広藏と御届有之候間其後も
矢張平野屋広藏名前ニ致置候様先役守助差図之旨大年寄申出候間
其儀ニ致置候併讓受之訳さへ立候得^著 本名佐和屋孫四郎名目ニ致
改名候^而も不苦義也^{戊八月廿六日取戻}

一元魚町福津屋三吉妻六ヶ月ニ^而去ル十七日致出産小児も可也ニ育
候由月取間違御叱来ル廿三日可申達之旨大年寄伺出宜取計候様及
差図候

一宿賄之牢舎人は迄夏冬着替入候義一向不届出候間以來ハ不何等寄
引替入候節ハ伺出指図之上取計候様ニ牢番共へ可申付旨又六へ申
渡尤又六方書付認相渡候筈也

一大目附中呼^ニ来罷越候処一昨十八日下横野村十右衛門方へ佐々
木右近下屋敷長屋もの為八と申もの盗ニ這入折節下紺屋町商人龜
吉と申もの都合七召捕候由右盗人為八義郡代所方受取逐吟味候様
被申聞致承知罷歸り郡代所へ夜中之義ニ候間明朝五ツ時可受取候
間被差出候様申達^并 右之刻受人被差出候様ニ佐々木右近へ手紙ニ
^而 申遣小頭^江も右手配致候様ニ申付ル

一銀札場奉行江口清助方錢六拾箇川下し切手差越例之通與書取計之
十月廿一日 曇

一佐々木右近下屋敷長屋者為八今五ツ時郡代所引渡し有之小頭又六
部屋目附新治出番孫八文藏罷出受取之於白洲一ト通り遂吟味牢番

預ケ申付受人兩人^江 牢賄申付候尤所持之品有之郡代所方送り之通
受取書致印形差遣役所預り置

佐々木右近下屋敷長屋住

為八

林田上之町

上受人

長兵衛

太田村入帳林田上之町

町作分地所住

下受人

善左衛門

右受取牢番預ケ申付置候段御用番^并 大目附へ手紙ニ^而相届^并受人
共郡代支配之ものニ付牢賄申付候段郡代所^江及通用

一借牢舎人竹田村長義扶持米可相廻候間牢屋賄ニ申付呉候様郡代所
方頼来其段牢番利兵衛へ申付ル

一牢浚仕候所無別条段昼廻佐十郎栄治届出候

一大年寄手伝役之義一学殿^江罷越委細申達并書差出置候

十月廿二日 早天晴雨 昼後快晴

一牢舎人長賄在方方扶持米相廻今日方牢屋ニ^而取計候所穢多炊之も
のハ不撰と申^而一向手ニも不取今朝方断食致居候段牢番届出其旨
郡代所へ及通用候所下代差向牢越ニ得^与 申聞度旨申来依之当番佐
十郎方牢番方へ手紙差遣右之通郡代所方下代罷越候間立會取計候
様ニ申遣ス尤晩方方撰候由ニ相聞候

一橋本町朝倉屋与十郎借屋住沼屋龜治妻繁義播州表離帳ニ付爰元人
別ニ可入之所且那寺方放手形不差越依之繁義在所へ罷越埒明可来
と申居候得共病氣ニ付致延引居候所病氣養生不相叶致死去候間其
段且那寺へ申遣送り引導ニ^而も取候上葬可然哉ニ奉存候間早々播

州表^江飛脚差遣候様可申付之旨大年寄伺出其段承り届ケ宜取計候様ニ申達ス

一 高石垣関貫^并村井横関貫破損書差出修覆申付候様申達ス

一 西今町南側^ニ而京屋平兵衛所持之家屋敷表口三間裏行拾五間但三

歩五厘役西隣ハ黄金屋つま東隣ハ角屋庄吉也右家屋敷建物不残^并

裏ニ東西三間南北九間之空地添質物ニ書入銀札壹貫匁借用之願書

承り届ル十一月九日本証文差出

十月廿三日 雨

一 御用日登城

一 酒直段秋造込之節米直段六拾匁台ニ付壹分下ケ諸白壹匁三分ニ壳

可申願書御用番御聞濟ニ付大目附へ相渡置御聞届申達候

一 堺町南側^ニ而稻実屋要吉所持之家屋敷表口三間四尺裏行九間式尺

但六歩六厘六毛役也東隣^者和泉屋三郎助西隣^者通筋也右家屋敷代

銀四百三拾匁ニ相極和泉屋三郎助へ壳渡度願書大年寄差出承り届

ル同廿五日壳券状差出候

十月廿四日 晴風

一 牢舍人忠藏吟味ニ付郡代所方呼出申来昼廻り新治嘉七差向差出候

晩方出番百藏差向入牢取計候

一 牢舍人為八義古蒲團入遣度宿方致持参候由牢番利兵衛届出承り届

入遣候様ニ申付ル

一 風烈ニ付火之用心為相触可申之旨大年寄届出承置

十月廿五日 晴

一 郡代所方土居村下分市郎兵衛紋治義咎牢舍申付候由入牢之手形相

廻り認かへ昼廻り嘉七荣治差向ケ取計申付候

一 牢舍人為八可遂吟味呼出候処受人不罷出及延引候

一 安岡町久米屋友七義撰州大坂土佐掘式町目木屋与兵衛方へ廿日計

之逗留^ニ而明廿六日出立之願書大年寄差出承り届ル十一月十四日届ル

一 橋本町朝倉屋与十郎借屋住沼龜妻繁義去ル廿二日認置候通死去ニ

付与十郎^并組合之内老入右二人繁旦那寺播州佐用郡中山村淨福寺

江罷越相断候処送り引導繁弟勝之助致持参尤繁兄も来候由右之段

大年寄届出葬候寺之義ハ評決之上猶又可届出旨相届候尤右寺ハ淨

土真宗之由也

右繁死去之義与十郎淨福寺へ懸合之大意承り候得^者当六月役所懸

合ニ相成離帳申来其節繁旦那寺淨福寺へ離帳之段御達有之候処大

庄屋致失念不申達依之寺^ニ者矢張且那之心得^ニ而^有之候由其段大

庄屋寺へ佗言いたし漸々相濟候由其節大庄屋方離帳之達有之候得

者其佗ニ離旦ニ候所右之趣寺^ニ者不存事故是迄放手形不差越候由

ニ候右淨福寺与十郎へ申聞候^者宗旨^ニ而送り引導と申義^者無之何

方迄も罷越候事ニ候得共左候得^者道中入用繁弟本郷村勝之助へ懸

り致迷惑候義ニ付勝之助兄弟之者へ戒名為持遣候間申談宜取計候

様ニ申聞候由右兄と申ハ赤穂之住人之由今般致同道罷帰候右勝之

助在所^者播州佐用郡本郷村也十一月三日御用番大目附へ及御覽候

一 三浦十郎左衛門被參被申聞候^者論所地改役人風邪ニ付医師之義申

出相候処大庄屋自分頼^ニ而町医師之内差遣し可然旨御指図ニ付

北山修伯高島生齋兩人之内相頼候様ニ申付候間駕籠^ニ而葉箱持草

履取召連可然之旨御沙駄^(ツ)ニ付右之供廻リニ罷越候様内々被仰含
被下候様被申聞大年寄呼寄右之段申付候処修伯義ハ遠方へ罷越
留主^(ツ)ニ付生齋へ可申付之旨申聞無程生齋義大庄屋同道ニ罷越候
旨申出候

一橋本町朝倉屋与十郎借屋住繁義寺へ可相頼旨遂相談候処繁弟勝之
助^并兄存寄ニ送り引導も来候事故最早寺を不相頼此俣致火葬遣
骨持帰リ可申旨申之候ニ付今晚右之通ニ取計候積ニ相極候ニ付其
段相届候旨申出承り置

一頭徳院様御三回御忌御赦ニ付御勘気歎之もの、書付先日大目附中
方被相渡考付差出候所右之内坪并町辰屋佐七後家徘徊御免之歎も
有之候得共右之者先年両度迄最早被差免候^而も可然旨付札を以申
上候処大目附中存寄ニ出家を破戒為致罪重キもの故御免難被成由
ニ是迄不被差免能御存知「故彼老人付札不致差出候所右付札
致差出候様大目附中申来候ニ付右之段付札いたし差出候

十月廿七日 雨

一牢舍人佐々木右近下屋敷長屋住為八義九時呼出立会新治新左衛門
二人出番百藏栄治^ニ遂吟味口書取極尤御裁許明日伺候段佐々木
右近へ為知申遣候右ハ差扣被伺候ニ付兼^而為知呉候様頼ニ付申遣
候

一播州龍野下町本屋左吉と申もの前々方御当地^江致出入二階町境屋
伊右衛門宿ニ候処七八年已前病氣ニ付中絶候処今般倅左吉罷越
候ニ付以前之通宿仕度願書堺屋伊右衛門差出承り届ル

一宮脇町徳守地子居倉敷屋喜平次倅理八義十二年已前已正月御使組

赤田平治養子ニ差遣置候処勝手ニ付此度親元喜平次方へ引受度尤
理八夫婦^并倅鶴吉右家内三人人別入願差出承り届ル

十月廿八日 雨

一御用日登城

一佐々木右近長屋住為八御裁許伺候処思召被仰出直ニ相戻候

一林田町高間屋茂吉義押入上村与作方正米買候ニ付追込七日相伺候
処伺之通被仰出大目附へも相達置尚又取計之上可相届候旨申置候
郡代所^ニ而来月二日ニ取計度之旨ニ付同日可取計段申談置候

一二階町嶋本屋乙治来春芝居願先日差出置候処来春ニ至願書差出可
然と被仰出右願書御差戻被成候付其旨大年寄へ申達願書差戻候
一「操屋共々綿改之義御止被下候様致箱訴候由勘定奉行へ考も被
仰付右訴状拙者方へ相廻し候様ニ大目附中被申聞候由昨日上原彦
藏方相廻り候ニ付今日大目附中へ取計之義相尋候処何れ役筋も考
をも不申候^而相済間敷候間勘定奉行と遂対談存寄書相認差出可
然候旨大目附被申聞候

一関貫番賃銀大年寄差出候

一播州龍野下町本屋左吉昨日願書差出候通右老人来候宿切手二階町

境屋伊右衛門宿切手差出^(ツ)
翌正月廿八日拂ル

一御領分西々条郡二ノ宮村百性源兵衛^并同人母右家内式人安岡町村

永や恵助引受度人別人願下方引合相済候段大年寄申出承り届ル

十月廿九日 雨

一久世役所方米相場書取ニ飛脚之者来候

一番賃銀例月之通相渡候

十一月 大

月番

御家老 安藤丹後殿

御年寄 小須賀一学殿

大目附 伊達与吉郎

大年寄 斎藤孫右衛門

十一月朔^壬日 曇 雨

一 御吉事日ニ付麻上下着用四時揃ニ付五半時登城三奉行ハ御祝儀申上も無之御年限中ニ付被下ものも無之御用日ニも無之故御用所^江も不出役所^江出候^而相詰居御用所御退出後退出候事

一 例歳之通御近領方相場書取ニ来例歳之通取調飛脚之者へ相渡候尤久世龍野勝山西吉田今日飛脚へ相渡候

一 勝山役人渡部唐兵衛榊原九郎左衛門方相場書年々差遣為挨拶金式百疋被相送候由奉文^二而^一来先前之通御受書差遣候

一 紀州海士郡日方浦池谷町善四郎手代源兵衛政右衛門二人例年之通椀折敷卸売ニ来候段京町田戸屋惣十郎宿切手差出

一 丹後久美浜御代官野村権九郎殿手代中村莊太左衛門清水岩平広石愛右衛門方米相場書取ニ来相渡候

十一月二日 曇 晴

一 林田町高間屋茂吉義大年寄於宅小頭又六部屋日附新^二差向左之通

申付ル

林田町

押入上村与作方正米買取

高間屋

御法度を背候ニ付追込申付候

茂吉

但追込日数七日

右取計相済候段御用番^并大目附へ手紙^ニ而^一相届ル

一 郡代所方押入上村与作答牢舍申付候旨入牢切手相廻り認かへ出番為治為持差出

一 坪井瀧口儀右衛門方米相場書取ニ来差遣又

一 西川^江例年之通相認坪井町羽織屋へ差出置

一 但州生野稻垣藤四郎手代中沢良右衛門高橋督三郎勝部三五兵衛方米相場書取ニ来^并先月中銭相場書相廻候様先日頼来候付一所ニ差遣候

十一月三日 晴

一 御用日登城

一 橋本町浅倉屋与十郎借家住長藏義当辰四月六日出奔仕相尋候得共行衛不相知最早百日余ニ相成候ニ付除帳願御用番御聞濟ニ付大目附へ差出置御聞届申達候^{十月改ニ入}

一 佐々木右近下屋敷住為八義御領分追込相伺候処何之通取計候様被仰出候ニ付其旨大目附へ申達置取計相済候上尚又可相届旨申達置

候然ル所大目附中^方右為八妻子当役^江引渡候様被仰出候間受取可申旨被申聞候ニ付都^而盜賊之妻子^ニ而^一も携り無之候得^者差構無之

近例ニ候得共夫追込ニ相成妻を指置候義ハ不相成義ニ候間右妻へ差構ハ無之候得共夫追込ニ相成候事故御領分住居ハ不相成候間立去り候様ニ可申達旨御用番中へ相伺候処其旨可取計候段御差図ニ

付佐々木右近へ右追払取計候前日可及御沙駄候間其節御引渡候様

ニ申達置候并近例長屋もの御裁許取計候而も元来支配之ものニ無
之候故妻子之義ハ携無之候得者不及沙駄候得とも右妻子取計ニ当
惑之趣ニ付以来ハ当人御裁許伺之節妻子迄之取計も可相伺旨大目
附へ懸合候処其趣ニ被取計候而可然旨何被被申聞候

一安藤丹後殿来春詰江戸被蒙仰候旨大目附方演説有之候ニ付三奉行
一同御用所へ罷出御悦申述候

一成覚寺と浜屋源右衛門と公事沙駄(マ)有之寺社取次武助方内々噂有之
右願書致借用内々藏合孫左衛門へ申聞候

一牢舎人一ノ宮乙松押入村与作右兩人宿方蒲団致持参人呉候様申旨
牢番義右衛門申出承り届入候様ニ及差図

一出羽守様当月十八九廿日之内御登駕之御沙駄(マ)大年寄申出大目附へ
及噂候処郡代所へ申来候由ニ候

一牢舎扶持内貸証文当四月方之分勘定所方印形消相戻り消印候様書
役へ申付ル

一松平山城守様於江戸表御病氣之処去月十四日御死去被成候仍之今
日方来ル五日迄三日之内可相慎旨大目附廻状来組中并町方江も
相触候

十一月四日 曇風

十一月五日 初雪大雪

一二町目福永屋藤助所持之他国受酒株去ル卯十月方当辰十月迄中之
町西屋治右衛門江貸置候処限月来候ニ付取戻候段届書差出候

一堺町玉置六郎左衛門所持之他国受酒株当辰十月方来巳ノ十月迄元

魚町中野屋佐助へ貸渡願書大年寄差出承り届ル

一牢番足輕共兼而心得之義又六方書付を以今月申聞候段又六申出候
一牢舎人土居村紋治小蒲団并綿入裕宿方致持参候間入可遣哉と牢番
共同出候ニ付承り届ル

一高石垣関貫繕明日方取懸り候段大年寄届出候

一大年寄例年之通年頭歳末献上物仕度旨願書承り届来月三日可申遣
事

十一月六日 晴

一牢舎人為八義六時半呼出并妻子佐々木右近方被引渡小頭又六差出
於玄関前受取之立合又六新治書役新左衛門出番文蔵榮治而左之
通書役方為八江読渡書付相渡妻へハ口達而先格之通自分申渡

佐々木右近下屋敷住

為八

下横野村十右衛門留主(マ)江這入盗取候品者
無之候得共其鉢盗賊ニ紛敷ニ付
御領分追払申付候

同人妻 すへ

同 倅 磯吉

盜賊携り無之ニ付妻子ハ
差構無之候得共追払もの、
妻之義故御領分住居

右受人 長兵衛

不相成候間立去り可申候

善左衛門

右為八皿村へ送り出庄屋方手形取帰り候右取計相濟候段御用番并
大目附へ手紙而相届并取計濟佐々木右近へも為知申遣候尤右妻
子今朝可受取候間受人差添被引渡候様昨晚手紙而右近へ申遣置
候

一牢舎人野辺文蔵宿方袷袴ツ差越候間入可遣哉と牢番共同出承り届
ル

一 牢内諸バリの為牢番共心得^ニ而入替仕度旨又六方申出尤之義^ニ付
昼廻り孫八百藏方取計之

十一月七日 少雪風

一 郡代所^ル牢舍人^一ノ宮村兵治金兵衛甚七惣八押入上村与作右五人
出牢申来手形相認出番孫八差向ル

一 牢舍扶持四俵之内貸証文差出奥書取計之尤当月^江持越壹俵^斗五
合有之候

一 東新町玉屋伊右衛門取持之自国受酒株四年已前丑十月より同町船
本屋兵助借り受商買仕候処限月来候^ニ付尚又当辰十一月方来ル未

十月迄四年之間借り受商売仕度願差出承り届ル<sup>猶又兼六月廿四日來ル迄迄
九三年借受成通願指出承り届</sup>

一 林田町嶋屋文七所持之他国受酒株去ル寅ノ七月勝間田町松屋伊助
へ貸置候処双方勝手^ニ付今般取戻度願書差出承り届ル

十一月八日 晴

一 御用日登城

一 脇坂淡路守殿預り所当国勝南郡岩見田村赤堀久兵衛娘四年已前東
新町高松屋平左衛門妻^ニ引受候処此度離縁仕親元へ差戻人別除願
御用番御聞濟^ニ付大目附へ差出置御聞届申達候

一 宮川大橋損壹尺計之穴明候段橋本町方届書差出し大目附へ差出候^一
銀札通用^ニ付金銀錢^并他所銀札通用堅致間敷御触町方へ差出候様

大目附方被相渡相触候様^ニ大年寄へ申達早^而御家中へも右同様之
御触大目附中^方相廻り写取組中へ差出候

一 雲州神戸郡許築大社多久太夫と申御師上下三人例年之通来候段
二階町堺屋伊右衛門宿切手差出^{翌正月廿八日掃ル}

一 高石垣関貫村井前之関貫繕入用積書大年寄差出候

一 吹職之もの共古口宣頂戴致居候由右ハ瓜生原屋七郎右衛門代々致
所持居候由少々意味合有之^ニ付御用^ニ付急^ニ差出候様申達候所大
年寄斎藤孫右衛門吹屋町年寄釜屋市郎右衛門代俵差添瓜生原屋七
郎右衛門致持参右之面々立会^ニ而改当分預り置候

十一月九日 快晴

一 林田町高間屋茂吉追込昨日迄^ニ而七日^ニ相成候付今朝大年寄於宅
差免候其段御用書^并大目附へ手紙^ニ而相届候

十一月十日 快晴 晩雨

一 美濃職人町三笠屋伊右衛門家守浅治借屋住祐吉^并同人娘右家内二
人御領分小田中村友右衛門方へ引越度人別除願書大年寄差出承り
届尤下方引合相濟候段申出候

一 林田町嶋屋文七所持之他国受酒株当辰十一月方来ル酉ノ十月迄五
ケ年之間東新町たか屋清八借り受商売仕度願書差出承り届ル^{十月廿六日追願承り届}

一 京町北側^ニ而堺屋太助家屋敷表口三間半裏行御堀切也御役耆軒役
也西隣ハ能勢屋妻平東隣ハ作人勘平也右家屋敷材木町近江屋太助
取次^ニ而六百五拾匁之質物^ニ書入当辰ノ十一月方来巳四月切一ケ
月一分半之利足^ニ而借用仕度願書大年寄差出承り届ル<sup>同前日証文差出^ル
二月十二日受返し済</sup>

一 御使組衣笠仲助役介作兵衛夫婦悻宗十郎右家内三人林田町川瀬屋
岩右衛門引受度人別人願承り届

十一月十一日 快晴

一 二町目猿屋吉左衛門借屋住富屋多吉義当国大庭郡久世村原田屋喜

兵衛方へ当辰十一月方来ル午十一月迄三ヶ年之間奉公ニ罷越度願書差出承り届ル

一大目附伊達与吉郎方手紙ニ而小須賀一学殿ニ女勝山三浦志摩守殿家中渡部五郎右衛門亡兄仲妻昨夜死去依之一学殿忌中引込ニ付与兵衛殿腫物乍引込中御用番被相勤候段類役江も可及演達旨申来上原三浦へ演達ス

一牢舍人物社村和七宿方裕致持參預リ置申候入遣可申哉と牢番義右衛門伺出承届ル

十一月十二日 曇

一大目附伊達与吉郎方手紙ニ而一学殿忌御免被成今日方被致出勤候間其段類役中へ通達可致旨申来上原三浦へ及演達

一御領分西々条郡吉原村与三郎娘美濃職人町山本屋佐右衛門嫁ニ引受度人別入願下方引合相濟候段大年寄申出承り届ル

一桶屋町内海泰州義去冬方引統家内三人致死去嬰兒残り居甚之困窮縁類組合方助力も致候得共難及無是非御救之歎書大年寄迄差出右等之窮民大年寄場合ニ而救候先例も有之事ニ而既当九月十二日桶屋町長治へ大年寄工面もの、内方三拾匁何之上遣候先例も有之事故右泰州江も工面もの、内方三拾匁差遣申度旨大年寄伺出其旨取計候様及差図

一郡代所方古川村藤七瀬助兩人論所へ立入候ニ付牢番預ケ申付候段夜ニ入申来出番百蔵差向取計之

十一月十三日 晴 風 夜大雷

一御用日登城申達候御用向無之

一大目附方左之通書付を以演達有之写取組中へ申達候

御家中之面々積年之難洪無余義趣ニ付御時節柄之義ニ候得共当十月借物筋取計方被仰出候然ル上者銘々乍此上弥勘弁精々取続之手段心懸御奉公相勤候義ハ勿論之事ニ候若心得違之面々ハ有之間敷事ニ候得共此段心得違無之様可被相心得候

十一月十三日

一大目附中廻状到来姫君様御誕生被成総姫様と奉唱御台様御養被成候右御名ニ差合候ものハ相改候様被仰出候旨申来写取組中町方江も相触候

一佐久間兵右衛門殿下屋敷之竹牢屋へ伏し懸候段牢番共申候付当番円蔵を以執権へ申達候

一牢舍人藤七清藏文蔵忠八弥市右五人蒲団着類入遣度旨牢番共同出承り届ル

十一月十四日 快晴

一中之町二月屋弁右衛門前ニ而御領分高野本郷北村文七持牛病氣付林田村又四郎呼寄療用相加候得共七ツ時落候段弁右衛門方届書差出相違も無之趣ニ付先格之通一札取置取捨取計候様及差図

一博奕風聞有之候ニ付番夜廻佐十郎嘉七為治栄治更廻り申付候処別条無之旨申出ル

十一月十五日 快晴

一郡代所方御米川下ケ宮尾村方近々有之候間例年之通番人申付候様申来大年寄へ申付ル

十一月十六日 快晴

一 牢舎人土居村下分紋治出牢手形郡代所方相廻認かへ出番文蔵差向候

一 牢舎人常蔵庄助蒲団持參候ニ付入可遣哉と伺出其通及差図

一 公料御米川下ケ今日方始候段郡代所方申来大年寄へ申達ス

十一月十七日 晴

一 江州多賀成就院使僧玄乘坊上下式人例年之通来候段二階町堺屋伊助宿切手差出聖正月廿八日楊ル

一 出羽守様御發駕兼而之御日取御延引来ル廿七八日ニ御議定被成候段申来候旨郡代所方通用有之

十一月十八日 雪ミそれ

一 御用日登城

一 二階町茂渡庄右衛門家守若木屋伊助借屋住佐久屋藤助弟茂兵衛義

当六月十日不斗罷出不罷帰御届申候所百日尋被仰付所々相尋候得

共行衛相知不申最早百日余ニ罷成候間人別除願差出御用番御聞濟

ニ付大目附へ差出置御聞濟候段申達候

一 二階町堺屋伊助娘梅義孝子ニ付行状書組合方差出依之先例之通白

銀五枚被下置候様弁書差添御用番中へ差出候

一 中沢為児事并玉置卯左衛門帶刀永代御免之義昨日一学殿へ罷越

内々何置候

一 銀札場奉行方錢十四箇川下ケ申来奥印書取計之

十一月十九日 晴

十一月廿日 曇

一 繰屋共訴状差出候ニ付弁書相認松岡治部助へ昨日差出候

一 河原町北側ニ而作人市兵衛後家屋敷表口式間壹尺裏行五間五尺

但三步役也西隣ハ熱田市正東ハ横町也右家屋敷代銀三十拾五匁ニ相

極伏見町針屋忠吉へ売渡願書差出し承り届ル十二月十六日売券状差出

十一月廿一日 晴

一 吉原村与三郎娘美濃職人町山本屋佐右衛門悴喜八妻ニ引受候処下地方相訓染当七月方妊娠ニ罷成居月取届延引之届書差出承り置

一 戸川町丸龜屋文六家守文助借屋住玉屋兵治妻当六月十日懐胎ニ相成候旨九月届候処昨廿日満月之小児出生母子共ニ丈夫ニ肥立候旨月取間違之断書差出先例之通御叱取計候様申達候

十一月廿二日 晴

一 二町目伏見屋茂七請込之八出河原鉄子小屋今朝焼失之旨大年寄届出候

一 林田上之町本伝寺下百性平治居宅成刻比方出火ニ付致出馬候処一軒切ニ而早速及鎮火四時過引取引懸ニ例之通御用番へ相届大目附へ相届大目附江馬側方届使遣ス

一 京町綿屋源七後家持来候古道具屋株当辰十一月方来ル酉十一月迄

五ケ年之間宮脇町加登屋忠三郎借請商売仕度願書大年寄差出承り届

一 小性町肥地屋繁蔵家屋敷南側ニ而表口三間六尺裏行六間五尺但半

役也同続横町表口四間裏行三間六尺但式歩五厘役也東者横町通西

ハ繁蔵持家南ハ瓜生原屋平吉也右家屋敷代銀五百匁ニ相極町内瓜

生原屋惣兵衛へ売渡願書承り届十二月七日売券状差出

一 三町目次田屋与三右衛門持来候古道具屋株当辰十月方来ル酉ノ十

月迄五ヶ年之間元魚町千歳屋儀右衛門借受商売仕度願書差出承り届ル

一阿州名西郡高原村平左衛門一人例歳之通藍玉壳来候段船頭町今岡屋浅右衛門宿切手差出翌巳五月廿四日届ル

一阿州板野郡成瀬村曾右衛門一人右同断来右同人宿切手差出し右同断

一阿州板野郡高房村新兵衛老人右同断来右同人宿切手差出右同断

一牢舍人古川村瀬助藤七義扶持米可相廻候間牢屋而仕出吳候様郡代所方頼来其段申渡候様又六へ申達候

十一月廿三日 晴 夜雪

一御用日登城

一新魚町油屋善右衛門義備前上道郡西大寺村師屋忠四郎并同国磐梨

郡田原村源太郎へ為替銀差滞式貫四百匁余有之二付添簡願出御用

番御聞濟二付大目附江も相達添簡相認相渡候

一盜賊喜兵衛義兼而死罪相決居候得共今般一統御赦有之二付喜兵衛

義も助命被仰付可然旨弁書御用番中へ差出候所御受取被置候

一新職人町滝本屋平四郎家守庄藏借屋住出雲屋藤吉義一方村御用車

中間二被召抱候二付人別除願差出候二付勘定奉行上原彦藏へ引合

之上承り届ル

一前夜出火之砌西町不存町々数多有之役所へ出人等も不差出依之大年寄へ察度申達候所不参之町々年寄共断二罷出候

一桶屋町元魚町南関貫破損申出繕取計候様及差図

一二階町堺屋伊助娘梅義孝子二付申達候通白銀五枚被下候向申達候

様御用番中方御達有之大目附并小勘者伴左衛門へ懸合置右銀子相廻り次第早々可申達事

一本覚寺義心願二付当月廿五日六方来月廿五日迄三十日之間且中一兩人召連町中夜念仏執行御用番中御聞濟之旨寺社取次細江武助方通

用有之大年寄并組中へも申達置候

一二町目伏見屋茂七義引受候八出村鉄子小屋焼失二付追込三日可申

付旨伊達与吉郎方達有之左之通申渡候様大年寄へ申渡尤火元御咎ハ小頭部屋目附不差出例も有之二付今度ハ至而輕義二付小頭不差出大年寄於宅口達而申渡候尤其段御両所へ相届候

八出村鉄子小屋

二町目伏見屋茂七

焼失二付失火御咎追込申付候

但追込三日

一御赦二付寺院歎御勘氣御免御聞濟之旨寺社取次細江武助方通用有之

一勝間田町山形屋喜兵衛所持之旅人宿屋株西新町山家屋理右衛門江

相讓度願書差出承り届ル

十一月廿四日 少雪

一小沢又右衛門横関貫番所五ツ時出火致出馬候所番所切二而致鎮火

引取懸御用番へ相届大目附へ御使申達候尤今夕之所京町方立番付置候段相届置候且又右出火之始末明朝認出候様大年寄へ申達置候

十一月廿五日 曇

一小沢横関貫番人京町三之助相糺口書取大年寄方差出候処全手あやまり二而手あふり之火方もへ上り候由依之火元御咎先例之通三日

追込被仰付可然旨一学殿御宅へ罷越相伺候処伺之通取計候様御即答有之依之左之通申付候様大年寄へ申付

小沢又右衛門横関貫番人

京町 三之助

昨夜手あやまり致出火候付
追込申付候

右之通申渡相濟候段御用番一学殿^江手紙^ニ而相届候尤右関貫番所
之義早々取繕申付候処番所無之候間御作事^ヲ箱番所当分御貸被下
候様大目附へ可申達奉存候旨一学殿^江も及御噂候処其旨取計候様
被仰聞候付大目附伊達与吉郎へ右之段罷越申達候所承知^ニ付三之
助申渡之段ハ最早大目附中へ^者相達申間敷旨談置相濟候右箱番所
之義勘定奉行上原彦藏^江も懸合置候尤御作事^ヲ持参拵候筈^ニ候

一 玉置卯左衛門義永代帯刀御免之義^ニ候得^者嫡子ハ帯刀可仕義と存
候^ニ付其旨兼^而不伺置候^ニ付此間一学殿^江罷越及噂候処考候^而可
及返答之旨挨拶有之候処今日外御用之序^ニ先日被申聞候玉置卯左
衛門嫡子帯刀之義取様次第之義^ニ候得^者共大年寄ハ役^ニ付候^而之
帯刀^ニ者候得共代々相勤候得共当主計^ニ而嫡子ハ帯刀も不致事^ニ
候得^者卯左衛門義も先当主計帯刀いたし候方^ニ而可然之旨被仰聞
候付以来右之義伺出候義も有之候ハ、右之心得^ニ而可及返答旨御
答申置候

一 半舍人伊勢長右衛門義九時方呼出孫右衛門新治新左衛門出番佐十
郎文蔵^ニ而口書印形取之候

一 新魚町北側^ニ而弓削屋太助所持之家屋敷表口三間半裏行拾式間但
老軒役也西隣^者紺屋十蔵東隣^者魚屋長助後家也右家屋敷代銀札五
百匁ニ相極同町魚屋勘治へ売渡度願書差出承り届ル^{十二月三日日本証文差出}

十一月廿六日 快晴

一 伊勢内宮藤波神主名代松井奎衛と申御師老人例年之通旦那廻り来

候段二階町堺屋伊右衛門宿切手差出候

一 論所地改役人明朝出立^ニ付馬老疋相廻呉候様^ニ大庄屋立石広助方
大年寄へ頼越候旨如何可仕哉と伺出候^ニ付早々相廻し遣候様及差
図右通行道筋不相知候^ニ付郡代所へ尋遣候所下原村出立^ニ而坪井
通り久世へ被参同所^ニ一宿備中之国へ被相越候旨申来候

一 京都閑院宮様御用^ニ付北村伊織と申もの人足拾人之先触^ニ而今夕
勝間田止宿明朝爰元へ相越候由爰元^江之御用^ニ付勝間田迄先触来
同所^ニ留置候得共爰元^ニ宿等も入候事故為相知候由^ニ而勝間田問
屋方爰元問屋へ先触写差添申越候旨大年寄^ヲ差出候^ニ付手紙^ニ而
御用番中へ差出大目附へ其旨手紙^ニ而申達候

十一月廿七日 晴

一 大目附伊達与吉郎方閑院宮様方北村伊織来候ハ、御使者宿人可申
候間申付置候様^ニ申来斎藤孫右衛門へ申付候所取乱居候趣^ニ相聞
候^ニ付玉置源五兵衛へ御使者宿申付其旨与吉郎へ手紙^ニ而申達候
且又伊達与吉郎方北村伊織参着候ハ、如何様之使者^ニ候哉^并使者
人物勤柄等も大意為被承候様^ニ申来其旨得^与孫右衛門へ申含又候
処右旅宿ハ二町目尾高屋へ申付亭主之外^ニも間人老人申付置委細
之様子為見受可申出旨孫右衛門申聞候

一 大目附伊達与吉郎方宮家堂上方方之御使者来候近例調出候様申来
左之通書付差出候

一 安永七年十二月六日

南都大乗院御門主御使者上田縫殿

一天明二年五月廿八日

比叡山總持坊使僧来

一 同年八月十六日

東本願寺使僧來

一 戸川町南側^ニ 而^レ 土佐屋重藏所持之家屋敷表口六間裏行拾七間但老軒役也東隣ハ作人長太郎西隣^者 横町也右家屋敷質物^ニ 書入一ヶ月老歩半之利足^ニ 而^レ 銀札六百匁來已ノ七月切町内作人宗七取次^ニ 而^レ 借用仕度願書差出承り届^{同晦日本証文寛政十年四月受}

一 閑院宮様御内北村伊織七時比到着問屋を以申出候^者 今般宮様御用^ニ 而^レ 当所へ使者^ニ 罷越候京都出立前御留主居中へも遣置候間嘸御通用も可有之候間明日使者相勤候様^ニ 申通呉候様申候旨問屋方申出候趣大年寄方申出依之右使者ハ場合如何様之勤柄之仁^ニ 候哉^并 御用向大意相尋申出候様及即答候処又々問屋罷越右之旨相尋候処北村伊織義ハ御近習大奥格御使番兼帶相勤候由御用向之義ハ家來共一向不存義と執權之臣申候由大年寄申出候^ニ 付其旨大目附中へ相達夫方与吉郎同道^ニ 而^レ 御用番一学殿^江 罷越其段相届^并 安永七年南都大乘院御門主様御使者上田縫殿來候節^者 大年寄^并 下役石名平太兵衛度々差出京大坂留主居共方不申越御使者不取次旨絶^而 申張夫故暫致逗留御留主居方通用有之候上^ニ 而^レ 御取次佐藤彦右衛門罷出候段申述候処今般も大躰其趣^ニ 取計可然問先大年寄差出為致致対御使者之大意為承可申旨一学殿御差図^ニ 付藏合孫左衛門呼出し左之趣懸合候様^ニ 申付ル

閑院宮様方は迄御使者参候義も無御座何方方之御使者有之候^而 而^レ 京大坂役人共方通用無之候得^者 取次^者 不致義其段も兼^而 御承知之事と相見^江 先刻も京都留主居へ御出立前御懸合被成候由被仰聞候得共未何之沙駄も不申來候乍然宮様之義ハ格別

之義^ニ も候得^者 御用之筋^ニ 寄り^而 而^レ 取次被差出間敷もの^ニ 而^レ 無之候得^者 御用向之御大意承度奉存候

十一月廿八日 快晴 晩雪

一 御用日登城

一 閑院宮様御使者北村伊織旅宿二町目尾高屋方へ夜前藏合孫左衛門罷越申込候村瀬弥六郎と申もの罷出致面談申合候趣申述候処北村伊織へ可申聞旨^ニ 而^レ 引取暫遂対談罷出申候^者 伊織義可懸御目答^ニ 候得共殊之外疲労罷在其上手狭^ニ 而^レ 可懸御目問所も無之^ニ 付得不懸御目候京都御留主居中^方 御通用無之内ハ御取次不被下候段御尤之義^ニ 存候出立之砌京都御留主居中へ遣置候間無程御通用も可有之候間夫迄相待居可申候且又使者之趣御承知被成度由是又御尤^ニ 存候得共宮様方格別御内密^ニ 被仰進候御用向之義^ニ 候得^者 申達候義ハ難致此段^者 御取次中被差上候上^ニ 而^レ 可申達候旨申候^ニ 付孫左衛門申候^者 夫ハ御聞込違^ニ 候宮様之御内密御用御口上之趣可奉承知と申義^ニ 而^レ 無之何等之義^ニ 付御使者^ニ 御座候哉御使者之名目計承知可仕と申義^ニ 御座候御取次有之候得^者 何等之御使者と申義ハ誰人も承り候義^ニ 候得^者 右名目を御秘し被成候義ハ有之間敷と存候間其段今一応被仰上被下候様^ニ 押返し候^而 申候得^者 其段可申聞旨^ニ 而^レ 又々引込暫在^而 又弥六郎罷出至極御尤之義^ニ 存候絶^而 秘スルト申義も無之候得共御内用之義^ニ 候得^者 旅館^ニ 而^レ 間所も無之他聞有之候^ニ 付致遠慮度段申候^ニ 付又々孫左衛門申候^者 他聞之御厭^ニ 御座候ハ、明日^ニ 而^レ 茂 私宅へ御出被下候ハ、人を扨ヒ密^ニ 可致承知候間其段被進御相談御「」次御出可被成候右申候通

出張之役人方通用無之内ハ取次不被差出候方ニ候得共右御名目被
仰聞候ハ、様子ニ寄り却而早く筋立候様ニ取計方も無之ものニ而
も無之候間御存知寄次第ニ御勝手次第御出可被下旨申置罷帰候
所今朝右村瀬弥六郎一僕召連裏付上下ニ孫左衛門宅へ罷越委細
ニ申聞候趣大意左之通

宮様御義ハ御類焼未御返御殿ニ被為入候得共当時段々御統柄宜
御一己ニ何御不自由も無之御身分ニ候得共御一建立之御菩提所
呂山天意コウ寺と申寺焼失後未再建立出来不申色々御心配被成
候得共是ハ御力ニ難及不被為止事得当所ニ万人講折入而御頼
被進度ニ付極御内密故御側使者被差越候義ニ候由尤取計方ハ懸
リ之御役人中迄是迄之通ニ御世話も御成被成候事故当所之
御失墜無之様ニ諸事は迄之通ニ被成御頼被成度思召候由申聞候
右村瀬弥六郎と申ものハ此間問屋ニ懸合候執権相勤候ものと申
出候もの也孫左衛門相尋候所青士順席相勤候由右聞候由右之段登
城之上御用番并大目附へ相届候処今七時比御取次亦見類助可被差
出候間宜取計可然旨大目附方被申聞尤御取次計而も不致承知委
細之懸合等仕度杯と六ヶ申大年寄而不相濟節者町奉行添役とし
て三浦伴左衛門可被差出旨ニ付大目附与吉郎拙者御取次類助并伴
左衛門四人委細受答申談置候尤御取次計而直ニ引取候様ニ取計
候積而類助挨拶之趣左之通

御口上之趣東武江可申遣御返答之義ハ京都留主居共方相勤候様
可被申付候間御引取可被成候且又御送り物有之候ハ、敬敷儉約
中之義ニ付何方江も被及御断兼而其段被申付置候間直「御差戻
し申候旨再応可申積也
右ニ付孫左衛門呼出兼而御留主居方通用無之候得者御取次ハ不

被差出形ニ候得共格別之御使者ニ付今七時比御取次被差出候間御
使者被相勤候様宜可申通旨申付并御使者宿玉置源五兵衛江も右手
合申談候様申付候

一馬持共例歳之通老人ニ付大豆式俵半つ、拝借之願差出勘定奉行へ
引合御用番御聞濟ニ付大目附へ差出置御聞届申達候

一於御用所大目附出席御用番中方左之通被仰渡候

豊屋喜左衛門義諸吟味帰役被仰付前功を以名字被差免候
町奉行へ

右ニ付大年寄へ奉書差遣喜左衛門呼出於座敷小頭大年寄詰合而
申渡之名面宮田と改候段申出候ニ付右取計相濟并宮田と相改候段
御用番并大目附へ手紙而相届候

一先日被仰出候孝子御褒美小勤者方今日相廻候ニ付呼出し於玄關詰
合例之通而左之通申渡

親江孝行ニて候ニ付
二階町堺屋伊助娘
梅

為御褒美白銀五枚被下之候

右申渡相濟候段御両所へ手紙而相届候

一京町三之助迫込昨日迄而三日ニ相成候間今朝差免候段今朝出仕
之上御両所へ相届候

一坪井町増野屋吉兵衛持来候古道具屋株林田町嶋屋文七へ相讓度願
書差出承り届株札認かへ相渡

十一月廿九日 晴

一閑院宮様御使者北村伊織夜ニ入御使者相勤一応而承知不仕何分
御家老中迄御達被下候様ニ申無抛類助義一往引取其上而右同様
ニ及挨拶御進物ハ漸々京都御留主居へ御返答迄預ケ置候様ニ申談

相濟明後日可致出立由^ニ而相濟候段類助方承之

一 閑院宮様御使者内村瀬弥六郎今朝藏合孫左衛門方へ申越段々預御世話忝挨拶述之明朝出立仕候間御奉行所^江も宜被仰達被下候様申候旨孫左衛門届出候且又右同人出立^ニ付人足拾老人之先触差出候旨宮田喜左衛門先触写差出候

一 久世手代杉田惣四郎例歳之通御廻米^ニ付致出役御米当所へ入置候間出火手当之義申付呉候様申来及相答大年寄^江も其段申付候様^ニ申達候

一 久世手代杉田惣四郎方又々書状差越御廻米川船差支宮尾河岸^ニ積有之候^ニ付川船廿艘計三日迄^ニ宮尾村河岸へ相廻呉候様^ニ頼来一学殿へ罷越相伺候処今夕之処ハ船扱等も相分り不申候^ニ付何分相糺候上自是可及御報旨返書遣置候様被仰出其段取計濟尤一学殿より松岡へ御伝言有之船方調勘定奉行中^ニ而出来候様^ニ御達有之候間明日之答之趣ハ尚又可被仰之旨也

一 閑院宮様御使者明朝出立^ニ付人馬問屋へ申聞候者申迄ハ無之候得共何方^ニ而も御先私^并夜中焼灯持被差出候間爰元^ニ而も其通^ニ而可有之旨申候段申聞候由問屋方申出右御席^ニ一学殿へ申達候処先例相調大目附へ遂対談宜取計候様被仰聞候^ニ付先例相調候処九条様東本願寺広幅殿方御使者来候節先例差出候例相見へ不申元方挑灯ハ勿論之義也其段大目附与吉郎へ遂対談候処先例無之段一応及御沙駄^可申達由^ニ而無程手紙^ニ而此方之為警衛保頭先私可申付旨申来其段孫右衛門へ申達元方挑灯持ハとなたへも差出候義無之候間為御馳走ハ不差出候旨堅可及断夫共頼^ニ付人足余分差出候義

ハ問屋相对取計之旨心得申達置候

十一月晦日 晴

一 閑院宮様御使者北村伊織義今晝七時過上下不残致出立^并宿^江金百疋人馬問屋へ銀札七匁相送り候由大年寄方届出右出立之趣御両所へ手紙^ニ而相届候尤宿^江も式匁旅籠^ニ相払候由也

一 久世御廻米船之義松岡治部助方相糺候処晦日帰り船六艘朔日帰り船三艘二日帰り船六艘三日帰り船八艘都合廿三艘有之候段書付相廻り右之通故向方方申来候通追々帰り次第相廻可申此方^ニも廻米差急候間被仰下候船数相濟候ハ、此方之廻米積出候段可申遣旨申来其趣別紙写差添杉田惣四郎へ及文通尤右別紙本書ハ松岡へ差戻候但右之通宮尾河岸へ廿艘早々相廻候様^ニ御藏元へ可申付旨大年寄申渡候

一番賃銀例月之通相渡候

一元魚町伊勢屋文助呼出し新治新左衛門孫右衛門喜左衛門立合^ニ而

口書印形取之

一 御藏米六拾八匁町米六拾四匁

一 閑院宮様方今般御使者有之万人講御頼之義ハ元来此辺之山師共起し出し候義と抑方察候^ニ付練屋善兵衛間人^ニ申付宿尾高屋へ為入込置候処ユキ村孫左衛門と申もの昨日来北村伊織^江致面談候付孫左衛門へ相懸り段々手段を以問落候処元来孫左衛門発頭^ニ相違無之余類も不残致白状候得共御当領之ものハ老人も無之何れ^茂他領或ハ京大坂^江罷出居候もの、仕業^ニ而此度之金元ハ孫左衛門ハ困窮^ニ而得不致閑院宮様御館入京都町人入用相構候由也絶^而入用^ニ

無之事故何^成之名面略之

一 播州広峰魚住藏人到着仕候段京町花屋忠七届出候

(同十二月十四日掃帳役届出候)

一 牢舎人^一ノ宮忠八惣社与吉両人蒲田巻つ、差越^并京町原田屋嘉兵

衛肌着巻ツ差越候ニ付入可遣哉牢番利兵衛伺出承り届ル

一出羽守様去ル廿七八日御発駕之処御延引触来候由一昨日郡代所^方

通用有之

一 閑院宮様御使者来着ニ付繰屋善兵衛間ニ付置候処承り糺骨折之事

ニ付式朱計御褒美被下候様仕度大年寄伺出候ニ付工面もの、内^方

差遣候様ニ申達ス

一 中之町藁屋藤吉家守紺屋助右衛門借屋住市場屋新八親類藤助と申

もの当十月勝北郡沢村^ニ而中風付同村^方送り来引受候者無之ニ付

新八方へ送り来右ハ新八妻之異夫兄^ニ而今ニ母も新八方ニ致老毫

罷在候ニ付無宿者^ニ者候得共引受養生為仕度旨十月七日願出右藤

助と申ものハ元米林田袋町豊国屋善左衛門借屋住平助と申もの、

悴^ニ而^有之候処困窮^ニ而夫婦致離別其節母召連帰り其時藤助四才

也其節勝部村^江差遣母^者奉公等仕其後六兵衛方へ縁付居候処藤助

廿歳計之節勝部村^方罷帰り又々林田上之町宮之町長兵衛養子^ニ相

成候所追々困窮仕住居出来兼不得止事所々方々致流浪何方^江も入

帳不仕小商内日雇等^ニ而漸口過居候由何方之差構も無もの、由^ニ

付無掬義ニ付引受承り届候処今晦日病死仕兼^而且那寺ハ妙願寺^ニ

付葬仕度旨申出候ニ付承り届候

十二月 大

月番

御家老 安藤丹後殿

御年寄 小須賀一学殿

大目附 太田舎人

大年寄 藤合孫左衛門

諸吟味 宮田喜左衛門

十二月朔^壬申旦 晴風

一 久世手代杉田惣四郎^方昨日之返書来段々御世話忝八郎左衛門へ可

申聞旨申来候

一 成覚寺浜屋源右衛門へ懸り合願書差出右答書大年寄より差出寺社

取次細江武助へ相廻候

一 久山勘八事一学殿^江罷越弁書差出置候

一 魚住藏人罷出扇子箱持参致受納候

十二月二日 曇

一 牢舎扶持内貸四俵証文差出尤今月へ三斗壹升五合持越候例之通與

印取計之

一 備前岡山ニ今般吹屋職相始候由相聞候処新魚町長左衛門義爰元之

下職之者かたらゝ可参哉之風聞も有之候処右長左衛門^并吹屋手間

桶屋町甚太右両人他出願書差出候ニ付他参留申付可然哉之旨大年

寄伺出其通申付候様申達候

一 宮田喜左衛門義今般帰役被仰付候処御擬作無之候ニ付是迄年々御

廻米番賃取立米残銀大鉢一ヶ年ニ式百三拾拾匁位も有之先々大年寄致配分来候事ニ而 守助も其通及差図今以配分いたし候間右残銀を喜左衛門へ被下候ニ而 可然ものと蔵合孫左衛門申候付尤之義ニ付何及申談其通ニ取計候様及差図候

十二月三日 快晴

一 御用日登城

一 脇坂淡路守殿預り所当国英田郡倉敷村坂口屋仲七娘義去々寅年下紺屋町中谷屋幸助妻ニ引受候処今般離縁仕親元へ差返し申度人別除願御用番中御聞濟ニ付大目附へ差出置御聞届申達候十一月改入

一 土井大炊頭殿領分当国久米南条郡原田村甚三郎世倅清藏義福渡町升見屋藤吉引受度人別人願右同断取計濟同七日住宅証文差出 十一月改入

一 盜賊喜兵衛義御赦ニ付助命伺置候処伺之通宜取計候様御用番中被仰出其旨大目附へ相達取計濟可申達旨申置候

一 盜賊喜兵衛御裁許被仰出候ニ付同人盜もの持出候節相通候関貫番人御叱并盜賊這入候節不屈出もの共御叱先達而伺濟之通可申付旨伺書差出置候

一 元魚町伊勢屋長右衛門御裁許伺書御用番中へ差出置候

一 中沢道尼義来春姫路へ参候ニ付爰元江も呼寄七度旨玉置源五兵衛申出尤入用も四百三拾匁入候由右之段先月十八日一学殿へ御内意申達置候処今日於御席一学殿方此節蔽敷御候約御時節ニ付上方御世話ハ難被成候下ニ而 隨身之者共呼寄候義ハ勝手次第之義と被仰出候ニ付左候ハ、弥呼寄候様ニ相成候共最早申上間敷罷越候上ニ而 御届可申上旨申達候御承知ニ而 宜取計候様被仰出候ニ付大目

附江も其旨相達置候右ニ付玉置源五兵衛呼出し其旨申達候

一 去卯九月八子佐吉方ニ而 博奕打候勤八佐助御赦ニ付出牢并右之節差口ニ而 致出奔候者共弥尋不出候ニおゐてハ先例之通組合共過料五百文つ、取可申段伺濟之通取計可申旨書付御用番中へ差出置候

一 伊達与吉郎方今般御赦ニ付寺院方歎出候もの共御聞届被成候間寺社取次へ懸合御免取計可申之旨被申聞候先日寺社取次方申来候名面左之通也

戸川町多助 同町福恵屋清助 安岡町松田屋徳之助
林田上町喜代助 荒木義右衛門倅 京町杉屋八十吉
同町阿波屋龜太郎

一 昨夜廻り文藏為治差出候処昨晚新職人町高角屋八十吉借屋住髮結藤吉方ニ而 人屋義兵衛倅伝兵衛と元美濃職人町団扇屋金七倅当時無宿幾治と致喧嘩伝兵衛義唇ニ少々打疵付候処父義兵衛来彼是六ヶ敷申成候伝兵衛義打臥し得不帰牀と持なし候由及深更罷帰り申聞并大年寄方も届出候ニ付下方ニ而 不相濟義ニ候ハ、疵見分差出可申旨申達置候処内分ニ而 難訳立段今朝申出候ニ付郡代所へ立合見分差出可申旨郡代所へ懸合置部屋日附孫八并文藏義ハ夜前之始末及見居候事故差添出候所今暮過比疵所改書取左之通差出候

一 左肩之上袋打 一ヶ所
一 同上唇打疵三步計 一ヶ所
一 同内びら少々疵 一カ所

右宿藤吉義ハ組合預ケ申付置候段孫八取計置候由申聞候得共相手ニ而 無之候得者預ケニ而 及申間敷義ニ付明日ニ而 他参留位ニ可申付事

右田扇屋倅幾治義ハ追払ものニ付相尋差出候様親類へ申付候様大年寄へ申達目明へも其旨可申付段又六へ申付候

右之段早速ニも可相届所今朝十郎左衛門内濟ニも為仕度口ふリニ付先今夕ハ届及延引候

一御廻米今日迄ニ積切候段大年寄届出候

一大年寄共例歳之通御手当頂戴仕候段御礼罷出候

十二月四日曇

一人屋義兵衛倅兵衛喧嘩一件之義可相届哉否と三浦江申遣候所又々向方ニ而者宿藤吉を相手と申出候趣ニ而内濟不出来旨申来候付御用番中へ右届出并疵所見分書手紙ニ而差出相届置候大目附中へも相達候右喧嘩之節元魚町吉田屋伝蔵取扱ニ付他参留申付置候様大年寄へ申付候

一山野十郎兵衛犬病付候ニ付非人ニ申付呉候様頼来大年寄江申達非人六人差出候所得不召捕依之明朝人数相増可差出旨届出候

一博奕風聞ニ付佐十郎嘉七文蔵栄治更廻リ差出候所何方も心懸リ之義無之旨曉方届出候

十二月五日 晴 風 雪

一病犬ニ付非人拾人昼廻リ新治為治差出候所得不召捕依之夜廻リ之者孫八百蔵差出候所漸七前時比山野宅ニおめて非人共打殺候右ニ付夜廻リ加人式人大目附へ申達候所斧蔵其助来ル

一坪井町桔梗屋庄右衛門所持之宿屋株去ル寅年西新町山家屋利右衛門へ貸置候所限月来候ニ付取戻し候旨届書差出候

一新魚町野田屋栄蔵家守久太郎妻経行不順之処妊娠相成十月相届候

処今晚女子出生仕月取間違之届書差出例之通御叱申渡候様申付ル一惣町暮入用割帳差出ル高左之通

式貫三百五匁六分式厘

内問屋場入用式貫九匁三分五厘

一御蔵米六拾七匁町米六拾三匁

一大目附太田舍人方出羽守様御病氣ニ付京都方医師被召呼昨日罷通り候哉之趣ニ相聞へ候間人馬問屋承リ札被申聞候様申来大年寄へ申達候処先月廿四日雲州御家中藤井軍八瀧定七と申もの兩人京都へ医師迎ニ被参候由ニ而被相通昨日右兩人京都医師畑柳絡横山柳眠と申医師兩人同道ニ而被相通候旨申出其段太田舍人江罷越申達候

一雲州方京都へ医師迎ニ罷通り候歟又ハ雲州へ医師罷通り候様之義有之候ハ、申出候様問屋へ可申付置之旨去ル三日伊達与吉郎方被申聞候所風渡致失念不申付恐入候義ニ付上原彦蔵を以差扣相伺候処後刻舍人方右門差扣之義同役申談候処伺ニ者不及候間其旨通達いたし候様上原彦蔵へ申来候

一備前役人へ新魚町油屋善右衛門出訴ニ付先月廿三日添簡差遣候所竹内又右衛門渡部利右衛門方返書来田原村源太郎為働生野罷在隙取候ニ付善右衛門義先差戻し候追而相札候上自是可得御意旨申来候

十二月六日 晴

一勢州朝熊岳明王院使僧儀中坊宝蔵坊休加坊悦中坊上下例年之通来候段小性町肥地屋繁蔵宿切手差出

一京都愛岩山長床坊使僧柳意坊上下式人例年之通申候段右同人宿切

手差出

十二月七日 雪

一 銀札場奉行方錢貳拾箇川下ケ申来奥印書取計之

一 久世方頼来候中須賀へ相廻候船貳拾艘分去ル四日迄ニ積切相濟候

段去ル四日大年寄届出候

一 明後九日寒中御機嫌伺有之候ニ付明日之御用日九日ニ相成候段大

目附中去ル三日演達有之勘定奉行郡代^江相達候

十二月八日 快晴

一 備中小坂部水谷弥之助殿内中嶋幸右衛門近藤武左衛門方相場書相

廻候為挨拶例歳之通釜敷紙二束来及相答

十二月九日 快晴

一 御用日登城

一 寒中御機嫌伺申上有之例之通申上之

一 中之町西屋治三郎家守河内屋藤兵衛娘義堀田相模守殿領分当国勝

南郡中原村孫四郎悴勤之助妻ニ指遣度人別除^(マ)除願御用番御聞濟ニ

付大目附へ差出置御聞届申達候

一 新魚町海布屋源治悴音吉義兼^而不所存もの、所先月廿二日出奔仕

候ニ付義絶勘当願右同断取計濟^{同十二日本証文出}

一 盜賊喜兵衛懸合之もの共御叱伺之通被仰出候

一 八子佐吉方博奕一件之もの共伺之通被仰出候

一 梅香院様御忌日心得違之ものも有之由ニ相聞候間其旨類役中へ演

達候様ニ大目附中去被申聞及通達

一 大年寄共歳暮年頭献上もの、義江戸御奏者小須賀貢^并小勘者相田

茂市神村平兵衛へ例歳之通申遣候

一 南新座町臭橋摘込相濟候段大年寄届出候

一 於新職人町髪結藤吉方人屋伝兵衛喧嘩届書御用番中御戻被成大目

附へ差出候

一 及月迫候ニ付例歳之通町方拾耆町廻リ非人加廻リ二組可申付旨御

用番中御伺濟ニ付大目附へ相達置大年寄へ申付候

十二月十日 快晴

一 銀札場奉行江口清助方銀札場手代角屋利兵衛致病死候ニ付右跡役

同人悴磯吉へ申付候段通用有之候

一 久世手代貝塚五郎藏内藤大右衛門方八郎左衛門殿支配所西々条

郡原村幸七方当所二階町豊屋多助家守新吉借屋住森屋兵八^江馬代

百五匁相滞候由添簡差越候ニ付右兵八と申もの有之哉相糺候様ニ

大年寄へ申付候

十二月十一日 快晴

一 久世方添簡持来候相手方二階町森屋兵八義此節因伯へ馬喰用ニ罷

越居近日^ニ罷帰リ可申之旨大年寄方申出依之隙取候ニ付願人幸

七差留置候も如何ニ付右幸七差戻し兵八帰次第相糺自是可申遣旨

及返書可申之旨御用番中へ相伺候処其通取計候様被仰出大目附^江

も相達其段及返書候

一 御廻米今日切^ニ而積切候段御藏元届出候

一 御藏米六拾六匁町米六拾貳匁

十二月十二日 快晴

一 郡代所方盜賊忠藏吟味ニ付牢屋立合申来出番嘉七差向相渡又々入

牢

一安岡町端留屋喜与松借屋住豆腐屋伊三郎義去ル朔日罷出歸リ不申
又候同人妻^并娘二人去ル六日夕罷出歸リ不申右家内四人出奔仕相
尋候得共行衛不相知候段届出例之通百日尋申付候追^而除帳之節可
及御沙駄候^(ツ)

一備前岡山上総介殿内渡部利右衛門竹内又右衛門方新魚町油屋善右
衛門義西大寺忠治郎田原村源太郎へ想懸リ為替銀差滞出訴之義忠
治郎源太郎相札右両人口書相廻シ右鉢善右衛門へ差滞リハ無之却
^而善右衛門方源太郎へ老貫七百拾式匁三分五厘相払候筈之旨ニ有
之候間源太郎差遣候間善右衛門と対決為致筋立呉候様ニ却^而申越
候依之下吟味いたし候様ニ大年寄へ申付候尤明日日出仕之上可及御
沙駄候事^(ツ)

十二月十三日 晴

一御用日登城

一 二階町嶋屋藤吉借屋住岡見龍妻離縁親元雲州能儀郡井尻村八十八
方へ差戻度人別除願御用番中御聞濟ニ付大目附へ差出置御聞濟申
渡候

一 備前渡部利右衛門竹内又右衛門来書新魚町油屋善右衛門一件御用
番中へ差出大目附中へ及噂置候尤下方糺申付置候段申達候処宜取
計候様被仰出候

一 妙勝寺義当月九日方正月八日迄夜題目町中致執行候段伺濟候処通
用延引之旨寺社取次細江武助方今日被申聞大年寄へ申達候
一 町作御年貢皆濟候段御代官青木源太左衛門方通用有之候

一 落切手有之候間拾候ものハ申出候様大目附廻状到来町方^并組中へ
差出候

一 郡代所^所盜賊忠藏吟味ニ付立合^{郡代所}申来孫八差向出候榮治
差向入牢取計之

一 御赦之取計来ル十六日ニ可取計間御立合被差出候様大目附中へ申
達候

一 阿州名西郡桑嶋村夫右衛門手代次右衛門一人例年之通藍玉売ニ来
候段京町今出屋半兵衛宿切手差出^{翌年五月九日燦ル}

一 阿州名西郡桑嶋村平次兵衛手代庄助一人右同断来右同人宿切手差
出し右同断

一 阿州板野郡中留村兵助手代佐助一人右同断来右同人宿切手差出し
右同断

一 久山勘八義御合印御免ハ無之哉と大目附太田舎人方昨日尋来先直
屋市郎左衛門義も諸吟味退役之節一代被差免候先例も有之候事故
勘八義も退役之節被差免候様申立候得共御合印ハ御取上ケニ相成
當時相用不申段及返書候

十二月十四日 快晴 甚暖気

一 今町小嶋屋孫三郎義入村之もの方海府老腰質ニ取置候処盜物之由
申来候得共同町井口屋利七妻証人ニ付年寄共へ預ケ置候段大年寄
名代喜左衛門方申出候

一 西新町備前屋市右衛門義太田村文藏方帷子単物拾六匁初老俵九匁
ニ去卯九十月両度ニ質ニ取置候処文藏と申ハ偽名ニ^而盜賊忠藏差
置候旨ニ相極先達^而届書差出郡代所へ相廻置候処帷子単物ハ盜賊

忠藏所持之品ニ付差構無之右粉一俵八国分寺村三郎治被盜取候候
ニ相極候間取上ケ可相廻旨郡代所方申来其旨大年寄へ申達置候

一昨日大目附中方触達有之候落切手ハ山北村宇兵衛相落し香々美井
村久藏と申もの拾ヒ小倉屋茂兵衛方へ致持参候処右切手ハ前日小
倉屋方山北村宇兵衛へ壳渡候切手ニ付同人方為相知右故山北村庄
屋へ受取置相知候段郡代所方通用有之

一ノ宮村乙松昼賄不差越候段牢番利兵衛届出郡代所へ申達候
一古川村瀬助[#]藤七牢番預ケ差免候段郡代所方申来出番百藏差向入
牢為取計候

一久世支配所西川筋御上米積切ニ相成候ニ付安岡町土手中上ケ番人
今日切ニ引取候段問屋届出候由大年寄届出候

十二月十五日 曇

一夜前更廻リ関貫改町家中へ又六新治文藏為治差出候所何方もペリ
能申分無之旨今朝届出候

一元魚町大庭屋善兵衛義安永四末年方下横野村武右衛門より一ノ宮
ニ田地二ヶ所質物ニ取流込ニ相成其後ハ大庭屋善兵衛方御年貢
懸りもの等相濟居候処右之内飛地十五歩有之同村武右衛門弟宗助
作取ニ致居候処善兵衛義ハ不存居候処引受之もの方為相知漸心付
度々懸候得共埒明不申依之大年寄方大庄屋へ懸合候得共不埒之返
答等ニ埒明不申依之無抛願書差出[#]下方ニ庄屋算様書[#]大庭
屋善兵衛返答書等差添孫左衛門不快ニ付孫右衛門方差出不残郡代
所へ相廻候

一錢通用百卷文相成候段大年寄届出候

一明日御赦取計ニ付組致不足加人兩人申立候処野尻和助可尻政助来
昼夜廻り申付ル

十二月十六日 雪

一於牢屋立合御徒目附河村市兵衛小頭川端又六部屋目附三船新治出
番江原文藏神田栄治下目附安井友治立合ニ左之通申付ル但書役
大脇新左衛門誑渡之

死罪難遁処

元美濃職人町中屋栄藏悴

頭徳院様三回御忌御法事御赦ニ付 当時無宿盗人喜兵衛
助命髪を利御領分追払 但皿村へ送り出ス

於白洲小頭大年寄部屋目附諸吟味立合出番佐十郎百藏ニ申渡

去卯九月八子佐吉方ニ

博奕致参会候ニ付重き

御仕置ニ可仰付処頭徳院様三回

御忌御赦ニ付差免出牢申付候

右同断

御赦ニ付

掃住居被差免候

戸川町 孫兵衛

安岡町 松田屋徳之助 義隆住居
福泉寺方歌同人母せん娘代

下紺屋町 鉄屋与八

林田上之町 善与助 義隆住居
井染寺歌親類

細工町 屋根屋嘉兵衛

荒木義右衛門 惣兵衛 義隆住居
龍沢寺歌親類

魚町 柿屋市之助

京町 杉屋茂八 茂仲八十吉 堀住居
国分寺歌同人父

杉屋茂八

同町 阿波屋 亀太郎 堀住居
本行寺歌同人弟

阿波屋 亀吉

右同断ニ付

徘徊被差免候

於白砂大年寄取計左之通

尤小頭部屋目附諸吟味立合

去卯九月八子佐吉方ニ

博突参会差口ニ付呼出候処

致出奔尋申付候得共未

不尋出候ニ付今日方百日之内ニ

不尋出ニおめてハ組合共へ

過料申付候依受書印形取之

但過料ハ五百文ツ、之積

於大年寄宅小頭部屋目附立合取計左之通

盜賊喜兵衛盜物持出候節

差通し不埒ニ付叱追込

但日数三日

盜賊喜兵衛這入候節

不届出不調法ニ付急度叱

右同断届延引ニ付叱

已来右躰之不埒無之様

御条目之通急度相守候様申渡

右之通取計相濟候段御用番并大目附へ手紙ニ相届候

一郡代所方兼而牢番預ケ之博突一件之者共山北村佐吉惣社村与吉東

一ノ宮村文蔵西一ノ宮村忠八山北流民甚助右五人御赦ニ付出牢申

来文蔵栄治取計之

一吹屋町吹屋治左衛門借屋住作人伊助極老之母有之候処大病相煩母

戸川町福惠屋番助徘徊
福泉寺歌向人弟

福惠屋宇吉

河原町万吉 組合六人

橋本町久吉 組合四人

同町沼屋八十七組合四人

材木町松屋善治組合七人

鍛冶町梓屋源治組合九人

茅町木屋浅吉 組合四人

船頭町中野屋理七 組合四人

組合三拾八人

船頭町上横町関貫番人 喜助

材木町関貫番人 三六

上紺屋町下横町関貫番人和助

新魚町 灘屋 弥十郎

京町 大村屋 源右衛門

元魚町黒坂屋 太兵衛

惣町関貫番人共 江

之養育難出来歎書差出候ニ付先ツ先日之通工面もの、内を以三十
匁差遣可然旨大年寄源五兵衛伺出候ニ付宜取計候様申達候

一錢通用百文ニ相成候段大年寄届出候

一吹屋町作人長蔵妻妊娠之処一昨十五日曉男子死躰致出産先格之通

立合遂吟味候処無相違旨一札取差出候

一郡代所方草加部村金治入牢手形相廻り認かへ栄治差向入牢取計之

十二月十七日 快晴

一西新町備前屋市右衛門義粉老俵盜賊忠藏方質ニ取置候右八国分寺
村三郎治被盜ものニ付取上ケ郡代所へ相廻候

一御蔵米六拾五匁町米六拾老匁

一尼子大蔵犬病付候由昨今非人申付今日昼廻り差出打殺候

十二月十八日 雨

一御用日登城

一吹屋町瓜生原屋七郎左衛門義吹職之義往古々之書物致所持下方ニ

而倫旨或ハ口宣と申伝候由同人義近年致困窮職分も相休居候旁此

節備前ニ而吹職相始候由当所之職人も内々呼寄候哉之趣ニ相聞右

倫旨と申ものも可差遣哉候程も難計取沙駄も有之由内々申出候ニ

付御用之旨申達先日取寄得度見改候処口宣倫旨之類ニ而者無之元

来爰元之職人共へ被下候書付共不相見大和河内加賀等之灯炉師共

へ被下候弁状と申様之ものニ而一向ニ読メ不申元録年中ニ京都

へ呼出しニ相成候節も差出候様被申候得共中将公方御封印被仰付

銘々共も拝見不仕候程之ものニ付得不差出旨申張相濟候由右之節

真継宮内少輔并神崎藤四郎馬場縫殿右衛門懸合之書面并往古吹職

之もの共瓜生原金屋ニ居候所中将公方被召寄候節及辞退京都へ願出候而中将公御書之写等も一所ニ致所持何れニも右職分之者共之

至而大切成重物ニ付他へ取散し又ハ乱ニ他見候而者甚不宜以前京都へ不差出口宣と申伝他聞も有之義ハ幸之事夫故御用所へ致持参右之訳粗申達御用所ニも披見有之依之以來紛失候而者不宜候間

大年寄場合ニ預ケ可申付旨申上候所下ニ所持之品を上方申付候而者如何ニ付大切成もの、義故大年寄場合へ預ケ置候様ニ可申付旨

一学殿方被仰出其段蔵合孫左衛門へ申渡右書類不残相渡候

一堺町和泉屋三郎助造酒出来来ル廿日方売出候由右ニ付未何ケ之取

（レ）レリ勘定も不致候得者直段定も難致候得共差当リ格別高キ様ニも如何ニ付定而不引合義ニ者候得共先爰元之酒方レ分つ、高値ニ

売出申度旨願書差其段口達ニ而大意計申上候所御聞濟ニ付大目附江も申達置候尤同人方造酒三品有之銘直段等如左

住能江老々九分 旭川老々七分 千印諸言也老々四分

一 目明甚助義兼而親類組合預ケ之所当春差免種々致教訓掃役申付候

処行跡不相改却而邪魔ニ相成取扱兼候趣不得止事「親類組合預ケ申付度旨御用番中へ相伺候所申立かたきケ条も無之趣ニ候

ハ、身持不宜候ニ付禁足親類組合預ケ申付候御届之趣ニ承り置可申旨一学殿被仰聞其段大目附へも及噺置候

小頭又六方申渡 福渡町目明 柴木屋甚助
勤方不宜候ニ付役義召放候

大年寄方申渡 身持不宜候付禁足親類組合預ケ申付候相慎可罷在候

右之段申渡候事

右大年年寄於宅又六孫八差出申渡

一 林田町大工籐右衛門義大円寺へ作料差引之義又々当暮も不埒之旨大円寺方書付出差出候段細江武助方相廻候筋立候様大年寄へ申渡

一 泰安寺へ智忍院役僧と号し大かたり坊主来致白状致脱衣目明へ預ケ度旨申候由伺出候段又六申出幸登城之義ニ付細江武助へ懸合之

上大目附へ相達候所下方取計ニ申付候間泰安寺頼之趣ニ寄而下方「追払取計可然然旨伊達与吉郎被申聞其段申付候

一 盜賊忠藏義郡代所ニ而御裁許何有之由通用ニ付同人方盜物質ニ取置候西新町備前屋市右衛門義触流之節不申出御答追込三日之伺書御用番中へ差出置候

一 大保頭文助致番代悴差出候段先日孫右衛門方申聞候

一 中之町檜物屋伝助娘義山北村善藏嫁ニ差遣度人別除願大庄屋引合相濟候段申出承り届

十二月十九日 曇

一 船頭町関貫番人喜助材木町関貫番人三六上紺屋町関貫番人和助追込昨日迄ニ而三日ニ相成候間今朝差免其段御用所并大目附中へ手紙ニ而相届候

一例歳之通暮之町触昨日差出候

一 郡代所方牢舍人草加部村金治着物入遣度申来牢番へ申付候
十二月廿日 雨

一 牢舍人和七博奕致白状并弥市義段々歎申出候旨牢番共申出郡代所へ及通用

甚助親類 鍛冶新兵衛 甚助組合 不残

十二月廿一日 風烈

一 御領分東南条郡東一ノ宮村十治妹義西新町大黒屋源右衛門妻ニ引
受度人別人願差出承り届

一 牢舍人常藏吟味付郡代所方立合申来左十郎差出相渡入牢之節榮治
差向取計之

一 西新町備前屋市右衛門義盜賊忠藏質物懸合ニ付去ル十八日追込伺
置候所伺之通取計候様一学殿方手紙ニ而申来候

十二月廿二日 少雪

一 昨夜九前時目明孫兵衛罷出橋本町浅倉屋与十郎方ニ而博奕参会仕
居候段内密申出依之孫八左十郎文藏榮治差向候処左之通召捕候旨
書面を以当番迄申越

町家之者 橋本町浅倉屋与十郎

博奕宿 中之町飯綱屋新七
町内へ預ケ候後取込し候 勝間田町鞍屋善助

材木町 平吉
右同断 安岡町村永屋甚吉

〆五人

郡代所支配之者

林田上之町筏屋伝吉
日上村 文兵衛
上田之村 熊治
同村 佐助

〆四人

他領者

於其場追込 皆木村 仙治
申付候 為本村 与兵衛

〆拾式人

他所無宿者

同村 百右衛門
常重 平五郎
瓜生原村 伝八
同 勘三郎
同 嘉七
同 豊八
同 佐兵衛
塔中 熊治
廣嶋 兵藏
備前 郡兵衛

於其場追込

〆六人

友吉
儀兵衛
重之助
儀助
伊助
伝兵衛

元新魚町住当時無宿立掃者
召捕繩を懸ケ人足山本屋与三七家事ニ預ケ 磯之丞
置候処於其場取込し候

石垣雲平長屋者 作兵衛

御城代組松井市右衛門悱 松井善治

〆三拾人

右召捕候間同心組方書付を以伺越候ニ付町家之者者夫々町役組合
呼出預ケ可置他領之者并無宿者当所立掃ものニ而無之候ハ、於其
場追込可申郡代所之者并御家中長屋者ハ其町江急度預ケ可置御城
代組ハ名面相糺候而差返し可置旨及差戻候所其通取計置罷掃り相

届候

△右之段御用番一学殿へ罷越相届候大目附江も右同様届置追々左之
通取計之

△石垣雲平江戸留主アツ近親之者も難相知ニ付支配頭上原彦藏へ相達右
作兵衛受人被差出候様申達尤右之旨御用番中江も及噂候処当役へ
可引取ものニ候間其俣引受置候様被仰聞候

△郡代所江引渡候義も御用番中へ相達候所自是も可申達候得共拙者
方伝言之趣被懸合被相渡候様ニと御差図ニ付即刻懸合之上百藏為
治橋本町へ差向直ニ郡代所へ召連参引渡濟候

△大目附太田舎人方へ罷越候序ニ石垣雲平長屋住作兵衛義受取可遂
吟味旨表向達有之候然ル所夜ニ入雲平留主引受内山洞大夫義受人
召連来挨拶有之受取候段及挨拶

△小頭又六部屋目附新治書役新左衛門大年寄孫左衛門諸吟味宮田喜
左衛門出番百藏為治立合左之通遂吟味候

吟味中

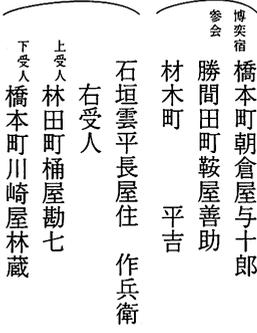
組合預ケ

申付候

吟味中

受人預ケ

申付候



△林田町山本屋与三七家来彦藏磯之丞取込候ニ付其場ニおゐて出番
方与三七へ預ケ申付候処正月七日叱之上差免候様ニ申付ル

△中之町飯岡屋新七義組合共取込候ニ付嚴敷尋申付候

△安岡町村永屋甚吉義取込候ニ付右同段申付候

△材木町万屋借屋要助善右兩人浅倉屋与十郎差口ニ付夜廻リ差向候
処留主ニ付尋申付置候然ル所翌朝不罷帰段大年寄方申出急度尋申
付置候

一 牢舎扶持四俵之内貸証文差出奥書取計候尤来正月へ持越候分老儀
五升六合式勺五才有之積也

一 牢舎人服薬代并諸入用左之通証文差出奥書取計候
式百式拾老匁九分一厘

一 目明非人他領芝居へ差出并無宿者非人江預ケ候賄代左之通証文差
出奥書取計候

六拾九匁七分
十二月廿三日 曇

一 御用日登城

一 備前岡山尾上町畳屋多吉夫婦娘一人右家内三人河原町沼野屋豊八
引受度人別人願御用番中御聞濟ニ付大目附へ差出御聞届申達候
堀田相模守殿領分当国勝南郡長内村三之丞倅佐助老人二階町荒田
屋十兵衛後家借屋善藏引受度人別人願右同断取計濟同廿七日住宅証文差出

一 備前和氣郡太田原村与市右衛門倅周藏一人勝間田町大屋文吉引受
度人別人願右同断取計濟同廿七日住宅証文差出

一 林田町大工藤右衛門義大円寺へ指引之義約束之通近々持参可仕旨
申出候付細江武助へ差戻候

一 大晦日惣町関貫開置候段大年寄届出御用番中并大目附へ相届候
一 惣町夜廻リ非人加廻リ大晦日切ニ而相止候段御用番并大目附へ相

届候

届候

一手嶋流講尺入用七拾四匁八分五厘宮田喜左衛門方小手形差出自分
受取証文相認大目附へ及噂候而勘定奉行へ相渡候後刻先取かへ渡
候由ニ而上原彦藏方来り蔵合孫左衛門へ相濟候

一牢屋受取もの書付例年之通差出松岡治部助上印取之立合目附へ相
渡候

一昨日御用番中へ届置候博突二人取逃候段御用番中へ相届候尤大目
附中書付今日差出

一中之町飯網屋新七安岡町村永屋甚吉行衛不相知候段大年寄申出候
付左之通申付候様大年寄共へ申渡候

御預ケ人取逃候ニ付
中之町新七番人
久屋又兵衛
組合預ケ申付候
阿わい屋茂市

手錠預ケ
安岡町村永屋甚吉番人
村永屋恵助

右之通申渡尚又組合共精々相尋候様ニ申付候
右之通申付候段廿八日出仕之上御用番大目附へ相届候

一牢番内田利兵衛病氣引込ニ付加人之義又六方申出其段大目附中へ
手紙ニ申達候岡本氏右衛門来ル

一若君様御実名家慶公ト奉唱候間実名差合候文字相改候様大目附廻
状到来惣町并組中へ差出候

一於御用所大目附出席一学殿方左之通被仰渡候
無宿盜賊忠藏善之丞百敲之上追払可申候

右申渡下案郡代所方相廻り候右ニ付来ル廿五日取計可申候間御徒

目附立合被差出候様大目附へ相達其段支配之者共へも申達置候

一下紺屋町勘八入牢中町内方取扱方奇特ニ付大年寄場合方賞詞候而
も可然旨申達置候処先日賞詞候由孫左衛門申出候

一橋本町浅倉屋与十郎方ニ博突打大勢之処同心共行届多人數召捕
奇特之段賞詞申渡候様小頭又六へ申達候

一坪井町桔梗屋庄右衛門義三拾八年宿屋頭相勤候処老衰ニ付難相勤
退役願書差出無余儀趣ニ付承り届跡役之義相尋候所京町田戸屋宗
十郎悴八十七江被仰付候様大年寄申出候ニ付承り届

宿屋頭申付候
京町田戸屋宗十郎悴 八十七

一郡代所方院庄村仁右衛門年貢差支ニ付入牢申付候由手形相廻り
認かへ立合為治差出

一安岡町村永屋甚吉兄兵吉同居ニ取逃し番之恵助者甚吉甥之由甚
取計不宜不埒ニ付左之通申付ル

甚吉兄ニ同居ニ付組合預ケ
安岡町 村永屋兵吉
甚吉甥ニ而わさと取逃し候趣ニ被
同 恵助
察甚不埒ニ付手錠預ケニ申付候

十二月廿四日 雪

一牢舍人新吉病氣申出候付医師申付候
一牢舍人院庄仁右衛門蒲団二ツ拾壹ツ并借牢長拾壹ツ差越候付牢番
伺出候ニ付入候様ニ申付ル

一明廿五日牢舍人忠藏善之丞并西新町備前屋市右衛門申渡手配夫々
江申達候

十二月廿五日 晴風

一於牢屋御徒目附河村市兵衛小頭部屋目附兼三船孫八書役大脇新左衛門出番為治采治下目附江田清右衛門立合左之通取計之尤書役方申渡之

所々ニ致盜候ニ付 無宿盜賊 忠藏
百敲之上御領分追払 右同斷 善之丞

右取計相濟候段御用番#大目附へ手紙ニ相届ル
一於大年寄宅小頭部屋目附兼三船孫八立合左之通申渡

盜賊忠藏盜もの質物ニ取置 西新町 備前屋市右衛門
触流之節無之旨申出候処盜賊

白状之上盜物差出不吟味後聞 致方不埒ニ付叱之上追込申付候 但日數三日

右申渡相濟候段御用番#大目附へ手紙ニ相届候

一牢番加入今日岡本民右衛門罷出候由届出候

一関賞番賞銀例歳之通正月半月分迄相渡候

一牢舍人新吉病氣吉武祐三致診察不及薬旨申出候

一当国英田郡角南村又次郎と申もの備中国阿賀郡下唐村ニ足通い

たし歩行難相成右村方送り出し宮尾村方院庄村へ送り来り送り状

#往来手形等致所持居候ニ付送り返し候様ニ申付候由郡代所方通

用有之大年寄へ申付候

十二月廿六日 晴 雪

一坪井瀧口儀右衛門方歳末之為佳義例歳之通經節廿来り及相答

十二月廿七日 曇

一太田村興善寺召捕ニ西川へ行候入用九拾六匁式分五厘一毛受取証

文差出奥印書取計之

一新職人町髮結藤吉方ニ当月二日之夕人屋義兵衛倅伝兵衛致喧嘩宿藤吉義八元来相手ニ無之候得共他参留位ニも可申付置候於其場出番共方組合預ケニ取計置候段届出候ニ付呼出候上ニ何れ共可申付哉と存居候処其後郡代所方藤吉義相手と申趣ニ相聞旁以一応札之上相改可申付と存候処今以相手伝兵衛義全快不申来永々之義町内も迷惑ニ候間髮結藤吉義今日方禁足ニ申付組合方心付候様ニ大年寄へ申渡之

一坪井町桔梗屋庄右衛門所持旅人宿屋株同町河原町治助へ相讓度願書差出承り届ル

一「」町大阪屋善吉父利七#母妹弟万吉右家内四人去ル六月七日願差出四国遍路罷出其後三十日之日延相願候処今以不罷帰候ニ付今五十日之日延追願差出承り届

一材木町大工八郎右衛門妹義十三ヶ年以前御領分東南条郡大田村喜

平次倅虎吉妻ニ差遣候所離縁仕度人別入願下方大庄屋引合相濟候

段大年寄申出承り届

一京町菊屋清左衛門家守備前屋嘉兵衛借屋住人伝右衛門義当辰

七十六才ニ罷成由諸有之ニ付入村太兵衛方へ引越申度人別除願右

同段申出承り届

一林田上之町御中間弥助借屋住文五郎#母右式人勝間田町山形屋喜

兵衛引受度人別入願右同斷申出承り届ル

一橋本町加茂屋要助借屋住左七娘そめ義去ル十一月十八日不斗罷出

不罷帰相尋候得共行衛不相知段届出候ニ付例之通百日尋申付候

一繰屋共口錢例歳之通取調左之通割渡可申旨大年寄伺出其通取計候

様及差図

口銭高

- 一式貫貳百八拾八匁
 - 一五百三拾九匁
 - 一四百五拾八匁
 - 一拾六匁
 - 一七百八拾三匁
 - 〆四貫七拾六匁
- 右之口銭左之通割渡

問屋五人^江六歩割左之通相渡

- 老貫三百六拾八匁
- 貳百七拾四匁八分
- 九匁六分
- 四百六拾九匁八分

改役兩人^江貳歩三厘五毛之割

- 九百五拾七匁八分六厘
- 米屋藤右衛門
- 大村屋源右衛門

小遣老人^江七厘之割

- 貳百八拾五匁三分貳厘
- 高瀬屋文吉

惣中買共へ五厘之割

- 貳百三匁八分
- 惣中買共へ酒代

右渡高^〆 三貫八百九拾貳匁五分八厘

残^而 百八拾三匁四分貳厘過銀札也

十二月廿八日 雪

一歳末御祝義申上^ニ付有役之面々四時揃麻上下着用登城例之通於七
間廊下御小性頭謁御奏者番方申上之早^而三奉行一同御用所へ罷出

当役方歳末御祝義申上候段述之早^而御用向弁之上席方引取懸^ニ大目附へ歳末自分及挨拶

一御代官内藤重三郎殿支配所和州宇多郡松山町晒屋善太郎倅太兵衛夫婦二人堺町团扇屋太郎^一借屋住小鳥屋五六後家養子^ニ引受

度人別人願御用番御聞濟^ニ付大目附へ相渡置御聞届申達候^{証廿九日 証文出}

一脇坂淡路守殿御預り所当国久米北条郡久米中村八郎兵衛倅文太郎

老人小性町肥地屋繁藏借屋住長藏役介^ニ引受度人別人願右同断取

計濟^{正月廿六日証文出}

一土井大炊頭殿領分当国久米南条郡里方村和兵衛義一人西今町井口

屋六右衛門引受度人別人願右同断濟^{聖正月廿五日証文出}

一森右兵衛佐殿御城下播州赤穂郡かり屋横町柏屋為^一弟万藏義林

田町山本屋与三七養子^ニ引受度人別人願右同断取計濟^{聖正月廿一日住宅 証文出}

一闕所銀四匁七分老厘例年之通帳面貳冊豎紙^ニ而納手形相認勘定奉

行上原彦藏へ相渡御金奉行受取書取置候

一於御用所大目附詰合御用番中方左之通被仰渡候

町奉行へ

久山勘八義数十年実躰相勤且又油元方出精いたし御入用少取

計候^ニ付御合印御免被成候尤御取扱方先年相勤候節之通被仰

付候 出精相勤候^ニ付八木式俵^ツ、被下之 町大工棟梁一人^江

右之通勘八^江者於座敷大年寄小頭諸吟味詰合^ニ而申渡之町大工棟

梁伊兵衛幸助へハ於白砂台所大年寄諸吟味小頭部屋目附詰合^ニ而

申渡之右取計相濟候段御用番^并大目附へ手紙^ニ而相届候^{棟梁 八六年寄宅}

^一可取計処心得違役所^ニ申渡候得共以後之例^ニ致聞取事

一 西新町備前屋市右衛門追込昨日迄_ニ三日_ニ相成候間今朝差免候
段出仕之上御用番_并大目附へ相届候

一 西川平沢助八富田与次左衛門方例歳之通寒氣為見舞經節三十酒式
斗相送り及相答

一 久山勘八義ハ諸事在役中之通_ニ相心得尤喜左衛門方可為上席旨大
年寄へ申達候所老軒役之所_一可被差免哉と伺出其通申達候様_ニ
及差函

十二月廿九日 晴

十二月大晦日 晴

一 於小頭宅左之通申付ル

目明役申付候

京町田戸屋善治

一 石垣雲平長屋住作兵衛手錠少々痛候旨林田町桶屋勘七届出候_ニ付

昼廻₍₄₎左十郎嘉七差向取計之

一 小田中村伝兵衛義疵所平愈_ニ付他参留申付候由郡代所方申来依之
喧嘩宿新職人町髮結藤吉義も他参留申付候様大年寄へ申達候

一 三軒屋番中尾藤助病氣引込届出候

津山郷土博物館紀要第二十号

津山松平藩町奉行日記十四

平成十八年三月三十一日発行

編集
発行

津山郷土博物館 ©

岡山県津山市山下九二番地

印刷

株式会社 廣陽本社

岡山県津山市田町二二

